

感染症発生動向調査事業報告書

平成21年(2009年)

序

平成21(2009)年は豚由来のインフルエンザ(新型インフルエンザA/H1N1pdm)の大きな流行がありました。国は4月28日に「感染症の予防および感染症患者に対する医療に関する法律」(感染症法)第6条第7項の「新型インフルエンザ等感染症」として規定し当初は患者の全数把握を行いました。都内では5月20日にアメリカ渡航例を確認し、8月以後患者は大きく増加しました。この間の流行状況の把握にあたっては平常時より実施している感染症発生動向調査が大きな役割を果たしました。

感染症発生動向調査事業は、感染症法により事前対応型感染症対策の1つとして位置づけられ、感染症に対する適切な対応をとるためのサーベイランスシステムとして運用されています。全数把握の1類感染症から5類感染症および指定感染症、新型インフルエンザ等感染症と、定点把握の5類感染症について、発生状況、病原体検査情報を迅速に収集し、解析・評価を加え、その情報を還元することによって感染症の診断に資するとともに、的確な予防対策を立てるなど危機管理に役立てることを目的としています。

東京都健康安全研究センターでは、平成12(2000)年4月に、本事業を中心とした感染症情報の管理センターとして東京都感染症情報センターを所内に設置致しました。更に、平成18(2006)年4月には、本事業を含む感染症健康危機管理に関する情報機能を強化する目的で、疫学情報室を新設しました。

疫学情報室では、国内外の研究機関、医療機関等からの様々な情報を幅広く収集、解析し、当センター微生物部が実施する病原体検査情報とともに、都内の医療機関、関係機関、都民へ、迅速かつ積極的に提供してまいります。

なお、これらの情報は当センターのホームページにも掲載して迅速な情報提供に努めておりますので、あわせてご活用ください。URLは、東京都感染症情報センタートップページ(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>)および東京都感染症週報(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/weekly/>)です。

今回の報告書は、東京都医師会感染症予防検討委員会に平成21年度分の感染症発生情報の評価とその予防策の検討を依頼し、その結果をまとめたものです。「各疾患の動向」のうち、「一、二、三、四、五類(全数届出)」は増田和貴委員に、「小児科・内科疾患(インフルエンザ)」と「基幹定点における疾患」は長岡常雄委員長に、「眼科疾患」は福田敏雅委員に、「性感染症」は小島弘敬委員に執筆をお願いし、「病原体検索成績」につきましては当センター微生物部の検査担当者が執筆いたしました。

感染症発生動向調査事業は、東京都医師会、定点医療機関、都区保健所および福祉保健局関連部署間の有機的な連携により実施されています。今後とも「基幹地方感染症情報センター」としてこれら関係機関のほか各自治体の地方感染症情報センターとの連携を積極的に図り、一層の機能強化に努める所存でございます。

本報告書を広く御活用いただき、都民の健康増進の一助となれば幸いに存じます。

平成22年7月

東京都健康安全研究センター所長 中西 好子

目 次

第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報	1
東京都感染症発生動向調査事業報告	3
1 発生動向調査の概略	
(1) 調査対象疾病	5
(2) 定点医療機関	5
表1 東京都感染症発生動向調査事業定点数	5
(3) 運営方法	5
(4) 情報発信	6
2 本年(2009年)の概況	
(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症(全数把握対象)	6
(2) 五類感染症(定点把握対象)	8
(3) 疑似症(法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症)	10
表2-1-(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(一、二、三、四、五類全数)	11
表2-1-(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(全数動物)	12
表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(インフルエンザ定点・小児科定点)	13
表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(眼科定点)	14
表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(基幹定点週報告分)	14
表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(基幹定点月報告分)	15
表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(STI 定点)	15
3 各疾患の動向	
(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症(全数把握対象)	16
ア 一類感染症	16
イ 二類感染症	16
ウ 三類感染症	16
エ 四類感染症	25
オ 五類感染症(全数把握対象)	37
表3-1 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 患者報告数推移表	65
表3-2 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 保健所別累計表	68
表3-3 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 年齢階級別累計表	71
(2) 小児科・内科疾患	
ア インフルエンザ	74
イ RSウイルス感染症	76

ウ	咽頭結膜熱	77
エ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症）	78
オ	感染性胃腸炎	79
カ	水痘	80
キ	手足口病	81
ク	伝染性紅斑	82
ケ	突発性発しん	83
コ	百日咳	84
サ	ヘルパンギーナ	85
シ	流行性耳下腺炎	86
ス	不明発しん症	87
セ	MCLS（川崎病）	88
(3) 眼科疾患		
ア	急性出血性結膜炎	89
イ	流行性角結膜炎	90
(4) 基幹定点における週報告疾患		
ア	細菌性髄膜炎	91
イ	無菌性髄膜炎	92
ウ	マイコプラズマ肺炎	93
エ	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	94
(5) 基幹定点における月報告疾患		
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	95
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	96
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	97
(6) 性感染症（STI）		
ア	性器クラミジア感染症	98
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	100
ウ	尖圭コンジローマ	101
エ	淋菌感染症	103
オ	膺トリコモナス症	104
カ	梅毒様疾患	105
表4-1	週別患者報告数	106
表4-2	週別定点当たり患者報告数	108
表5-1	保健所別患者報告数	110

表 5-2	保健所別定点当たり患者報告数	112
表 6-1	年齢階級別患者報告数	114
表 6-2	年齢階級別患者報告数	115
表 7-1	二次医療圏別患者報告数	116
表 7-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数	117
表 8-1	月別患者報告数（基幹）	118
表 8-2	月別定点当たり患者報告数（基幹）	118
表 8-3	月別・性別患者報告数（基幹）	118
表 8-4	年齢階級別患者報告数（基幹）	119
表 9-1	月別患者報告数（STI）	119
表 9-2	月別定点当たり患者報告数（STI）	119
表 9-3	月別・性別患者報告数（STI）	120
表 9-4	月別・性別定点当たり患者報告数（STI）	120
表 9-5	保健所別、二次医療圏別患者報告数（STI）	121
表 9-6	保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（STI）	122
表 9-7	年齢階級別患者報告数（STI）	123
第 2 章	東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索情報	125
1	ウイルス検査結果	
(1)	小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果	
ア	臨床診断名別にみた検体搬入状況	127
イ	臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況	128
ウ	臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況	129
エ	臨床診断名別にみたウイルス検出状況	131
オ	臨床診断名別にみた血中抗体検査状況	135
(2)	内科病原体定点から搬入された検体の検査結果	135
2	細菌検査結果	
(1)	三類感染症の病原体検索	140
(2)	四類感染症の病原体検索	140
(3)	五類感染症（全数把握対象）の病原体検索	140
(4)	五類感染症（定点把握対象）の病原体検索	140
3	性感染症（STI）病原体定点から搬入された検体の検査結果	
(1)	クラミジア・淋菌遺伝子検査および細菌分離同定	142
(2)	ヒトパピローマウイルス（HPV）の遺伝子検査	144

(3) 単純ヘルペスウイルス（HSV：HSV-1 型及び HSV-2 型）の遺伝子検査	144
第 3 章 資 料	145
1 東京都感染症発生動向調査定点名簿	147
2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿	160
3 感染症発生動向調査事業の流れ	161
4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	162
別表 1 感染症法に基づく感染症の分類	
1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症	169
2 五類感染症（全数把握）	172
3 新型インフルエンザ等感染症	172
4 五類感染症（定点把握）	173
5 疑似症	174
別表 2 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期	175
別表 3 疑似症の調査単位と報告時期	176
別記様式一覧表	177
別記様式 1	178
別記様式 2	179
別記様式 3	180
別記様式 4	181
別記様式 5	182
別記様式 6	183
別記様式 7	184
別記様式 8	185
別記様式 9	186
別記様式 10	188

第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告

(2009年)

(2008年12月29日～2010年1月3日)

2009年の感染症発生動向の中で一番大きな出来事は、やはり新型インフルエンザの世界的な大流行でしょうか。

2009年4月24日のWHOのホームページには初発と思われるメキシコと感染が拡大しはじめた米国の状況について「メキシコにおいて3月18日から4月23日までの間に、59例の死亡例を含む854例のインフルエンザ様症状のある患者が発生した。このうち18例についてはカナダで豚インフルエンザウイルス(H1N1亜型)であることが確認され、そのうちの12検体については米国で報告されているウイルスと遺伝学的に同一と報告されている。」

また流行が拡大している米国では「米国政府は7例の豚インフルエンザ(H1N1)確定症例と9例の疑い例を報告した。1例は短期間の入院を要したものの、全員軽度のインフルエンザ様疾患であり、死亡例の報告はない。」と記されています。

こうして始まった新型インフルエンザはまたたく間に全世界的規模で拡大していきました。

WHOは4月27日にパンデミック警報レベルをフェーズ4に上げたばかりでしたが、4月29日は大規模の流行の可能性が高いとするフェーズ5へ、そして6月11日は、一般社会での急速な感染拡大が見られるおそれがあるフェーズ6へ警報レベル引き上げました。

我国では5月9日にカナダから帰国した高校生の1人が国内で最初の新型インフルエンザと確定診断されました。

東京都では5月20日にニューヨークから帰国した高校生が、新型インフルエンザに感染していたことが確認されています。

それ以降、すべての患者の把握を行なっていた7月23日迄の確定数は東京都全体で229例となりました。このうち、国外での感染が推定されるもの91例、国内での感染136例、不明2例となっています。

ウイルス検出では、新型インフルエンザのウイルスが初めて分離されたのは東京都では5月20日であり、7月に入ると検出されるウイルスのほとんどが新型インフルエンザになっています。

この大流行に第1線に対応に当たられた方々は多くの困難に直面されたことと思います。疫学的な情報が少なく、当初は十分なワクチンもない状況での対応をせまられていました。

症状は季節性インフルエンザと異なるのか、感染力、潜伏期間、重症化の度合、再感染の率、病状悪化する要因等々、はどうなっているのか。

迅速キットの信頼性、抗インフルエンザ薬の効果・耐性・副作用など判らないことが多く、手探りでの対応で苦慮されたことと思います。しかし幸いなことに我国の感染者のうち死亡例が他国と比較して極めて少ないことが報告されています。

新型インフルエンザは、ここ数年は流行をくり返すことが考えられます。今回の流行状況をまとめ、

め、次のシーズンの対策に生かしてゆきたいと思っています。

なお、私は昨年5月より南谷幹夫先生の後任として委員会の進行役を仰せつかっております。もとより南谷先生の深く豊かな識見に遠く及びませんが、担当理事の道永麻里先生、副委員長の沼口俊介先生、岡部信彦先生を始めとする各委員の先生方のご指導を受けながら委員会をすすめてゆきたいと思っておりますのでよろしくお願いをいたします。

平成22年7月

東京都医師会感染症予防検討委員会
委員長 長岡常雄

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾病

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」および「感染症発生動向調査実施要綱」に指定している全数把握対象疾患および五類定点把握対象 28 疾患のほかに、都単独に不明発しん症と MCLS（川崎病）及び性感染症として膺トリコモナス症と梅毒様疾患を調査対象としている。また、厚生労働省令で定める 2 疑似症を疑似症サーベイランス対象としている。（第 3 章別表 1 参照）

(2) 定点医療機関

2008 年は、都職共済青山病院閉院に伴い基幹定点が 1 か所減少したため、小児科定点 150、内科定点 140、眼科定点 39、性感染症定点 55、基幹定点 24、合計 408 定点から患者情報を収集した。一方、病原体定点は、小児科病原体定点が 2 か所追加指定され、のべ 56 医療機関が患者定点と兼ねている。なお、小児科定点と内科定点はインフルエンザ定点としても機能している。さらに、2008 年 7 月より開始した疑似症サーベイランスでは、インフルエンザ定点 290 と疑似症単独定点 26 から情報を収集した。

表 1 東京都感染症発生動向調査事業定点数

(2009 年 12 月 31 日現在)

定点種別 (疾病数)	患者定点	病原体定点
	定点数	定点数
小児科定点 (14)	150	15
内科定点 (1)	140	14
眼科定点 (2)	39	4
基幹定点 (7)	24	19
性感染症定点 (6)	55	4
疑似症単独定点 (2)	26	
合計	434	56

(3) 運営方法

小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症 (STI) 定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾病については月単位となっている。

週単位で報告される疾病については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者に関して、小児科、内科、眼科の各定点医療機関においては年齢別の患者数を、基幹定点医療機関においては年齢、検出病原体名を、所定の調査票に記入し、保健所に FAX または郵便で送付する。

月単位で報告される月報告疾患については、性感染症定点医療機関が当該月の年齢別患者数を、基幹定点医療機関が患者の年齢、検体採取部位を、所定の調査票に記入し、保健所に FAX または郵便で送付する。

疑似症サーベイランスについては、報告基準を満たす患者が発生した場合には、症例分類、年齢、性別を、所定の調査票に記入し、直ちに保健所に FAX で送付する (疑似症単独定点については、疑似症サーベ

イランスシステムへ直接入力する)。なお、発生がない場合であっても、その旨、週単位で報告する。

定点医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システム及び疑似症サーベイランスシステムに入力する。基幹地方感染症情報センター(健康安全研究センター疫学情報室の機能)は、保健所からの情報を確認後、国へ送信する。

(4) 情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果と共に、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページ(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp>)で公開され、保健所を通じて定点医療機関へ提供されると共に、都民にも広く情報還元が図られている。

また、毎月1回、定例(第3木曜日)で感染症予防検討委員会が開催され、前月分の情報について討議し、その情報は東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載している。さらに都医ニュースに特定の感染症を取り上げ「感染症豆知識」を掲載している。

2 本年(2009年)の概況

(1) 一類、二類、三類、四類、五類(全数把握対象)、新型インフルエンザ等感染症

2009年(平成21年)4月28日、メキシコ、アメリカに端を発した豚由来のインフルエンザが、新型インフルエンザ等感染症の新型インフルエンザに位置づけられた。これにより、4月28日から7月23日までは新型インフルエンザと診断された患者及び疑似症患者の全員、7月24日から8月24日までは新型インフルエンザの集団発生に関連した患者及び疑似症患者が届出られた。

ア 一類感染症

一類感染症《エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱》の届出はなかった。

イ 二類感染症

二類感染症のうち《急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ(H5N1)》の届出はなかった。結核の動向については、別途、健康安全部感染症対策課が扱っている。

ウ 三類感染症

三類感染症は総計391件の届出があった。

コレラは3件届出があった。全てO1エルトル小川で、推定感染地は国外であった。

細菌性赤痢は48件届出があった。ディセンテリー菌1件、フレキシネル菌11件、ソンネ菌36件である。推定感染地は国内11件、国外37件であった。

腸管出血性大腸菌感染症は317件届出があった。O157VT1が11件、O157VT2が73件、O157VT1VT2が133件、O26VT1が18件、O145VT1が6件、O145VT2が1件、O103VT1が3件、O121VT2が3件、O111VT2が2件、O165VT2が2件、その他が65件である。症状別では、患者213人(うちHUS7人)、無症状病原体保有者103人であった。

腸チフスは11件届出があった。推定感染地は国内2件、国外9件である。

パラチフスは12件届出があった。推定感染地は国内1件、国外11件である。

エ 四類感染症

四類感染症は総計 161 件の届出があった。

E 型肝炎は 6 件届出があった。推定感染地は国内 5 件、国外 1 件である。

A 型肝炎は 24 件届出があった。推定感染地は国内 14 件、国外 10 件である。

エキノコックス症は 1 件届出があった。単包条虫で、推定感染地は不明である。

オウム病は 1 件届出があった。推定感染地は国内である。

Q 熱は 1 件届出があった。推定感染地は国内である。

コクシジオイデス症は 1 件届出があった。推定感染地は国外である。

つつが虫病は 14 件届出があった。推定感染地は全て国内である。

デング熱は 32 件届出があり、うち 1 件はデング出血熱であった。推定感染地は全て国外である。

ブルセラ症は 1 件届出があった。推定感染地は国外である。

マラリアは 26 件届出があった。三日熱マラリア 5 件、卵形マラリア 1 件、熱帯熱マラリア 19 件、不明 1 件である。推定感染地は全て国外であった。

ライム病は 1 件届出があった。推定感染地は国外である。

レジオネラ症は 53 件届出があった。肺炎型 50 件、ポンティアック型 2 件、無症状病原体保有者 1 件である。推定感染地は国内 49 件、国外 4 件で、温泉等入浴施設での感染が推定されているものは 19 件であった。

《ウエストナイル熱、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、狂犬病、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ (H5N1 を除く)、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、発しんチフス、ハンタウイルス肺炎候群、B ウイルス病、鼻疽、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、ボツリヌス症、野兎病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱》の届出はなかった。

オ 五類感染症

五類感染症は総計 1096 件の届出があった。

アメーバ赤痢は 140 件届出があった。腸管アメーバ症 115 件、腸管外アメーバ症 14 件、腸管及び腸管外アメーバ症 11 件である。推定感染地は国内 121 件、国外 16 件、国内及び国外 3 件であった。

ウイルス肝炎は 35 件届出があった。B 型肝炎 29 件、C 型肝炎 4 件、サイトメガロウイルス性肝炎 2 件である。

急性脳炎は 45 件届出があった。病原体は新型インフルエンザウイルス 22 件、インフルエンザウイルス A 型 7 件、ヒトヘルペスウイルス 6 型、ヒト単純ヘルペスウイルス、エンテロウイルスが各 1 件、不明 13 件である。

クリプトスポリジウム症は 4 件届出があった。推定感染地は全て国外であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病は 19 件届出があった。孤発性プリオン病・古典型 CJD 15 件、遺伝性プリオン病・家族性 CJD 3 件、感染性プリオン病・医原性 CJD 1 件である。推定感染地は国内 10 件、不明 9 件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 10 件届出があった。血清群は A 群 5 件、B 群 1 件、G 群 2 件、不明 2 件であった。死亡は 2 件報告された。

後天性免疫不全症候群は 471 件届出があった。HIV 感染者 303 件、AIDS 患者 102 件、その他 66 件である。推定感染地は国内 393 件、国外 22 件、国内及び国外 2 件、不明 54 件で、推定感染経路は性

的接触 417 件（同性間 323 件、異性間 81 件、両性間 9 件、性別不明 4 件）、性的接触及び静注薬物 2 件、静注薬物 1 件、その他 3 件、不明 48 件であった。

ジアルジア症は 24 件届出があった。推定感染地は国内 6 件、国外 17 件、国内及び国外 1 件である。

髄膜炎菌性髄膜炎は 1 件届出があった。血清群は Y 群で、推定感染地は国内である。

梅毒は 196 件届出があった。早期顕症梅毒 I 期 32 件、早期顕症梅毒 II 期 86 件、晩期顕症梅毒 8 件、先天梅毒 2 件、無症候 68 件である。推定感染地は国内 186 件、国外 7 件、国内及び国外 3 件であった。

破傷風は 7 件届出があった。推定感染地は全て国内である。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 15 件届出があった。耐性遺伝子型は *vanB* 4 件、*vanC* 3 件、不明 8 件である。

風しんは 19 件届出があった。検査診断例 12 件、臨床診断例 7 件である。

麻しんは 110 件届出があった。麻しん（検査診断例）30 件、麻しん（臨床診断例）43 件、修飾麻しん（検査診断例）37 件である。

《先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症》の届出はなかった。

カ 新型インフルエンザ等感染症

新型インフルエンザ等感染症は総計 1160 件の届出があった。

新型インフルエンザは 1160 件届出があった。患者 438 件、疑似症患者 722 件で、推定感染地は国内 1064 件、国外 94 件、不明 2 件であった。

（2）五類感染症（定点把握対象）

ア 小児科・内科疾患

2008 年と比較して 2009 年に増加した疾患は、インフルエンザ、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎の 3 疾患であり、報告数が前年並みに推移した疾患は、突発性発しん、不明発しん症の 2 疾患、前年より減少した疾患は、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、百日咳、ヘルパンギーナ、MCLS（川崎病）の 9 疾患であった。

〔前年比増加疾患〕

インフルエンザ：2009 年は 142,140 件、定点当たり 495.53 の報告数があった。定点当たりで見ると、当年／前年比で 6.16 の大幅な増となった。ここ 10 年でも最多の報告数である。

伝染性紅斑：2009 年は 1,558 件、定点当たり 10.54 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比で 1.33 と増した。

流行性耳下腺炎：2009 年は 5,175 件、定点当たり 35.05 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 1.41 と増加が見られた。

〔前年比横這であった疾患〕

突発性発しん：2009 年は 4,463 件、定点当たり 30.24 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 0.90 であった。

不明発しん症：2009 年は 657 件、定点当たり 4.48 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 0.90 であった。

[前年比減少疾患]

RS ウイルス感染症：2009 年は 845 件、定点当たり 5.73 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 0.46 と減少した。

咽頭結膜熱：2009 年は 1,339 件、定点当たり 9.07 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 0.46 と減少した。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎：2009 年は 10,058 件、定点当たり 68.03 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 0.72 と減少した。

感染性胃腸炎：2009 年は 37,599 件、定点当たり 254.50 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 0.62 と減少した。

水痘：2009 年は 7,079 件、定点当たり 47.94 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 0.82 と減少した。

手足口病：2009 年は 3,426 件、定点当たり 23.36 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比では 0.76 と減少した。

百日咳：2009 年は 225 件、定点当たり 1.53 件の報告があった。こと 10 年増加傾向にあったが、定点当たりの当年／前年比では 0.81 と減少が見られた。

ヘルパンギーナ：2009 年は 2,574 件、定点当たり 17.63 件の報告があった。ここ 10 年で最も報告数が少なく、定点当たりの当年／前年比でも 0.40 と大幅な減少が見られた。

MCLS (川崎病)：2009 年は 71 件、定点当たり 0.48 件の報告があり、定点当たり当年／前年比では 0.66 と減少した。

イ 眼科疾患（眼科定点：2007 年から 39 施設）

急性出血性結膜炎：年間 53 件（1.37／定点）が報告され、前年比 17.2%の減少となり、定点増加後 3 年連続で減少した。

流行性角結膜炎：年間 703 件（18.28／定点）が報告され、前年比 18.7%の減少となった。定点当たりの報告数は 2000 年以降減少の一途をたどっている。

両疾患共に、東京都における発生状況には際だった特徴を認めず、全国と大きな乖離をみなかった。

ウ 基幹定点における週報告疾患

細菌性髄膜炎：2009 年は 24 件、定点当たり 1.02 件報告された。前年も同数の 24 件が報告されている。

無菌性髄膜炎：2009 年は 28 件、定点当たり 1.17 件報告され、前年は 34 件であり、ここ 10 年では 3 番目に少ない報告数であった。

マイコプラズマ肺炎：2009 年は 305 件、定点当たり 12.93 件報告され、報告数はここ 10 年で最も多くなっている。

クラミジア肺炎：2009 年は 45 件、定点当たり 1.96 件報告された。ここ 10 年少しずつ報告数が増加してきており、2009 年はここ 10 年で最も多い報告数となっている。

エ 基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (MRSA)：2009 年は 1,290 件、定点当たり 54.44 件の報告があった。報告数は 2007 年の定点当たり 70.53 件をピークに減少が見られる。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：2009年は552件、定点当たりの報告数は23.30件でここ数年変化がない。

薬剤耐性緑膿菌感染症：2009年は22件、定点当たり0.93件の報告があった。報告数は2002年の107件をピークに年々減少している。

オ 性感染症（STI）

東京都のSTIサーベイランス報告数は、新感染症法となった1999年以後、順調な減少傾向が続いている。STIには疾患特異性として、「自発的受診がのぞめない無症状の感染」や、「診断の正確性の限界」があり、サーベイランスとして、「定点選定における代表性担保の困難性」がある。このため、サーベイランスの数値の解釈は慎重に行う必要がある。淋菌感染症を例にとると、1992年のエイズパニック時に前年比5倍程度の大きな症例数の変動は推移の図の波動として判然と記録されていること、そして、最近10年間のサーベイランス報告数の波動に変動がなかったことから、実際の症例数においても大きな増加がなかったと考えられる。同期間、IT機器の急速な発達による「出合いの機会の激増」を考えれば、STIの減少傾向は「予期に反する好ましい結果」と思われる。CDC統計では米国でもこの期間STIに増加はないが、米国のSTI抑制は、以前から実施されてきた「STIクリニックでの無料の診断、治療」に加え「STI感染者のパートナーに対する（診断なしでの）予防的抗菌薬投与」の追加措置によりようやく達成されたものである。日本では無料のSTIクリニックは存在せず、STIは医療保険対象外との誤解さえある。また、パートナーの予防投与や、診断上重要な感染者における複数部位病原検策が保険不適用であるなど不十分な医療状況にある。それにもかかわらず日本でSTI減少傾向が認められるのは、CDC統計にみられるアジア系米国人のSTI罹患率が他と比べて低いことと同じ理由によるのかもしれない。

（3）疑似症（法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）

7/1の開始以降、摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）は147件、発熱及び発しん又は水疱は6件報告された。

2表-1-(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(一、二、三、四、五類全数)

分類	疾病名	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	痘そう *1	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱 *2	/	/	/	/	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-
	結核 *2 (2010年2月10日現在の報告数)	-	-	-	-	3,305	3,228	4,204
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 *3	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1) *4	/	/	/	/	/	-	-
三類	コレラ *5	5	12	13	8	3	6	3
	細菌性赤痢 *5	105	133	89	67	86	64	48
	腸管出血性大腸菌感染症	182	273	238	268	476	409	317
	腸チフス *5	20	17	11	19	11	13	11
	パラチフス *5	7	15	4	12	7	7	12
四類	E型肝炎 *1	1	4	8	4	3	7	6
	ウエストナイル熱 *6	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎 *1	3	21	24	28	19	31	24
	エキノコックス症	-	-	1	1	3	-	1
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	2	3	3	4	1	-	1
	オムスク出血熱 *2	/	/	/	/	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	-	-
	キャサヌル森林病 *2	/	/	/	/	-	-	-
	Q熱	1	1	3	-	2	1	1
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	1	1	1	2	-	1
	サル痘 *1	-	-	-	-	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎 *2	/	/	/	/	-	-	-
	ダニ媒介脳炎 *2	/	/	/	/	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-
	つつが虫病	3	7	6	1	15	18	14
	デング熱	15	27	29	18	23	32	32
	東部ウマ脳炎 *2	/	/	/	/	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く) *7	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
鼻疽 *2	/	/	/	/	-	-	-	
ブルセラ症	-	-	1	1	-	-	1	
ベネズエラウマ脳炎 *2	/	/	/	/	-	-	-	
ヘンドラウイルス感染症 *2	/	/	/	/	-	-	-	
ボツリヌス症 *8	-	-	1	-	-	-	-	

分類	疾病名	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
四類	マラリア	33	22	21	16	23	23	26
	野兔病 *1	-	-	-	-	-	-	-
	ライム病	-	-	4	2	3	-	1
	リッサウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱 *2	/	/	/	/	-	-	-
	類鼻疽 *2	/	/	/	/	-	-	-
	レジオネラ症	18	18	24	62	53	80	53
	レプトスピラ症 *1	-	3	3	4	4	4	-
	ロッキー山紅斑熱 *2	/	/	/	/	-	-	-
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢 *9	122	141	183	181	166	189	140
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く) *9	67	58	36	34	40	30	35
	急性脳炎 *1	1	8	16	6	20	11	45
	クリプトスポリジウム症 *9	6	8	1	5	1	4	4
	クロイツフェルト・ヤコブ病 *9	13	20	15	22	16	15	19
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 *9	6	6	7	14	6	19	10
	後天性免疫不全症候群 *9	359	411	417	453	515	545	471
	ジアルジア症 *9	29	18	13	28	19	20	24
	髄膜炎菌性髄膜炎 *9	4	7	3	1	3	2	1
	先天性風しん症候群 *9	-	3	-	-	-	-	-
	梅毒 *9	67	65	98	132	162	205	196
	破傷風 *9	3	2	2	8	1	5	7
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 *1 *9	-	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 *9	4	10	13	20	17	15	15
	風しん *10	/	/	/	/	/	46	19
	麻しん *10	/	/	/	/	/	1,174	110
新型	新型インフルエンザ *11	/	/	/	/	/	/	1160

*1 2003年11月5日より新たに追加指定された。

*2 2007年4月1日より新たに追加指定された。

*3 2003年11月5日より新たに追加指定された。2007年4月1日に一類から二類に分類が変更になった。

*4 2008年5月12日より新たに追加指定された。

*5 2007年4月1日に二類から三類に分類が変更になった。

*6 2002年11月1日より四類感染症に追加され、急性脳炎に含まれなくなった。

*7 2003年11月5日より「高病原性鳥インフルエンザ」として新たに追加指定、2007年4月1日より「鳥インフルエンザ」に変更。

*8 2003年11月5日より新たに追加指定された。11/4までは「乳児ボツリヌス症」を含む。

*9 2003年11月5日より「四類(全数届出)」から「五類(全数届出)」に分類が変更になった。

*10 2008年1月1日より五類(定点届出)から五類(全数届出)に分類が変更になった。

*11 2009年4月28日に新型インフルエンザ等感染症に指定された。全数届け出は2009年7月23日まで。

2表-1-(2) 東京都感染症発生動向調査年別患畜報告数(全数動物)

疾病名	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
エボラ出血熱のサル							
マールブルグ病のサル							
ペストのプレーリードッグ							
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ							
重症急性呼吸器症候群のタヌキ							
重症急性呼吸器症候群のハクビシン							
結核のサル	/	/	/	/			
鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	/	/	/	/			1
細菌性赤痢のサル	/	/	1	1			
ウエストナイル熱の鳥類	/	/	/	/			
エキノコックス症の犬	/	/	/	/			

2009年の報告は動物実験による感染

2表-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点）

上段：年間報告数

下段：定点当たり

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
小児科定点数 *1	142	142	142	142	142	142	142	150	150	150
インフルエンザ 定点数 *2	178	178	178	178	178	178	178	290	290	290
インフルエンザ	18,101 101.69	6,114 34.35	14,877 83.58	27,007 151.72	18,958 106.51	43,336 243.46	23,953 134.57	53,927 191.41	23,059 80.47	142,140 495.53
RSウイルス感染症 *3				68 0	432 3	848 6	818 5.76	1,403 9.57	1,722 11.71	845 5.73
咽頭結膜熱	489 3.44	645 4.54	600 4.23	1,353 9.53	2,123 14.95	2,468 17.38	3,929 27.67	2,793 18.96	2,927 19.86	1,339 9.07
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	3,259 22.95	2,936 20.68	3,772 26.56	4,261 30.01	5,842 41.14	7,564 53.27	11,213 78.96	11,913 81.32	13,925 93.97	10,058 68.03
感染性胃腸炎	33,084 232.99	31,639 222.81	34,659 244.08	35,718 251.54	39,464 277.92	42,578 299.85	51,945 365.81	46,783 318.41	58,681 395.92	37,599 254.50
水痘	6,973 49.11	6,877 48.43	7,079 49.85	6,439 45.35	6,845 48.20	7,565 53.27	8,345 58.77	8,874 60.77	8,682 58.68	7,079 47.94
手足口病	6,464 45.52	2,133 15.02	3,213 22.63	6,872 48.39	3,585 25.25	3,296 23.21	2,885 20.32	4,382 29.73	4,487 30.60	3,426 23.36
伝染性紅斑	1,740 12.25	2,510 17.68	1,574 11.08	1,471 10.36	2,771 19.51	2,035 14.33	3,109 21.89	2,879 19.73	1,168 7.90	1,558 10.54
突発性発しん	3,663 25.80	3,507 24.70	3,632 25.58	3,777 26.60	4,043 28.47	4,048 28.51	4,119 29.01	4,691 31.95	4,944 33.49	4,463 30.24
百日咳	56 0.39	23 0.16	32 0.23	34 0.24	47 0.33	28 0.20	23 0.16	151 1.02	278 1.88	225 1.53
風しん *4	226 1.59	114 0.80	71 0.50	143 1.01	234 1.65	40 0.28	21 0.15	35 0.24		
ヘルパンギーナ	6,577 46.32	6,314 44.46	5,067 35.68	5,064 35.66	5,275 37.15	6,909 48.65	5,900 41.55	6,804 46.10	6,470 44.08	2,574 17.63
麻しん *4	589 4.15	628 4.42	377 2.65	376 2.65	78 0.55	49 0.35	25 0.18	303 2.05		
流行性耳下腺炎	4,804 33.83	6,284 44.25	3,678 25.90	1,290 9.08	3,250 22.89	7,321 51.56	4,481 31.56	1,940 13.24	3,662 24.83	5,175 35.05
不明発しん症	645 4.54	585 4.12	613 4.32	579 4.08	540 3.80	461 3.25	966 6.80	665 4.52	734 4.98	657 4.48
MCLS(川崎病)	66 0.46	75 0.53	60 0.42	66 0.46	69 0.49	56 0.39	101 0.71	110 0.75	109 0.73	71 0.48

*1 2007年は、12月末時点の定点数

*2 2007年は、12月末時点の定点数

*3 2003年45週より実施

*4 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

2表-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）

上段:年間報告数

下段:定点当たり

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
定点数*	14	14	14	14	14	14	14	39	39	39
急性出血性結膜炎	11	16	12	18	6	7	8	82	64	53
	0.79	1.14	0.86	1.29	0.43	0.50	0.57	2.15	1.66	1.37
流行性角結膜炎	1,240	1,008	925	880	719	567	535	968	865	703
	88.57	72.00	66.07	62.86	51.36	40.50	38.21	32.04	22.41	18.28

* 2007年は、12月末時点の定点数

2表-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点週報告分)

上段:年間報告数

下段:定点当たり

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
定点数	25	25	25	25	25	25	25	25	24	24
細菌性髄膜炎	14	12	24	18	25	17	15	28	24	24
	0.56	0.48	0.96	0.72	1.00	0.68	0.60	1.14	1.01	1.02
無菌性髄膜炎	83	36	66	66	27	28	40	50	34	28
	3.32	1.44	2.64	2.64	1.08	1.12	1.60	2.03	1.42	1.17
マイコプラズマ肺炎	22	45	163	173	184	164	218	247	298	305
	0.88	1.80	6.52	6.92	7.36	6.56	8.72	10.11	12.53	12.93
クラミジア肺炎	1	0	2	3	4	9	13	20	25	46
	0.04	0.00	0.08	0.12	0.16	0.36	0.52	0.81	1.05	1.96
成人麻しん *1	120	181	116	144	16	1	3	262		
	4.80	7.24	4.64	5.76	0.64	0.04	0.12	10.70		

*1 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

2表-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
定点数	25	25	25	25	25	25	25	25	24	24
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1,456 58.24	1,365 54.60	1,759 70.36	1,761 70.44	1,552 62.08	1,539 61.56	1,536 61.44	1,758 70.53	1,606 66.92	1,290 54.44
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	338 13.52	355 14.20	557 22.28	617 24.68	444 17.76	534 21.36	579 23.16	624 25.08	554 23.08	552 23.30
薬剤耐性緑膿菌感染症	85 3.40	69 2.76	107 4.28	61 2.44	39 1.56	35 1.40	41 1.64	48 1.93	26 1.08	22 0.93

2表-6 東京都感染症発生動向調査年別報告数 (STI 定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
定点数*	41	41	41	41	41	41	41	55	55	55
性器クラミジア感染症	2,688 65.56	2,789 68.02	2,536 61.85	2,422 59.07	2,476 60.39	2,132 52.00	2,133 52.02	2,485 48.08	2,605 47.51	2,295 42.51
性器ヘルペスウイルス感染症	1,054 25.71	1,019 24.85	950 23.17	865 21.10	982 23.95	923 22.51	963 23.49	989 19.40	946 17.25	954 17.69
尖圭コンジローマ	578 14.10	549 13.39	502 12.24	518 12.63	627 15.29	555 13.54	646 15.76	801 15.39	926 16.88	727 13.47
淋菌感染症	1,204 29.37	1,364 33.27	1,249 30.46	1,298 31.66	1,171 28.56	1,006 24.54	868 21.17	1,013 19.63	1,096 19.99	950 17.61
臙トリコモナス症	295 7.20	367 8.95	447 10.90	343 8.37	298 7.27	212 5.17	233 5.68	233 4.69	169 3.08	138 2.55
梅毒様疾患	108 2.63	63 1.54	41 1.00	68 1.66	42 1.02	43 1.05	74 1.80	103 1.99	82 1.50	94 1.74

* 2007年は、12月末時点の定点数

3 各疾患の動向

(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症 (全数把握対象)

ア 一類感染症

一類感染症 (以下参照) の届出はなかった。

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱

イ 二類感染症

① 結核

結核の動向は別途、健康安全全部感染症対策課が扱っている。

② その他の二類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ (H5N1)

ウ 三類感染症

① コレラ

コレラは3件届出があった。全て O1 エルトール小川であった。

性別は男性2人、女性1人で、年齢別は、20歳代1人、30歳代1人、50歳代1人、であった。

推定感染地は全て国外 (インド2件、インドネシア1件) であった。

コレラ (N=3)

受理日	受理週	性別	年齢	菌型	推定感染地
6/4	23	男	32	O1 エルトール小川	インド
8/22	34	男	55	O1 エルトール小川	インド
10/21	43	女	29	O1 エルトール小川	インドネシア

② 細菌性赤痢

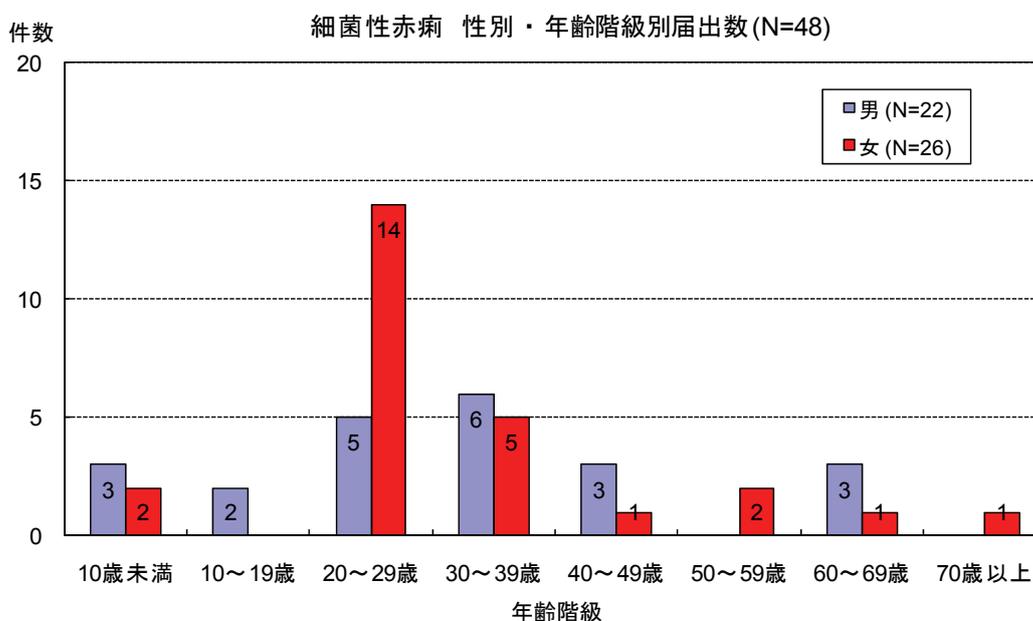
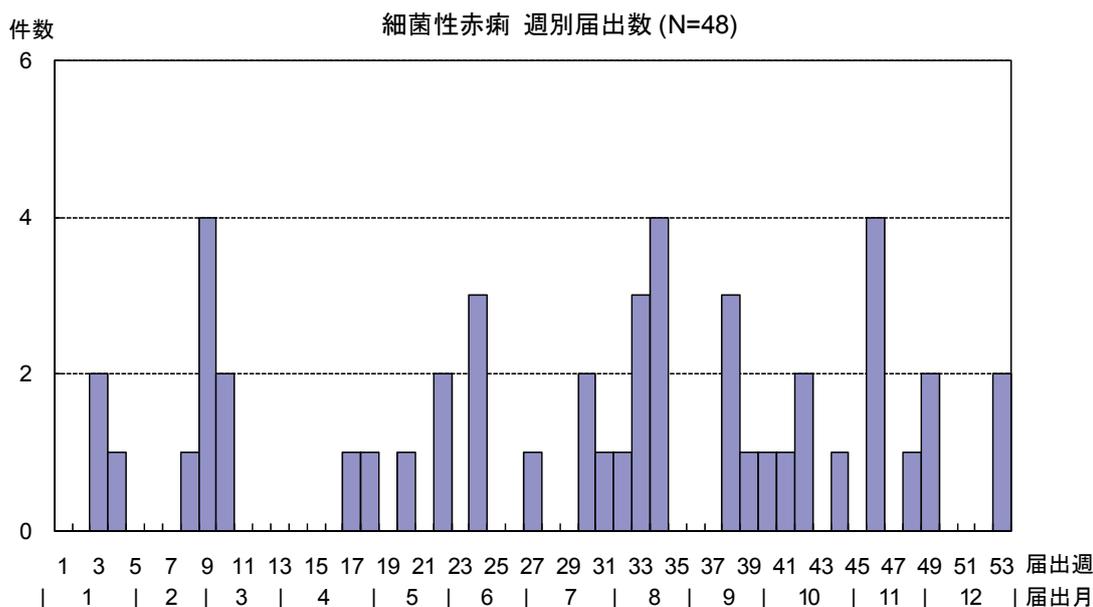
細菌性赤痢は48件届出があった。菌型はディセンテリー菌1件、フレキシネル菌11件、ソルネ菌36件であった。

性別は男性22人、女性26人で、年齢別は10歳未満5人 (うち5歳未満2人)、10歳代2人、20歳代19人、30歳代11人、40歳代4人、50歳代2人、60歳代4人、70歳代1人であった。

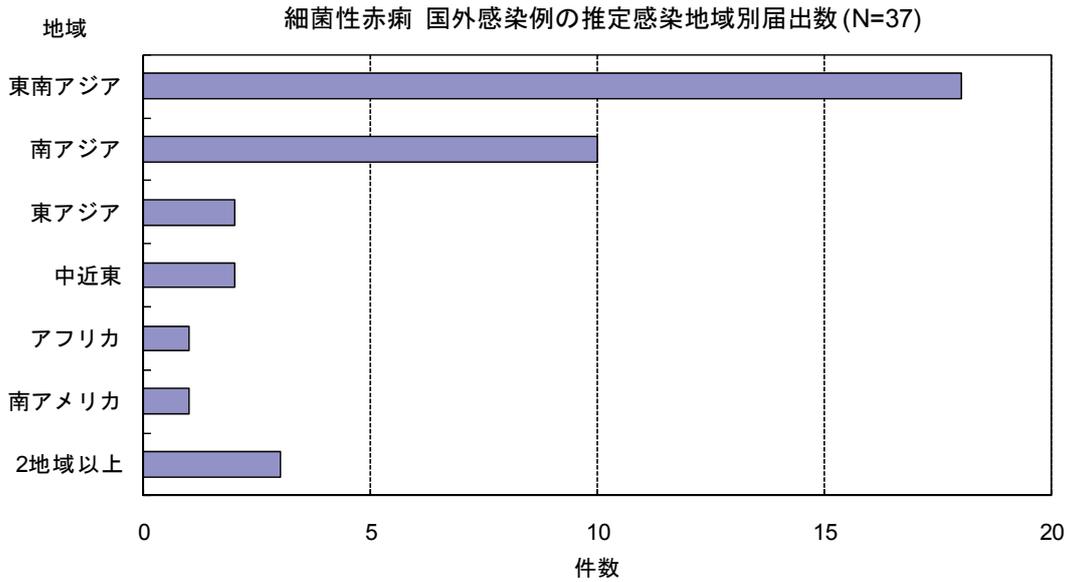
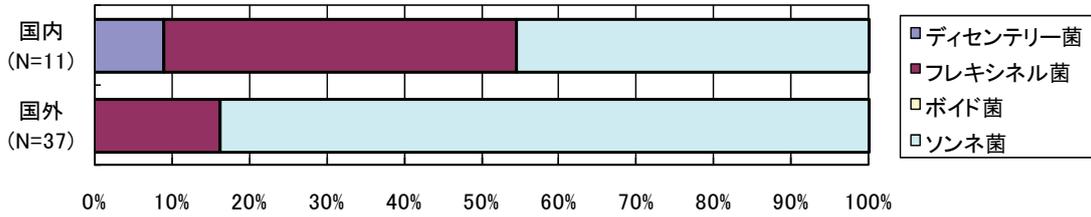
推定感染地は国内11件、国外37件であった。国外感染例37件を推定感染地域別にみると、東南アジア18件、南アジア10件、東アジア2件、中近東2件が多く、推定感染国別にみると、インド8件、インドネシア7件、ベトナム6件、フィリピン3件、カンボジア2件、中国2件が多かった。症例の集積は、第3~4週インドネシアへの渡航者2人 (ソルネ)、第8~9週フィリピンへの渡航者3人 (ソルネ)、第22週インドへの渡航者2人 (フレキシ)

ネル1件、ソンネ1件)、第33~34週インドネシアへの渡航者2人(ソンネ)、第38週ベトナムへの渡航者2人(ソンネ)に認められた。

国内感染が疑われる11件の年齢別は、10歳未満1人、10歳代1人、20歳代4人、30歳代1人、60歳代1人、70歳以上1人であった。症例の集積は、第9週に2人(ソンネ)、第33週に2人(フレキシネル1件、ソンネ1件)、第46週に2人(ディセンテリー1件、ソンネ1件)認められた。



細菌性赤痢 菌型別・推定感染地別構成割合 (N=48)



細菌性赤痢 国外感染例の推定感染地域別・国別届出数 (N=37)

推定感染地域	件数	推定感染国	件数
東南アジア	18	インドネシア	7
		カンボジア	2
		ベトナム	6
		フィリピン	3
南アジア	10	インド	8
		パキスタン	1
		ネパール	1
東アジア	2	中国	2
中近東	2	トルコ	1
		イエメン	1
アフリカ	1	エジプト	1
南米	1	ペルー	1
2地域以上	3	インドネシア/シンガポール	1
		ベトナム /タイ	1
		メキシコ/プエルトリコ/コロンビア	1
計	37		

細菌性赤痢 国内感染例 (N=11)

受理日	受理週	性別	年齢	菌型	症状	推定感染地	備考
2/27	9	女	25	ソンネ	有	不明	生鶏肉喫食の関連疑い
2/27	9	男	8	ソンネ	有	不明	
7/3	27	女	68	フレキシネル	有	東京	
8/12	33	男	14	フレキシネル	有	東京	
8/14	33	男	23	ソンネ	有	東京	焼肉喫食の関連疑い
8/17	34	女	26	フレキシネル	有	東京	
9/24	39	男	1	ソンネ	有	東京	
10/13	42	女	39	フレキシネル	有	東京	
10/29	44	女	5	フレキシネル	有	不明	
11/9	46	女	75	ディセンテリー	有	東京	寿司喫食の関連疑い
11/10	46	女	23	ソンネ	有	不明	

③ 腸管出血性大腸菌感染症

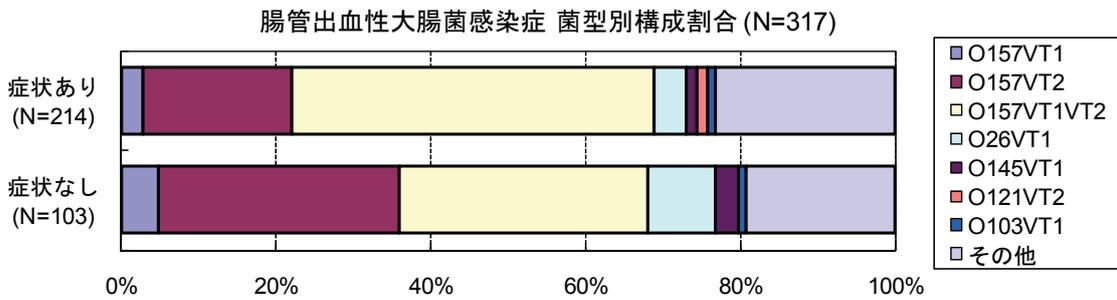
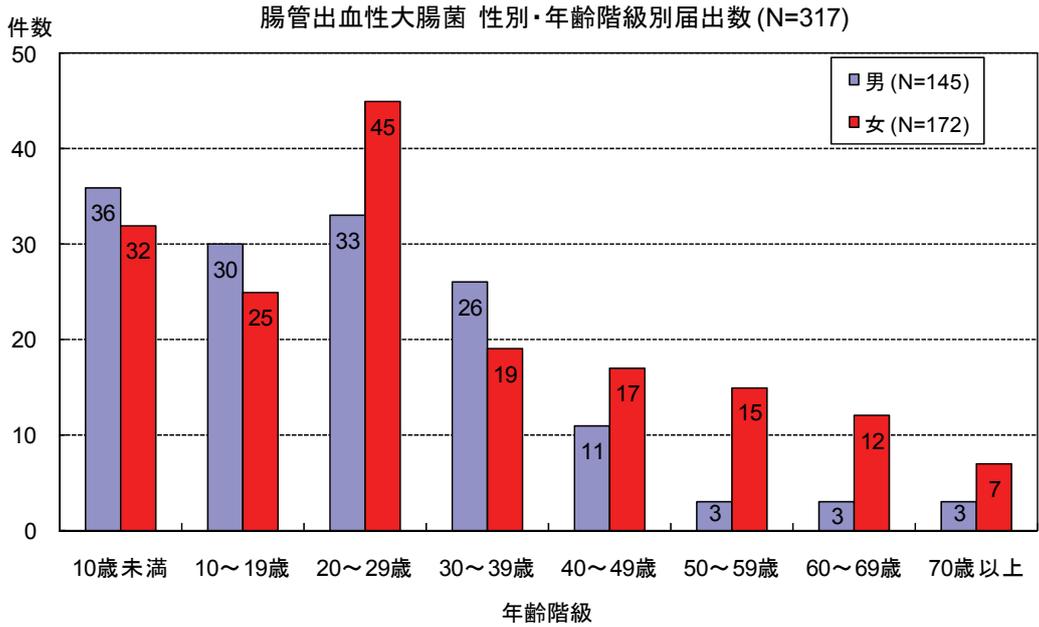
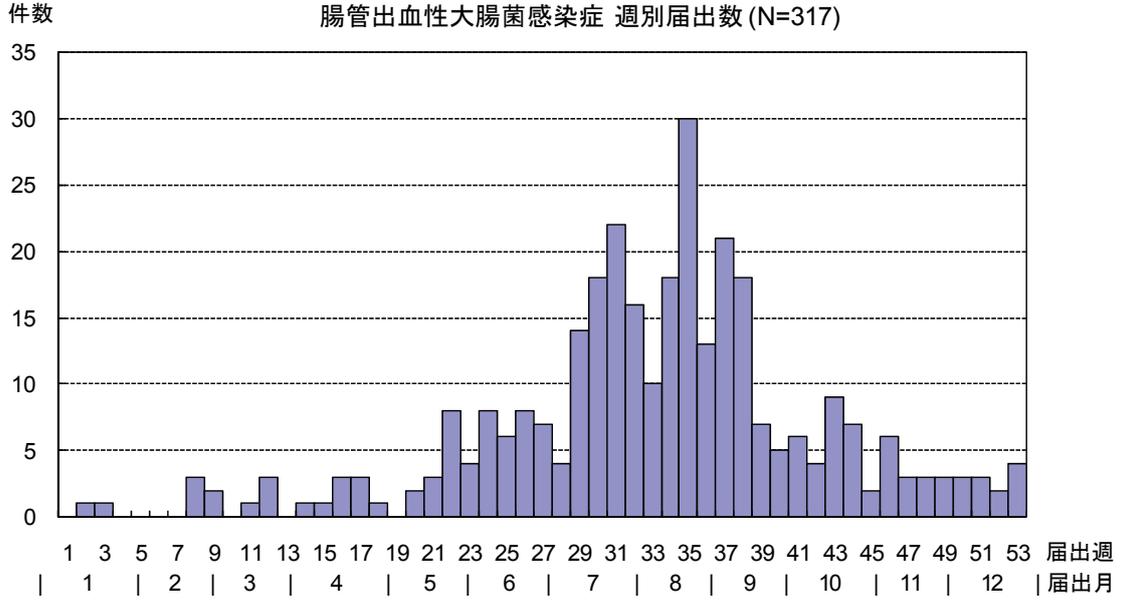
腸管出血性大腸菌感染症は 317 件届出があった。

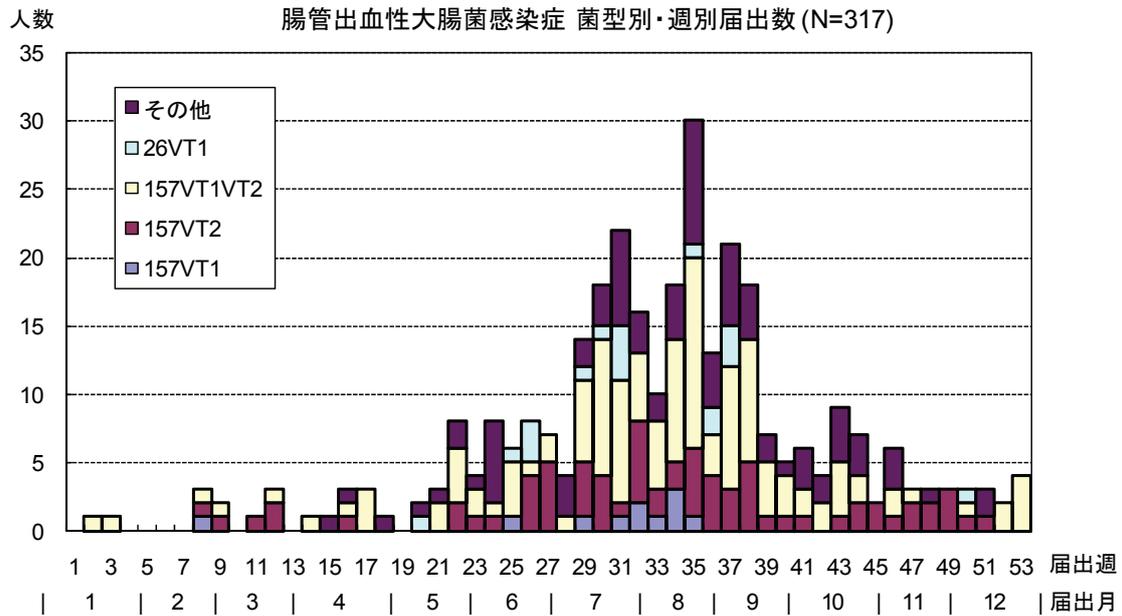
性別は男性 145 人、女性 172 人で、年齢別は 10 歳未満 68 人（うち 5 歳未満 27 人）、10 歳代 55 人、20 歳代 78 人、30 歳代 45 人、40 歳代 28 人、50 歳代 18 人、60 歳代 15 人、70 歳以上 10 人であった。

菌型は O157VT1 が 11 件、O157VT2 が 73 件、O157VT1VT2 が 133 件、O26VT1 が 18 件、O145VT1 が 6 件、O145VT2 が 1 件、O103VT1 が 3 件、O121VT2 が 3 件、O111VT2 が 2 件、O165VT2 が 2 件、その他が 65 件であった。

症状別では、患者 214 人、無症状病原体保有者 103 人であった。溶血性尿毒症症候群 (HUS) と判明している者は 7 人おり、内訳は 10 歳未満 4 人、10 歳代 2 人、20 歳代 1 人であった。推定感染地は国内 308 件、国外 8 件、その他（不明）1 件であった。死亡例の報告はなかった。

症例の集積は、第 34～35 週に農業体験に関連した事例が 2 人（O157VT1VT2 が 2 人）、38 週に外食チェーン店に関連した事例が 3 人（O157VT2 が 1 人、O157VT1VT2 が 2 人）認められた。



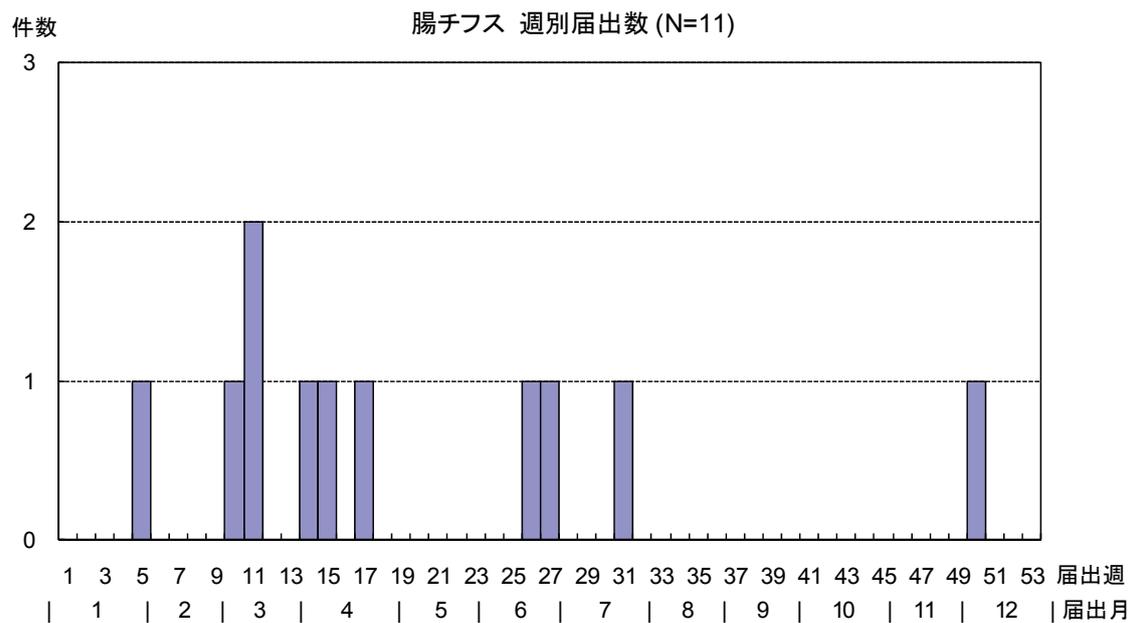


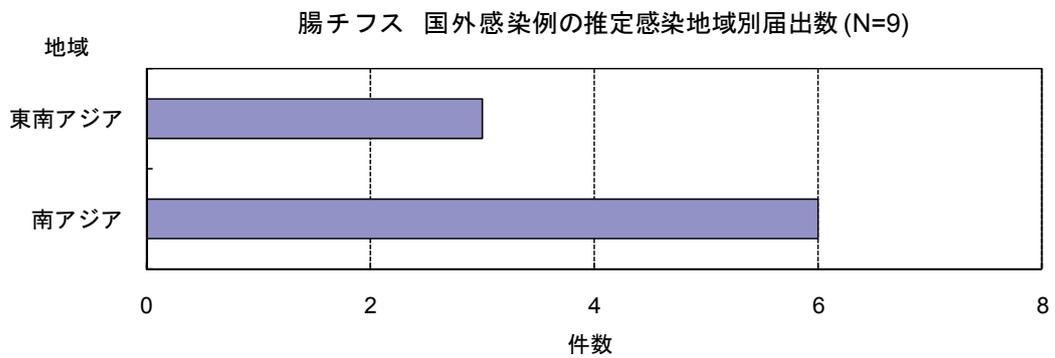
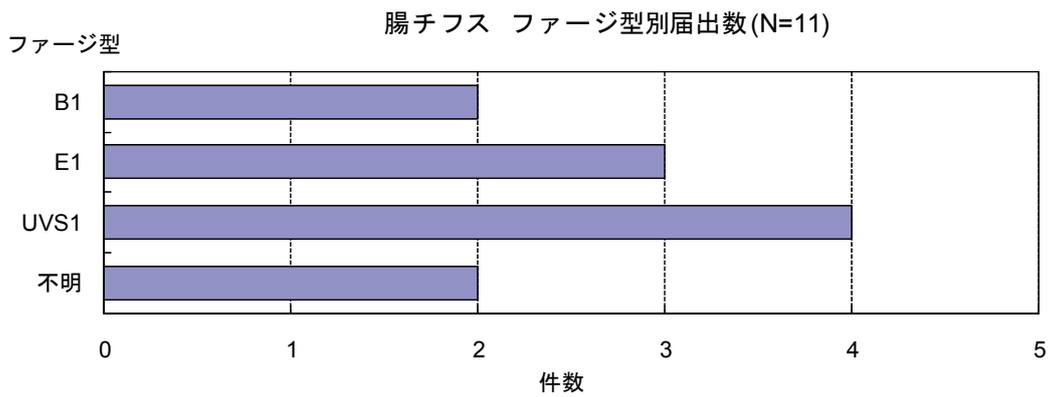
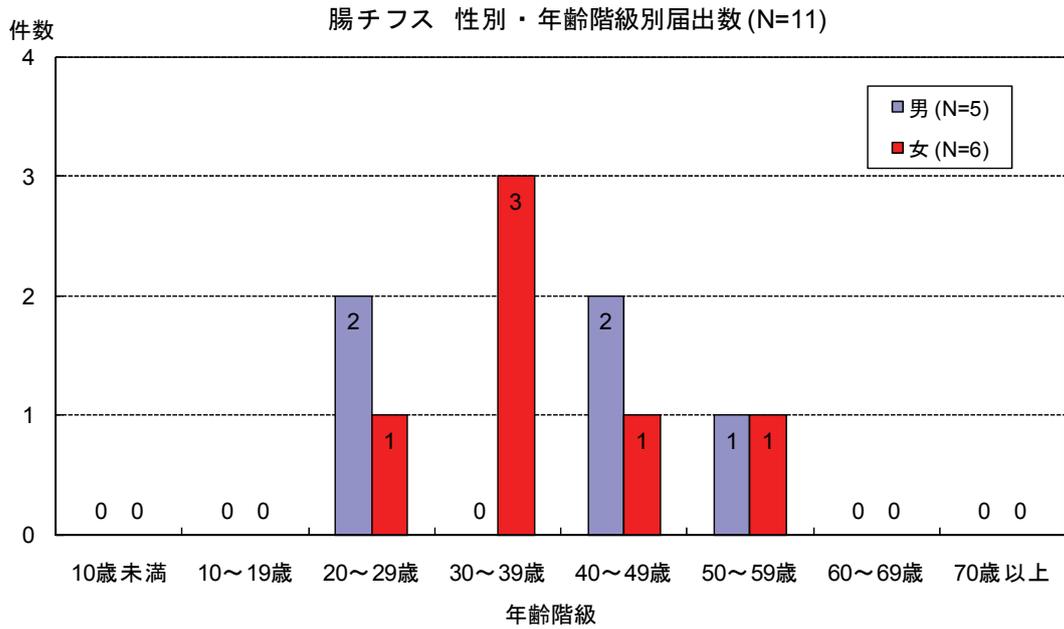
④ 腸チフス

腸チフスは 11 件届出があった。

性別は男性 5 人、女性 6 人で、年齢別は 20 歳代 3 人、30 歳代 3 人、40 歳代 3 人、50 歳代 2 人であった。

推定感染地は国内 2 件、国外 9 件であった。推定感染地域別では、南アジア 6 件、東南アジア 3 件で、推定感染国別では、インド 5 件、カンボジア 2 件、パキスタン 1 件、フィリピン 1 件であった。





腸チフス 国内感染例 (N=2)

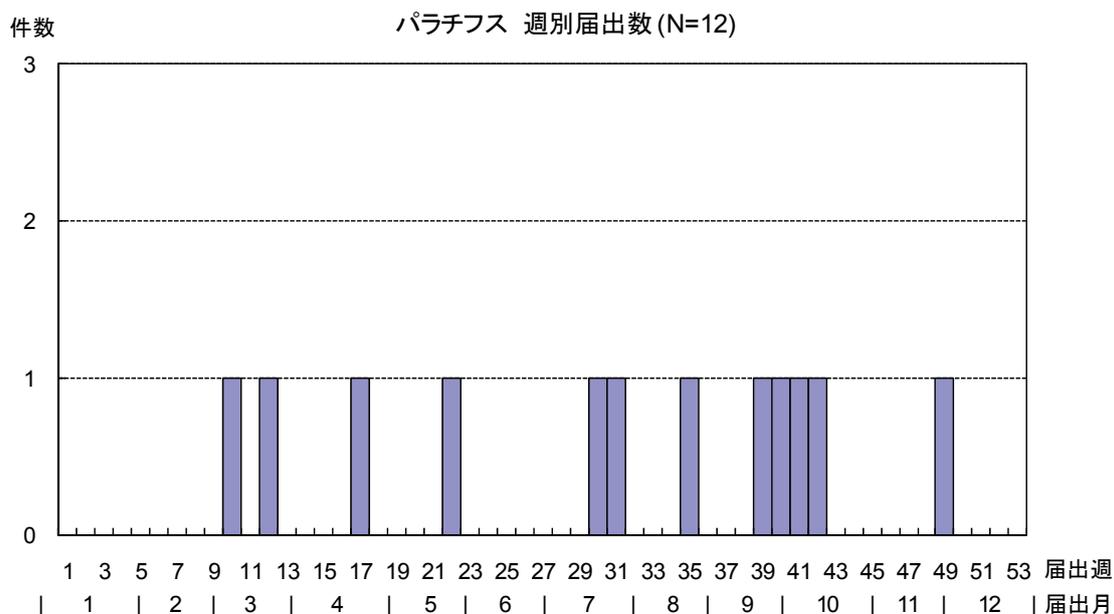
受理日	受理週	性別	年齢	ファージ型	症状	推定感染地
3/4	10	男	49	B1	有	不明
12/11	50	女	44	UVS1	有	不明

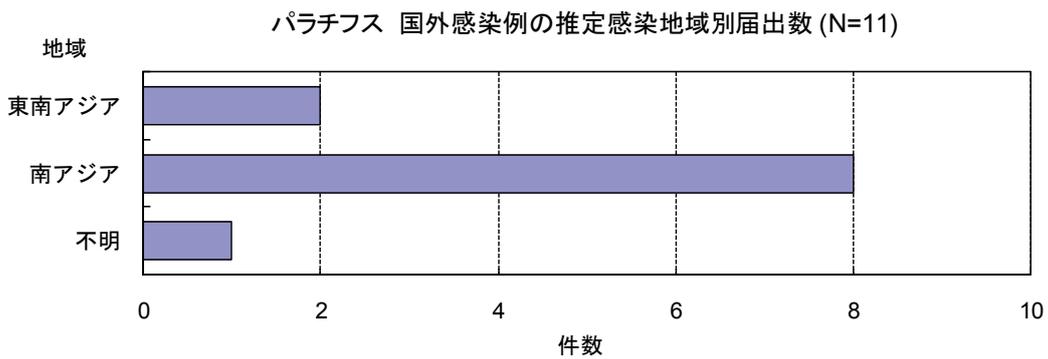
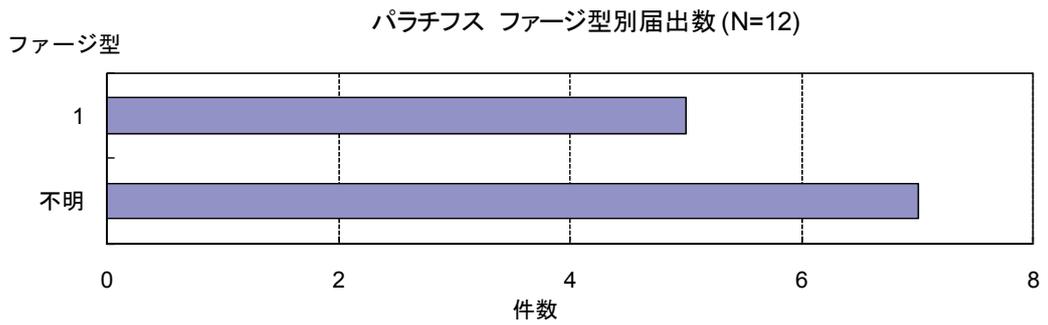
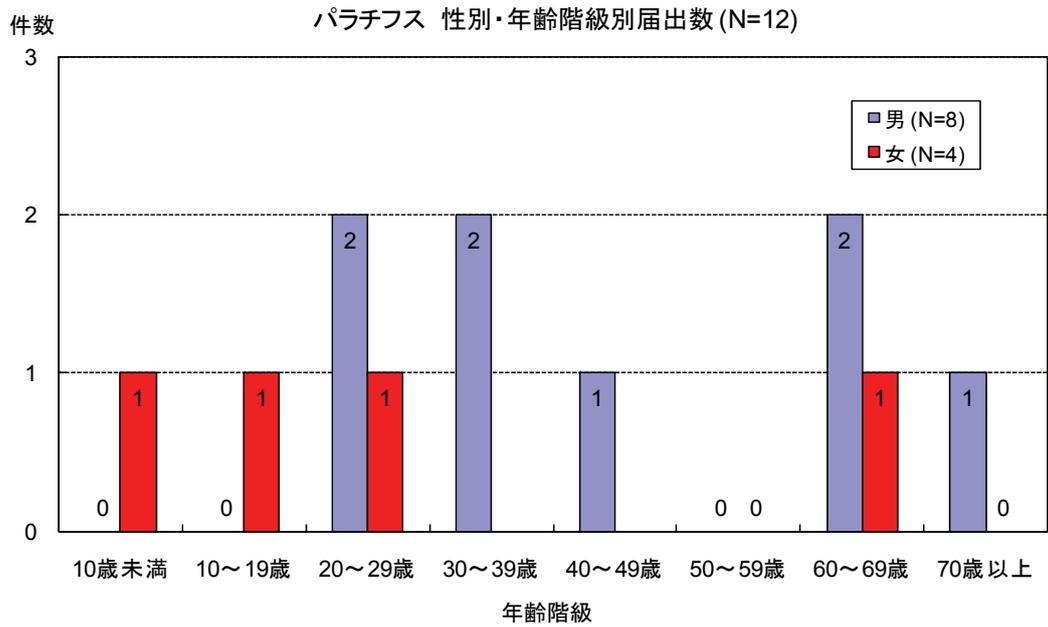
⑤ パラチフス

パラチフスは12件届出があった。

性別は男性8人、女性4人で、年齢別は10歳未満1人、10歳代1人、20歳代3人、30歳代2人、40歳代1人、60歳代3人、70歳以上1人であった。

推定感染地は国内1件、国外11件であった。推定感染地域別では、南アジア8件、東南アジア2件、不明1件で、推定感染国別では、インド5件、スリランカ2件、インドネシア2件、バングラデシュ1件、不明1件であった。





パラチルス 国内感染例 (N=1)

受理日	受理週	性別	年齢	フェージ型	症状	推定感染地
3/4	10	男	75	1	有	家族内感染

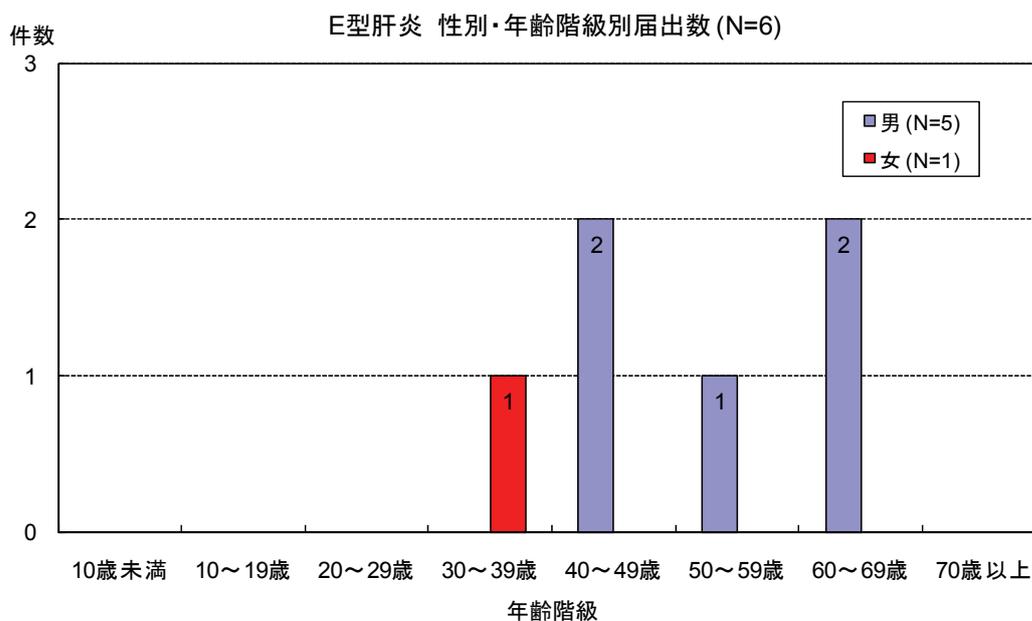
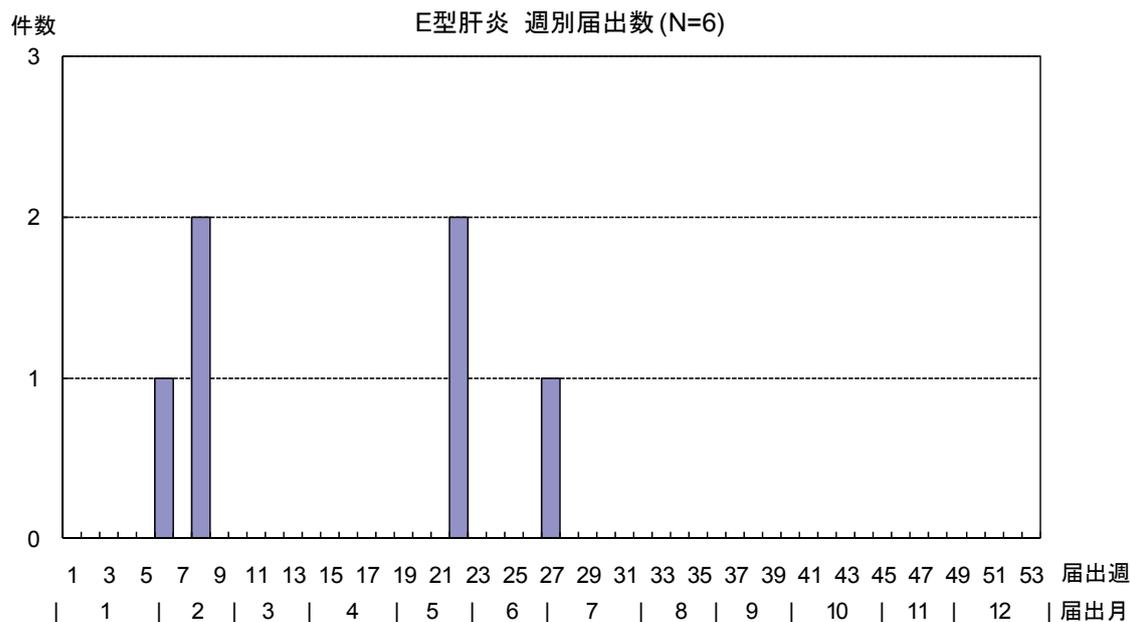
エ 四類感染症

① E型肝炎

E型肝炎は6件届出があった。

性別は男性5人、女性1人で、年齢別は30歳代1人、40歳代2人、50歳代1人、60歳代2人であった。

推定感染地は国内5件、国外1件（ネパール1件）であった。



E型肝炎 (N=6)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
2/5	6	男	43	発熱、全身倦怠感、食欲不振、 黄疸、肝機能異常、肝腫大	国内	飲食物による経口感染 (レバー)
2/18	8	男	51	全身倦怠感、黄疸	国内	飲食物による経口感染 (焼肉)
2/19	8	女	35	発熱、全身倦怠感、食欲不振、 黄疸、肝機能異常、肝腫大	ネパール	不明
5/27	22	男	61	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、 肝機能異常、肝腫大	国内	飲食物による経口感染 (生肉)
5/29	22	男	67	発熱、全身倦怠感、食欲不振、 黄疸、肝機能異常、肝萎縮、腹 水	国内	飲食物による経口感染 (鹿肉、猪肉)
6/29	27	男	46	全身倦怠感、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染

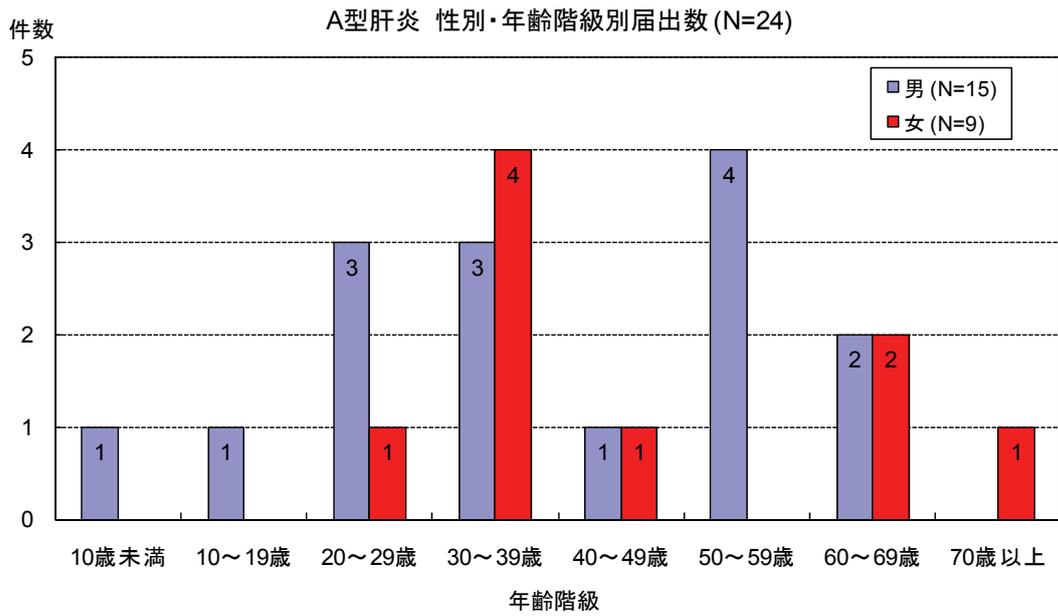
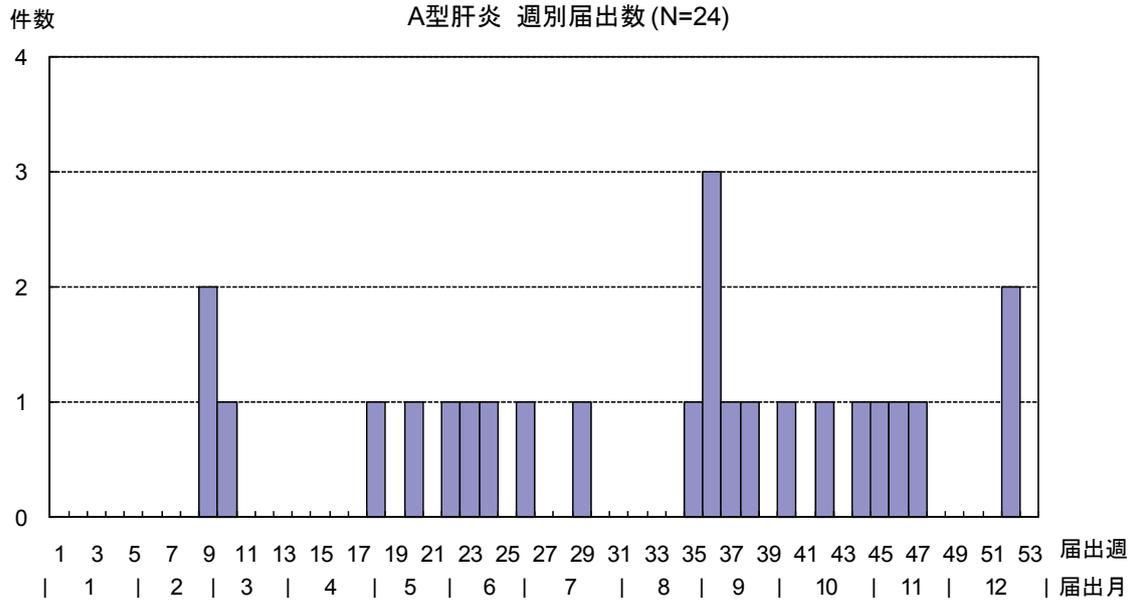
② A型肝炎

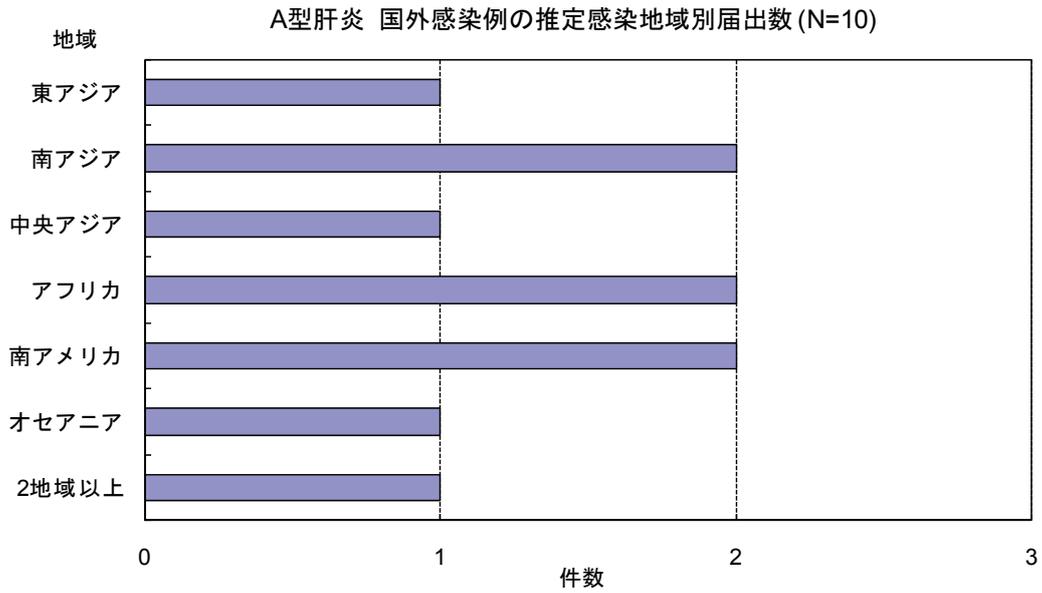
A型肝炎は24件届出があった。

性別は男性15人、女性9人で、年齢別は10歳未満1人、10歳代1人、20歳代4人、30歳代7人、40歳代2人、50歳代4人、60歳代4人、70歳以上1人であった。

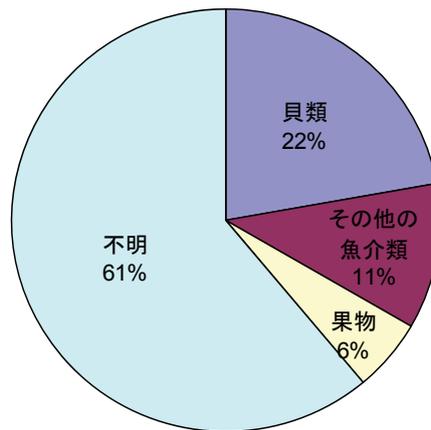
推定感染地は国内14件、国外10件であった。国外の推定感染地域別では、南アジア2件、アフリカ2件、南アメリカ2件、東アジア1件、中央アジア1件、オセアニア1件、複数地域1件で、推定感染国別では、韓国、インド、パキスタン、ウズベキスタン、エジプト、モザンビーク、アルゼンチン、ブラジル、オーストラリア、ネパール/ハワイが各1件であった。

推定感染経路は飲食物による経口感染18件、その他(不明)6件であった。飲食物による経口感染18件のうち推定原因食材は、貝類が4件(22%)、その他の魚介類が2件(11%)、果物が1件(6%)、不明11件(61%)であった。





A型肝炎 感染原因として疑われた飲食物 (N=18)



③ エキノコックス症

エキノコックス症は1件届出があった。

症例は60歳代女性で、感染地及び感染経路ともに不明である。

エキノコックス症 (N=1)

受理日	受理週	性別	年齢	原因寄生虫種	症状	推定感染地	推定感染経路
1/9	2	女	67	単包条虫	肝臓の画像異常所見	不明	不明

④ オウム病

オウム病は1件届出があった。

症例は50歳代女性、推定感染地は国内で、インコからの感染が疑われている。

オウム病 (N=1)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染原因
5/16	20	女	51	呼吸困難	国内	インコ

⑤ Q熱

Q熱は1件届出があった。

症例は50歳代女性で、塵埃感染が疑われている。

Q熱 (N=1)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
6/12	24	女	54	発熱、全身倦怠感	国内	塵埃感染

⑥ コクシジオイデス症

コクシジオイデス症は1件届出があった。

症例は10歳代女性で、推定感染地はアメリカである。

Q熱 (N=1)

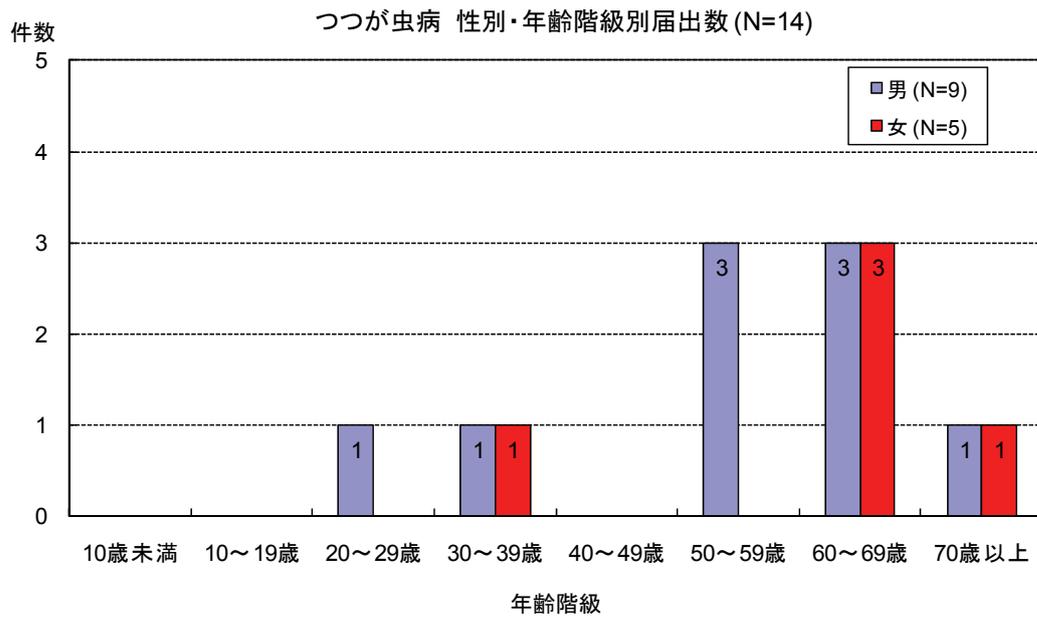
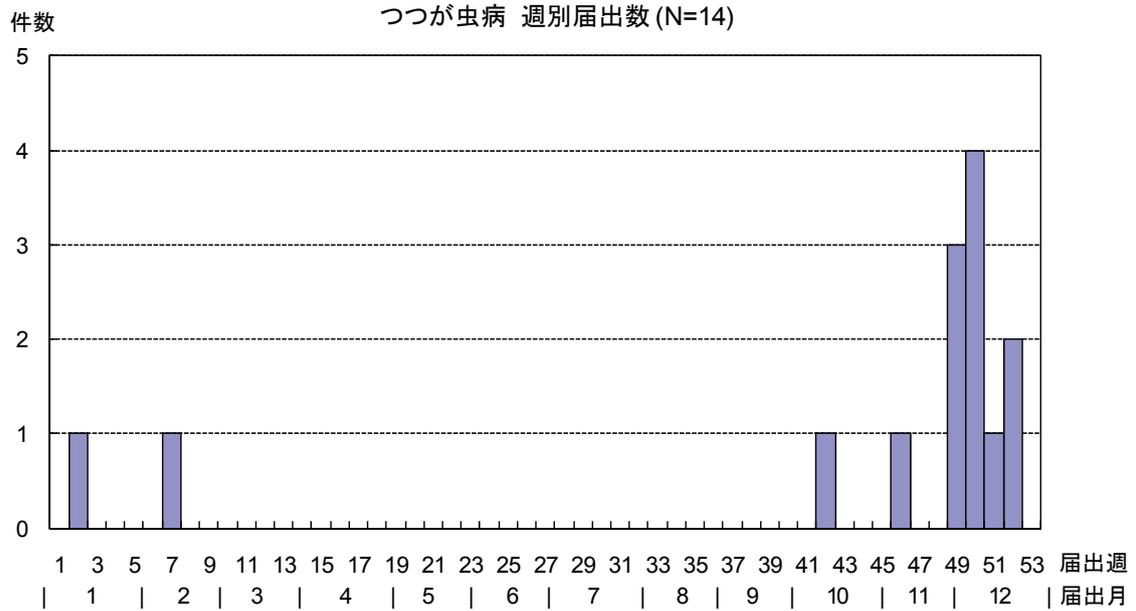
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
1/13	3	女	19	発熱、咳、胸部結節性病変、 胸部空洞性病変、全身播種	アメリカ	塵埃感染(砂漠等)

⑦ つつが虫病

つつが虫病は14件届出があった。

性別は男性9人、女性5人で、年齢別は20歳代1人、30歳代2人、50歳代3人、60歳代6人、70歳以上2人であった。

推定感染地は東京都12件(島しょ地域9件、多摩地域2件、特別区1件)、栃木県1件、静岡県1件であった。



つつが虫病 (N=14)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	媒介動物との接触状況
1/9	2	男	68	発疹	島しょ地域	
2/10	7	男	67	発熱、刺し口、リンパ節腫脹	島しょ地域	
10/15	42	女	34	頭痛、発熱、刺し口、 リンパ節腫脹	静岡県	
11/12	46	男	54	頭痛、発熱、刺し口、 リンパ節腫脹、発疹	多摩地域	
11/30	49	男	50	頭痛、発熱、刺し口、発疹、 関節痛	島しょ地域	
11/30	49	女	64	発熱、刺し口、発疹、関節痛	島しょ地域	
12/2	49	男	71	発熱、刺し口	島しょ地域	
12/8	50	女	79	発熱、刺し口、発疹	多摩地域	
12/9	50	男	33	頭痛、発熱、リンパ節腫脹	特別区	
12/11	50	男	50	頭痛、発熱、刺し口、発疹、 咽頭痛	島しょ地域	
12/11	50	女	60	頭痛、発熱、発疹	島しょ地域	
12/14	51	男	61	頭痛、発熱、刺し口、発疹	栃木県	道路脇の泥濘で作業
12/22	52	女	69	頭痛、発熱、刺し口、 リンパ節腫脹、発疹	島しょ地域	庭作業
12/22	52	男	23	発熱、刺し口、発疹	島しょ地域	

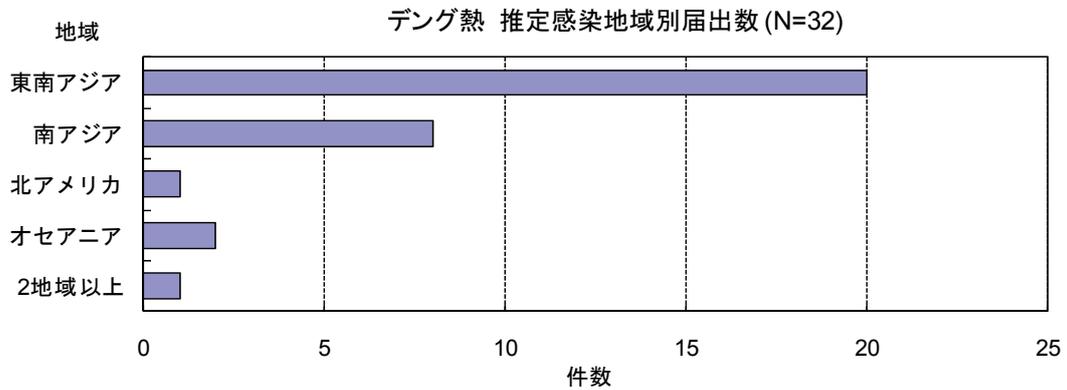
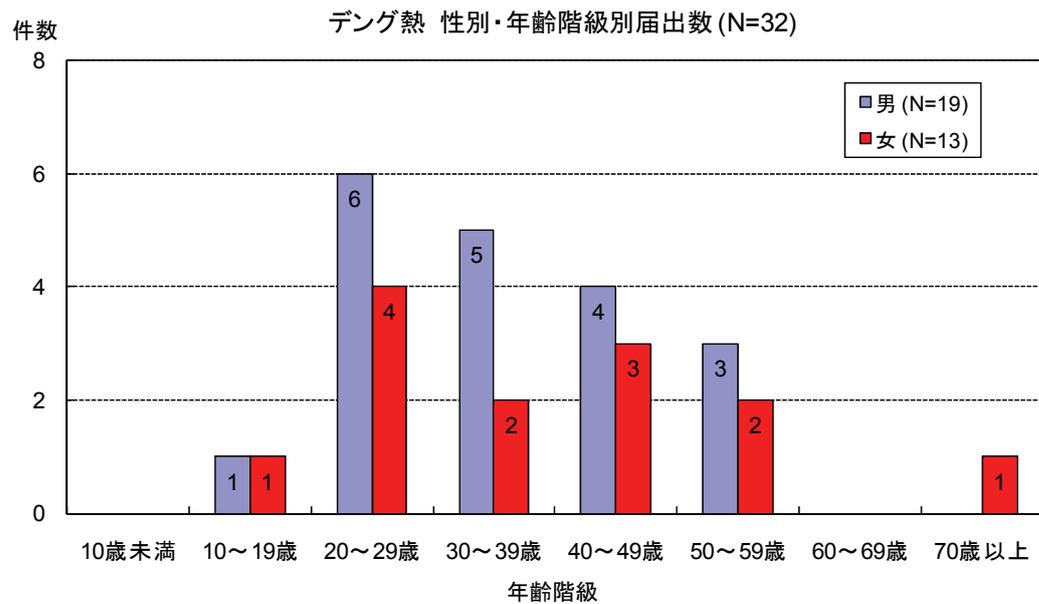
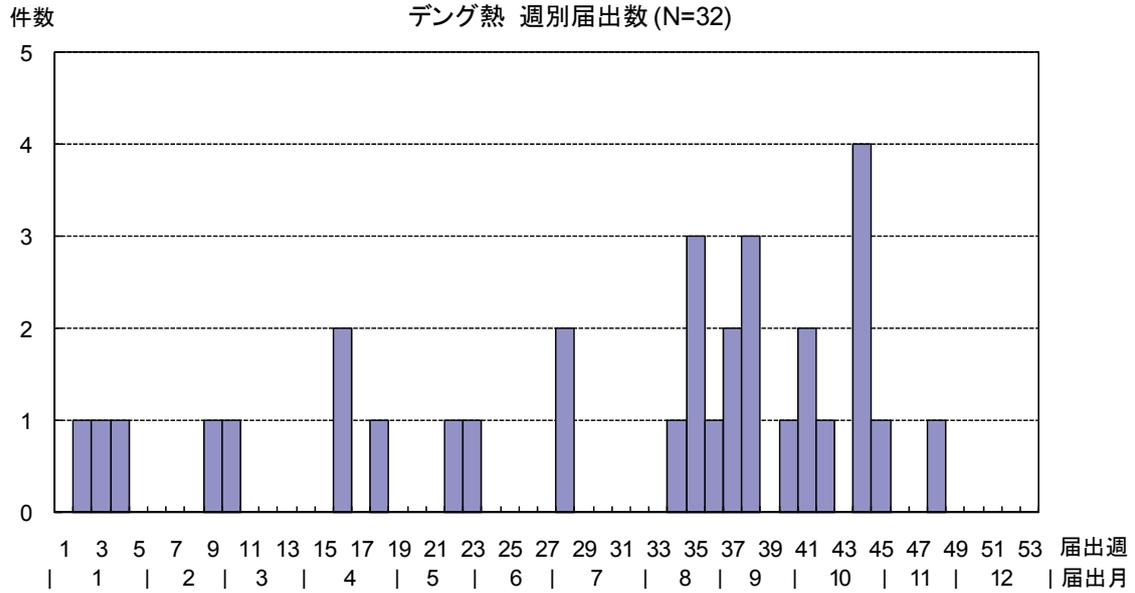
⑧ デング熱

デング熱は32件届出があり、そのうち1件はデング出血熱であった。

性別は男性19人、女性13人で、年齢別は10歳代2人、20歳代10人、30歳代7人、40歳代7人、50歳代5人、70歳以上1人であった。

推定感染地は全て国外で、推定感染地域別では、東南アジア20件、南アジア8件、北アメリカ1件、オセアニア2件、2地域以上1件であった。推定感染国別ではインド6件、インドネシア6件、マレーシア4件、ベトナム2件、ミャンマー2件、フィリピン2件、スリランカ2件、カンボジア1件、タイ1件、シンガポール1件、東ティモール1件、メキシコ1件、パプアニューギニア1件、トンガ1件、ベトナム/ラオス/カンボジア1件であった。

血清型は13件について報告されており、1型3件、2型5件、3型2件、4型3件であった。



デング出血熱 (N=1)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	血清型
11/24	48	男	36	発熱、全身の筋肉痛、血小板減少、白血球減少、出血、ヘマトクリットの上昇	ベトナム	不明

⑨ ブルセラ症

ブルセラ症は1件届出があった。

症例は10歳代女性で、推定感染地はインド、推定感染経路は飲食物（チーズ）による経口感染である。

ブルセラ症 (N=1)

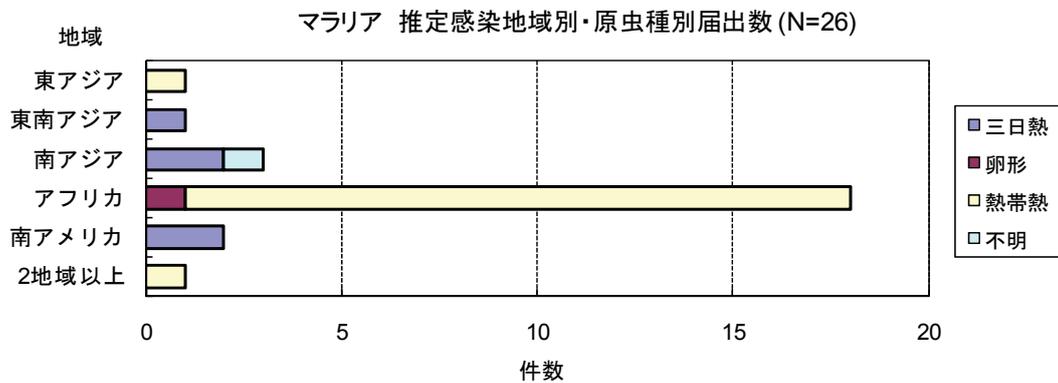
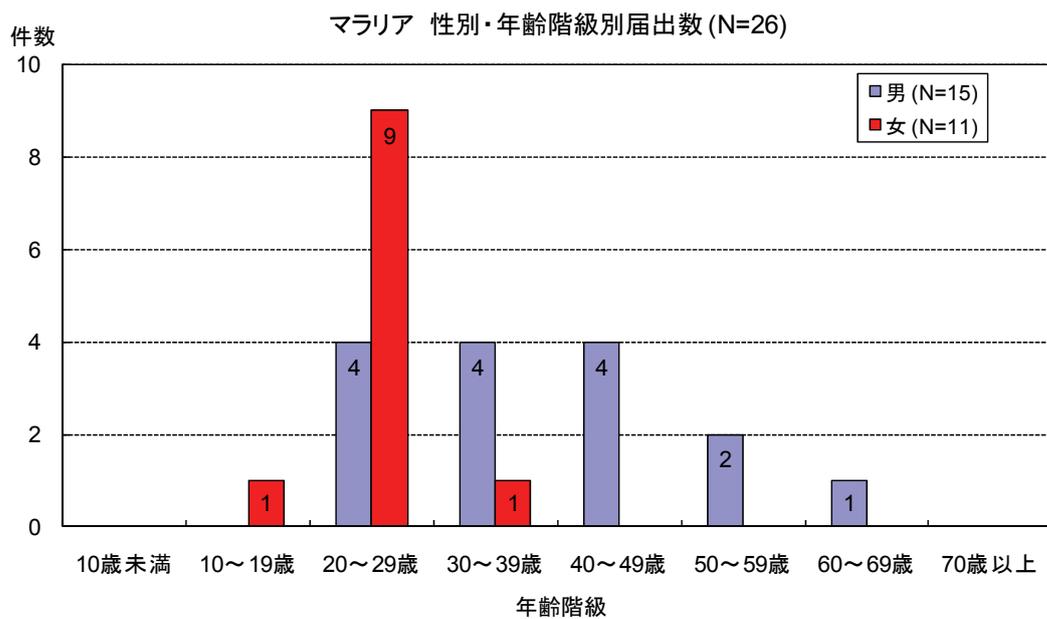
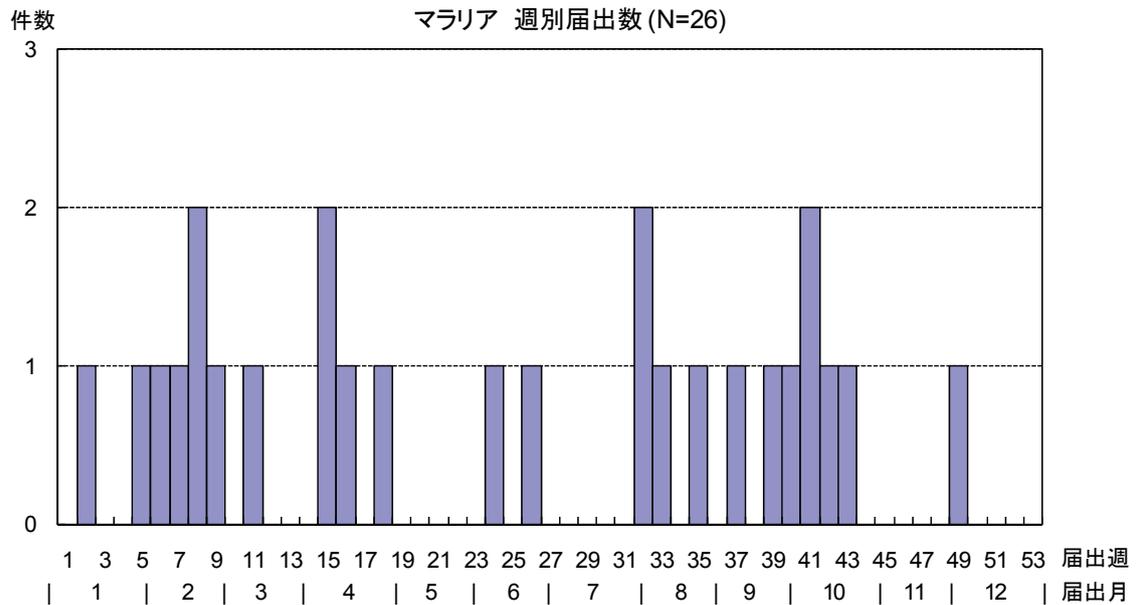
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
10/6	41	女	17	発熱、脾腫、肝腫大、リンパ節腫脹、関節炎	インド	飲食物による経口感染（チーズ）

⑩ マラリア

マラリアは26件届出があった。三日熱マラリア5件、卵形マラリア1件、熱帯熱マラリア19件、不明1件であった。

性別は男性15人、女性11人で、年齢別は10歳代1人、20歳代13人、30歳代5人、40歳代4人、50歳代2人、60歳代1人であった。

推定感染地は全て国外で、推定感染地域別では、アフリカ18件、南アジア3件、南アメリカ2件、東アジア1件、東南アジア1件、2地域以上1件であった。推定感染国別ではガーナ6件、ナイジェリア3件、インド3件、中国1件、インドネシア1件、マリ1件、ブルキナファソ1件、ギニア1件、シエラレオネ1件、ベナン1件、ケニア1件、ウガンダ1件、マラウイ1件、モザンビーク1件、仏領ギニア1件、エクアドル1件、パプアニューギニア/オーストラリア1件であった。



⑪ ライム病

ライム病は1件届出があった。

症例は50歳代女性で、ドイツでの感染が疑われている。

ライム病 (N=1)

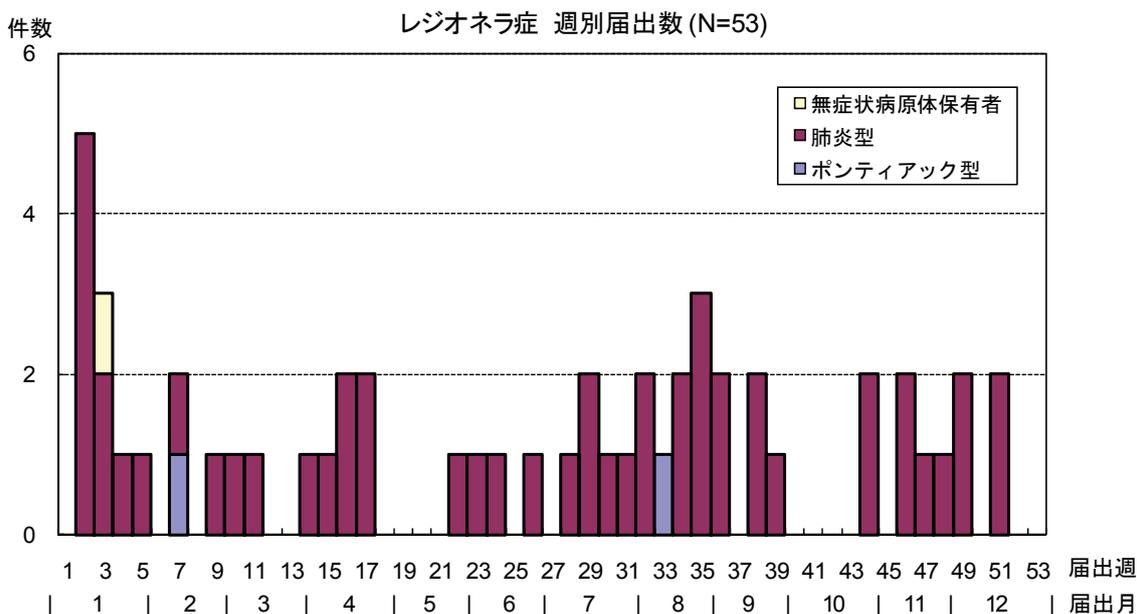
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
7/29	31	女	52	なし	ドイツ	動物・蚊・昆虫等からの感染

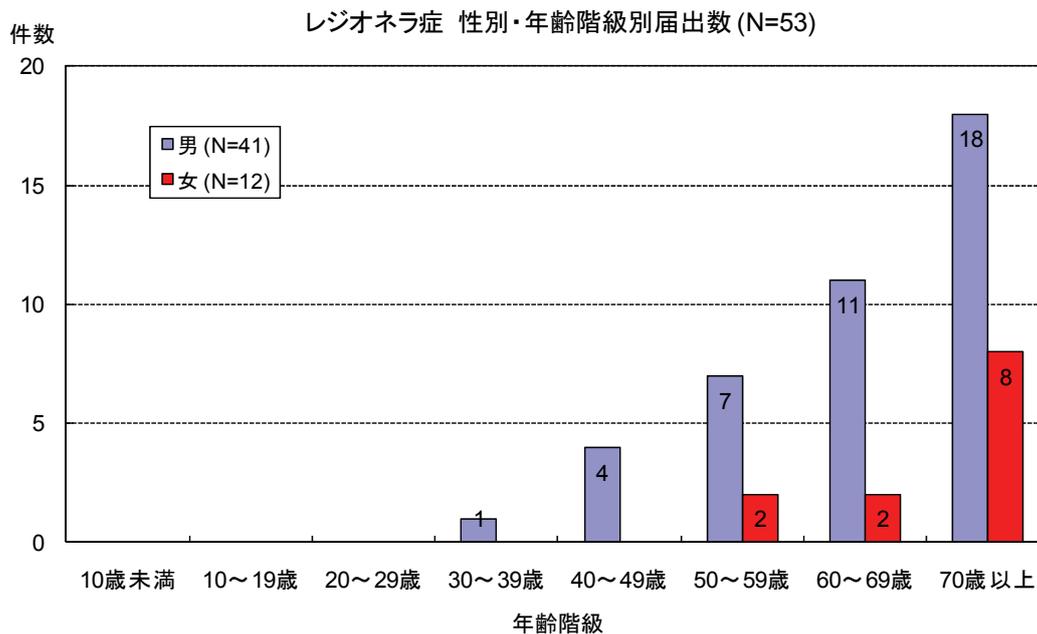
⑫ レジオネラ症

レジオネラ症は53件届出があった。肺炎型50件、ポンティアック型2件、無症状病原体保有者1件であった。

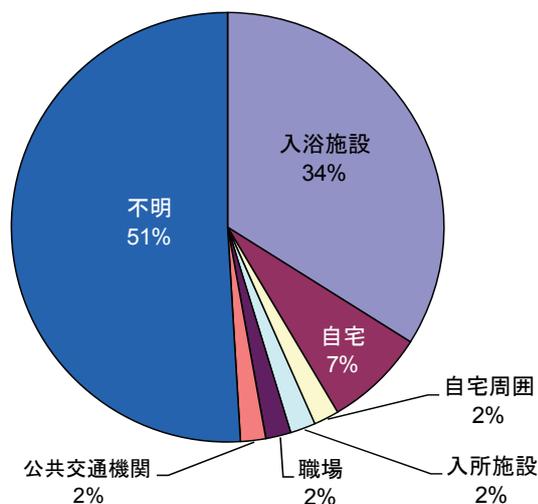
性別は男性41人、女性12人で、年齢別は30歳代1人、40歳代4人、50歳代9人、60歳代13人、70歳以上26人であった。

推定感染地は国内49件、国外4件（中国3件、トルコ1件）であった。温泉等入浴施設での感染が推定されているものは18件だった。





レジオネラ症 推定感染症場所 (N=53)



⑬ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、狂犬病、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ (H5N1 を除く)、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、発しんチフス、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、ボツリヌス症、野兎病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱

オ 五類感染症（全数把握対象）

① アメーバ赤痢

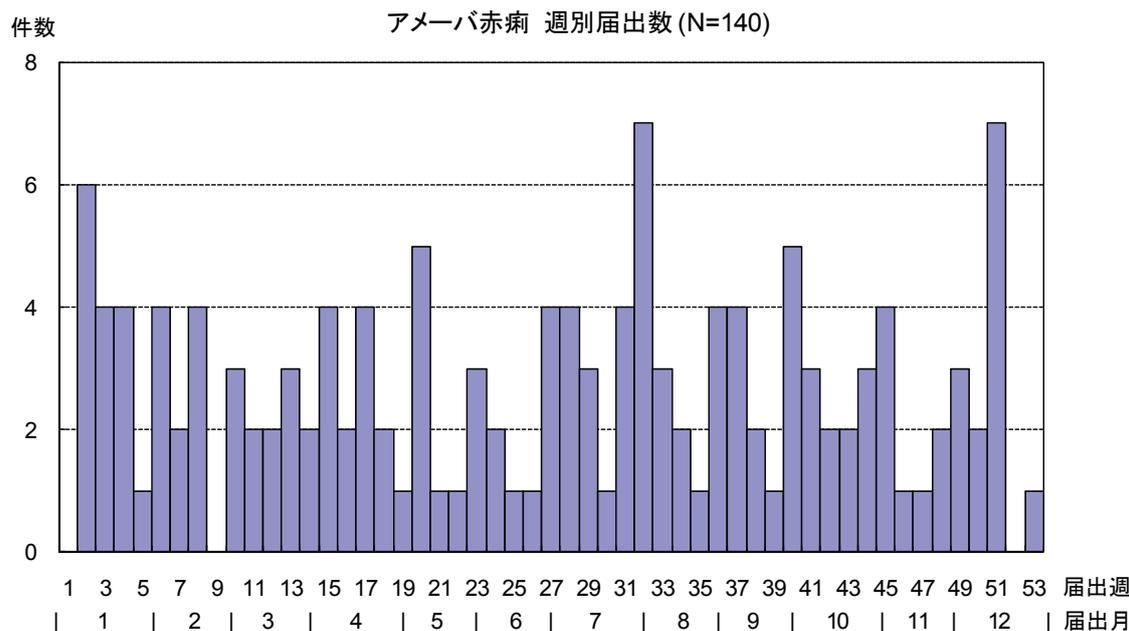
アメーバ赤痢は 140 件届出があった。腸管アメーバ症 115 件、腸管外アメーバ症 14 件、腸管及び腸管外アメーバ症 11 件であった。

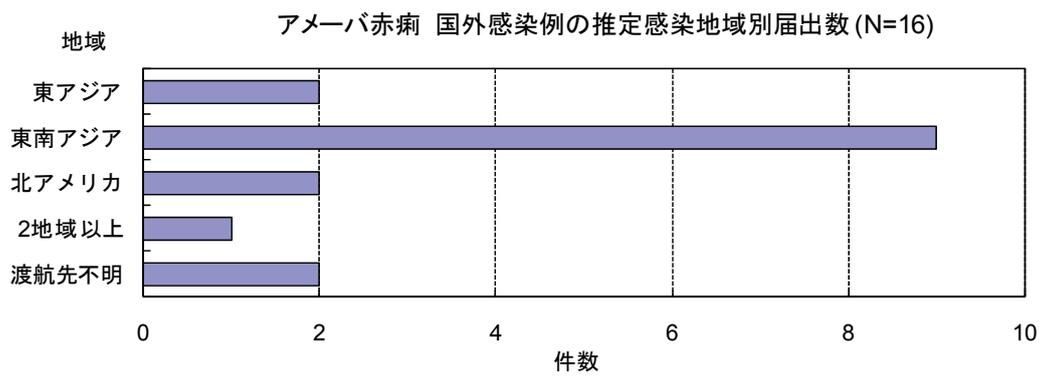
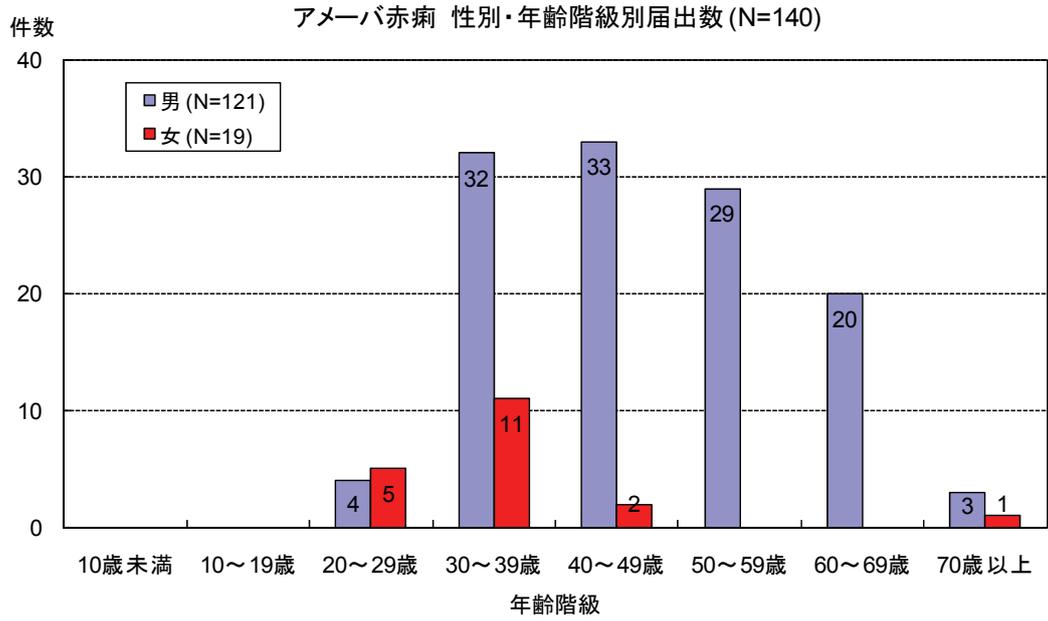
性別は男性 121 人、女性 19 人で、年齢別は 20 歳代 9 人、30 歳代 43 人、40 歳代 35 人、50 歳代 29 人、60 歳代 20 人、70 歳以上 4 人であった。

推定感染地は国内 121 件、国外 16 件、不明 3 件であった。国外感染例 16 件を推定感染地域別にみると、東南アジア 9 件、東アジア 2 件、北アメリカ 2 件、2 地域以上 1 件、渡航先不明 2 件で、推定感染国別にみると、インドネシア 3 件、中国 2 件、タイ 2 件、マレーシア 2 件、グアム 2 件、カンボジア 1 件、東南アジア 1 件、ベトナム/カンボジア 1 件、渡航先不明 2 件であった。

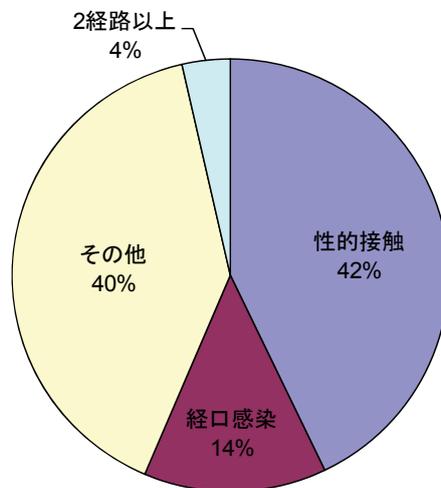
推定感染経路は性的接触 61 件（同性間 20 件、異性間 26 件、両性間 2 件、性別不明 13 件）、飲食物による経口感染 20 件、2 経路以上 3 件、不明 56 件であった。

腸管アメーバ症であった 60 歳代男性の死亡が 1 件報告されており、経過等の詳細は不明であった。





アメーバ赤痢 推定感染経路別割合 (N=140)



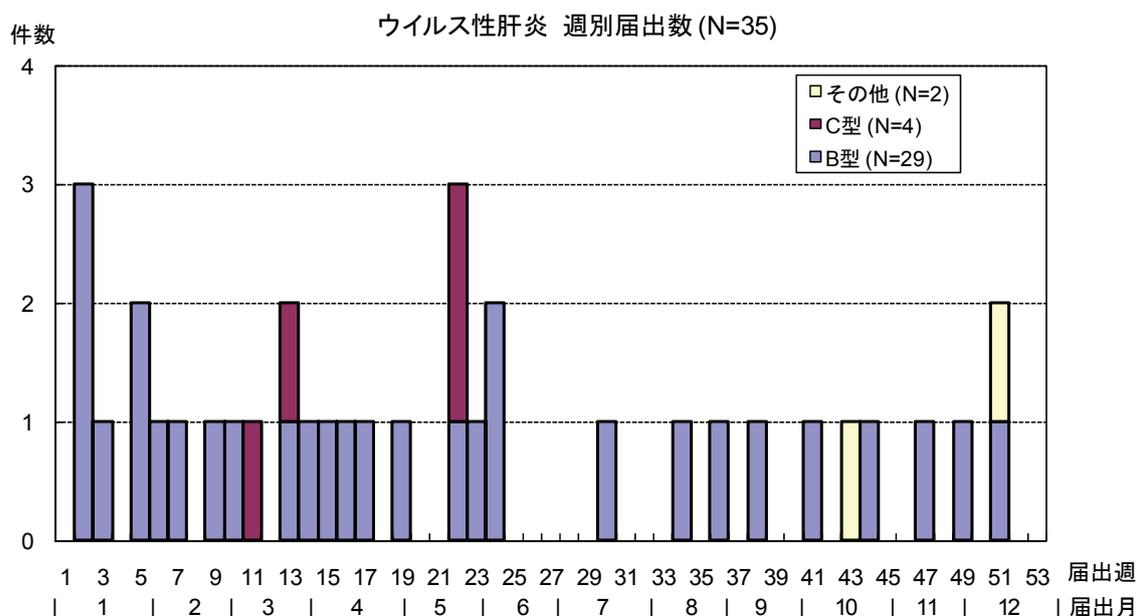
② ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）

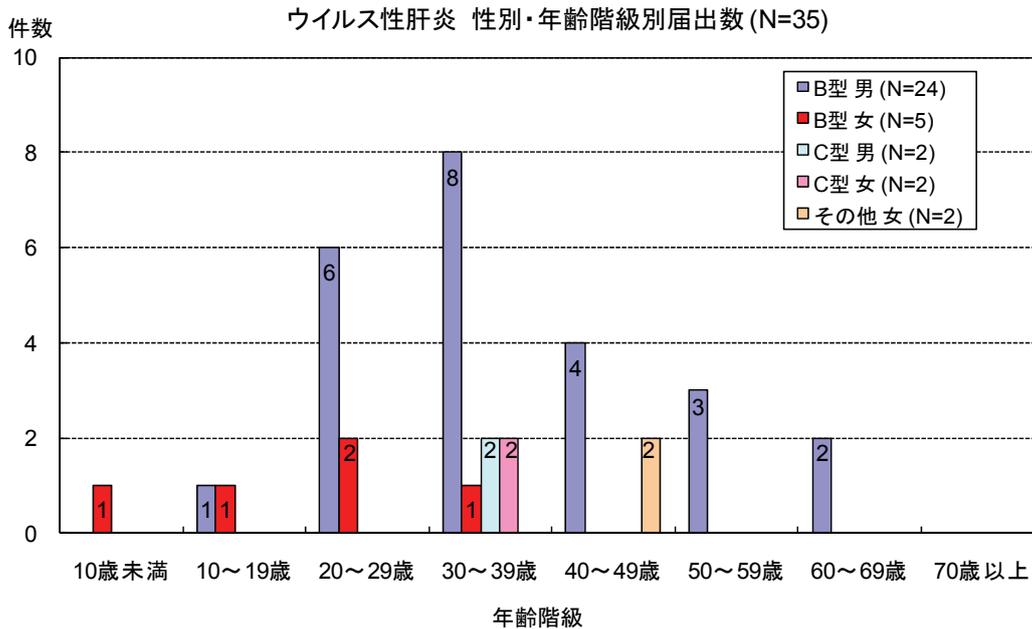
ウイルス肝炎は35件届出があった。B型肝炎29件、C型肝炎4件、その他2件（サイトメガロウイルス性肝炎）であった。

B型肝炎29件について記述すると、性別は男性24件、女性5件で、年齢別は10歳未満1人、10歳代2人、20歳代8人、30歳代9人、40歳代4人、50歳代3人、60歳代2人であった。推定感染経路は性的接触23件（同性間3件、異性間20件）、針等の刺入1件、不明5件で、推定感染地は国内25件、国内/国外2件、インドネシア1件、中国/台湾1件であった。

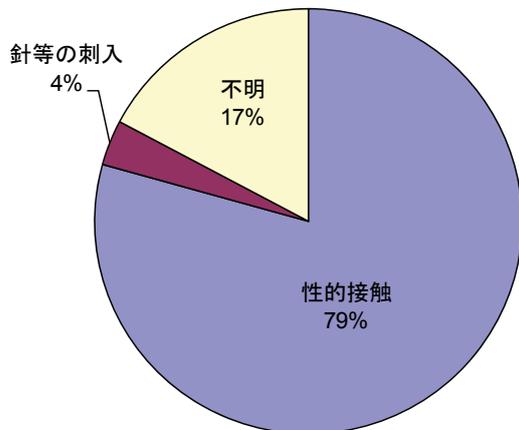
C型肝炎4件について記述すると、性別は男性2件、女性2件で、年齢は全て30歳代であった。推定感染経路は同性間性的接触2件、針等の刺入1件、不明1件で、推定感染地は全て国内であった。

サイトメガロウイルス性肝炎の2件は、どちらも40歳代女性で、推定感染地は国内、感染経路は不明であった。

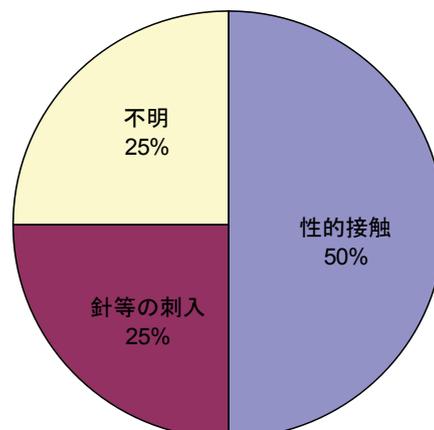




B型肝炎 推定感染経路別割合 (N=29)



C型肝炎 推定感染経路別割合 (N=4)

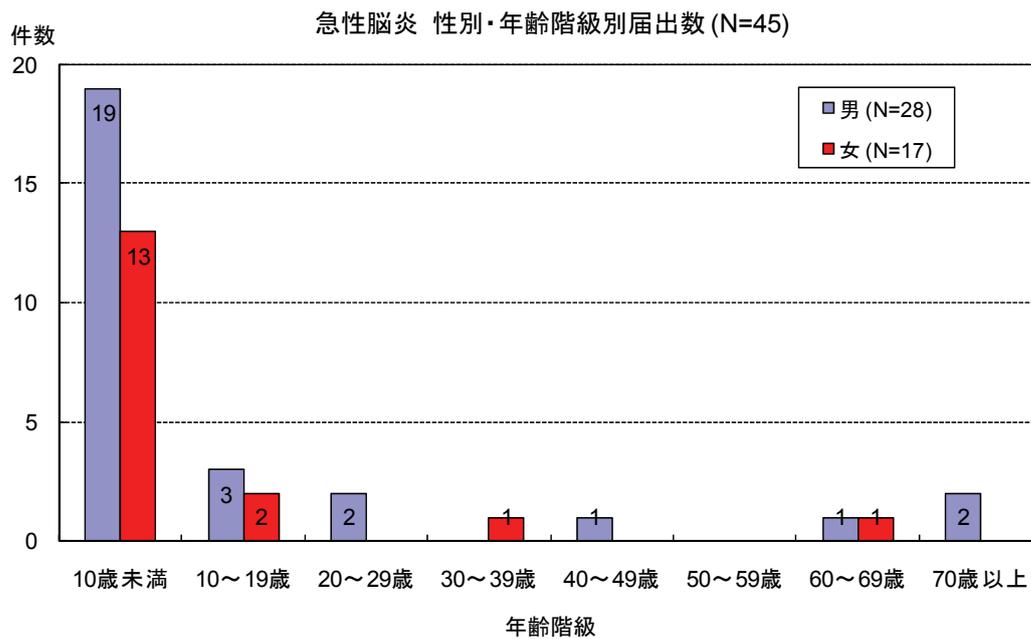
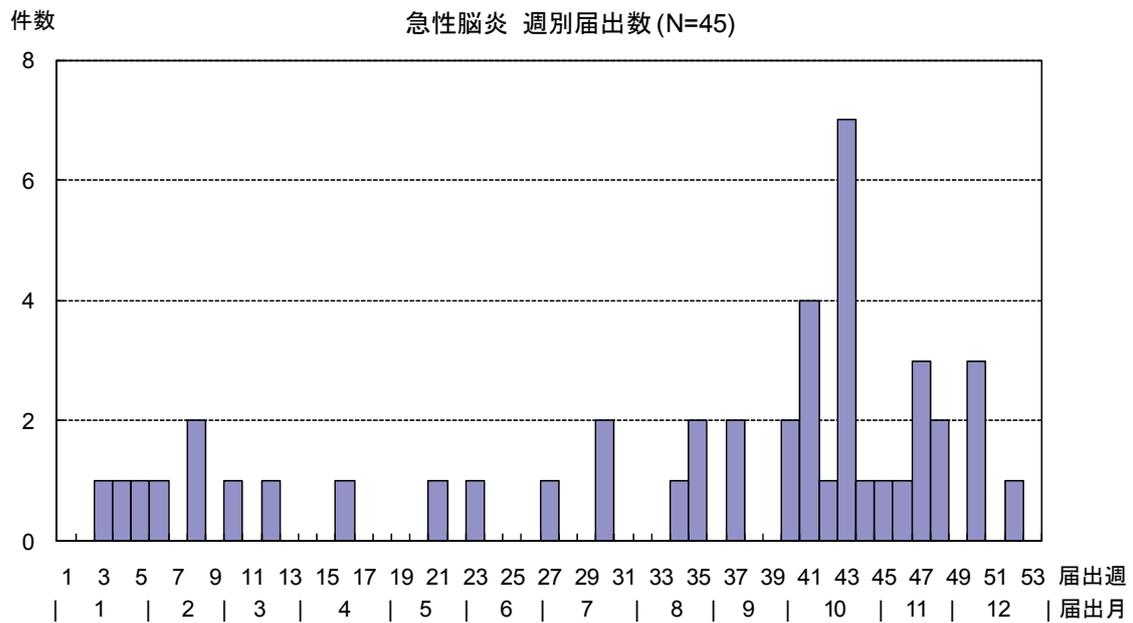


③ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

急性脳炎は 45 件届出があった。病原体は新型インフルエンザウイルス 22 件、インフルエンザウイルス A 型 7 件、ヒトヘルペスウイルス 6 型 1 件、単純ヘルペスウイルス 1 件、エンテロウイルス 1 件、不明 13 件であった。

性別は男性 28 人、女性 17 人で、年齢別は 10 歳未満 32 人（うち 5 歳未満 17 人）、10 歳代 5 人、20 歳代 2 人、30 歳代 1 人、40 歳代 1 人、60 歳代 2 人、70 歳以上 2 人であった。推定感染地は全て国内であった。

死亡は 2 件（新型インフルエンザウイルス 1 件、病原体不明 1 件）報告された。



急性脳炎 (N=45)

受理日	受理週	性別	年齢	病原体	症状・所見	推定 感染地
1/13	3	男	41	インフルエンザウイルスA型	意識障害	国内
1/22	4	男	10	インフルエンザウイルスA型	発熱、痙攣、意識障害	国内
1/29	5	男	3	インフルエンザウイルスA型	発熱、痙攣、意識障害	国内
2/4	6	男	7	インフルエンザウイルスA型	発熱、痙攣、意識障害	国内
2/17	8	男	1	病原体不明	発熱、痙攣、意識障害	国内
2/20	8	男	1	インフルエンザウイルスA型	発熱、痙攣、意識障害	国内
3/4	10	女	4	インフルエンザウイルスA型	発熱、意識障害	国内
3/17	12	男	2	インフルエンザウイルスA型	発熱、痙攣、意識障害	国内
4/14	16	男	63	単純ヘルペスウイルス	発熱、意識障害、髄液細胞数の増加	国内
5/19	21	女	1	病原体不明	痙攣、意識障害	国内
6/1	23	男	1	病原体不明	痙攣、意識障害	国内
6/29	27	男	25	病原体不明	発熱、頭痛、項部硬直、意識障害、 髄液細胞数の増加、膀胱直腸障害	国内
7/24	30	女	38	病原体不明	発熱、嘔吐、痙攣、意識障害、髄液 細胞数の増加	国内
7/24	30	男	73	病原体不明	発熱、痙攣、意識障害	国内
8/17	34	男	5	エンテロウイルス	発熱、意識障害、下痢、腹痛、嘔気	国内
8/25	35	男	6	新型インフルエンザウイル ス	発熱、嘔吐、痙攣、意識障害	国内
8/25	35	男	78	病原体不明	発熱、項部硬直、痙攣、意識障害	国内
9/7	37	女	0	病原体不明	発熱、意識障害、心肺停止、死亡	国内
9/11	37	男	7	新型インフルエンザウイル ス	発熱、意識障害	国内
9/28	40	男	1	ヒトヘルペスウイルス 6 型	発熱、痙攣、意識障害	国内
9/30	40	女	4	病原体不明	発熱、痙攣、意識障害、頭部 MRI で 脳梁膨大部に一過性の異常信号	国内
10/6	41	男	5	新型インフルエンザウイル ス	発熱、嘔吐、痙攣、意識障害、死亡	国内
10/6	41	男	15	新型インフルエンザウイル ス	発熱、項部硬直、痙攣、意識障害	国内
10/7	41	男	4	新型インフルエンザウイル ス	発熱、嘔吐、意識障害	国内
10/8	41	女	8	新型インフルエンザウイル ス	発熱、頭痛、嘔吐、痙攣、意識障害	国内
10/14	42	女	10	新型インフルエンザウイル ス	発熱、幻覚、めまい	国内

受理日	受理週	性別	年齢	病原体	症状・所見	推定 感染地
10/19	43	女	7	新型インフルエンザウイルス	発熱、痙攣、意識障害	国内
10/20	43	女	7	新型インフルエンザウイルス	発熱、意識障害	国内
10/20	43	男	5	新型インフルエンザウイルス	発熱、痙攣、意識障害	国内
10/21	43	男	4	新型インフルエンザウイルス	発熱、嘔吐、項部硬直、痙攣、意識障害	国内
10/21	43	男	7	病原体不明	発熱、頭痛、嘔吐、髄液細胞数の増加	国内
10/21	43	男	9	新型インフルエンザウイルス	発熱、痙攣、意識障害	国内
10/22	43	女	7	新型インフルエンザウイルス	発熱、痙攣	国内
10/26	44	男	14	新型インフルエンザウイルス	発熱、意識障害	国内
11/6	45	女	6	新型インフルエンザウイルス	発熱、嘔吐、痙攣、意識障害	国内
11/11	46	女	3	新型インフルエンザウイルス	発熱、咳嗽、呼吸不全、退行	国内
11/18	47	女	5	新型インフルエンザウイルス	発熱、頭痛、意識障害	国内
11/19	47	女	4	新型インフルエンザウイルス	発熱、痙攣、意識障害	国内
11/19	47	男	7	新型インフルエンザウイルス	発熱、意識障害	国内
11/25	48	男	2	病原体不明	発熱、痙攣、意識障害	国内
11/27	48	女	10	新型インフルエンザウイルス	発熱、不随意運動	国内
12/7	50	男	4	新型インフルエンザウイルス	発熱、嘔吐、意識障害	国内
12/8	50	女	3	新型インフルエンザウイルス	発熱、痙攣、意識障害	国内
12/9	50	男	23	病原体不明	発熱、頭痛、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加	国内
12/24	52	女	63	病原体不明	発熱、意識障害	国内

④ クリプトスポリジウム症

クリプトスポリジウム症は4件届出があった。

性別は全て男性で、年齢別は20歳代2人、30歳代2人であった。

推定感染地はインド1件、カーボヴェルデ1件、ニカラグア1件、タイ/エチオピア/エジプト1件で、推定感染経路は飲食物による経口感染3件、飲食物による経口感染/水系感染1件であった。

クリプトスポリジウム症 (N=4)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
3/30	14	男	22	下痢	インド	飲食物(生野菜)による経口感染
10/13	42	男	20	下痢	タイ/エチオピア/ エジプト	飲食物による経口感染/水系感染
11/13	46	男	35	下痢	ニカラグア	飲食物(寿司)による経口感染
11/25	48	男	38	下痢	カーボヴェルデ	飲食物による経口感染

⑤ クロイツフェルト・ヤコブ病

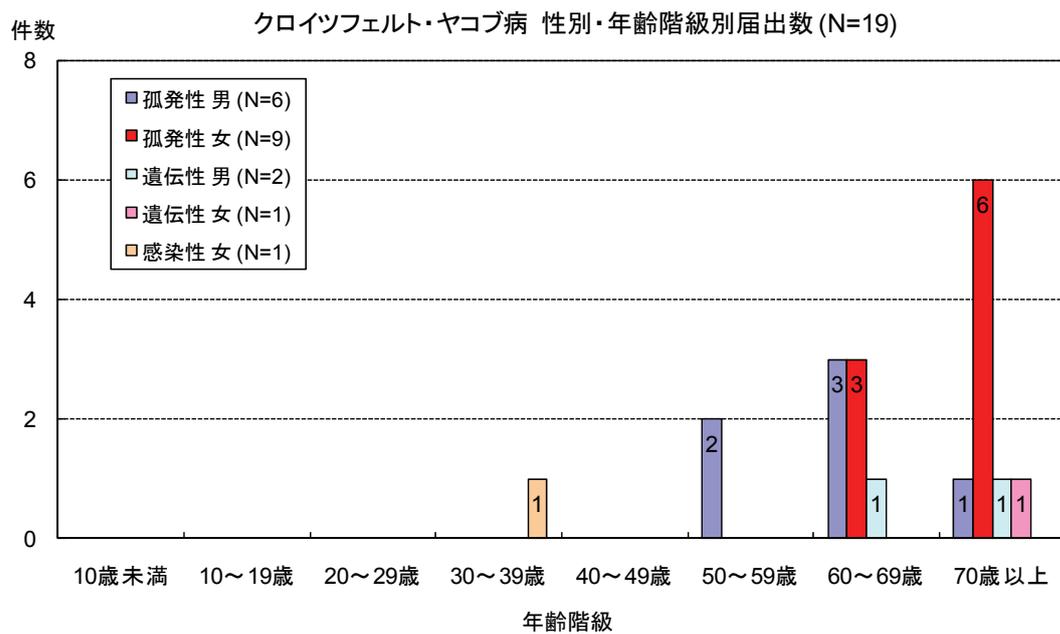
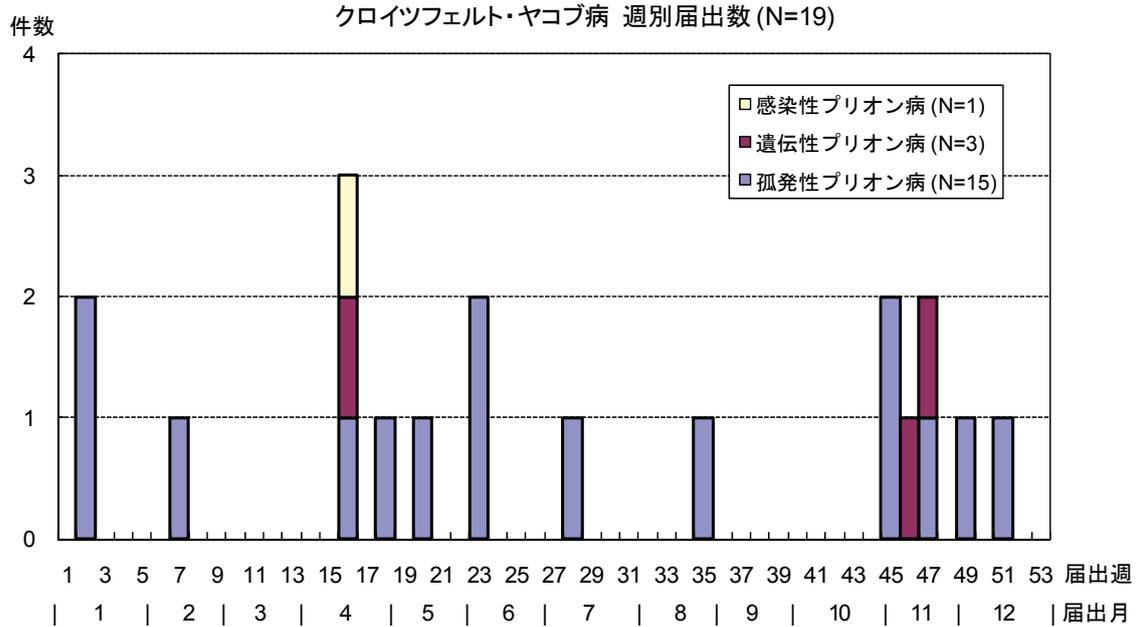
クロイツフェルト・ヤコブ病は19件届出があった。孤発性プリオン病・古典型 CJD 15件(確実1件、ほぼ確実13件、疑い1件)、遺伝性プリオン病・家族性 CJD3件(ほぼ確実1件、疑い2件)、感染性プリオン病・医原性 CJD1件(ほぼ確実1件)であった。

性別は男性が8人、女性が11人で、年齢別は30歳代1人、50歳代2人、60歳代7人、70歳以上9人であった。

症状は進行性認知症19件(100%)、ミオクローヌス16件(84.2%)、錐体路症状11件(57.9%)、錐体外路症状12件(63.2%)、小脳症状8件(42.1%)、視覚異常7件(36.8%)、無動性無言状態12件(63.2%)、記憶障害15件(78.9%)、精神・知能障害16件(84.2%)、臨床的に頑固な不眠4件(21.1%)、異常感覚4件(21.1%)、瘻性対麻痺5件(26.3%)、筋強剛9件(47.4%)、その他(言語障害1件、膀胱障害1件、眼球クローヌス1件)3件(15.8%)であった。

異常プリオン蛋白の検出及びプリオン蛋白遺伝子検査(コドンの多型・異常)による診断がなされていたのは1件(古典型 CJD)、プリオン蛋白遺伝子検査による診断がなされていたのは4件であった(古典型 CJD2件、家族性 CJD1件、医原性 CJD1件)。

70歳以上の症例(遺伝性プリオン病・家族性 CJD)の死亡が1件報告された。



クロイツフェルト・ヤコブ病 (N=19)

#	受理日	受理週	性別	年齢	病型	確実度	推定感染地	推定感染経路
1	1/5	2	男	76	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実		
2	1/8	2	男	69	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実		
3	2/10	7	女	76	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	国内	
4	4/13	16	女	79	孤発性-古典型 CJD	疑い		
5	4/13	16	男	78	遺伝性-家族性 CJD	ほぼ確実		
6	4/13	16	女	34	感染性-医原性 CJD	ほぼ確実	国内	ヒト乾燥硬膜
7	4/27	18	男	54	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	国内	
8	5/15	20	男	59	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	国内	
9	6/4	23	女	61	孤発性-古典型 CJD	確実		
10	6/5	23	男	63	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実		
11	7/9	28	女	66	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	国内	
12	8/26	35	女	78	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	国内	観血的処置
13	11/6	45	女	72	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実		
14	11/6	45	女	61	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	国内	
15	11/13	46	女	86	遺伝性-家族性 CJD	疑い		
16	11/17	47	男	67	遺伝性-家族性 CJD	疑い	国内	
17	11/19	47	男	68	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実		
18	12/1	49	女	70	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	国内	
19	12/16	51	女	72	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	国内	

クロイツフェルト・ヤコブ病 (N=19) 別表

#	発病日	初診日	診断日	症状											診断方法							
				進行性認知症	ミオクローヌス	錐体路症状	錐体外路症状	小脳症状	視覚異常	無動性無言状態	記憶障害	精神・知能障害	臨床的に頑固な不眠	異常感覚	痙性対麻痺	筋強剛	その他	脳波 PSD	脳 MRI	14-3-3 蛋白		
1	20081000	20081203	20081226	+	+	+	+			+	+								+	+		
2	20070800	20080924	20081211	+	+		+			+	+	+					+		+			
3	20081100	20081226	20090205	+	+	+	+			+	+	+	+				+		+	+		
4	20090102	20090116	20090409	+	+					+	+							+		+		
5	20081200	20080205	20090402	+		+	+				+	+				+	+					
6	20081100	20090125	20090210	+	+	+	+	+		+	+	+	+	+		+	+	+	+	+		
7	20081000	20090129	20090422	+	+			+			+	+							+			
8	20090100	20090410	20090514	+				+		+	+	+	+						+	+		
9	20080700	20090526	20090604	+	+					+	+							+	+	+		
10	20080700	20090218	20090602	+	+	+	+	+			+						+	+	+	+		
11	20081200	20090509	20090701	+	+	+	+			+	+	+	+				+		+	+		
12	20090601	20090805	20090826	+	+	+	+	+		+	+	+	+	+		+	+	+	+	+		
13		20091027	20091028	+	+	+		+		+	+	+					+		+	+		
14	20090700	20091019	20091102	+	+	+	+			+	+					+	+		+	+		
15	20081200	20091023	20091104	+	+		+				+	+										
16	20090700	20081031	20091114	+						+	+	+								+		
17	20090910	20091118	20091119	+	+	+	+	+		+	+	+	+			+			+			
18		20091109	20091124	+	+	+	+			+	+	+					+		+	+		
19	20090900	20090911	20091208	+	+			+			+					+			+	+		
計				19	16	11	12	8		7	12	15	16	4		4	5	9	3	15	14	3

※異常プリオン蛋白の検出による診断(1件)

#9 シナプス型

※プリオン蛋白遺伝子検査による診断(5件)

#3 コドン 129 の多型(M/M)、コドン 219 の多型(E/E)

#5 コドン 129 の多型(M/M)、コドン 180 の異常

#6 コドン 129 の多型(M/M)、コドン 219 の多型(E/E)

#9 コドン 129 の多型(M/M)

#19 コドン 129 の多型(M/M)

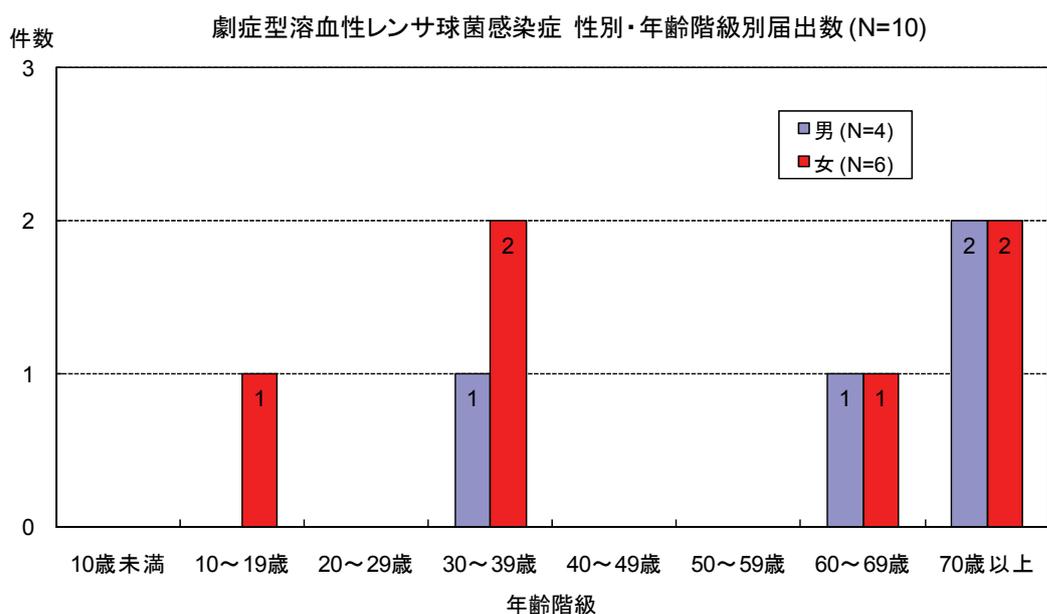
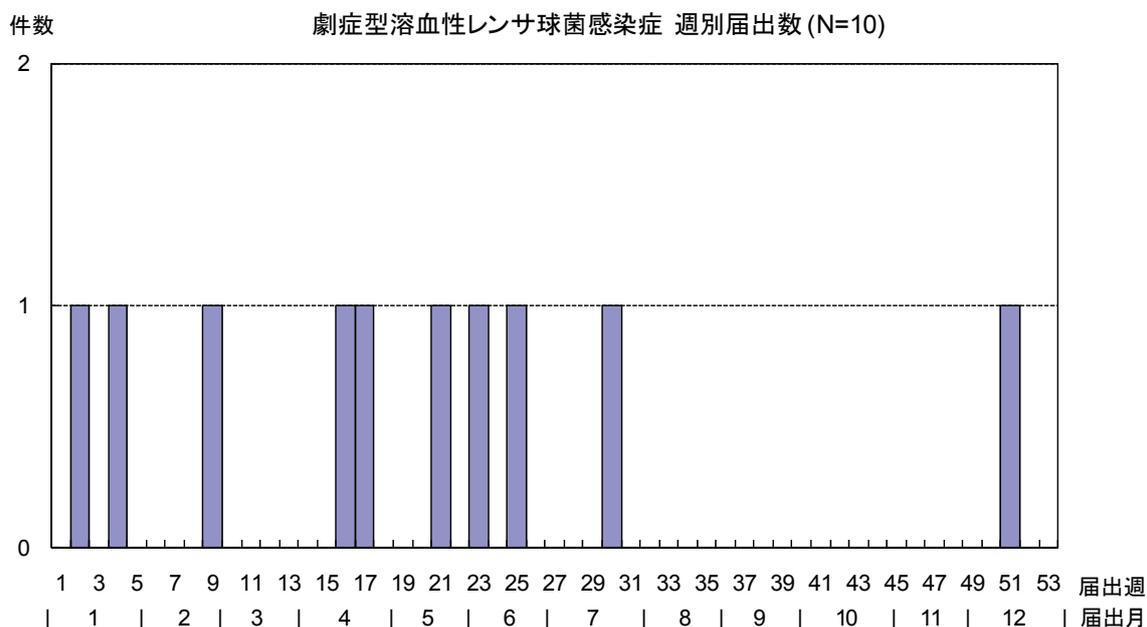
⑥ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 10 件届出があった。血清群別は A 群 5 件、B 群 1 件、G 群 2 件、不明 2 件であった。

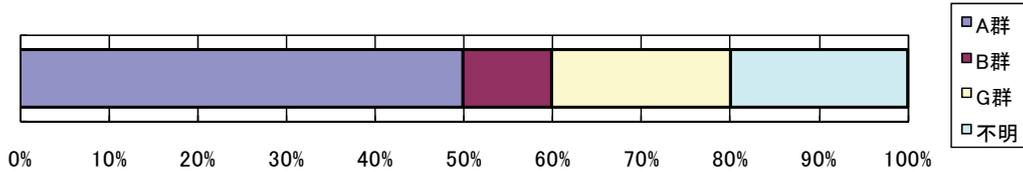
性別は男性 4 人、女性 6 人で、年齢別は 10 歳代 1 人、30 歳代 3 人、60 歳代 2 人、70 歳以上 4 人であった。

推定感染地は全て国内で、推定感染原因は、創傷感染 5 件、飛沫・飛沫核感染 1 件、接触/創傷感染 1 件、その他 3 件であった。

死亡は 2 件（60 歳代 1 件、70 歳以上 1 件）報告された。



劇症型溶血性レンサ球菌感染症 血清群別割合 (N=10)



劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (N=10)

受理日	受理週	性別	年齢	血清群	症状	推定感染原因	備考
1/5	2	男	73	A群	ショック、肝不全、DIC、軟部組織炎	創傷感染(右膝)	死亡
1/21	4	女	77	B群	ショック、肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹、中枢神経症状	創傷感染(仙骨褥瘡)	
2/25	9	女	19	不明	ショック、腎不全、DIC、中枢神経症状	飛沫・飛沫核感染	
4/15	16	男	61	A群	ショック、肝不全、腎不全、DIC	その他(足白癬)	死亡
4/20	17	女	34	A群	ショック、DIC、軟部組織炎、中枢神経症状	不明	
5/22	21	女	76	G群	ショック、腎不全、DIC、中枢神経症状	創傷感染(類天疱瘡瘢痕)	
6/3	23	女	62	G群	ショック、腎不全、DIC、軟部組織炎	創傷感染(下腹部擦過傷)	
6/16	25	女	35	A群	ショック、腎不全、中枢神経症状	接触感染(子供)/創傷感染(アトピー性皮膚炎)	
7/21	30	男	33	A群	ショック、腎不全、軟部組織炎	創傷感染(左下肢)	
12/18	51	男	74	不明	ショック、軟部組織炎、中枢神経症状	不明	

⑦ 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は471件届出があった。HIV感染者303人、AIDS患者102人、その他66人であった。

HIV・その他について記述すると、性別は男性354人、女性15人で、年齢別は10歳代6人、20歳代100人、30歳代159人、40歳代66人、50歳代26人、60歳代7人、70歳以上5人であった。

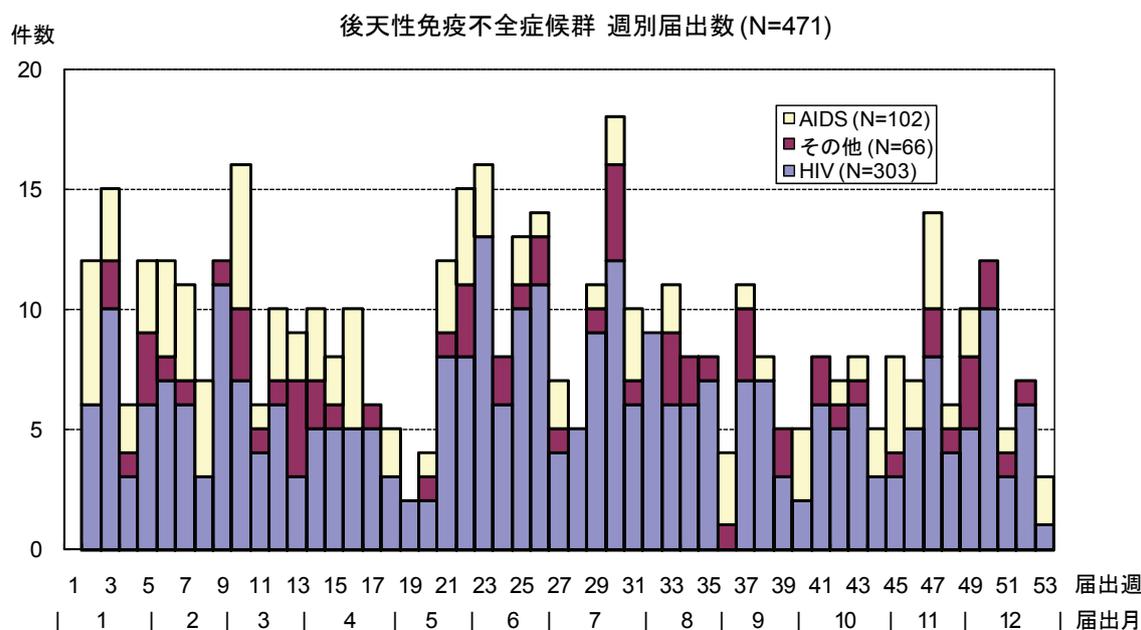
AIDSについて記述すると、性別は男性97人、女性5人で、年齢別は20歳代7人、30歳代32人、40歳代33人、50歳代15人、60歳以上10人、70歳以上5人であった。

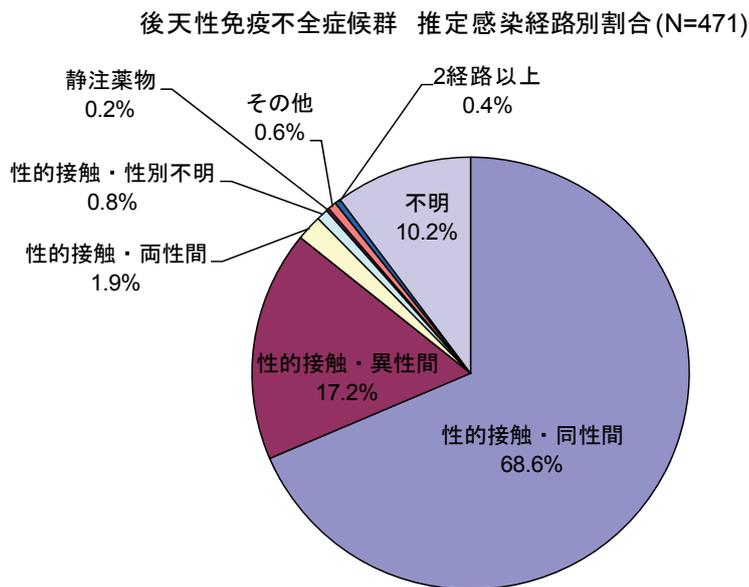
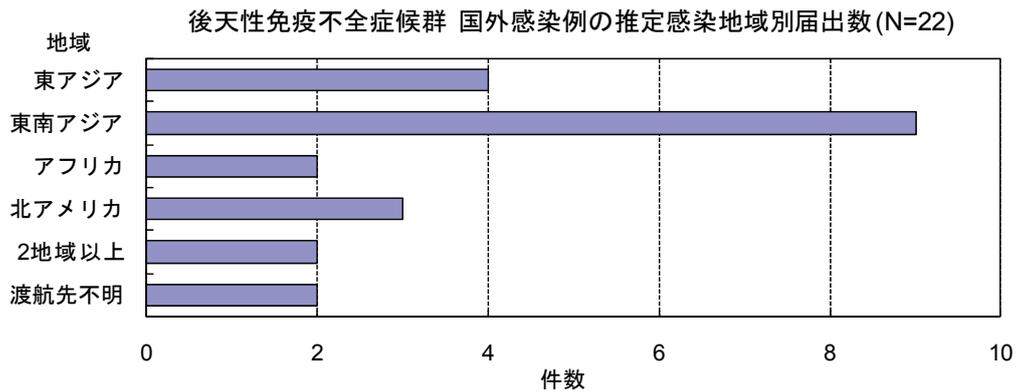
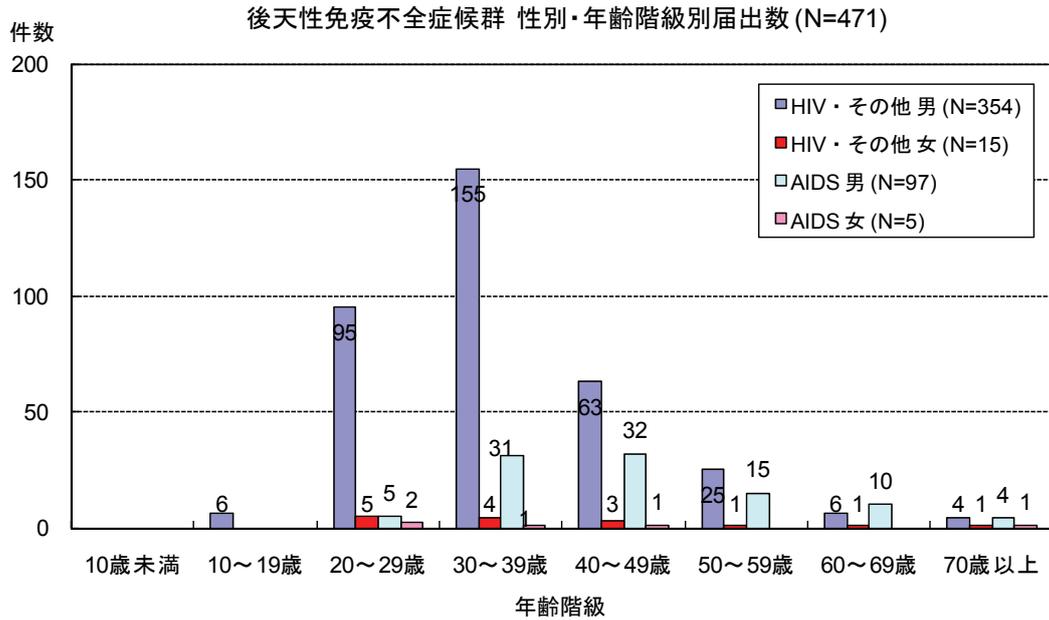
推定感染地は国内393件、国外22件、不明56件であった。国外感染例22件を推定感染地域別にみると、東南アジア9件、東アジア4件、北アメリカ3件、アフリカ2件、2地域以上が2件、渡航先不明2件であった。推定感染国別にみると、タイ4件、インドネシア3

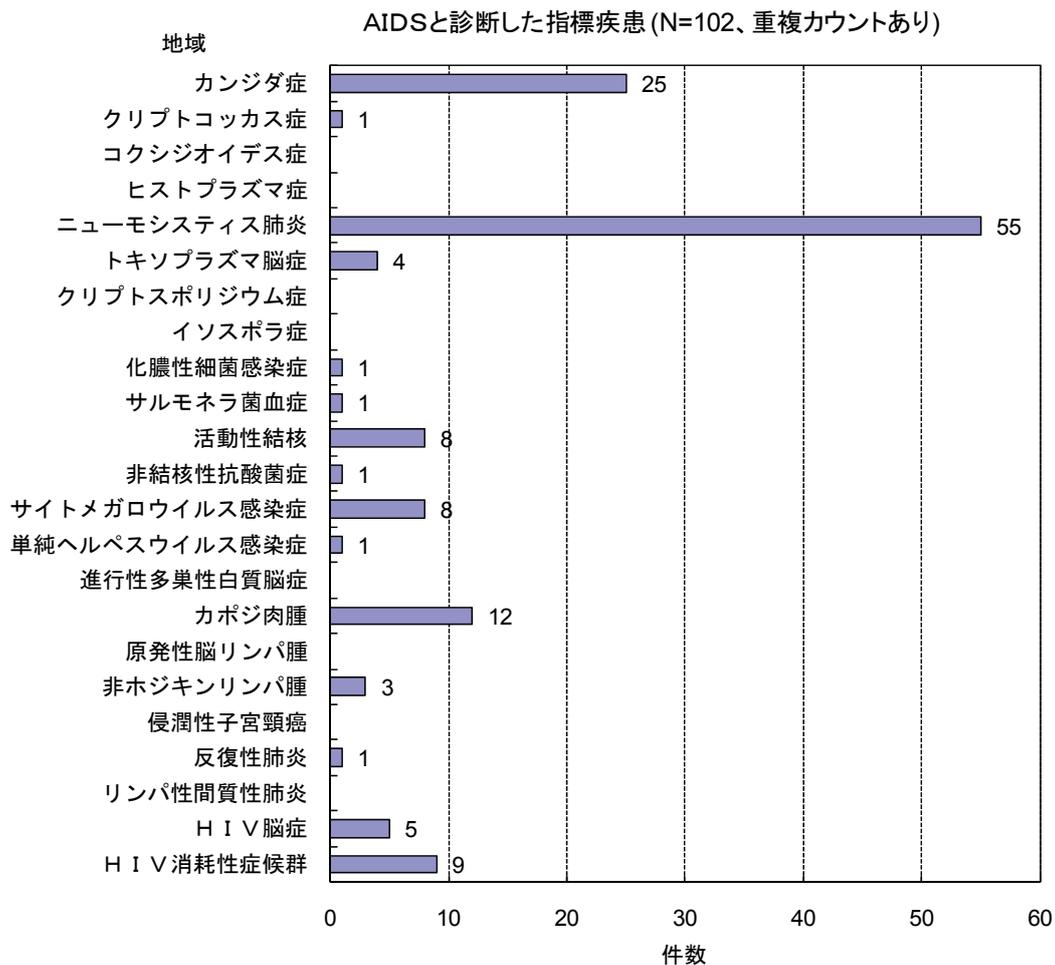
件、中国3件、アメリカ2件、エチオピア1件、ガーナ1件、カナダ1件、フィリピン1件、マレーシア1件、台湾1件、インドネシア/タイ1件、カンボジア/タイ1件、渡航先不明2件であった。

推定感染経路は性的接触417件（同性間323件、異性間81件、両性間9件、性別不明4件）、静注薬物1件、その他3件（血液の接触2件、注射針共用1件）、2経路以上2件（同性間性的接触/静注薬物1件、異性間性的接触/静注薬物1件）、不明48件であった。

AIDSと診断した指標疾患は102件中、ニューモシスティス肺炎55件、カンジダ症25件、カポジ肉腫12件、HIV消耗性症候群9件、活動性結核8件、サイトメガロウイルス感染症8件、HIV脳症5件、トキソプラズマ脳症4件、非ホジキンリンパ腫3件、クリプトコッカス症1件、化膿性細菌感染症1件、サルモネラ菌血症1件、非結核性抗酸菌症1件、単純ヘルペスウイルス感染症1件、反復性肺炎1件であった。これらの中には複数疾患発症者の報告21件が含まれている（2疾患14人、3疾患4人、4疾患2人、5疾患1人）。死亡は3件報告された。







⑧ ジアルジア症

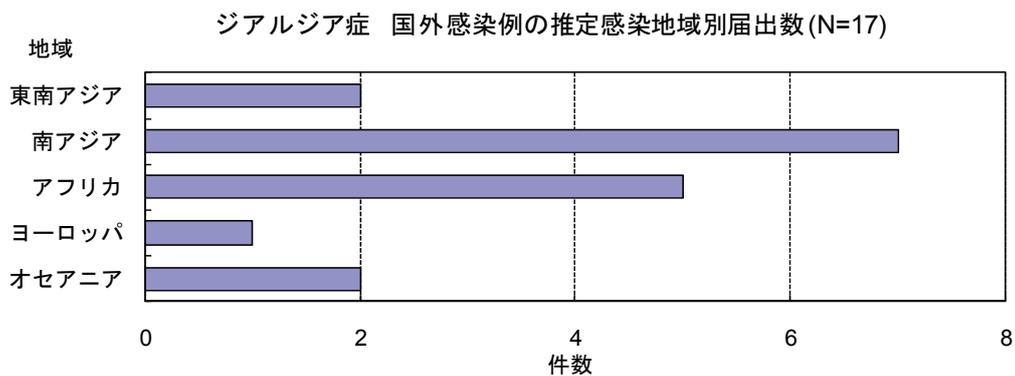
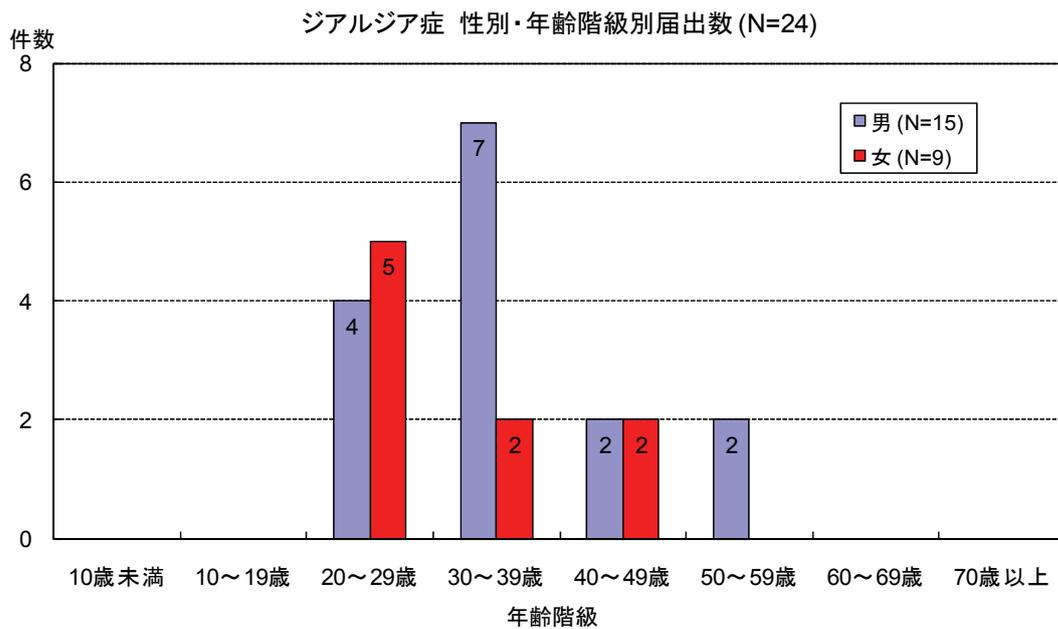
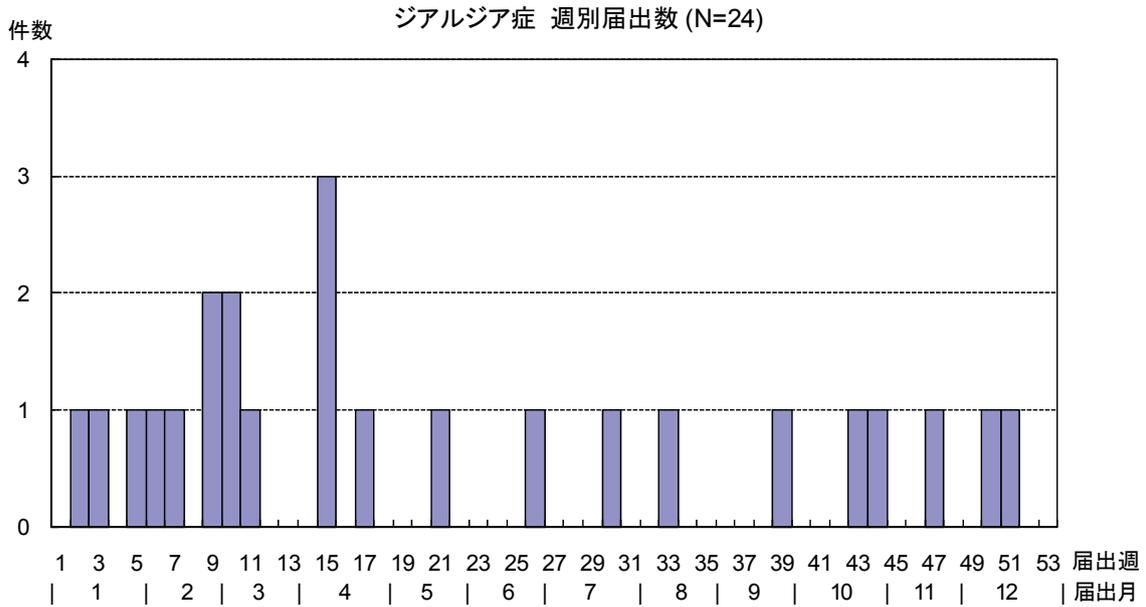
ジアルジア症は 24 件届出があった。

性別は男性 15 人、女性 9 人で、年齢別は 20 歳代 9 人、30 歳代 9 人、40 歳代 4 人、50 歳代 2 人であった。

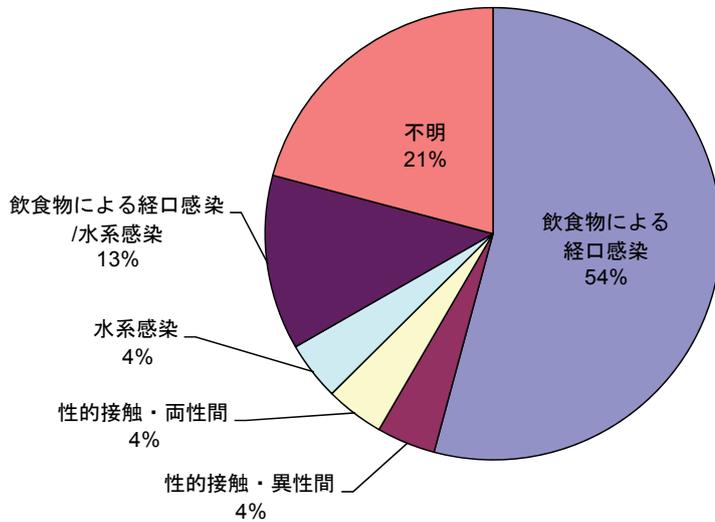
推定感染地は国内 6 件、国外 17 件、その他 1 件（国内/インドネシア）であった。国外感染例 17 件を推定感染地域別にみると、東南アジア 2 件、南アジア 7 件、アフリカ 5 件、ヨーロッパ 1 件、オセアニア 2 件で、推定感染国別にみると、インド 6 件、タイ 2 件、マラウイ 2 件、ケニア 1 件、ジブチ 1 件、パキスタン 1 件、バヌアツ 1 件、パプアニューギニア 1 件、フランス 1 件、ブルキナファソ 1 件であった。

推定感染経路は飲食物による経口感染 13 件、性的接触 2 件（異性間 1 件、両性間 1 件）、水系感染 1 件、飲食物による経口感染/水系感染 3 件、不明 5 件であった。

推定感染地タイの 1 件は、アメーバ赤痢にも重複感染していた。



ジアルジア症 推定感染経路別割合 (N=24)



⑨ 髄膜炎菌性髄膜炎

髄膜炎菌性髄膜炎は1件届出があった。血清群はY群であった。
70歳以上の男性で、推定感染地は国内であった。

髄膜炎菌性髄膜炎 (N=1)

受理日	受理週	性別	年齢	血清群	症状	推定感染地	推定感染経路
5/28	22	男	74	Y群	頭痛、発熱、意識障害、項部硬直	国内	飛沫・飛沫核感染

⑩ 梅毒

梅毒は196件届出があった。早期顕症梅毒Ⅰ期32件、早期顕症梅毒Ⅱ期86件、晩期顕症梅毒8件、先天梅毒2件、無症候68件であった。

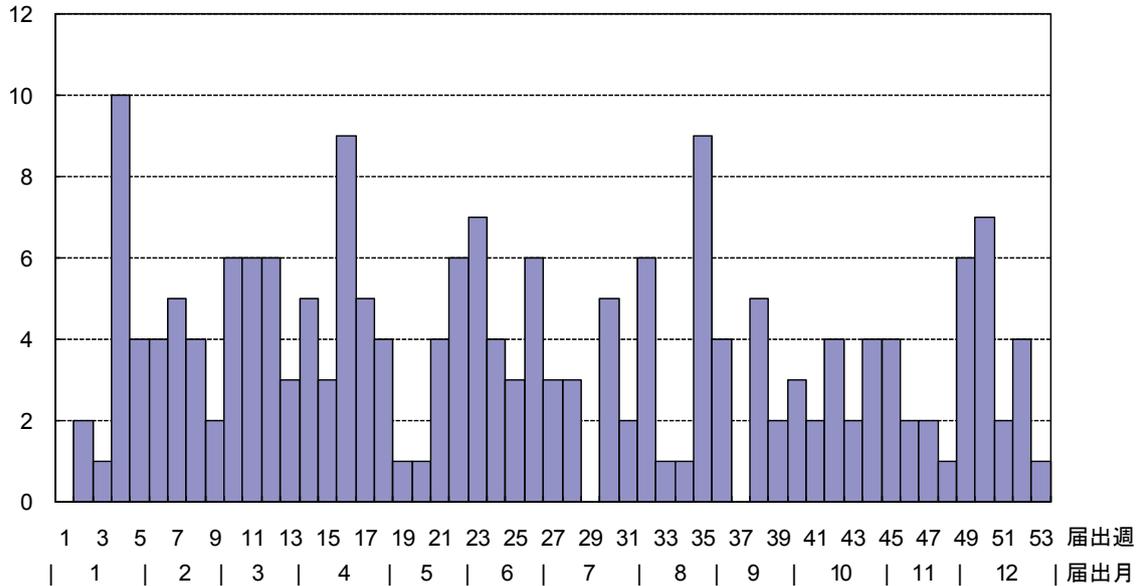
性別は男性166人、女性30人で、年齢別は5歳未満2人、10歳代4人、20歳代48人、30歳代62人、40歳代42人、50歳代22人、60歳代9人、70歳以上7人であった。

推定感染地は国内186件、国外7件、その他3件（国内/中国1件、国内/アメリカ1件、国内/渡航先不明1件）で、国外感染例7件の内訳は、タイ2件、中国2件、フィリピン1件、ボツワナ1件、渡航先不明1件であった。

推定感染経路は性的接触180件（同性間89件、異性間63件、両性間1件、性別不明27件）、母子感染2件、接触感染1件、針等の刺入/性的接触1件、不明12件であった。

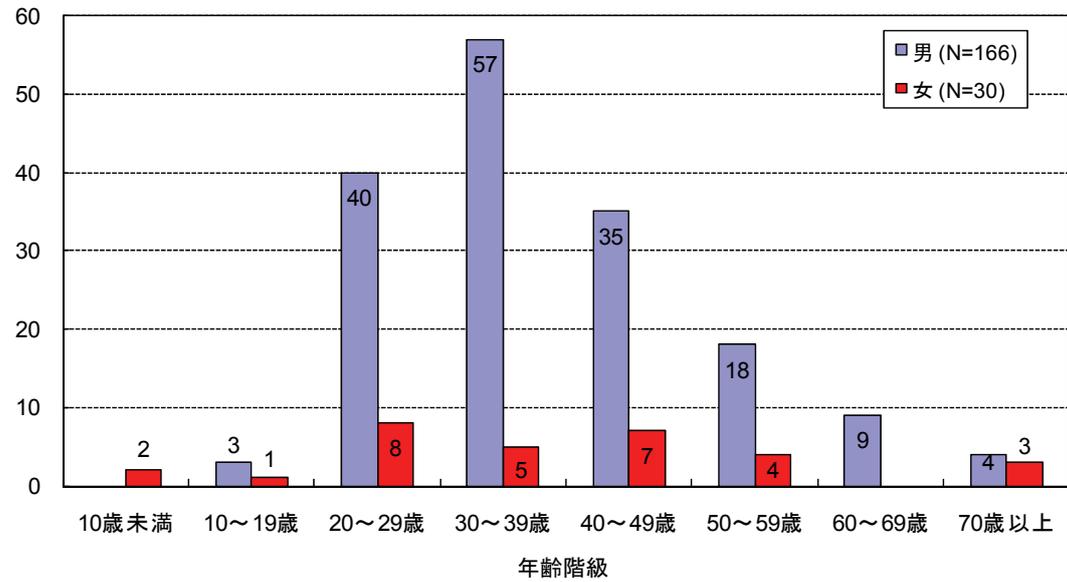
件数

梅毒 週別届出数 (N=196)

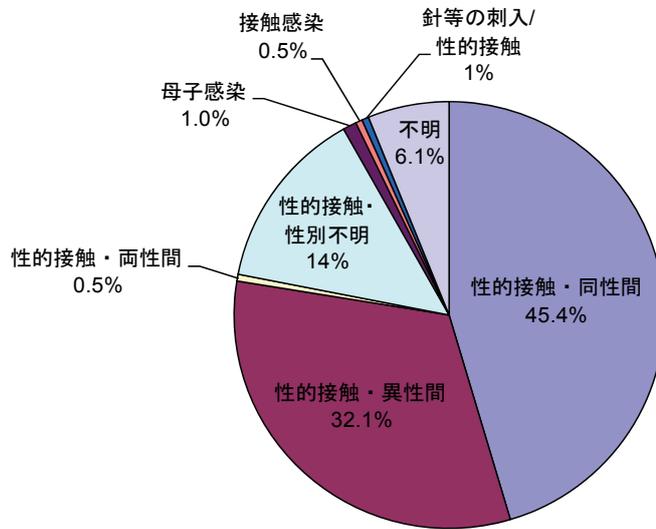


件数

梅毒 性別・年齢階級別届出数 (N=196)



梅毒 推定感染経路別割合 (N=196)



⑪ 破傷風

破傷風は7件届出があった。

性別は男性3人、女性4人、年齢別は20歳代1人、40歳代1人、50歳代1人、60歳代2人、70歳以上2人であった。

破傷風 (2009年 東京都 7件)

受理日	受理週	性別	年齢	診断方法	症状	推定感染地	推定感染経路
1/5	2	女	44	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、発語障害、強直性痙攣、呼吸困難(痙攣性)、易興奮性、反弓緊張	国内	針等の鋭利なものの刺入による感染(美容整形手術)
4/24	17	男	58	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、強直性痙攣、呼吸困難(痙攣性)	国内	創傷感染(左手背の発赤・痂皮)
5/14	20	男	26	臨床決定	筋肉のこわばり、舌のもつれ、話しにくさ	国内	創傷感染(右手掌部の犬咬傷)
8/5	32	女	69	臨床決定	開口障害、嚥下障害、痙攣、強直性痙攣、呼吸困難(痙攣性)、反弓緊張	国内	創傷感染(後頭部の割創)
9/2	36	男	83	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、痙攣	国内	創傷感染(右前頭部、右肩、右肘、右手、右側胸部、右大腿転子部、右膝の褥瘡)
9/29	40	女	60	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、強直性痙攣、反弓緊張	国内	創傷感染(右乳癌の壊死・汚染創)
11/9	46	女	79	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、強直性痙攣、呼吸困難(痙攣性)、易興奮性	国内	創傷感染(右第一足指爪下膿瘍)

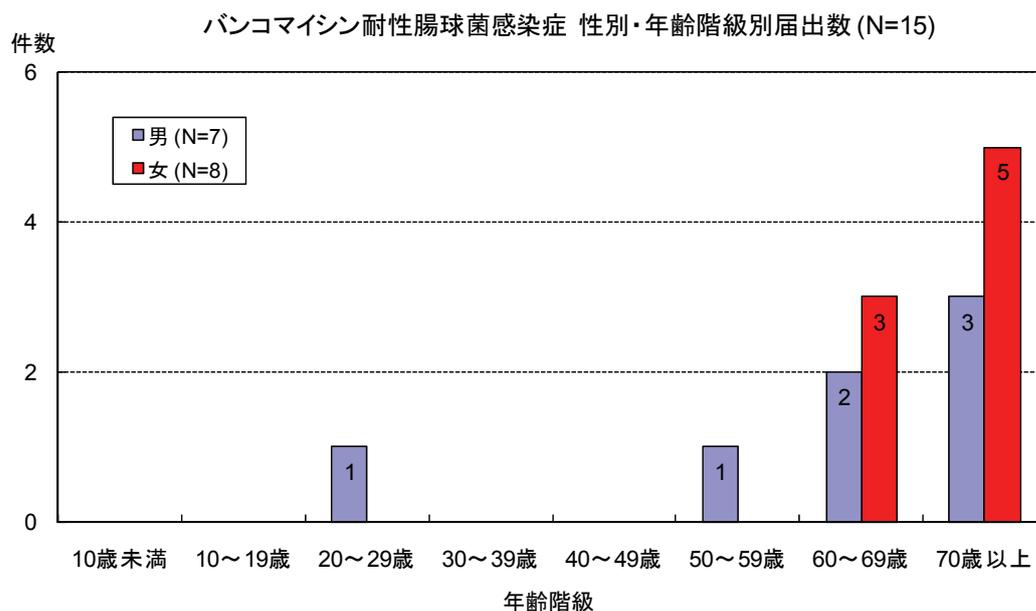
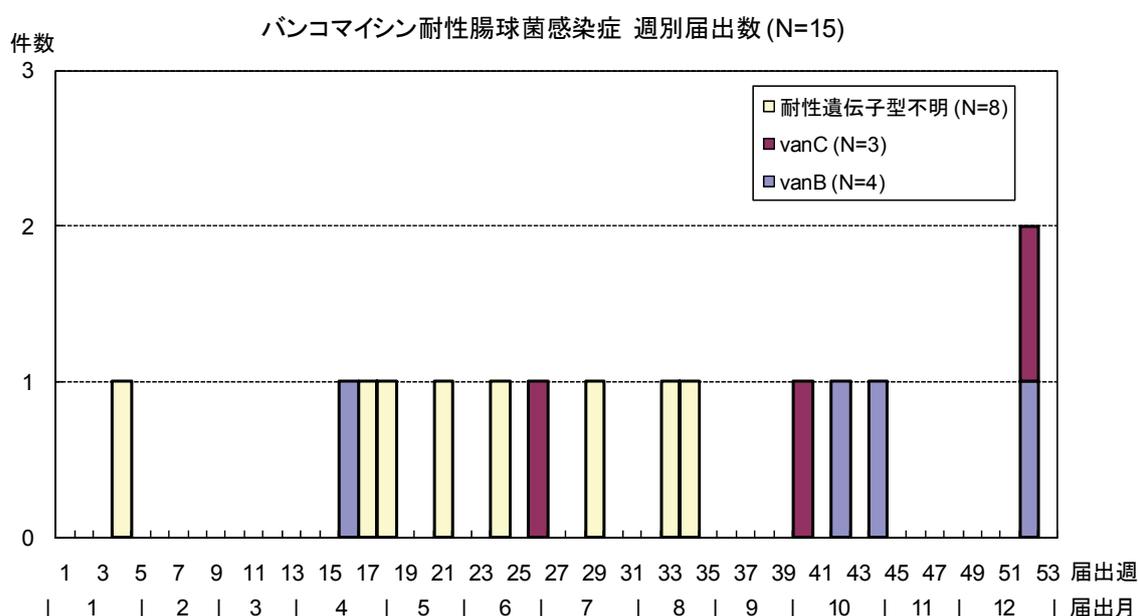
⑫ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 15 件届出があった。

菌種は *Enterococcus faecium* 7 件、*Enterococcus faecalis* 1 件、*Enterococcus gallinarum* 1 件、*Enterococcus casseliflavus* 1 件、不明 5 件で、耐性遺伝子型は *vanB* 4 件、*vanC* 3 件、不明 8 件であった。

性別は男性 7 人、女性 8 人で、年齢別は 20 歳代 1 人、50 歳代 1 人、60 歳代 5 人、70 歳以上 8 人であった。

70 歳以上の症例の死亡が 1 件報告されており、症状は発熱、菌血症、腸腰筋膿瘍で、感染経路は不明であった。



バンコマイシン耐性腸球菌感染症 菌種と耐性遺伝子型 (N=15)

菌種	vanA	vanB	vanC	不明	計
<i>E. faecium</i>		1		6	7
<i>E. faecalis</i>				1	1
<i>E. gallinarum</i>			1		1
<i>E. casseliflavus</i>			1		1
不明		3	1	1	5
計	0	4	3	8	15

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (2009年 東京都 15件)

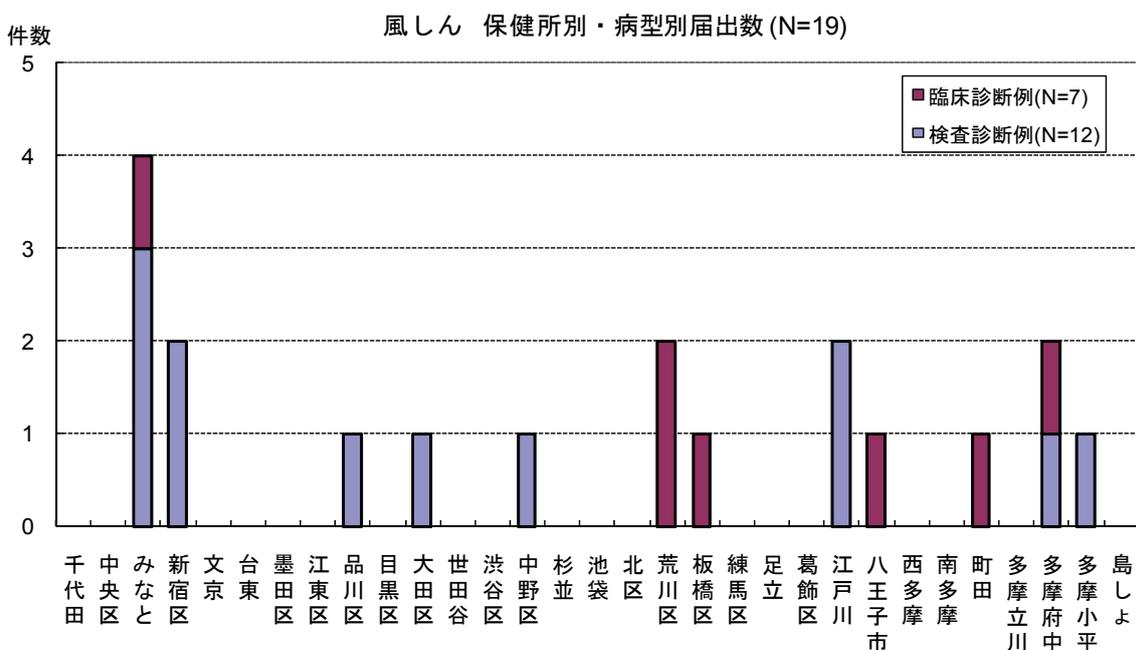
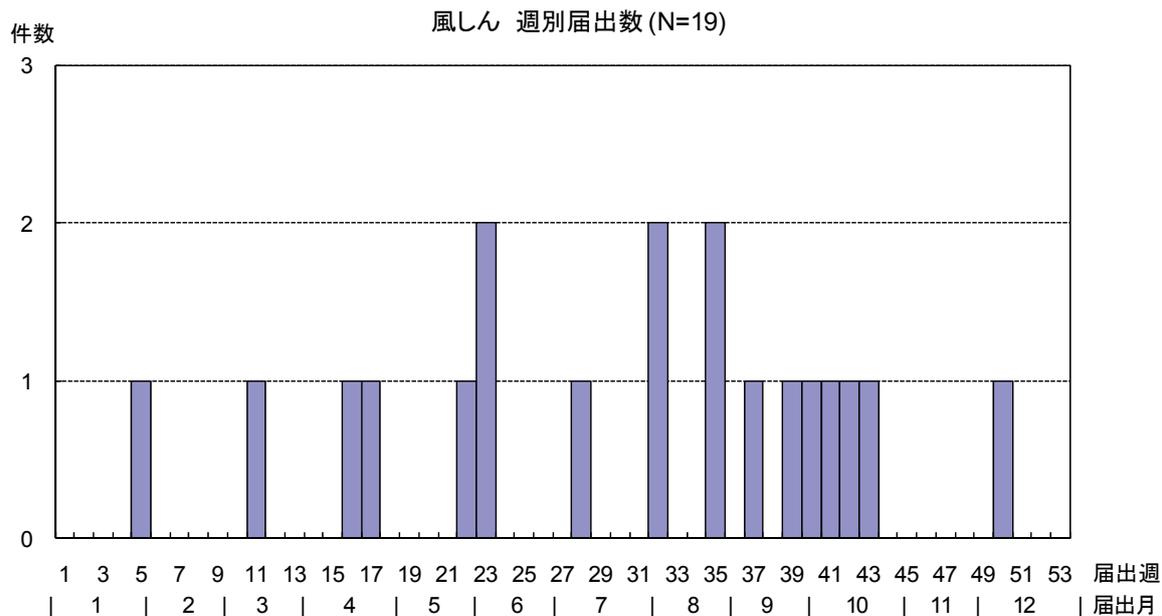
受理日	受理週	性別	歳	検体	菌種	耐性遺伝子型	症状	推定感染経路
1/20	4	男	52	尿	<i>E. faecium</i>	不明	尿路感染症	不明
4/13	16	男	68	血液、創部	不明	VanB	創部感染症	バンコマイシン長期使用による耐性
4/24	17	男	89	腸腰筋、肺嚢胞	<i>E. faecium</i>	不明	発熱、菌血症、腸腰筋膿瘍	不明
4/27	18	女	69	尿	<i>E. faecium</i>	不明	尿路感染症、倦怠感	不明
5/20	21	女	61	血液	不明	不明	発熱、菌血症	接触感染
6/8	24	女	89	尿	<i>E. faecium</i>	不明	尿路感染症	不明
6/22	26	女	97	胆汁	不明	VanC	胆嚢炎	不明
7/15	29	男	90	尿	<i>E. faecalis</i>	不明	尿路感染症	不明
8/13	33	女	74	開放膿	<i>E. faecium</i>	不明	創部感染症	接触感染(術中感染)
8/17	34	女	73	便、尿、痰、開放膿	<i>E. faecium</i>	不明	免疫不全、創部感染症(気管切開部)	接触感染
9/28	40	女	84	血液	<i>E. casseliflavus</i>	VanC	発熱	不明
10/16	42	女	63	便、カテーテル先端	不明	VanB	発熱、腸炎	不明
10/26	44	男	29	尿	不明	VanB	発熱、尿路感染症	不明
12/21	52	男	75	腹水	<i>E. gallinarum</i>	VanC	腹膜炎	腸管穿孔
12/25	52	男	66	腹水	<i>E. faecium</i>	VanB	腹膜炎	経口感染

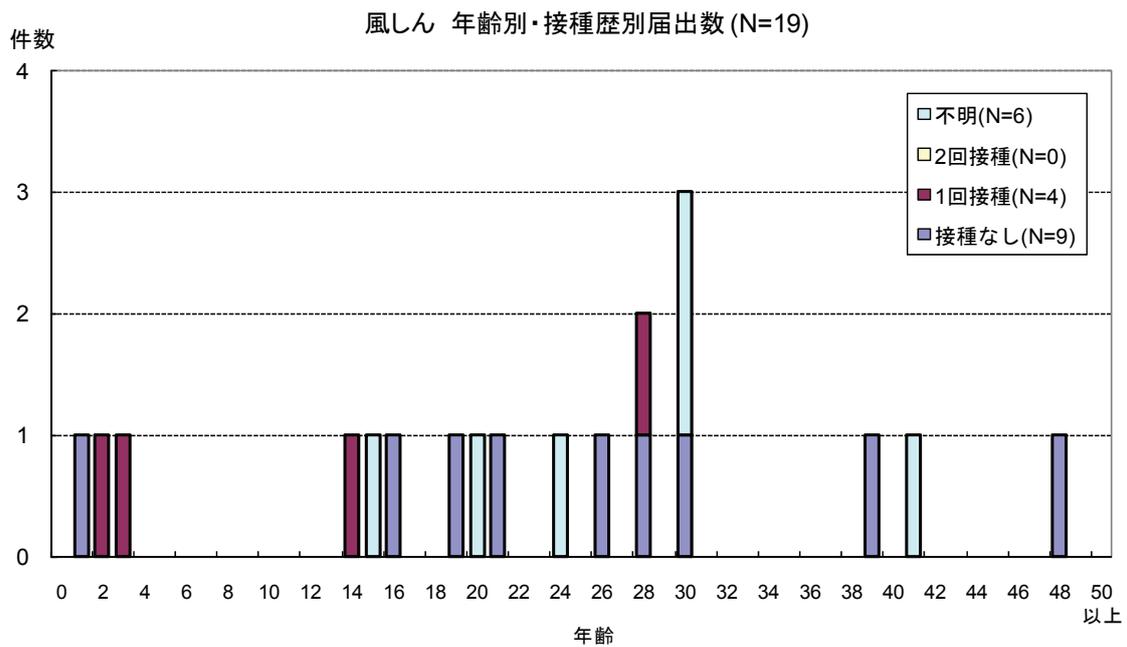
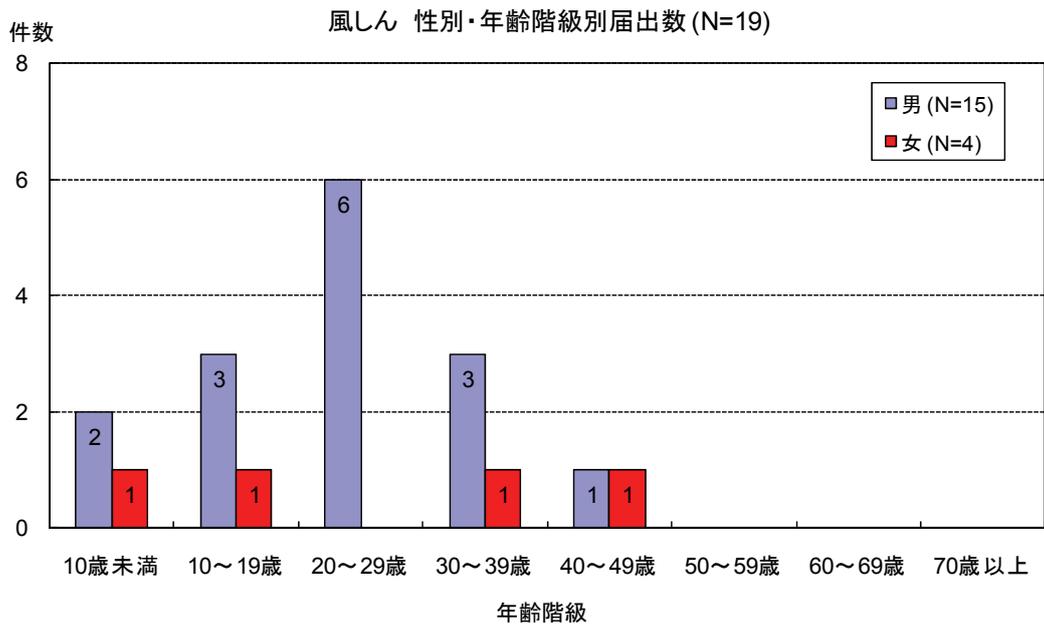
⑬ 風しん

風しんは19件届出があった。検査診断例12件、臨床診断例7件であった。

性別は男性15人、女性4人で、年齢別は10歳未満7人（うち5歳未満3人）、10歳代4人、20歳代6人、30歳代4人、40歳代2人であった。

風しん含有ワクチン接種歴は、なし9人（47.4%）、1回4人（21.0%）、不明6人（31.6%）であった。





⑭ 麻疹

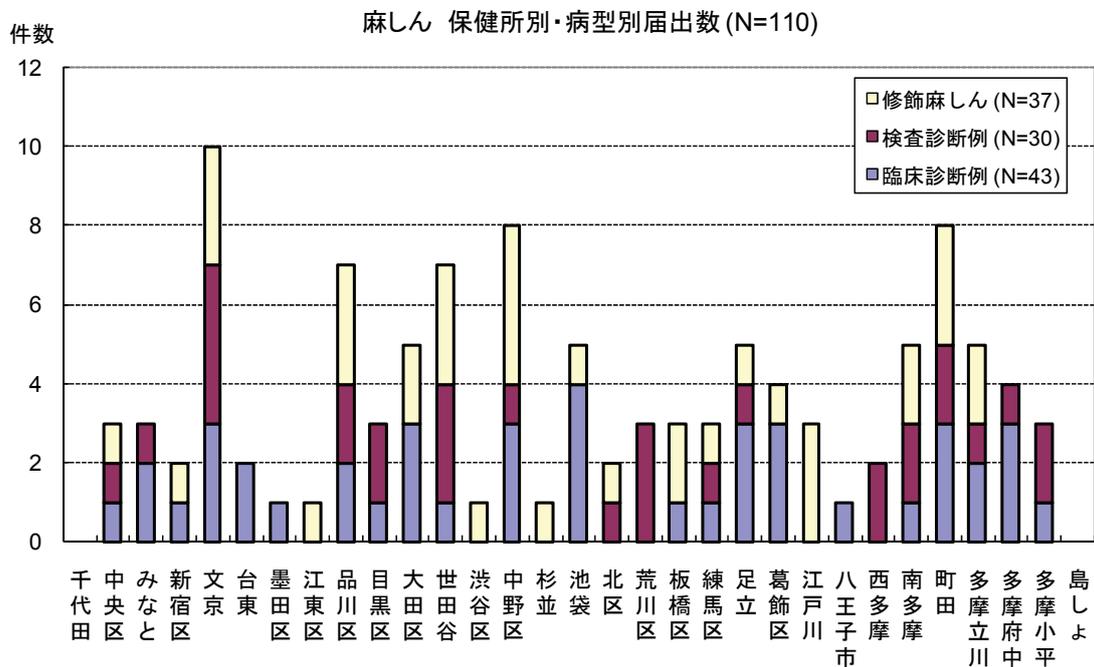
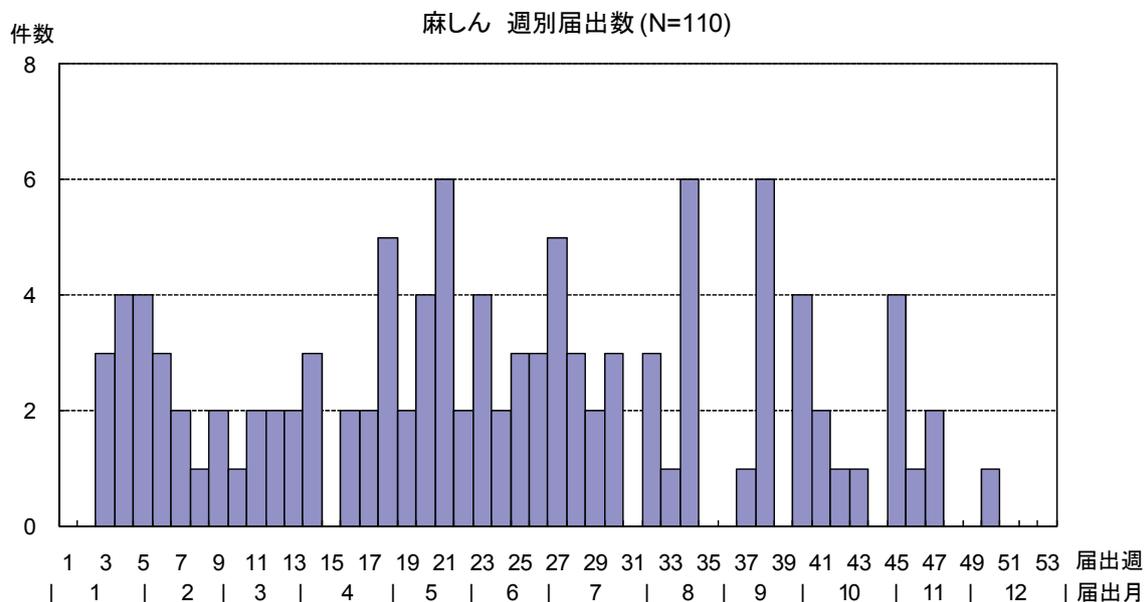
麻疹は110件届出があった。麻疹（検査診断例）30件、麻疹（臨床診断例）43件、修飾麻疹（検査診断例）37件であった。

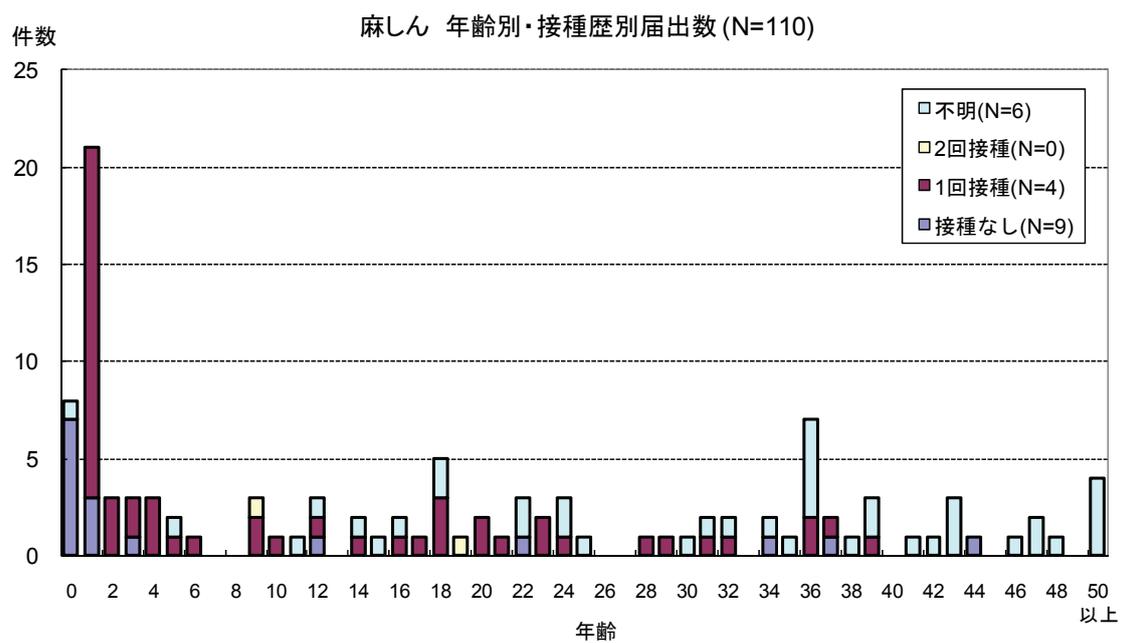
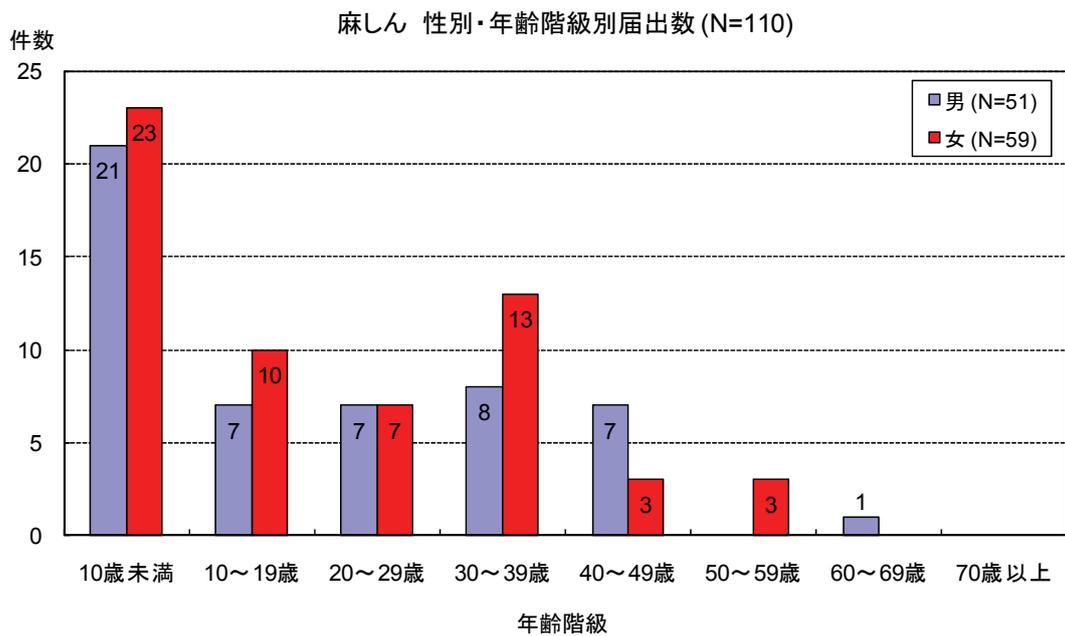
性別は男性51人、女性59人で、年齢別は10歳未満44人（うち5歳未満38人）、10歳代17人、20歳代14人、30歳代21人、40歳代10人、50歳代3人、60歳代1人であった。

麻疹含有ワクチン接種歴は、なし16人（14.5%）、1回52人（47.3%）、2回2人（1.8%）、

不明 40 人 (36.4%) であった。

肺炎合併の報告は 1 件あり、症例は 39 歳女性で麻しん含有ワクチン接種歴は 1 回であった。脳炎合併の報告はなかった。





⑮ その他の五類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

カ 新型インフルエンザ等感染症

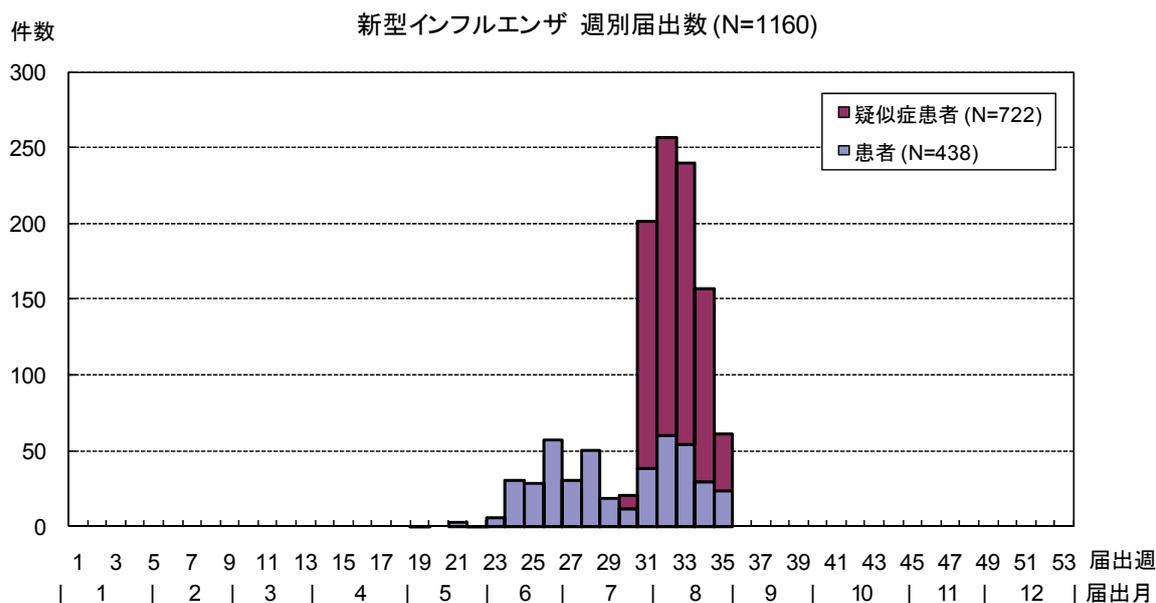
① 新型インフルエンザ

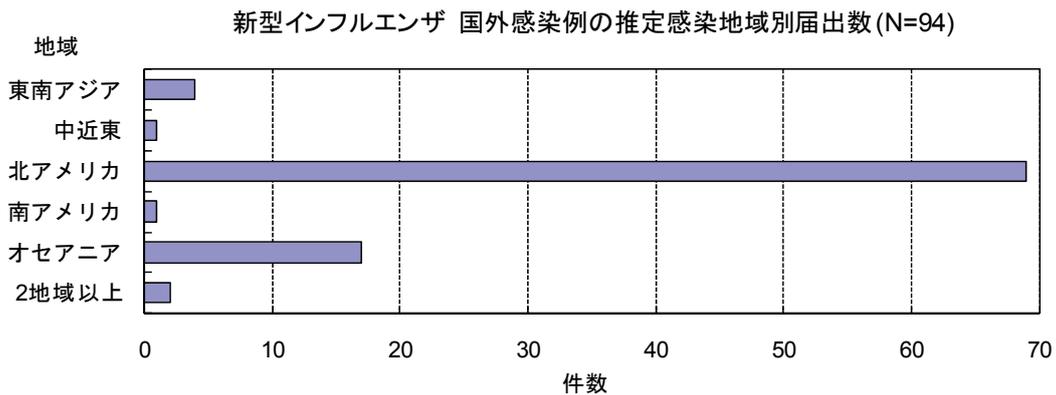
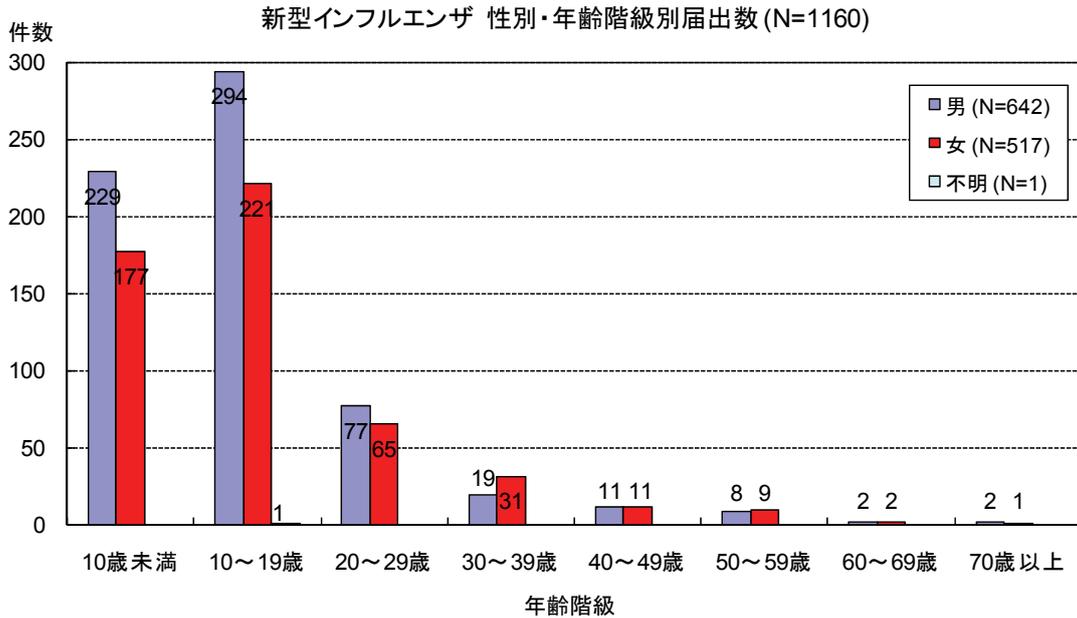
新型インフルエンザは1160件届出があった。患者438件、疑似症患者722件であった。

性別は男性642人、女性517人、性別不明1人で、年齢別は10歳未満406人（うち5歳未満116人）、10歳代516人、20歳代142人、30歳代50人、40歳代22人、50歳代17人、60歳代4人、70歳以上3人であった。

推定感染地は国内1064件、国外94件、不明2件で、国外感染例94件を推定感染地域別にみると、北アメリカ69件、オセアニア17件が多く、推定感染国別にみると、アメリカ65件、オーストラリア14件、カナダ4件、ニュージーランド3件、フィリピン3件、シンガポール1件、トルコ1件、チリ1件、アメリカ/ブラジル1件、アメリカ/フィリピン1件であった。

嘔吐、下痢など消化器症状を呈した患者報告は112件あり、年齢別では1～4歳13人、5～9歳54人、10歳代35人、20歳代7人、30歳代2人、40歳代1人であった。肺炎合併の報告は11件あり、5～9歳7人、10歳代4人であった。届出期間中に脳炎合併の報告はなかった。





消化器症状・肺炎合併のあった新型インフルエンザ症例の年齢群別報告数 (N=1160)

年代	報告数	消化器症状		肺炎	
		報告数	割合	報告数	割合
0歳	4				
1-4歳	112	13	11.6%		
5-9歳	290	54	18.6%	7	2.4%
10歳代	516	35	6.8%	4	0.8%
20歳代	142	7	4.9%		
30歳代	50	2	4.0%		
40歳代	22	1	4.5%		
50歳代	17				
60歳代	4				
70歳以上	3				
計	1160	112	9.7%	11	0.9%

3表-1(1) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 週別患者報告数

2009年第1週～2009年第53週

週	期間	一類					二類					三類					
		エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス
1	12.29～1.4							8									
2	1.5～1.11							89							1		
3	1.12～1.18							62					2	1			
4	1.19～1.25							59					1				
5	1.26～2.1							87								1	
6	2.2～2.8							90									
7	2.9～2.15							86									
8	2.16～2.22							87					1	3			
9	2.23～3.1							75					4	2			
10	3.2～3.8							95					2		1	1	
11	3.9～3.15							85						1	2		
12	3.16～3.22							68						3			1
13	3.23～3.29							106									
14	3.30～4.5							81						1	1		
15	4.6～4.12							71						1	1		
16	4.13～4.19							93						3			
17	4.20～4.26							107					1	3	1	1	
18	4.27～5.3							105					1	1			
19	5.4～5.10							33									
20	5.11～5.17							103					1	2			
21	5.18～5.24							108						3			
22	5.25～5.31							89					2	8			1
23	6.1～6.7							80				1		4			
24	6.8～6.14							79					3	8			
25	6.15～6.21							87						6			
26	6.22～6.28							70						8	1		
27	6.29～7.5							101					1	7	1		
28	7.6～7.12							83						4			
29	7.13～7.19							100						14			
30	7.20～7.26							61					2	18			1
31	7.27～8.2							80					1	22	1	1	
32	8.3～8.9							99					1	16			
33	8.10～8.16							73					3	10			
34	8.17～8.23							72				1	4	18			
35	8.24～8.30							75						30			1
36	8.31～9.6							73						13			
37	9.7～9.13							98						21			
38	9.14～9.20							99					3	18			
39	9.21～9.27							44					1	7			1
40	9.28～10.4							86					1	5			1
41	10.5～10.11							94					1	6			1
42	10.12～10.18							58					2	4			1
43	10.19～10.25							92				1		9			
44	10.26～11.1							81					1	7			
45	11.2～11.8							53						2			
46	11.9～11.15							96					4	6			
47	11.16～11.22							83						3			
48	11.23～11.29							55					1	3			
49	11.30～12.6							79					2	3			1
50	12.7～12.13							81						3	1		
51	12.14～12.20							69						3			
52	12.21～12.27							82						2			
53	12.28～1.3							34					2	4			
	合計							4204					3	48	317	11	12

* 2010年4月6日現在の報告数

3表-1(2) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 週別患者報告数
2009年第1週~2009年第53週

週	期間	四 類											
		E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	Q熱	コクシジオイデス症	つつが虫病	デング熱	ブルセラ症	マラリア	ライム病	レジオネラ症
1	12.29~1.4												
2	1.5~1.11			1				1	1		1		5
3	1.12~1.18						1		1				3
4	1.19~1.25								1				1
5	1.26~2.1										1		1
6	2.2~2.8	1									1		
7	2.9~2.15							1			1		2
8	2.16~2.22	2									2		
9	2.23~3.1		2						1		1		1
10	3.2~3.8		1						1				1
11	3.9~3.15										1		1
12	3.16~3.22												
13	3.23~3.29												
14	3.30~4.5												1
15	4.6~4.12										2		1
16	4.13~4.19								2		1		2
17	4.20~4.26												2
18	4.27~5.3		1						1		1		
19	5.4~5.10												
20	5.11~5.17		1		1								
21	5.18~5.24												
22	5.25~5.31	2	1						1				1
23	6.1~6.7		1						1				1
24	6.8~6.14		1			1					1		1
25	6.15~6.21												
26	6.22~6.28		1								1		1
27	6.29~7.5	1											
28	7.6~7.12								2				1
29	7.13~7.19		1										2
30	7.20~7.26												1
31	7.27~8.2											1	1
32	8.3~8.9										2		2
33	8.10~8.16										1		1
34	8.17~8.23								1				2
35	8.24~8.30		1						3		1		3
36	8.31~9.6		3						1				2
37	9.7~9.13		1						2		1		
38	9.14~9.20		1						3				2
39	9.21~9.27										1		1
40	9.28~10.4		1						1		1		
41	10.5~10.11								2	1	2		
42	10.12~10.18		1						1	1	1		
43	10.19~10.25										1		
44	10.26~11.1		1						4				2
45	11.2~11.8		1						1				
46	11.9~11.15		1					1					2
47	11.16~11.22		1										1
48	11.23~11.29								1				1
49	11.30~12.6							3			1		2
50	12.7~12.13							4					
51	12.14~12.20							1					2
52	12.21~12.27		2					2					
53	12.28~1.3												
	合計	6	24	1	1	1	1	14	32	1	26	1	53

3表-1 (3) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 週別患者報告数

2009年第1週～2009年第53週

週	期間	五類														新型				
		ア メー バ 赤 痢	ウ イ ル ス 性 肝 炎	急 性 脳 炎	ク リ プ ト ス ポ リ ジ ウ ム 症	ブ 病	ク ロ イ ツ フ ェ ル ト ・ ヤ コ	劇 症 型 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 感 染 症	後 天 性 免 疫 不 全 症 候 群	ジ ア ル ジ ア 症	髄 膜 炎 菌 性 髄 膜 炎	先 天 性 風 し ん 症 候 群	梅 毒	破 傷 風	ブ ド ウ 球 菌 感 染 症	バ イ コ マ イ シ ン 耐 性 黄 色	バ イ コ マ イ シ ン 耐 性 腸 球 菌 感 染 症	風 し ん	麻 し ん	新 型 イ ン フ ル エ ン ザ
1	12.29～1.4																			
2	1.5～1.11	6	3			2	1	12	1			2	1							
3	1.12～1.18	4	1	1				15	1			1							3	
4	1.19～1.25	4		1				6				10			1				4	
5	1.26～2.1	1	2	1				12	1			4					1		4	
6	2.2～2.8	4	1	1				12	1			4							3	
7	2.9～2.15	2	1			1		11	1			5							2	
8	2.16～2.22	4		2				7				4							1	
9	2.23～3.1		1					12	2			2							2	
10	3.2～3.8	3	1	1				16	2			6							1	
11	3.9～3.15	2	1					6	1			6					1		2	
12	3.16～3.22	2		1				10				6							2	
13	3.23～3.29	3	2					9				3							2	
14	3.30～4.5	2	1		1			10				5							3	
15	4.6～4.12	4	1					8	3			3								
16	4.13～4.19	2	1	1		3	1	10				9			1		1		2	
17	4.20～4.26	4	1				1	6	1			5	1		1		1		2	
18	4.27～5.3	2				1		5				4			1				5	
19	5.4～5.10	1	1					2				1							2	1
20	5.11～5.17	5				1		4				1	1						4	
21	5.18～5.24	1		1			1	12	1			4			1				6	3
22	5.25～5.31	1	3					15		1		6					1		2	1
23	6.1～6.7	3	1	1		2	1	16				7					2		4	6
24	6.8～6.14	2	2					8				4			1				2	30
25	6.15～6.21	1					1	13				3							3	28
26	6.22～6.28	1						14	1			6			1				3	57
27	6.29～7.5	4		1				7				3							5	30
28	7.6～7.12	4				1		5				3					1		3	50
29	7.13～7.19	3						11							1				2	18
30	7.20～7.26	1	1	2			1	18	1			5							3	20
31	7.27～8.2	4						10				2								201
32	8.3～8.9	7						9				6	1				2	3	3	257
33	8.10～8.16	3						11	1			1			1			1	1	240
34	8.17～8.23	2	1	1				8				1			1			6	157	
35	8.24～8.30	1		2		1		8				9					2			61
36	8.31～9.6	4	1					4				4	1							
37	9.7～9.13	4		2				11									1		1	
38	9.14～9.20	2	1					8				5							6	
39	9.21～9.27	1						5	1			2					1			
40	9.28～10.4	5		2				5				3	1		1		1		4	
41	10.5～10.11	3	1	4				8				2					1		2	
42	10.12～10.18	2		1	1			7				4			1		1		1	
43	10.19～10.25	2	1	7				8	1			2					1		1	
44	10.26～11.1	3	1	1				5	1			4			1					
45	11.2～11.8	4		1		2		8				4							4	
46	11.9～11.15	1		1	1	1		7				2	1						1	
47	11.16～11.22	1	1	3		2		14	1			2							2	
48	11.23～11.29	2		2	1			6				1								
49	11.30～12.6	3	1			1		10				6								
50	12.7～12.13	2		3				12	1			7					1		1	
51	12.14～12.20	7	2			1	1	5	1			2								
52	12.21～12.27			1				7				4			2					
53	12.28～1.3	1						3				1								
	合計	140	35	45	4	19	10	471	24	1		196	7		15	19	110		1160	

3表-2(1) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別患者報告数

2009年第1週～2009年第53週

保健所	一 類							二 類					三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	(H5N1)	インフルエンザ	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス
千代田								86							7		1
中央区								40						3	10		
みなと								94						3	16	1	1
新宿区								249						1	12	3	
文京								104					1	2	1	2	2
台東								125						1	5		
墨田区								122						6	12		3
江東区								143					1	2	6		1
品川区								117						1	5		
目黒区								70						4	15		
大田区								168					1	3	18	1	
世田谷区								215						2	20		
渋谷区								81						2	9		1
中野区								137							8		
杉並								123						4	3		
池袋								141						2	6		
北区								164									
荒川区								115							2		
板橋区								179							14		
練馬区								180							8		
足立								214							19	1	1
葛飾								154						1	8		
江戸川								153						1	15	1	
西多摩								68						1	3		
南多摩								102						2	4		1
町田								135							13	1	
多摩立川								113						1	17		
多摩府中								261						3	32	1	1
多摩小平								232						2	21		
島しょ								6									
八王子市								113						1	8		
合 計								4,204					3	48	317	11	12

* 2010年4月6日現在の報告数

3表-2(2) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別患者報告数
2009年第1週～2009年第53週

保健所	四 類											
	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	Q熱	コクシジオイデス症	つつが虫病	デング熱	ブルセラ症	マラリア	ライム病	レジオネラ
千代田	1	1										1
中央区								1	1	1		
みなと	1	1						2		4	1	3
新宿区	1	7						15		13		1
文京		1						5		1		2
台東		1										
墨田区								3		3		3
江東区				1								3
品川区												2
目黒区		1	1			1		1				2
大田区		1					1	3				2
世田谷区		1										6
渋谷区							1			1		3
中野区	1											1
杉並							1					1
池袋												1
北区		1										1
荒川区	1											1
板橋区					1							2
練馬区										1		
足立		1										1
葛飾												
江戸川												
西多摩	1	2					2					1
南多摩		2										
町田		1										2
多摩立川								1				5
多摩府中		3						1		2		3
多摩小平												4
島しょ							9					1
八王子市												1
合 計	6	24	1	1	1	1	14	32	1	26	1	53

3表-2(3) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別患者報告数

2009年第1週~2009年第53週

保健所	五 類														新型 （A/H1N1） インフルエンザ			
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ブ病	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	ブドウ球菌感染症 耐性黄色		バイコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん
千代田	1	1					3					7						14
中央区	8	1	7			1	4					7	1		3		3	20
みなと	15	3			2	1	43	3				17	1			4	3	49
新宿区	23	11		4	2	1	153	9				79			1	2	2	38
文京	11	2	1		4	2	42					23	1				10	35
台東	1						5					6					2	25
墨田区	2		7				12					2					1	85
江東区	4				2	1						1					1	54
品川区	3	1					4	1				2				1	7	43
目黒区	3	4	1		2		6								1		3	9
大田区	7	1	1			1	5	1	1			1			1	1	5	58
世田谷区	7		1		1		5	3				5					7	44
渋谷区	7	1	3				92	1				2			2		1	20
中野区	5						12					8				1	8	19
杉並		1					10					1					1	61
池袋	2		4		1		7					5					5	20
北区							2										2	36
荒川区	1		3				6	1				1	1		2	2	3	31
板橋区	7		2			2	9	3				3			1	1	3	27
練馬区	4		1			1	4					1	1				3	20
足立	3						5					4			3		5	23
葛飾	2	1					4					4					4	84
江戸川	2	2					4					3				2	3	66
西多摩	3	2	5		1		2										2	26
南多摩	3	1					1										5	38
町田							3									1	8	30
多摩立川		1	1		1		4					4	1		1		5	25
多摩府中	6		3		1		15	2				7	1			2	4	78
多摩小平	6		5		2		4					2				1	3	44
島しょ																		6
八王子市	4	2					5					1				1	1	32
合 計	140	35	45	4	19	10	471	24	1			196	7		15	19	110	1160

3表-3(1) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 年齢階級別患者報告数

2009年第1週～2009年第53週

年齢階級	一 類							二 類				三 類					
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	(H5N1) インフルエンザ	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
0歳								31							1		
1～4歳								45					2	26			
5～9歳								32					3	41			1
10～14歳								28					1	37			
15～19歳								60					1	18			1
20～24歳								201					8	43			3
25～29歳								316				1	11	35		3	
30～34歳								311				1	7	26		2	
35～39歳								295					4	19		1	2
40～44歳								264					4	19		2	1
45～49歳								227						9		1	
50～54歳								215					2	5		1	
55～59歳								306				1		13		1	
60～64歳								309					2	7			3
65～69歳								273					2	8			
70歳以上								1291					1	10			1
合 計								4,204				3	48	317	11		12

* 2010年4月6日現在の報告数

3表-3 (2) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 年齢階級別患者報告数
2009年第1週~2009年第53週

年齢階級	四 類											
	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	Q熱	コクシジオイデス症	つつが虫病	デング熱	ブルセラ症	マラリア	ライム病	レジオネラ症
0歳												
1~4歳												
5~9歳		1										
10~14歳								1		1		
15~19歳		1				1		1	1			
20~24歳		1					1	5		4		
25~29歳		3						5		9		
30~34歳		3					2	1		2		1
35~39歳	1	4						6		3		
40~44歳	1	2						6		1		2
45~49歳	1							1		3		2
50~54歳	1	2		1	1		3	3		2	1	2
55~59歳		2						2				7
60~64歳	1	3					3			1		6
65~69歳	1	1	1				3					7
70歳以上		1					2	1				26
合 計	6	24	1	1	1	1	14	32	1	26	1	53

3表-3 (3) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 年齢階級別患者報告数

2009年第1週～2009年第53週

五 類															新型			
アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	ブドウ球菌感染症	バイコマイシン耐性黄色	菌感染症	バイコマイシン耐性腸球菌	風しん	麻しん	新型インフルエンザ
		1								2						8	4	
	1	16													3	30	112	
		15														6	290	
		4													1	7	266	
	2	1			1	6				4					3	10	250	
5	2	1	2			35	5			24					3	11	80	
4	6	1				72	4			24	1		1		3	3	62	
19	7			1	2	93	7			25					3	7	28	
24	6	1	2		1	98	2			37					1	14	22	
18	5	1				55	2			28	1				1	6	15	
17	1					44	2			14					1	4	7	
15	2			1		17	2			6			1			2	13	
14	1			1		24				16	1					1	4	
17	2	2		3	2	11				5	1		2				2	
3				4		6				4	1		3			1	2	
4		2		9	4	10		1		7	2		8				3	
140	35	45	4	19	10	471	24	1		196	7					110	1160	

(2) 小児科・内科疾患

ア インフルエンザ

2008/09 シーズン（2008 年第 36 週/9 月～2009 年第 35 週/8 月）のインフルエンザの流行は、全国的に見ると、季節性インフルエンザの A ソ連型（AH1 亜型）と A 香港型（AH3 亜型）が先行して流行し、1 月末にピークになった後、B 型が 3 月に 2 つ目のピークを作った。流行が終息に向っていた 4～5 月に A 香港型が再増加し、5 月以降は新型インフルエンザ（A/H1N1pdm）が大きく増加するという例年にない特異な流行パターンとなった。

東京においても全国と同様の傾向が見られ、2008 年 49 週（12 月 1 日～7 日）に、定点当り患者報告数が 1.67 件と流行開始の指標となる 1.00 件をはじめて超え 2009 年第 4 週（1 月 19 日～25 日）には 31.94 件とピークに達した。その後 8 週（2 月 16 日～22 日）に患者報告数が 7.61 件まで減少したが、再度増加に転じ、11 週（3 月 9 日～13 日）には 14.40 件と 2 度目のピークが見られた。

2008/09 シーズン（2008 第 36 週～2009 第 35 週）のインフルエンザ定点医療機関からの定点当り患者報告数の累計は過去 10 年間で、2004/05 シーズン（242.40 件）に次いで 2 番目（228.20 件）となり、季節性インフルエンザの流行としても大規模な流行になった。

その後 2009 年 4 月にメキシコではじめて新型インフルエンザ患者の発生が確認され 5 月 9 日には、カナダから帰国した高校生が国内で最初の新型インフルエンザと確定診断された。東京都では 5 月 20 日にニューヨークから帰国した高校生が新型インフルエンザに感染したことが確認された。

新型インフルエンザの患者は当初海外からの帰国者がほとんどであったが、6 月に入ると国内での感染者も見られるようになり、6 月中旬には海外感染者と国内感染者の数が同程度となり、7 月中旬には、ほとんどが国内での感染者となった。都内の定点医療機関から搬入された検体から検出されたウイルスは年当初は A ソ連型が主流であったがその後 B 型と A 香港型が加わり、7 月に入ると検出されるウイルスのほとんどが新型インフルエンザウイルスとなっている。

2009/10 シーズンが開始となる 2009 年 36 週（8 月 31 日～9 月 6 日）には、すでに定点当りの患者報告数は 3.66 件（前年同期 0.01 件）となり、島しょ地区を除く都内全域で流行の目安となる定点当りの患者報告数 1.00 件を超えている。

また 36 週にはインフルエンザ様疾患による集団感染が 350 件報告され、定点医療機関からの検体より、新型インフルエンザウイルスが 16 件、A ソ連型が 1 件検出された。

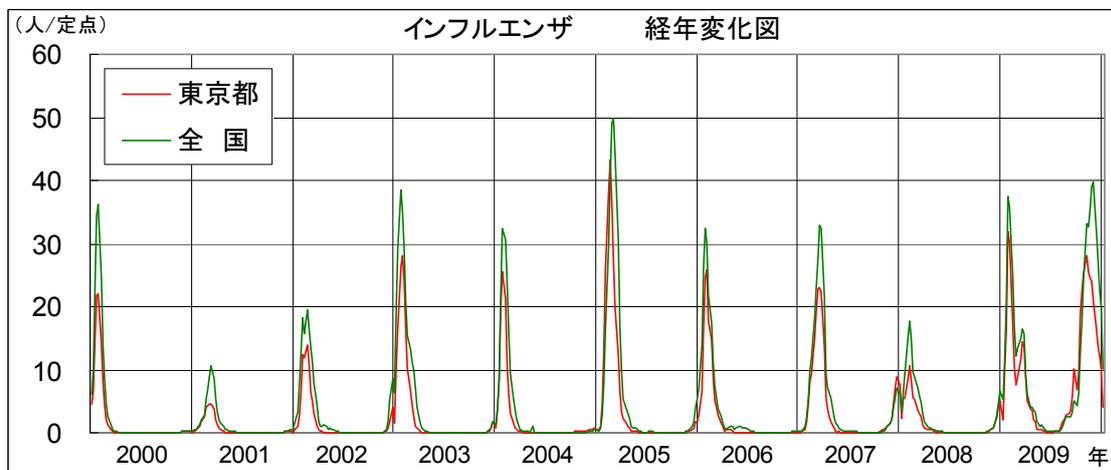
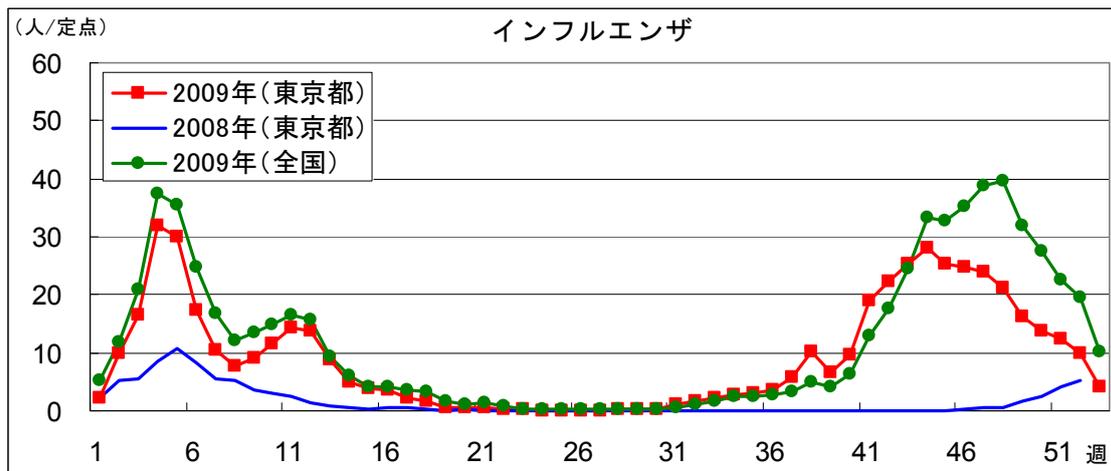
その後 38 週（9 月 14 日～20 日）には定点当り 10.21 件と増加し、流行注意報基準（定点当り 10 件を超えた保健所管内人口の合計が東京都全体の 30%を超えた場合）を超えたため東京都は「インフルエンザ流行注意報」を発令した。

その後も患者報告数は増加を続け、43 週（10 月 19 日～25 日）には定点あたり 25.24 件となり、また町田（60.33 件）、八王子（48.50 件）、多摩小平（38.57 件）、南多摩（36.33 件）、葛飾（32.33 件）、江戸川（30.17 件）、世田谷（30.13 件）の 7 保健所管内では 30 件を超えたため、東京都は 10 月 28 日に「インフルエンザの流行警報（定点当り 30 件を超えた保健所管内の人口の合計が東京都全体の 30%を超えた場合）」を発令した。

44 週（10 月 26 日～11 月 1 日）には定点当りの報告数が 28.09 件に達しピークとなった。それ以降は減少に転じ、53 週（12 月 28 日～1 月 3 日）では定点当り 4.16 件となっていた。

2009年のインフルエンザの流行は、4週と11週に2つのピークを持つ季節性インフルエンザの流行と、7月頃より始まり44週（10月26日～11月1日）にピークを持つ大きな新型インフルエンザの流行の2つが重なり、定点当たり患者報告数の累計は、ここ10年では最多の495.53件という大流行の年となった。

参考資料 東京都インフルエンザ情報；2008/2009 6号～32号、
2009/2010 1号～17号；東京都健康安全研究センター



イ RSウイルス感染症

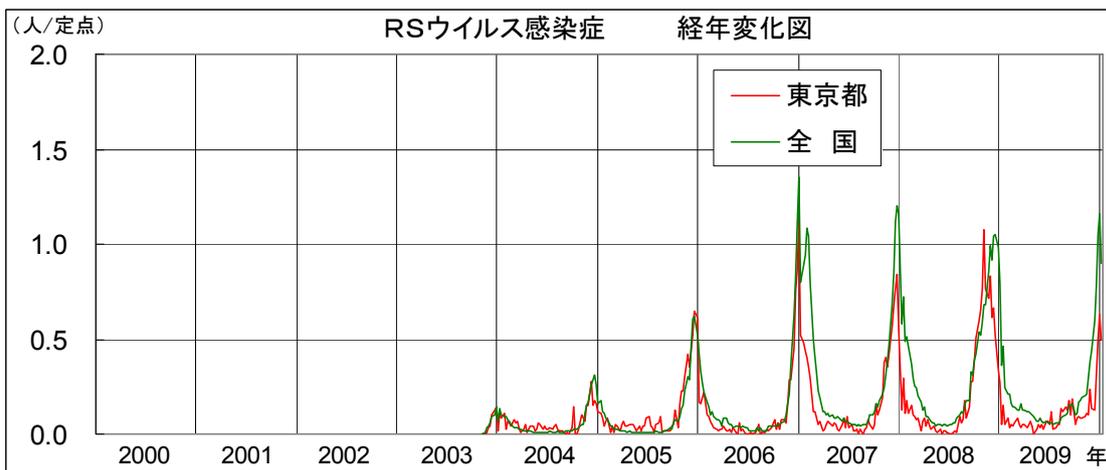
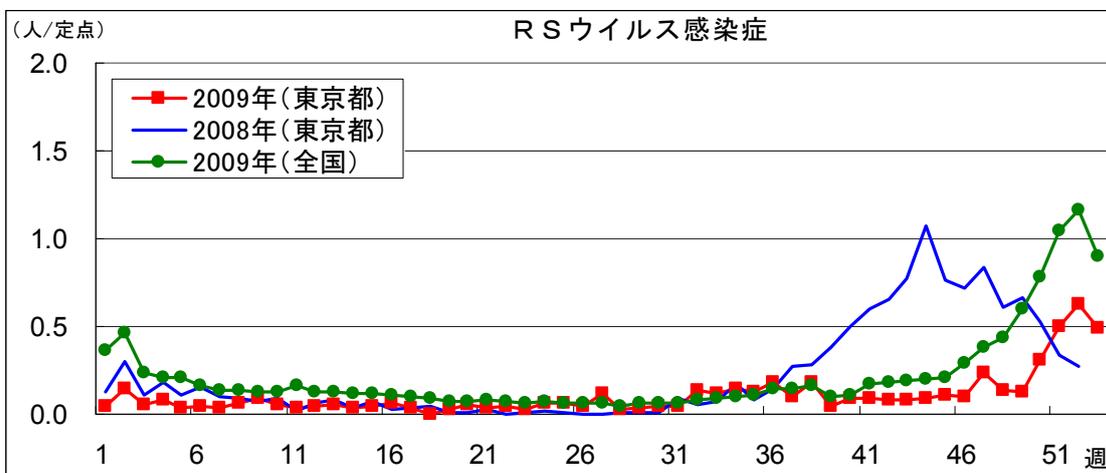
2009年の報告数は845件、定点当たり5.73件であった。

RSウイルス感染症は2003年11月より五類定点把握対象疾患として調査が開始された。報告数は2008年まで年々増加する傾向にあったが2009年になり減少している。

週別報告数を見ると、定点当たり0.20件以上の報告があるものは、50週～52週（12月7日～1月3日）にかけてであり、ピークは52週（12月21日～12月27日）の0.94件である。

保健所管内別の定点当たり報告数が多いのは、多摩小平26.13件、みなと21.57件、台東14.33件、大田区13.74件となっている。

年齢階級別で見ると報告数845件中、6ヶ月未満130件、12ヶ月未満205件、1歳代320件と1歳以下が77.5%を占めている。

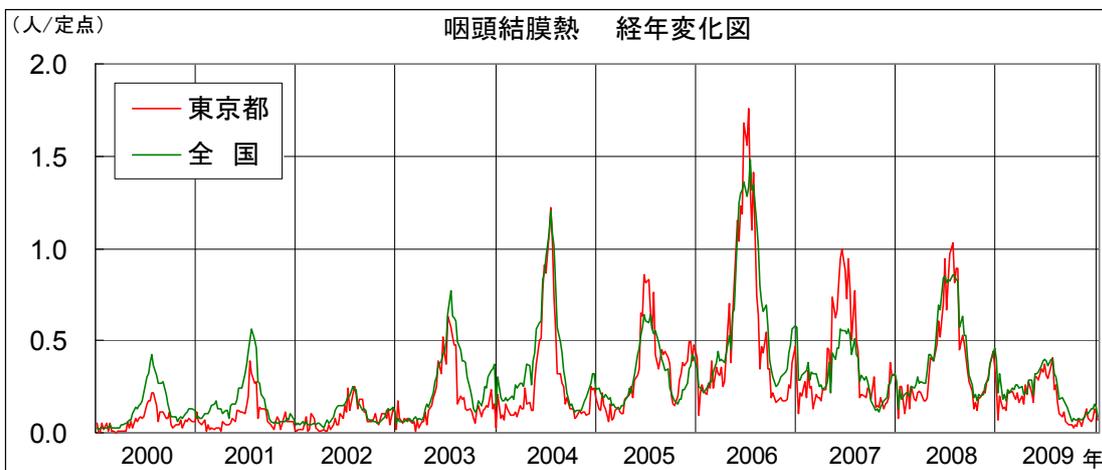


ウ 咽頭結膜熱

2009年の報告数は1,339件、定点当たりの報告数は9.07件となっている。前年と比較すると報告数は半分以上となっており、ここ10年では4番目に低い報告数となっている。

週別報告数では、20週（5月12日～5月18日）から29週（7月13日～7月19日）にかけて定点当たりの報告数が0.30件を超えるゆるやかな増加部分が見られる。保健所別報告数では定点当たり、大田区36.75、江戸川35.20、みなと33.30が多くなっている。

年齢階級別では1歳代にピークがあり5歳以下で全報告数の83.2%を占めている。



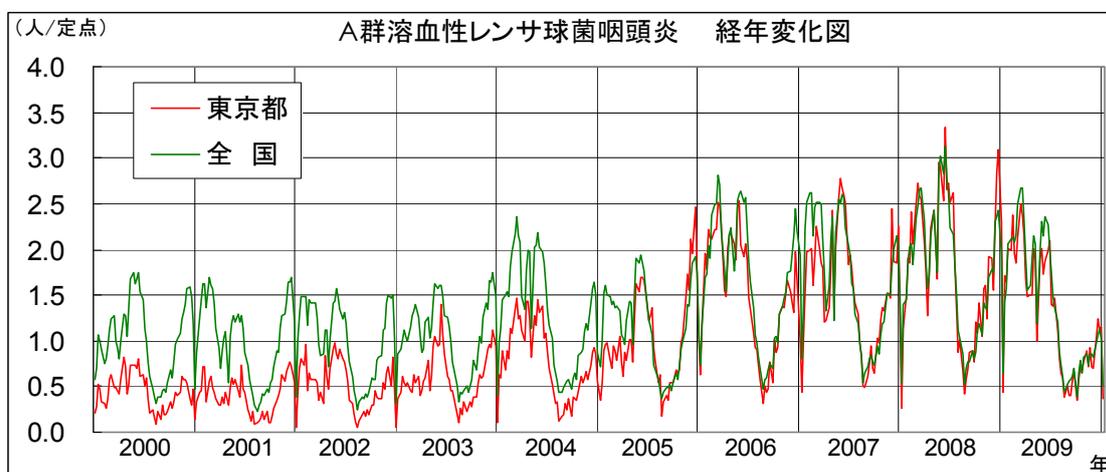
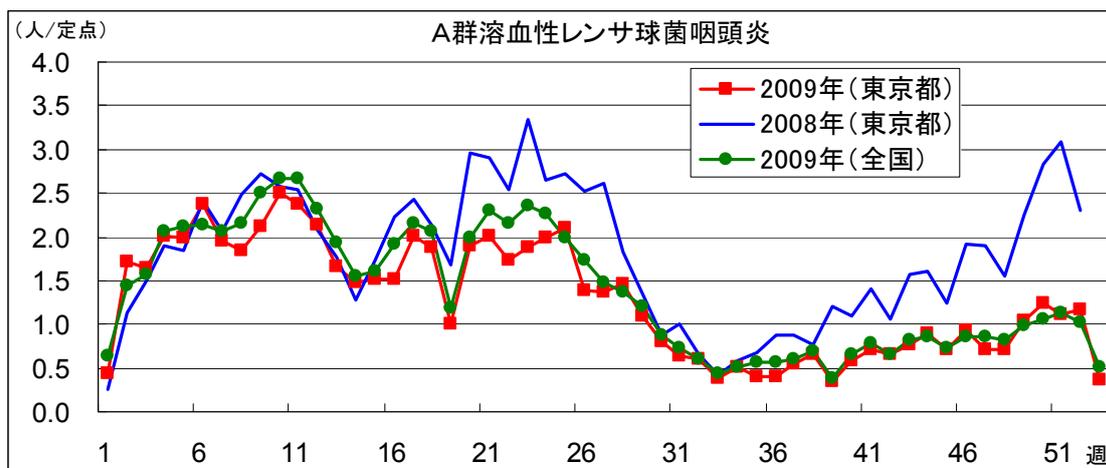
エ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2009年の報告数は10,058件、定点当たり報告数は68.03件となっている。ここ10年では2008年が定点当たり93.97件と最も多かったが、2009年は前年比0.72と減少している。

週別報告数では2週～29週（1月7日～7月20日）で定点当たり1.00件を超えており、10週（3月3日～3月9日）が2.50件と最も多くなっている。

保健所別、定点当たり報告数は、八王子399.58件、町田319.83件、江戸川227.95件で報告数が多い。

年齢階級別報告数では過半数の5,328件が4歳～7歳で占められている。

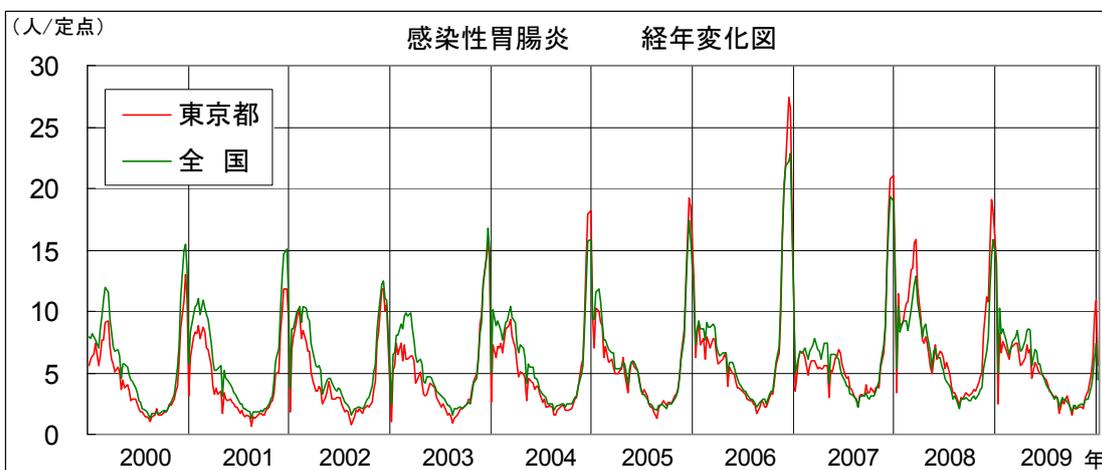
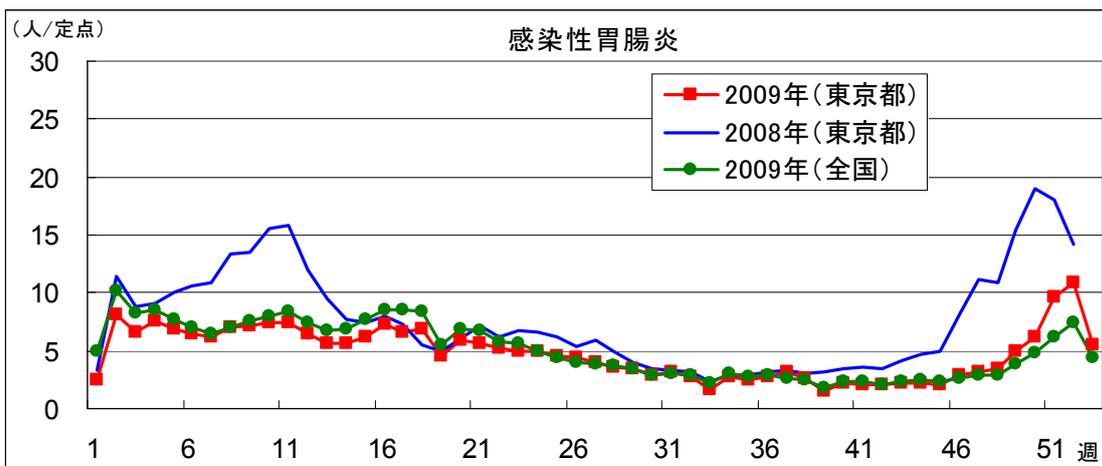


オ 感染性胃腸炎

2009年の報告数は37,599件、定点当たり254.50件で前年比0.62と減少している。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は、286.38件である。

週別報告数では52週（12月21日～12月27日）での定点当たり10.87例の報告数がピークで、39週（9月22日～9月28日）の定点当たり1.58が最も少ない。冬期に多く夏から秋にかけて報告数が少なくなっている。

保健所別では定点当たりで八王子市630.25件、町田584.33件、江東区537.75件が多く報告された。年齢階級別報告数では1歳代にピークがあるのは前年と同様である。



カ 水痘

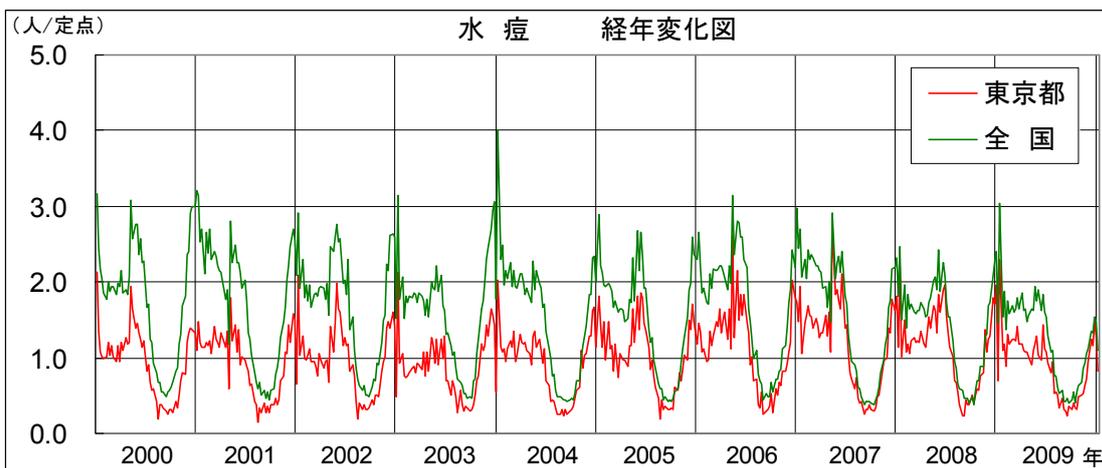
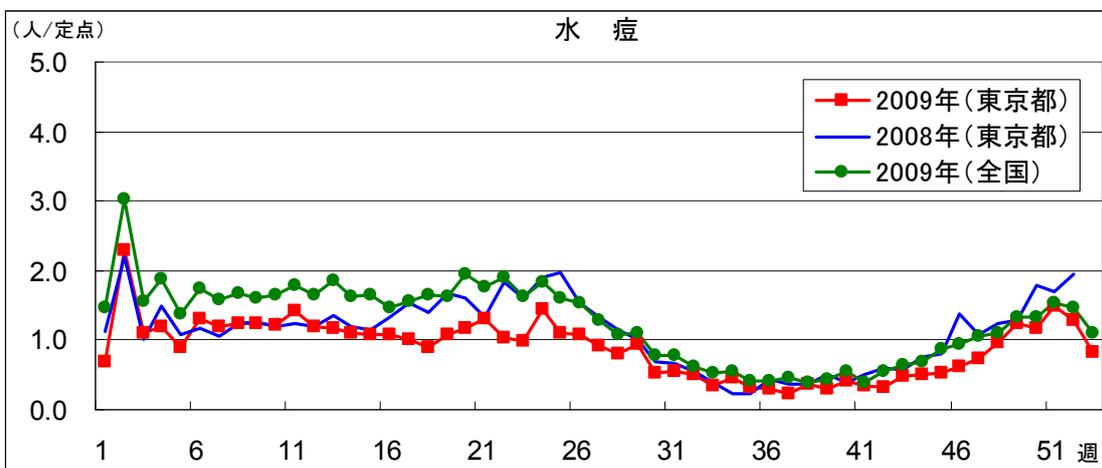
2009年の報告数は7,079件、定点当たり47.94件であった。

ここ10年の定点当たりの平均報告数は52.04件であり、大きな変動はない。

週別報告数は、定点当たりで見ると2週(1月7日～1月13日)が2.30件と最も多くなっている。33週から43週(8月11日～10月26日)にかけて報告数が0.50件を下まわる週が続いている。最も少ないのは37週(9月8日～9月14日)の0.24件である。

保健所別定点当たり報告数は、町田が214.08件(前年も最多の162.75件)、八王子市153.92件、葛飾区99.75件などが多くなっている。

年齢階級別報告数では、2歳代が1,311件と最も多く、1歳～4歳が4,659件と全報告の65.8%を占めている。

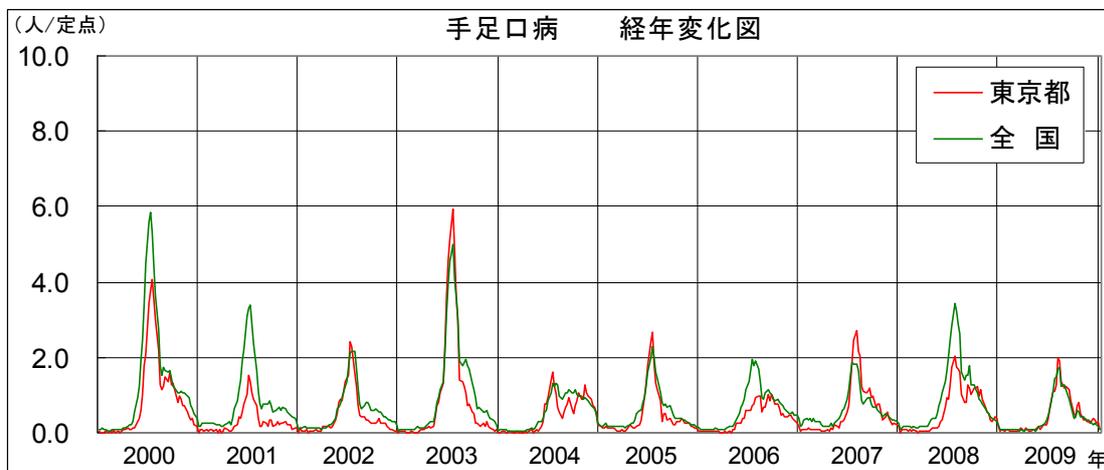
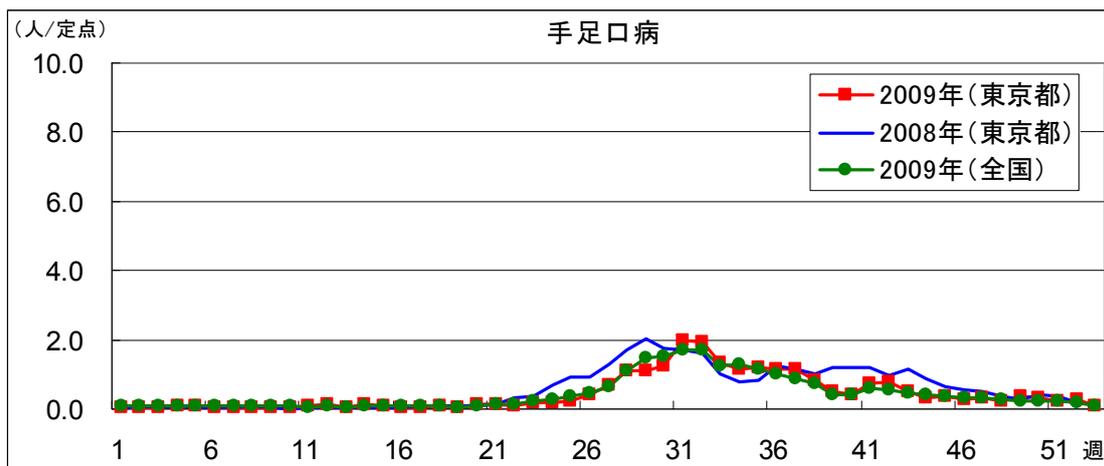


キ 手足口病

2009年の報告数は3,426件、定点当たり23.36件であった。前年と比較すると前年比0.76と減少しているがここ10年の定点当たりの報告数の平均は28.40なので平年並の流行であったと考えられる。

週別の定点当たりの報告数を見ると、28週～37週（7月7日～9月14日）に報告数が1.00件を超え、31週（7月28日～8月3日）に1.98件とピークになっている。

保健所別定点当たり報告数では、前年7.00件であった島しょが2009年には56.00件と増加している。年齢階級別報告数では1歳代が986件と最多であり、前年と同様である。



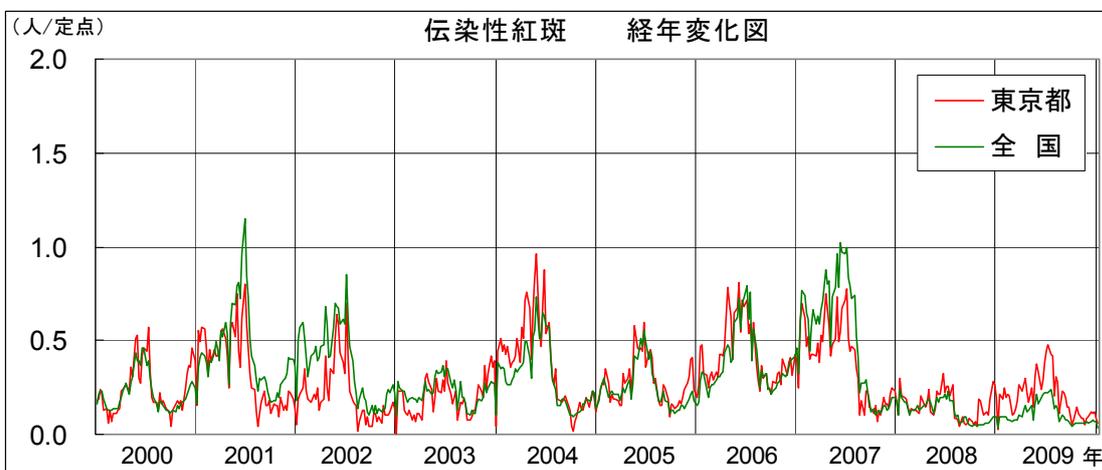
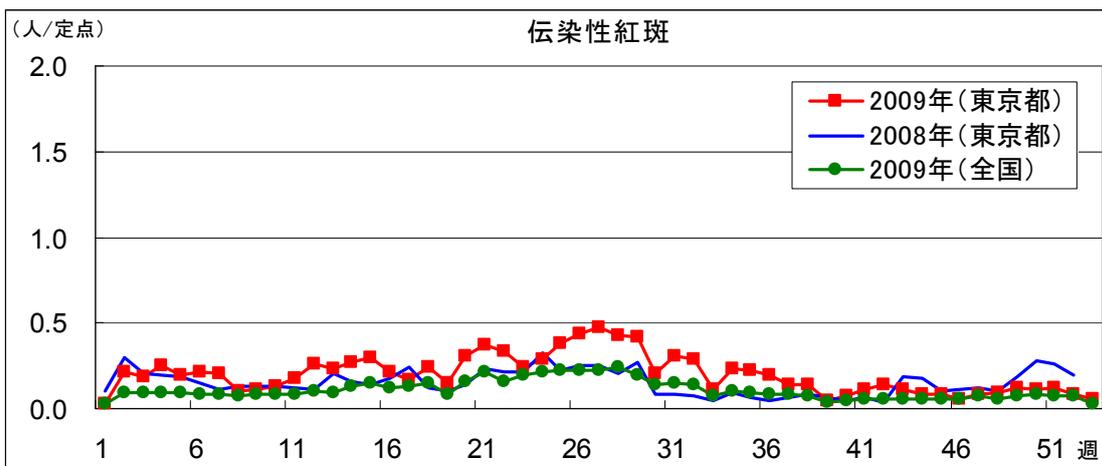
ク 伝染性紅斑

2009年の報告数は1,558件、定点当たり10.54件で前年より増加したが、ここ10年の定点当たりの報告数14.53件と比較すると少なかった。

週別定点当たりの報告数では、26週～29週（6月23日～7月20日）にかけて報告数が0.40件を超え、27週（6月30日～7月6日）が0.47件と最も多い報告があった。

保健所別定点当たり報告数では町田67.83件（前年30.25件）、大田区24.00件（前年22.58件）が報告数が多かった。

年齢階級別報告数では前年と同様4～5歳にピークが見られる。



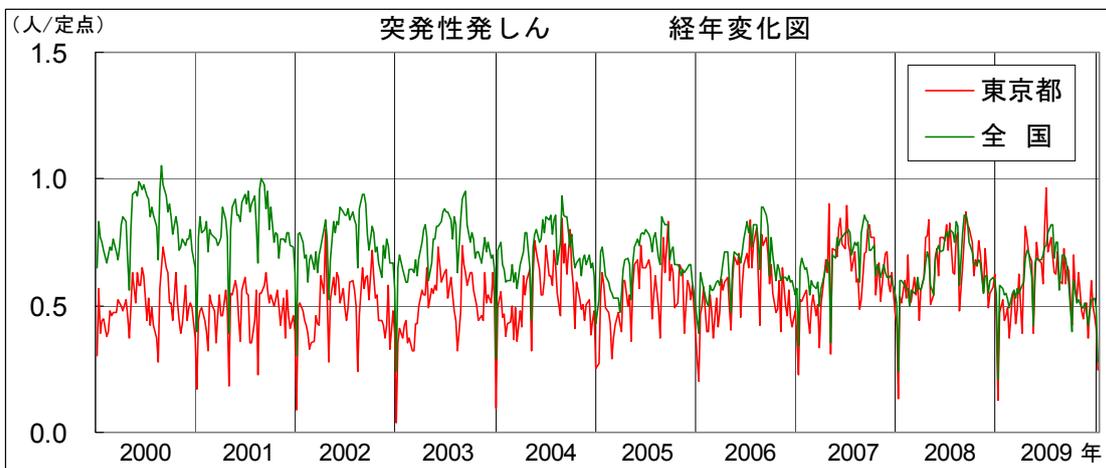
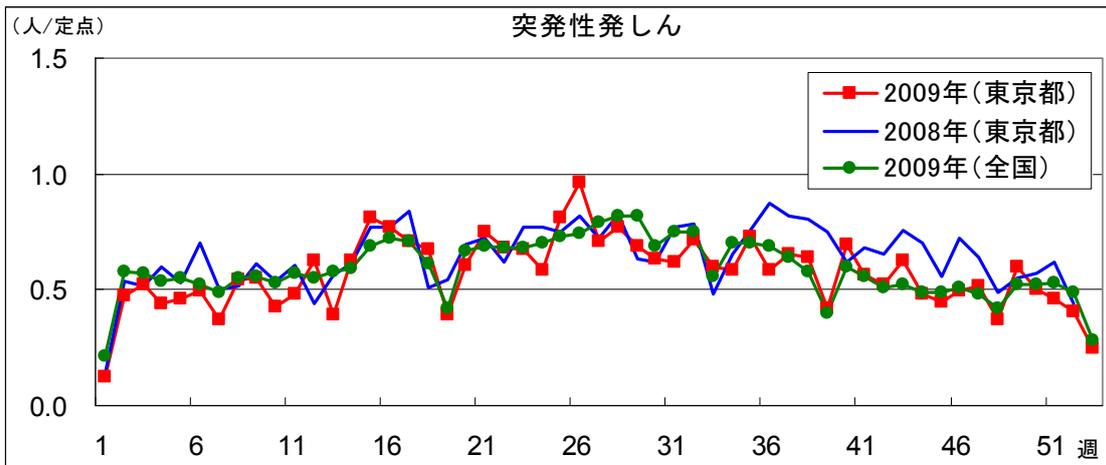
ケ 突発性発しん

2009年の報告数は4,463件、定点当たり30.24件であり、ここ10年の定点当たりの平均報告数28.44件と比較して変わりがなかった。

週別定点当たりの報告数は、26週(6月23日～6月29日)に0.97件と小さなピークが見られるが、例年どおり季節変動は少ない。

保健所別定点当たり報告数では、町田77.92件(前年89.25件)、八王子71.00件(前年33.49件)、多摩小平54.93件(前年60.83件)が多い。

年齢階級別では、4,463件中4,084件(91.4%)が1歳以下である。



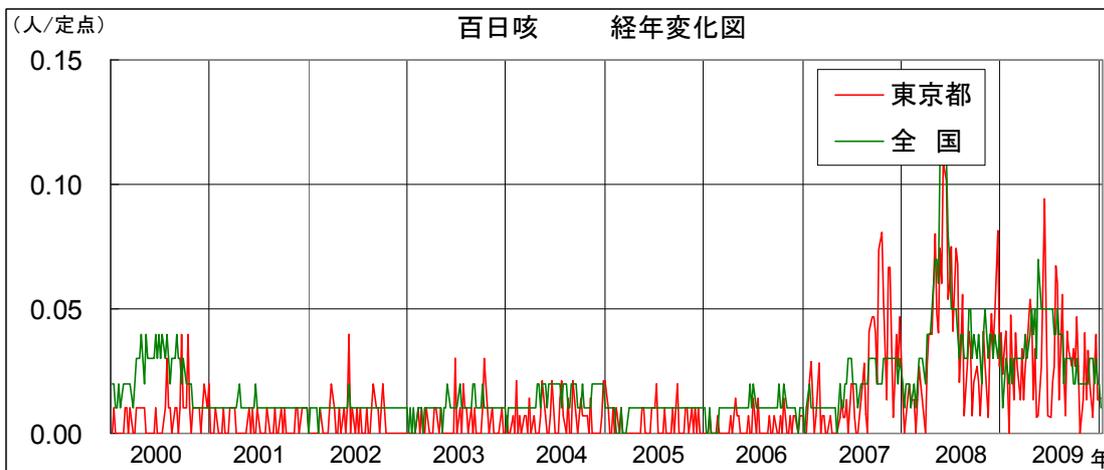
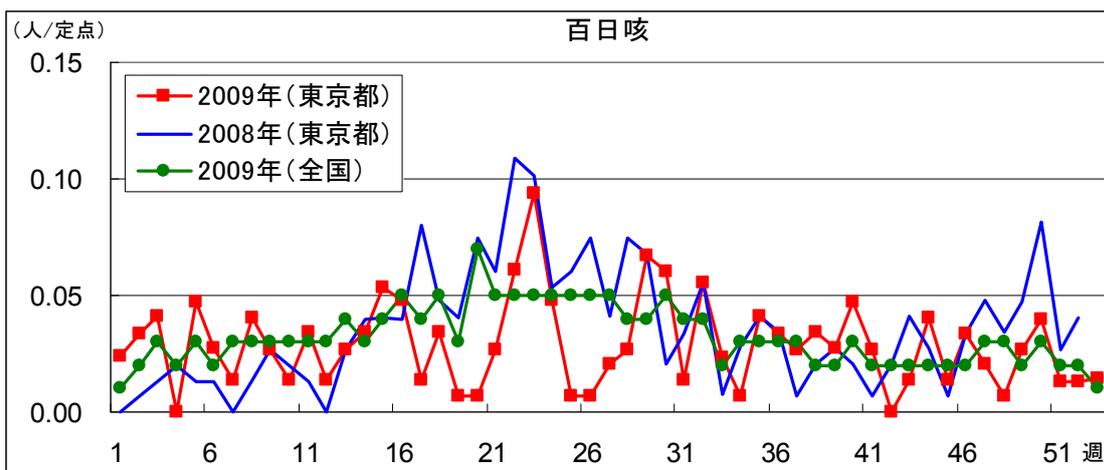
コ 百日咳

2009年は225件、定点当たり1.53件が報告された。

週別報告数では、23週（6月1日～6月7日）に14件が報告され、週別では最も多いが通年にわたって少数ではあるが報告されている。

保健所別では大田区が76件（定点当たり8.78件）、八王子市29件（定点当たり7.25件）が多い。

年齢階級別では0～4歳47件、5～9歳16件、10～14歳25件、15～19歳9件、20歳以上128件が報告された。



サ ヘルパンギーナ

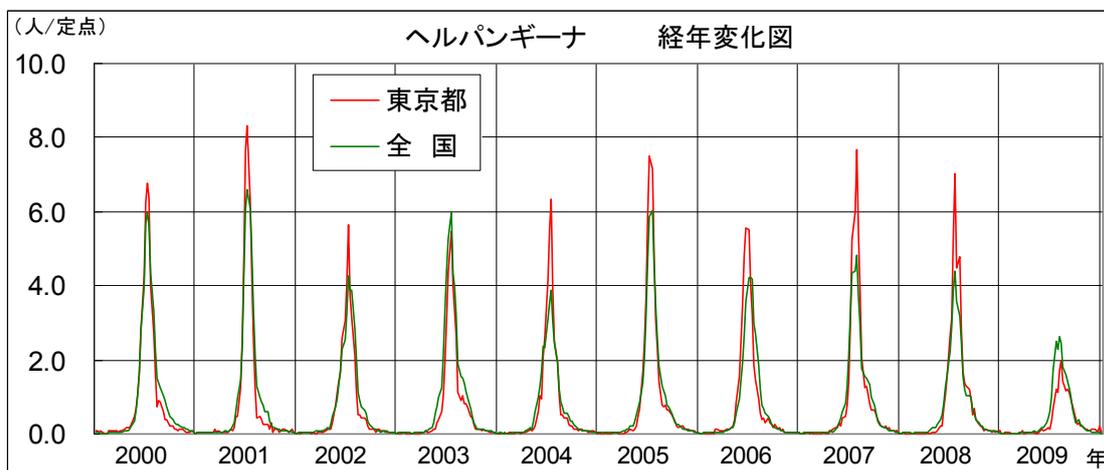
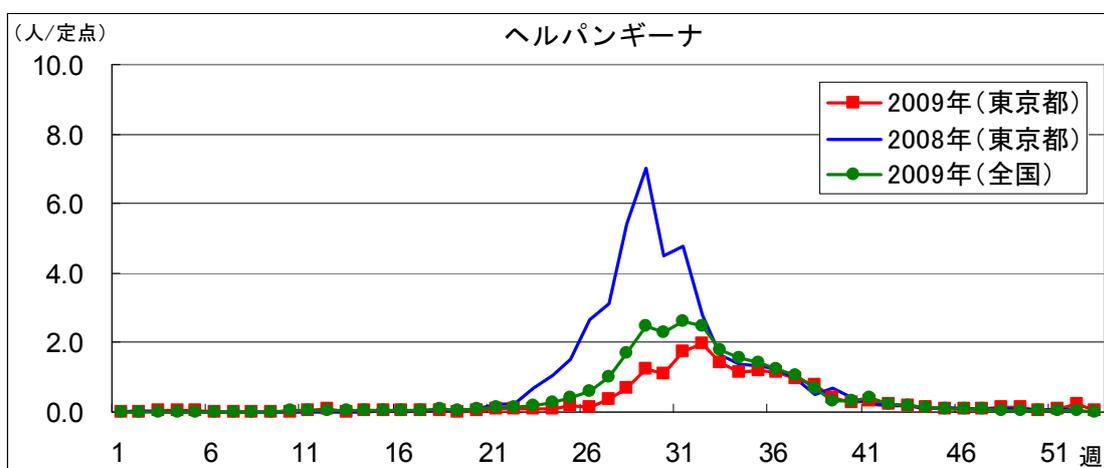
2009年の報告数は2,574件、定点当たりの報告数は17.63件である。

ここ10年の定点当たりの平均報告数は39.73件であり、2009年はここ10年で最も少ない報告数となっている。

週別定点当たり報告数は29週～36週（7月14日～9月7日）で1.00件を上まわり32週（8月4日～8月10日）が1.99件と最も多くなっている。

保健所別定点当たりの患者報告数は、町田92.25件、江戸川51.75件と前年と同様に多く報告されている。

年齢階級別では2,574件中2,069件が5歳未満であり80.4%を占めている。



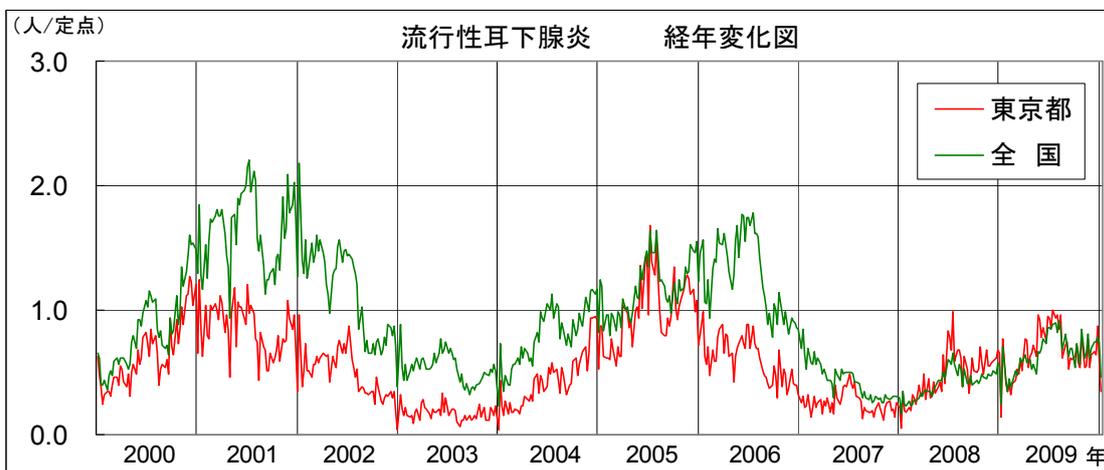
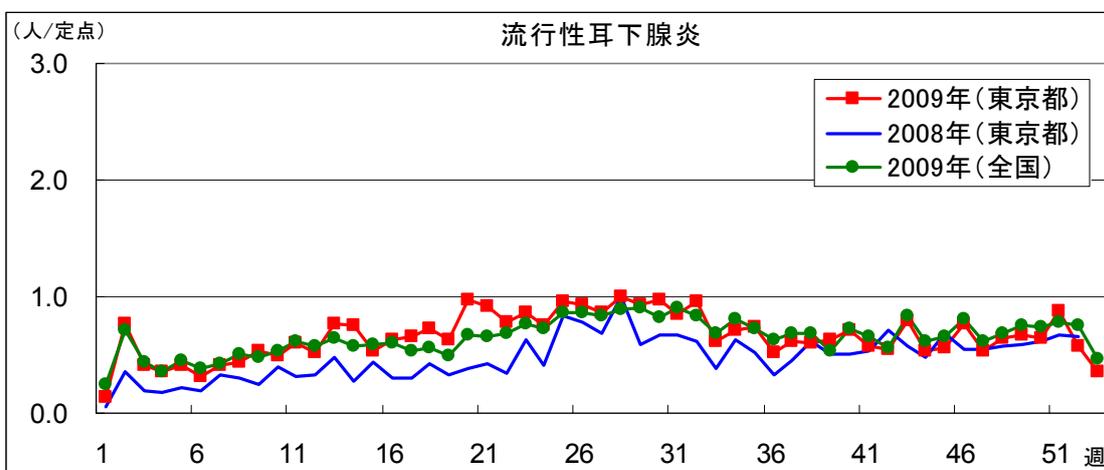
シ 流行性耳下腺炎

2009年の報告数は5,175件、定点当たり35.05件であり前年より増加している。またここ10年の定点当たりの平均報告数29.22件を上まわっている。

週別定点当たりの報告数が1.00件を超えたのは28週（7月7日～7月13日）だけであり、この週前後にゆるやかな山が見られる。

保健所別定点当たり報告数は町田193.92件、西多摩92.30件が多く、前年192.00件と最も多かった荒川区は本年は18.00と減少している。

年齢階級別報告数では5,175件中、4歳代が864件と最も多く、その前後の3歳～6歳で3,016件58.3%を占めている。



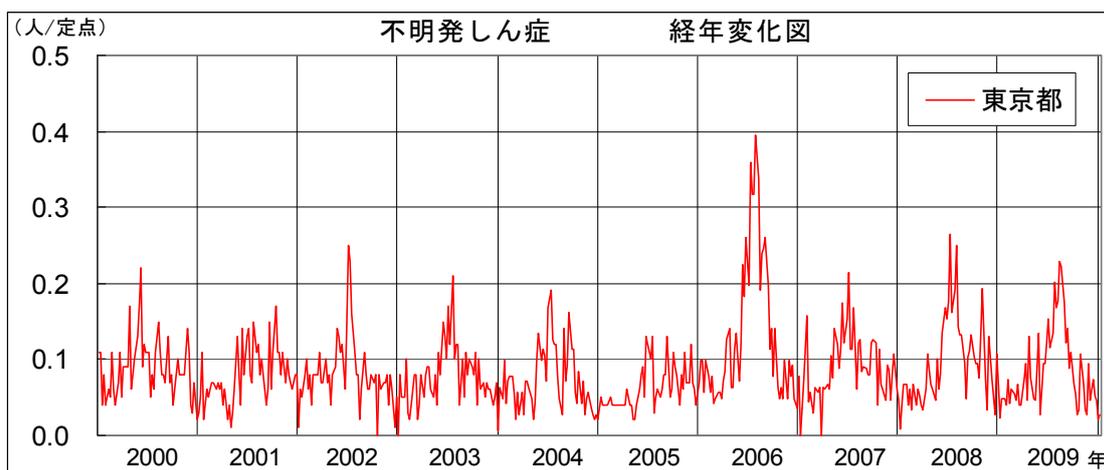
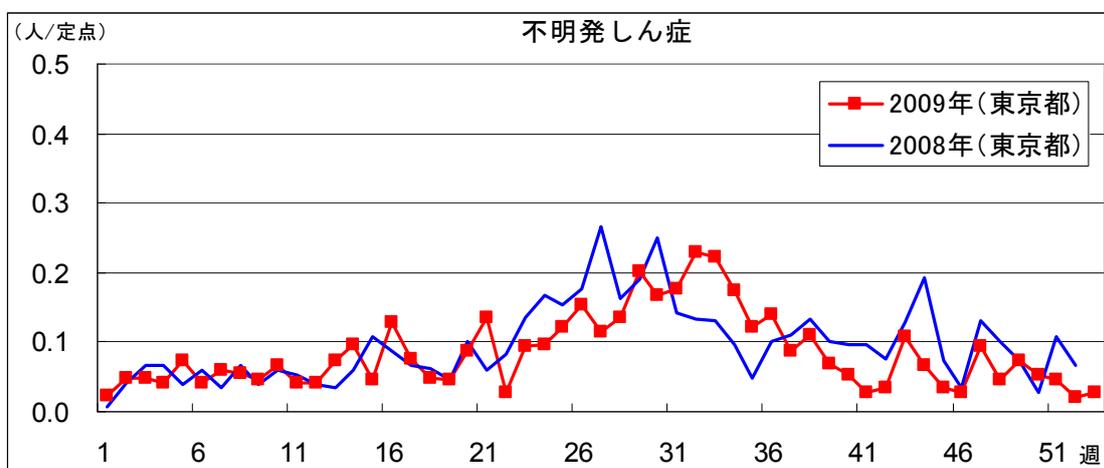
ス 不明発しん症

2009年は657件が報告された。定点当たりの報告数は4.48件でここ10年の定点当たりの報告数の平均4.49件と同様であった。

週別定点当たり報告数では32週～33週（8月4日～8月17日）で0.20件を超え、この前後に山が見られる。前年も27週（6月30日～7月6日）と30週（7月21日～7月27日）に0.20件を超えている。

保健所別定点当たり報告数は町田38.42件（前年21.25件）、荒川区13.00件（前年17.00件）の両地域に報告数が多く見られた。

年齢階級別報告数では、1歳代が195件と最も多く、3歳以下が657件中512件であり77.9%を占めている。

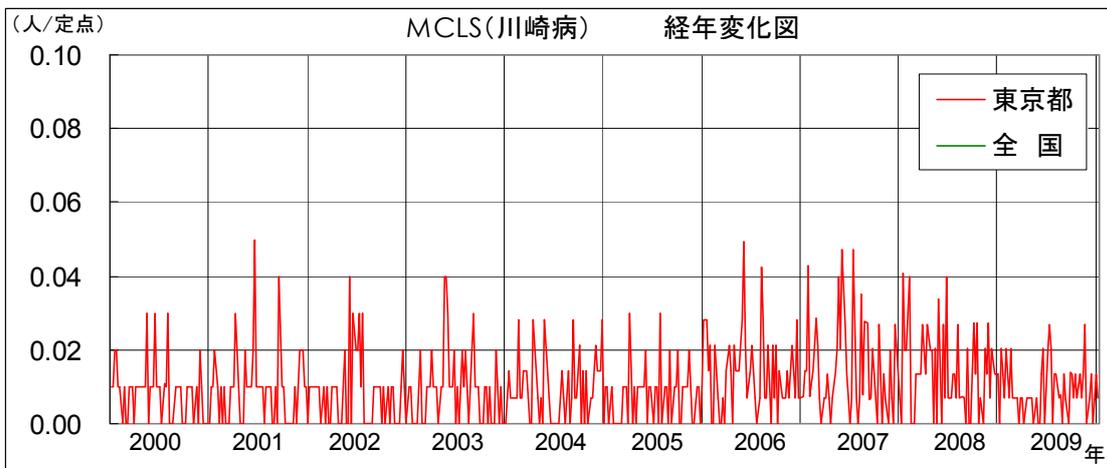
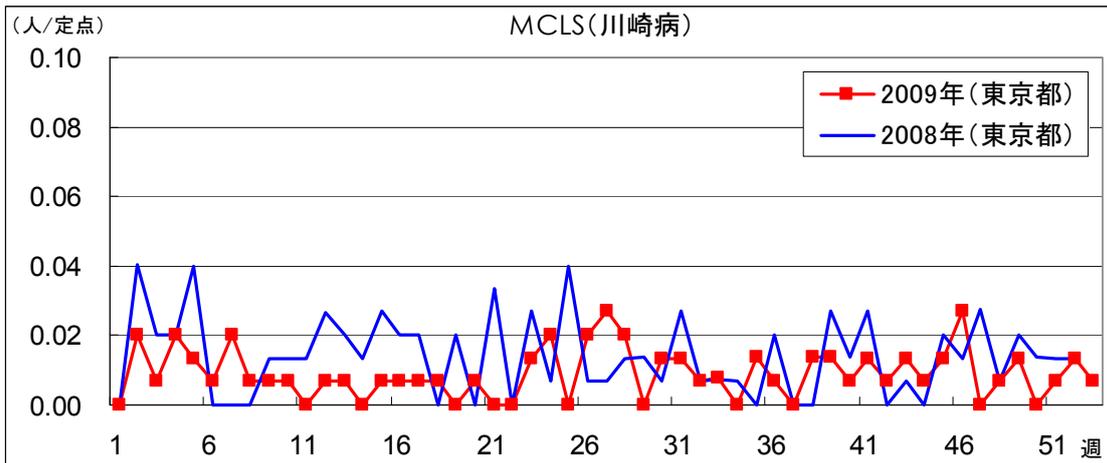


セ MCLS(川崎病)

2009年の報告数は71件、定点当たり0.48件であった。前年の109件定点当たり0.73件と比して減少しており、ここ10年の定点当たりの平均0.54件と比較しても少ない報告数である。

週別報告数は報告数が少ないため傾向はうかがえない。

年齢階級別報告数では1歳以下が71件中43件で60.6%を占めている。



(3)眼科疾患

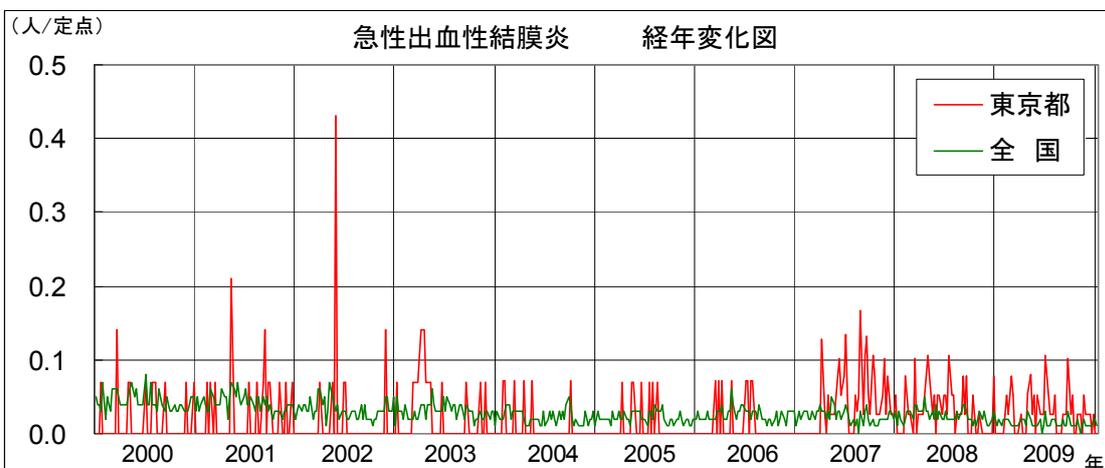
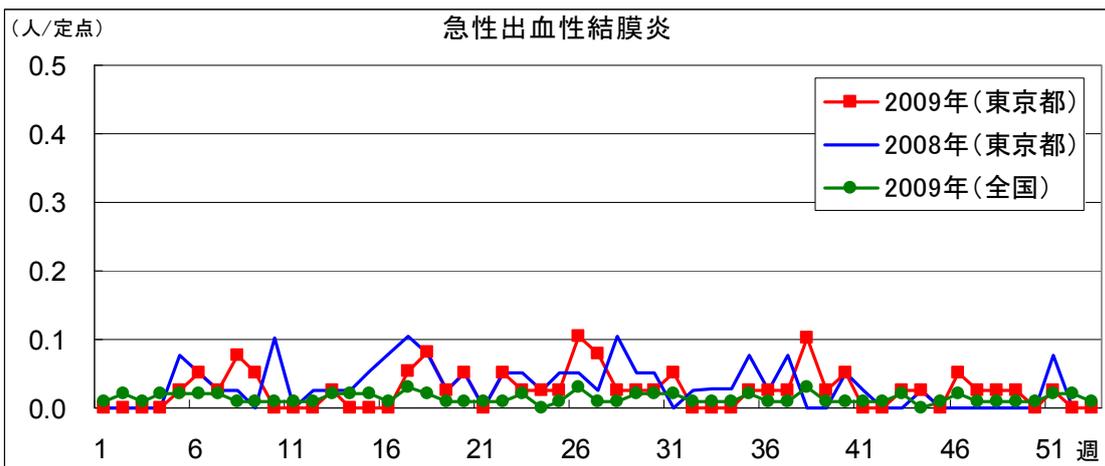
ア 急性出血性結膜炎

2009年の報告数は53件(1.37/定点)で、前年(64件、1.66/定点)比82.8%と減少した。しかしながら、減少傾向にはあるが確実に存在しているということが引き続き示された。

患者発生数の推移では、第8週(2月)、第18週(5月)、第26週(6月)、第38週(9月)と小さなピークが4回見られたが、その他は10月から12月にかけて少数散発を認めるのみで、大きなピークは見られず、平均的に分散していた。週別の定点当たり報告数は0~0.11で、平均すると0.03/定点/週という発生となり、2008年と同じ値であった。全国の発生動向は、定点当たり発生数ではほとんどピークが見られず、東京よりもさらに低いレベルで分散した発生となっていた。

地域的には、昨年同様足立区が13.50/定点と突出しており、次いで葛飾区が8.00/定点、品川区が2.00/定点であり、眼科定点のある12医療圏のうち、報告のあったのは9医療圏で、区部が全体の91%を占めた。また、区中央部圏、西多摩圏、北多摩北部圏からは報告がなかった。

罹患年齢では、30歳代をピークに30~59歳で全体の60%を占め、さらに10~29歳で20%を占めており、活動範囲との相関が推測された。また、1歳未満の発生報告はなかった。



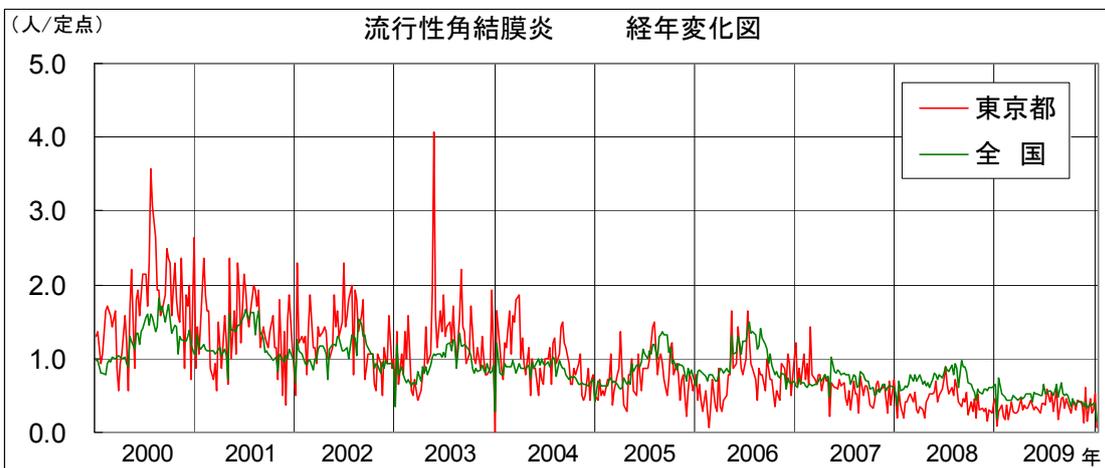
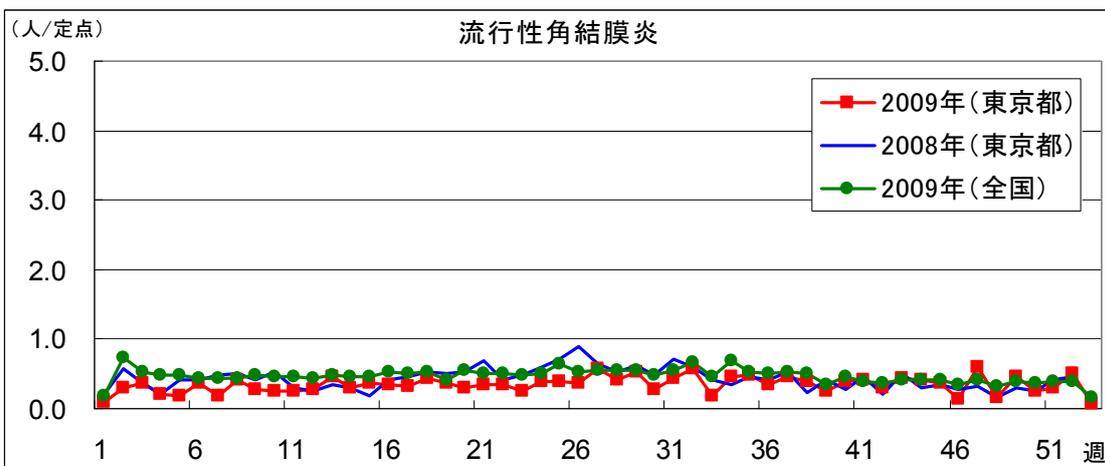
イ 流行性角結膜炎

2009年の報告数は703件（18.28/定点）で、前年（865件、22.41/定点）比81.27%と減少した。定点当たりの報告数は2000年（88.57/定点）をピークに以後毎年減少し、2005年に50.00/定点を割り、2006年に40.00/定点を割り、本年は20.00/定点をも割り込んだ。

患者発生は全週に見られ、一週当たりの発生件数は2～23件で推移していた。週当たり20件を超えたのは第27週（6～7月）、第32週（8月）、第47週（11月）の3回だけで、その一方10件未満の報告は53週中8週に過ぎず、概ね10件台の発生で推移しており、特別なピークは見られなかった。週別の定点当たり報告数では0.06～0.61となり、平均すると0.34/定点/週という発生であった。全国でも週別の発生は1.00/定点を割る低い発生状況で大きな変動は見られないが、東京は本年もさらに低いレベルで同様に推移していた。

地域的には全ての地区から報告があり、新宿区の56.50/定点を筆頭に、文京、多摩小平、中央区が突出しており、いずれも30.00/定点を越えていた。その一方で、町田、池袋の2地区が5.00/定点を割っていた。なお、新宿区と文京は大学施設が定点に含まれていることが影響していると考えられた。23区部での発生は537件（19.89/定点）で、多摩地区では166件（13.83/定点）であった。

罹患年齢の傾向は例年通りで、全ての年齢階級から報告がなされたが、20歳から39歳が347件と約半数を占め、20歳から59歳が507件（72.1%）であった。10歳未満は72件（10.2%）であったが、うち54件が5歳以下であった。

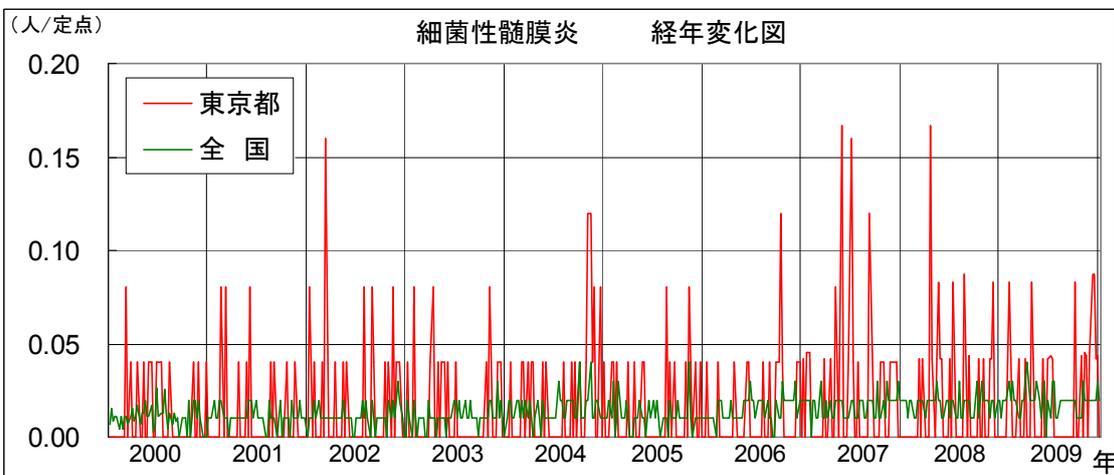
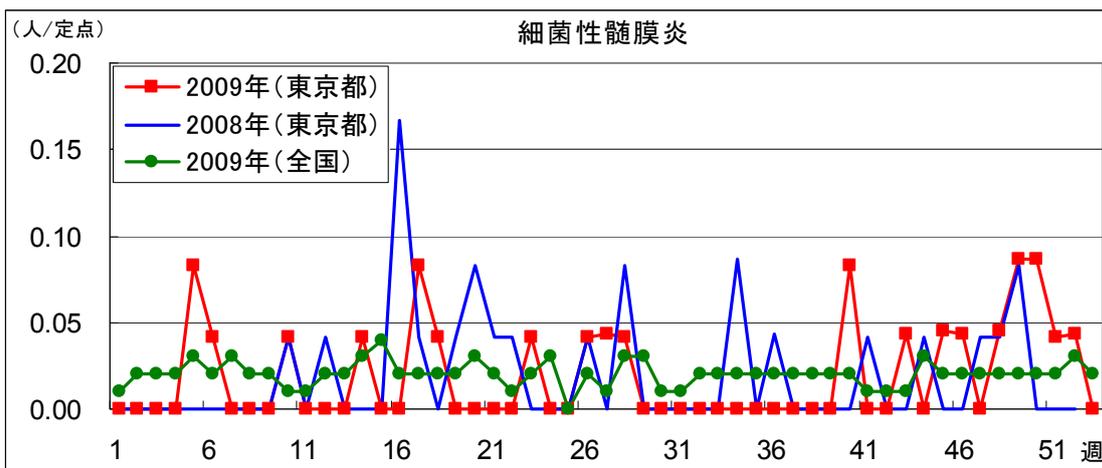


(4) 基幹定点における週報告疾病

ア 細菌性髄膜炎

2009年の患者報告数は24件で前年と同数である。定点あたりは1.02件でこの10年の平均0.82件よりやや多い。

週別報告数を見ると、報告数が無いが、1~2件の報告数にとどまり、特に集積していると思われる週は見られない。保健所別報告数で見ると、24件中12件が多摩府中より報告されており、前年の3件に比して増加している。また年齢階級別報告数を見ると、2歳以下が13件で54.2%を占める。

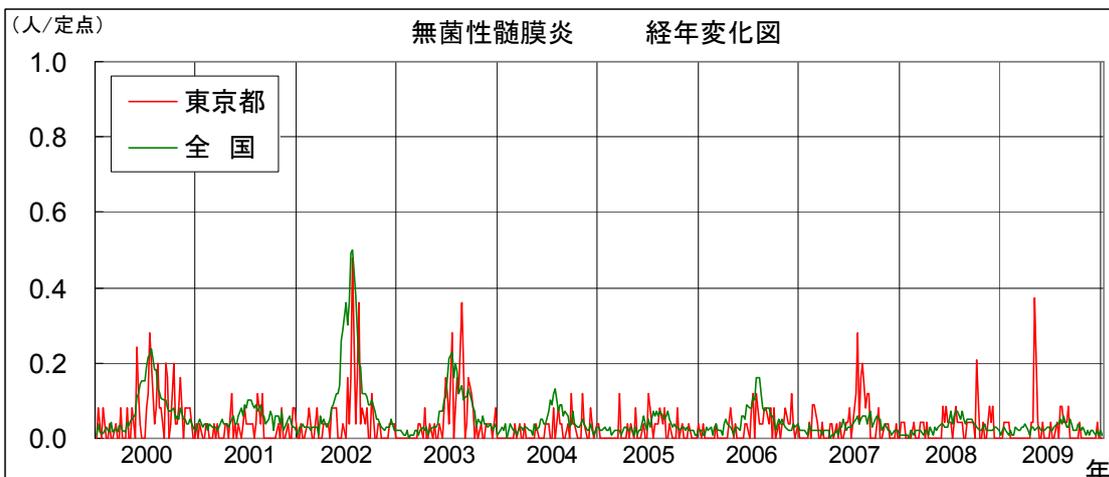
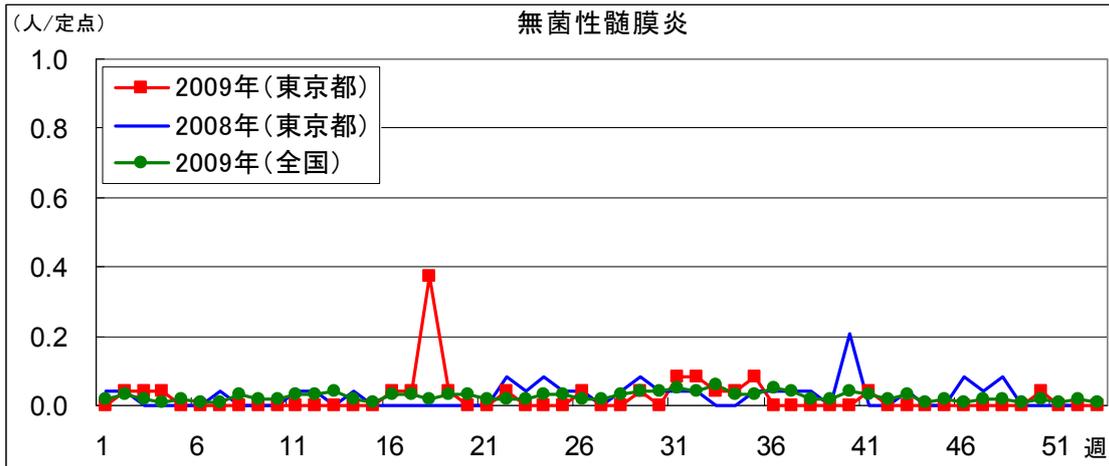


イ 無菌性髄膜炎

2009年の報告数は28件で定点当たり1.17件である。ここ10年の定点当たりの平均1.72件と比して少ない。

週別報告数を見ると18週(4月28日～5月4日)にとび抜けて多い9件の報告があった。保健所別報告数では、新宿区が前年の6件より12件と増加し、最も多くなっている。

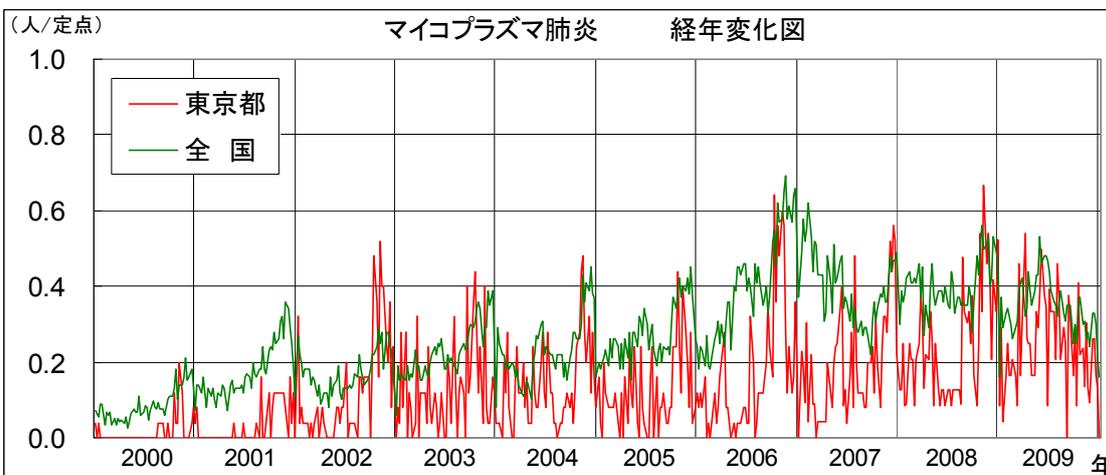
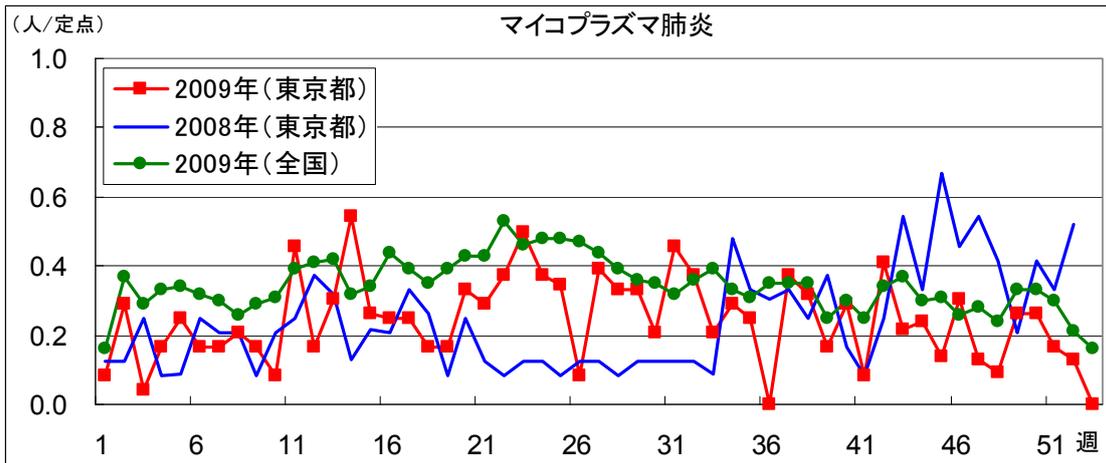
年齢層別報告数では10歳未満が21件と75%を占めている。



ウ マイコプラズマ肺炎

2009年の報告数は305件で、定点当たり報告数は12.93件でここ10年では最多となっている。

週別定点当たり報告数が0.50を超える週は、14週（3月31日～4月6日）と23週（6月2日～6月8日）に見られるが、明らかな季節変動は見られない。保健所別定点当たり報告数では、葛飾区が131.00件（前年134.00件）、新宿区34.00件（前年26.00件）、多摩府中28.50件（前年13.00件）が多く報告されている。

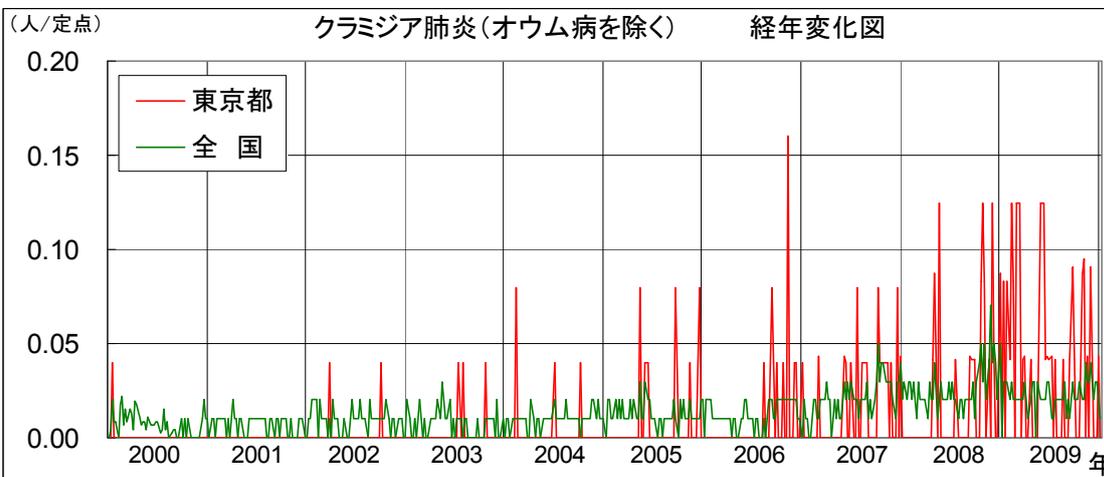
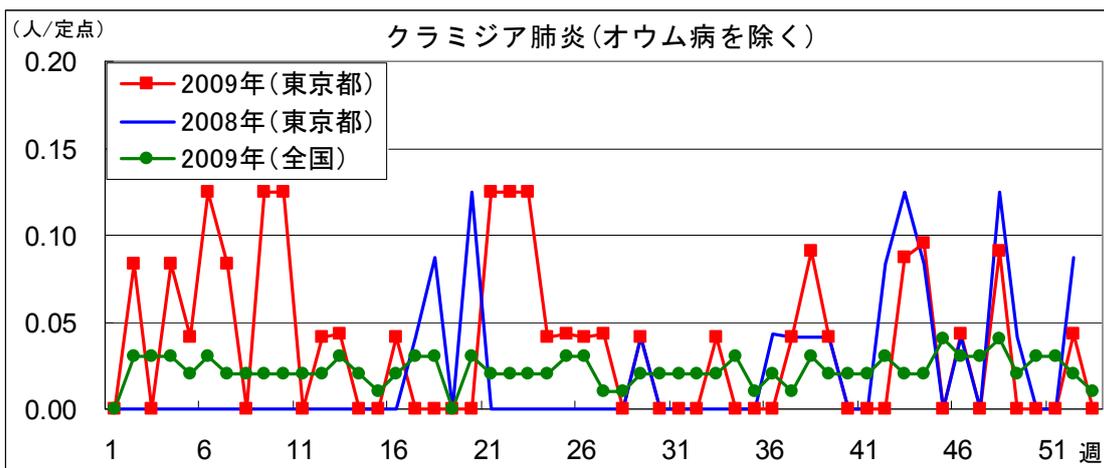


エ クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2009年の報告数は46件、定点当たりの報告数は1.96件でこの10年で最多である。

週別定点当たり報告数で0.10を超える週が、6週(2月4日~2月10日)、9週~10週(2月25日~3月9日)、21週~23週(5月19日~6月8日)に見られたが、年によって変動があり季節性ははっきりしない。

保健所別報告数では葛飾区が33件であり全都の71.7%を占めている。年齢階級別では60歳以上が31件で全体の67.4%である。



(5) 基幹定点における月報告疾病

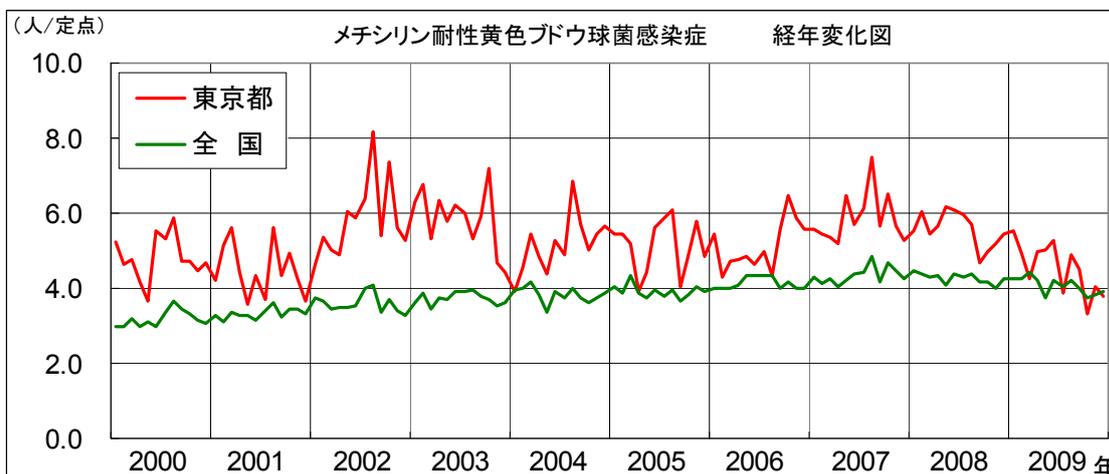
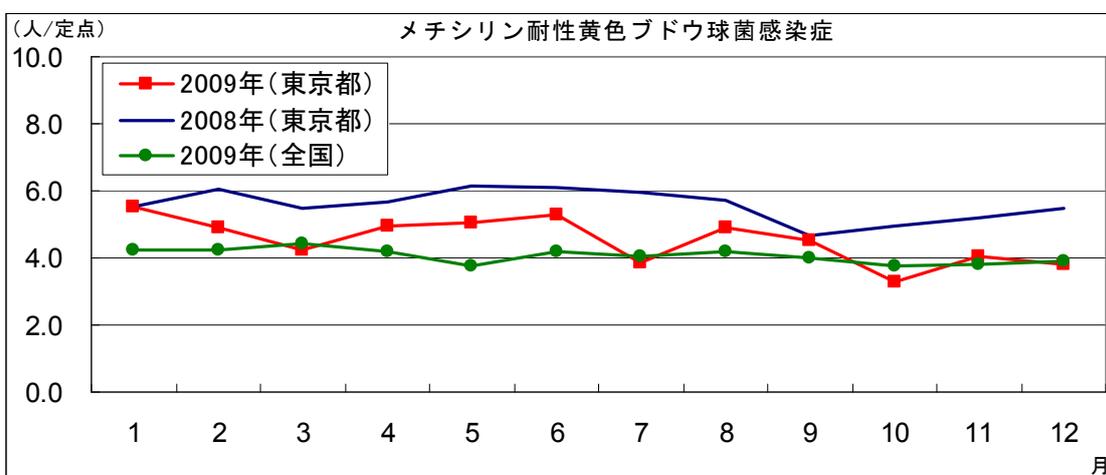
ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2009年の報告数は1,290件、定点当たりの報告数も54.44件と前年を下まわっており、ここ10年で最も少ない報告数になっている。

月別定点当たり報告数は最少が10月の3.30件であり、最多が1月の5.54件となっており、季節変動ははっきりしない。

男女別では男性821件、女性469件の報告数があり、男性が多いが男女とも報告数は前年を下まわっている。

年齢層別では60歳以上が69.8%を占めている。

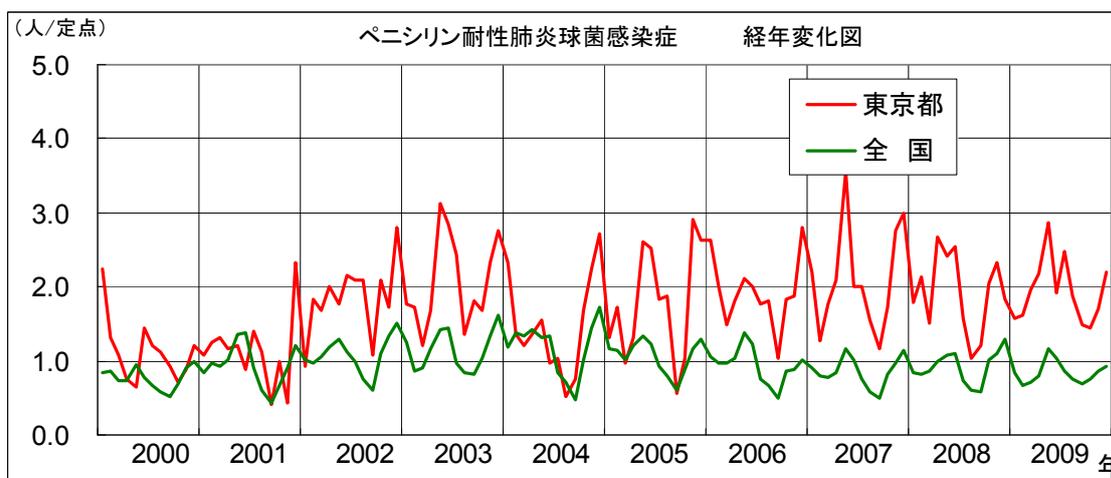
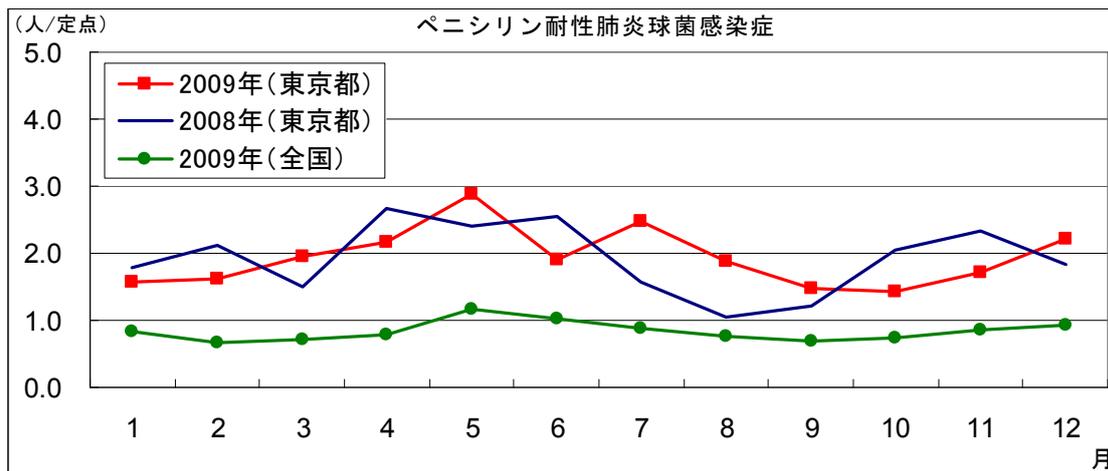


イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2009年の報告数は552件、定点当たり報告数は23.30と前年とほぼ変わりはない。月別報告数を定点当たりで見ると、1.43件（10月）～2.88件（5月）に分布している。

男女別では男性317件、女性235件と男性に多いが、前年比では男性はやや減少、女性はやや増加となっている。

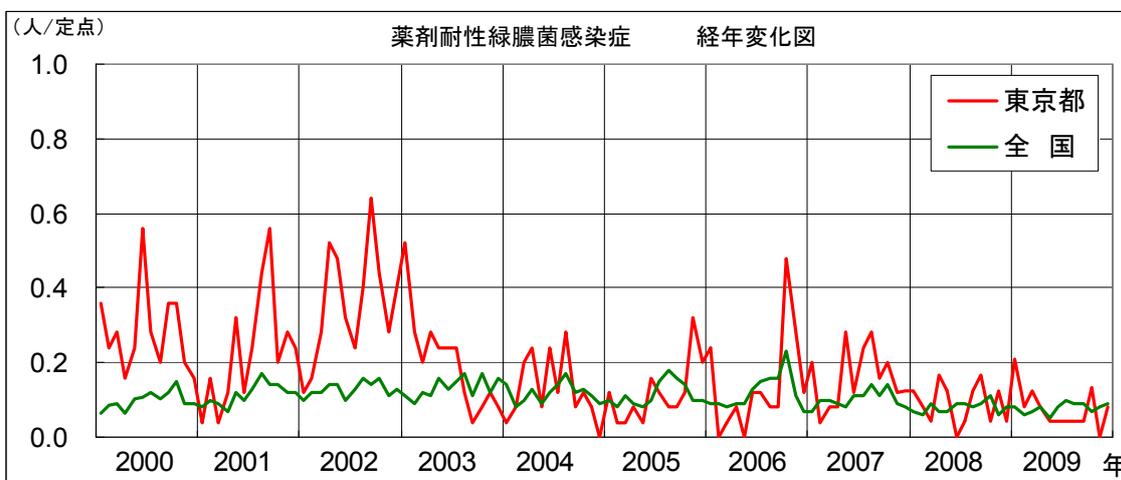
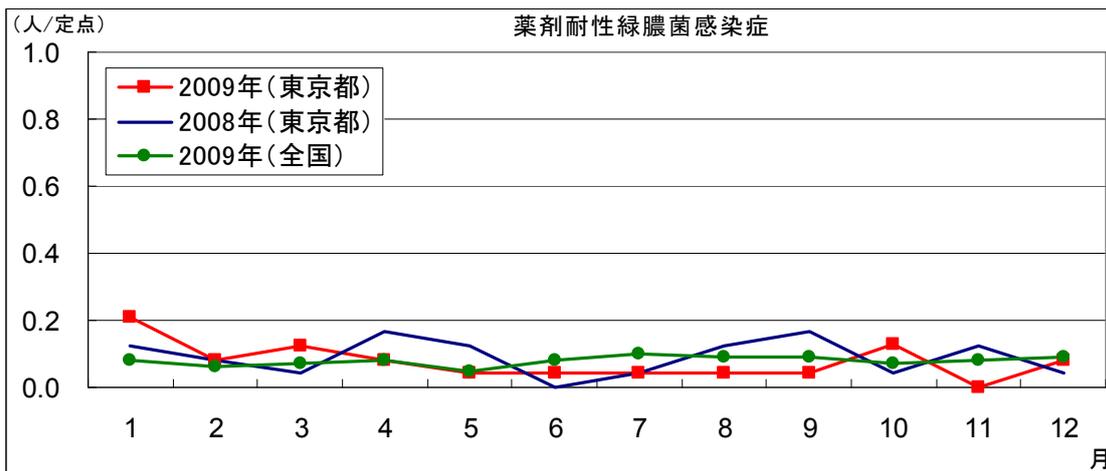
年齢層別では4歳以下が352件で全体の63.8%を占めている。



ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

2009年の報告数は22件、定点当たり0.93件の報告数であり、この10年で最も少ない報告数であった。

月別報告数は1月が5件と最多であったが、前年は4月と9月が多く、季節性は明確でない。男女別では男性14件、女性8件で、前年比では男性が減少する一方、女性では増加が見られた。年齢層別では60歳以上が12件で54.5%を占めている。

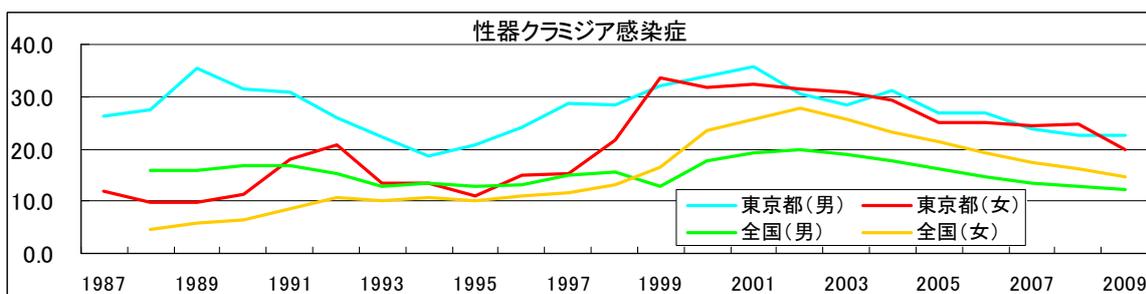
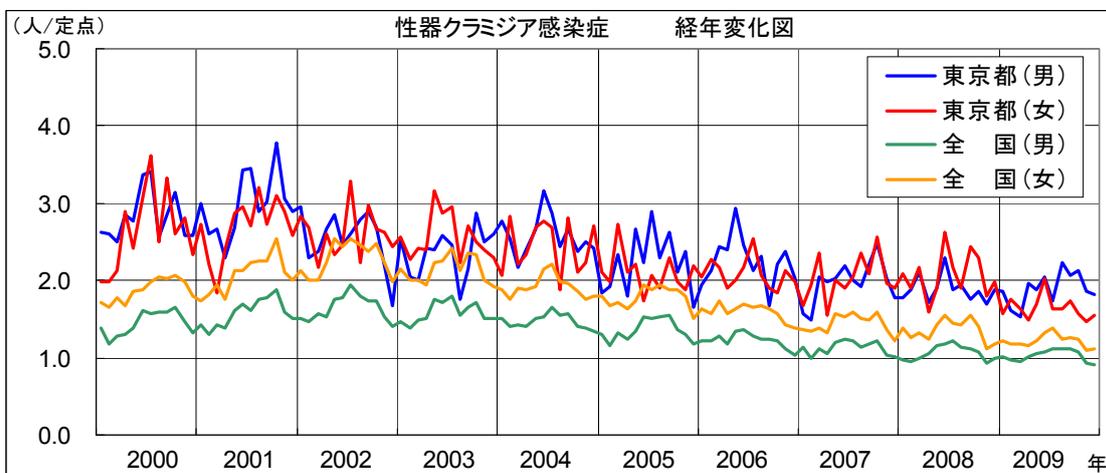
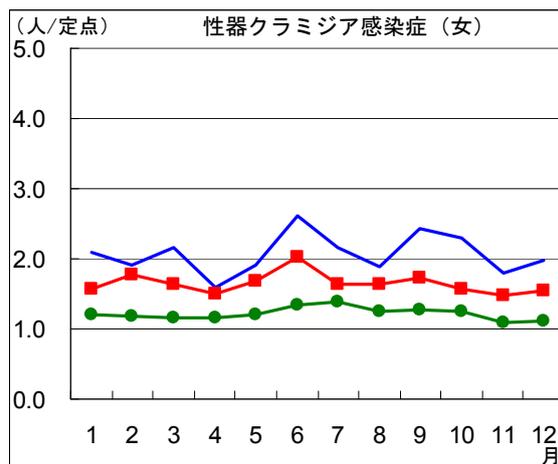
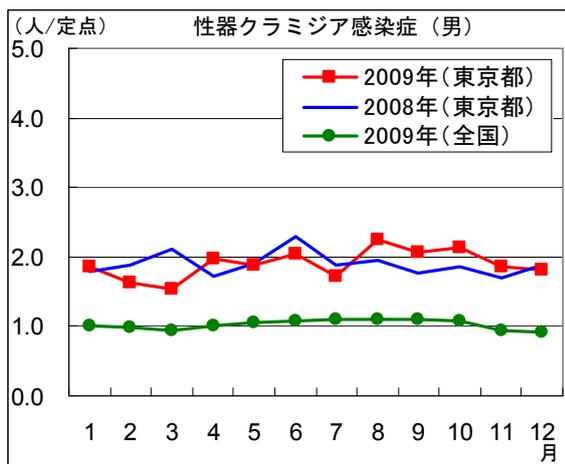


(6) 性感染症 (STI)

感染症抑制には、疫学の嚆矢となった「ロンドンの上水汚染によるペスト流行の原因解明による終息」の故事によるまでもなく、的確な疫学調査による高リスク者の把握、情報公開と根拠に基づく適切な対策が必要である。HIV/エイズの症例数は、他の STI の減少傾向とは異なり、2008 年まで増加したが、2009 年は都で 13.4%減少した。STI も HIV/エイズも抑制不可能ではなく、高リスク層への普及啓発により抑制可能である。最近の映像伝達技術の発展により性活動は性器に限らず全身接触に変化し、淋菌の咽頭、直腸感染に代表されるように「STI 起因菌の性器外感染」が多発している。医療はこの現況に追いつかず、例えばクラミジア抗体陽性症例診療において「尿のみの病原体検査陰性」によりクラミジア感染を否定するなどの不正確な対応となっている。性器外感染の増加から STI 病原体検出について性器とともに咽頭、直腸など複数部位からの同時検体採取の保険適用が求められる。サーベイランスについても性器外感染を報告に含める必要がある。日本で発見、命名された成人 T 細胞白血病は、サーベイランス対象外であるが、感染の大部分を占める母子感染は「断乳による防止」が可能である。本年産婦人科学会により妊婦検診が提案されたことは遅ればせではあるが喜ばしい。

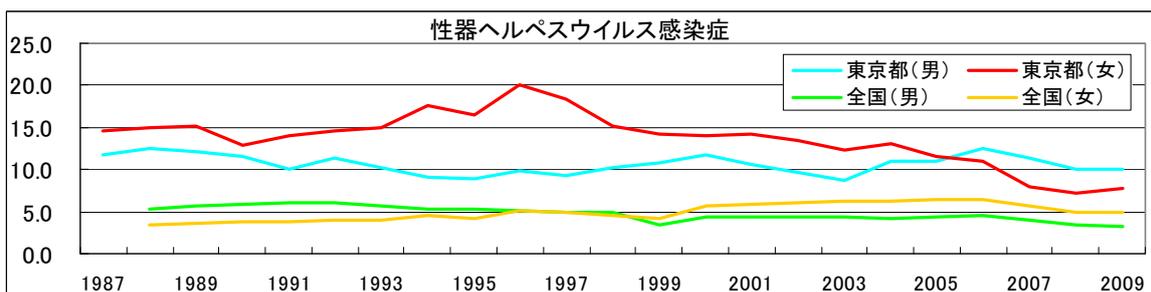
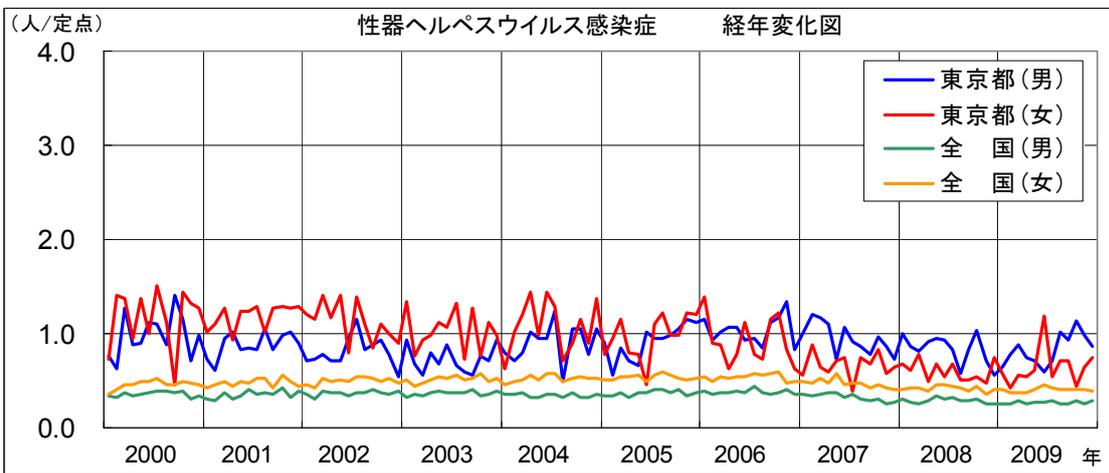
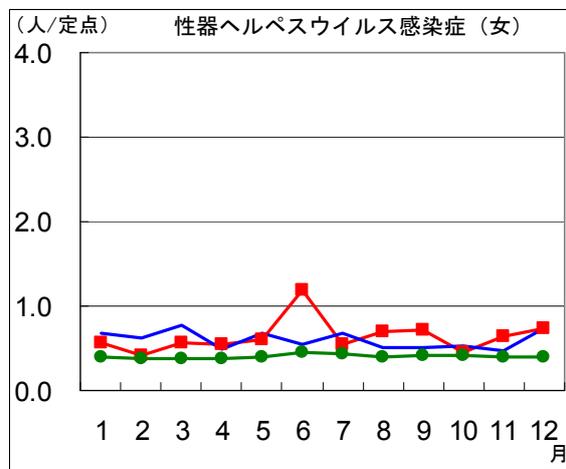
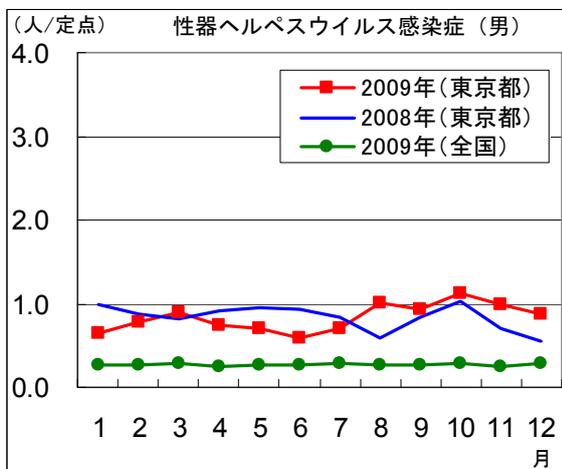
ア 性器クラミジア感染症

定点当たり報告数は男子 12.74 (22.67)、女子 19.77 (24.84)。一般的には「クラミジア感染は減少していない」と云われがちであるが、サーベイランスでは東京都、全国ともに 2000 年代の右肩下りの減少傾向が明白である。南新宿検査・相談室の被検者における梅毒抗体陽性率は男女とも 1%以下であるのに対して、クラミジア抗体陽性率は非 MSM20%超、女子 30%超で減少傾向はない。本症の知識の一般化、アジスロマイシンによる単回投与療法の普及にもかかわらず、抑制が顕著でないのは、本症が STI の中でも特に自覚症状を欠くためであろう。保健所などでの HIV 匿名無料検査の際にクラミジア抗体検査が行なわれることが多いが、一般の疾患に対する理解が不十分で、保健所などでも正しい説明がなされないために抗体検出の目的が達せられない場合が多い。IgA 抗体は活動性感染を意味するのではなく、IgA 抗体と IgG 抗体との間に臨床的意義の相違はない。また IgA 抗体の陽性率は IgG 抗体陽性率より低く、IgG 抗体のみ陽性の感染者も多い。そのため IgA 抗体検出の必要性は低い。クラミジアの治癒は感冒などの抗菌薬服用の際に偶然に起こっている場合が多い。治癒後の抗体陰性化は男子では約 1 年後、女子では約 2 年後であり、抗体陽性はその時点での感染者と治癒後の既往者を含む。抗体陽性で受診しても医師によるクラミジア検出は性器に限られ、咽頭、直腸の感染の有無は不明のままとなる。服薬による陰性化は全ての部位で生じる。以上からクラミジア抗体陽性は約 2 年以内の直近の感染を意味し、その経時的チェックは自分の STI 感染リスクの推移の指標となる。



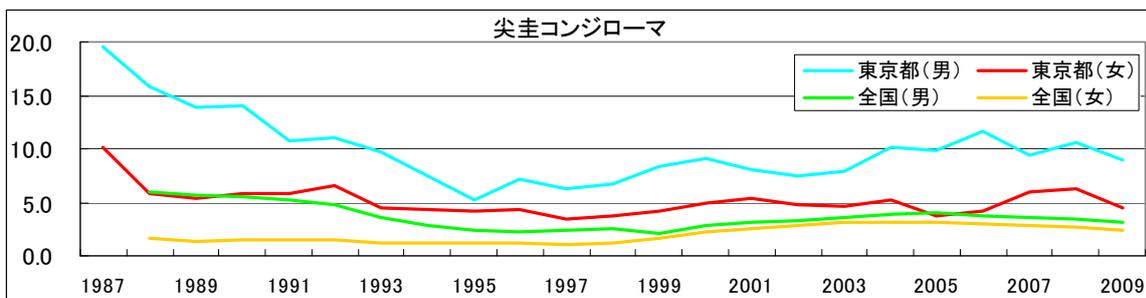
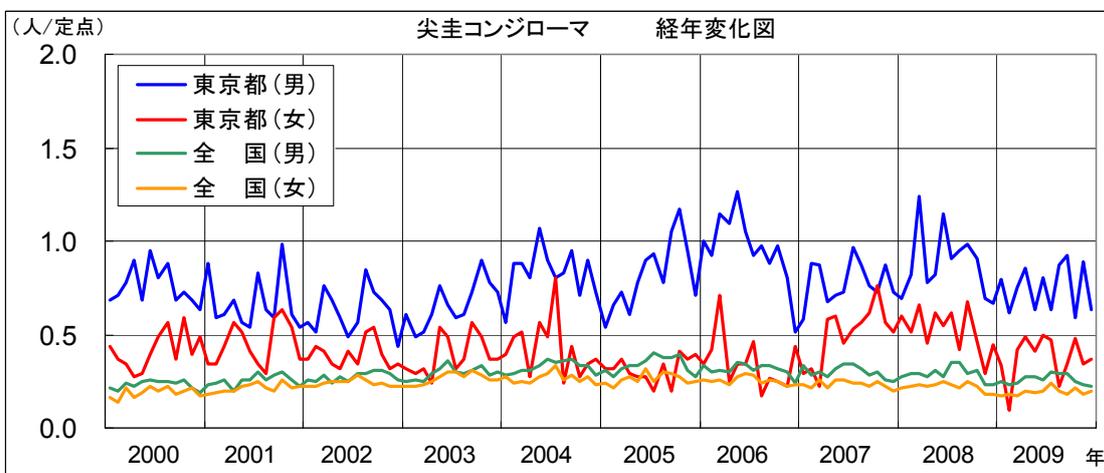
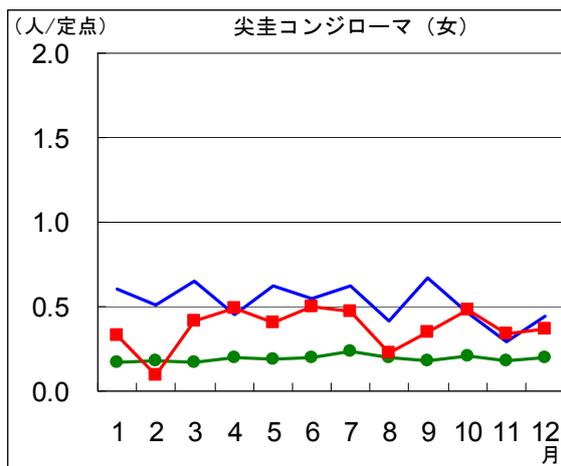
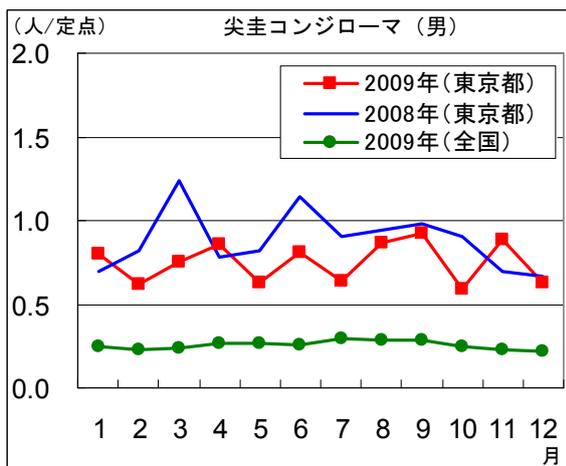
イ 性器ヘルペスウイルス感染症

定点当たり症例数は男子 10.00 (10.03)、女子 7.69 (7.22) で、経年変化図にみるように東京都では全国と異って、2005 年以後はそれまで長期間男子を上廻り続けた女子が男子を下廻り続けている。HSV は初感染による皮疹をつくった後、その領域を支配する神経根細胞に潜在し、過労、ストレスなどにより同一部位に皮疹発症をくり返す。男子では再発は少ないが、女子では症例は少ないが執拗に再発をくり返す症例がある。本症の女子の報告症例数は他の STI に比べて 40 歳以上の年齢層の比率が高く、再発症例の報告が含まれるためといわれる。初発と再発との臨床的識別は容易でないが、サーベイランス報告は初発症例に限るとされている。都では高年齢層の比率の低下があり、再発症例の報告の減少による可能性がある。



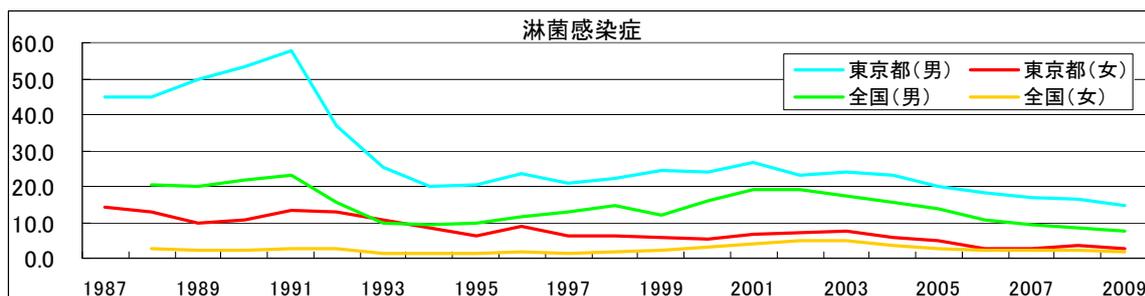
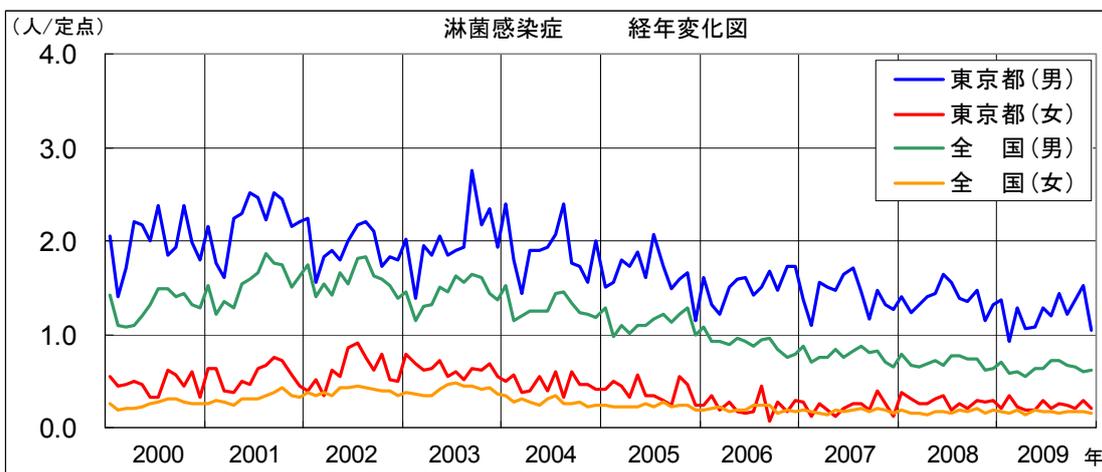
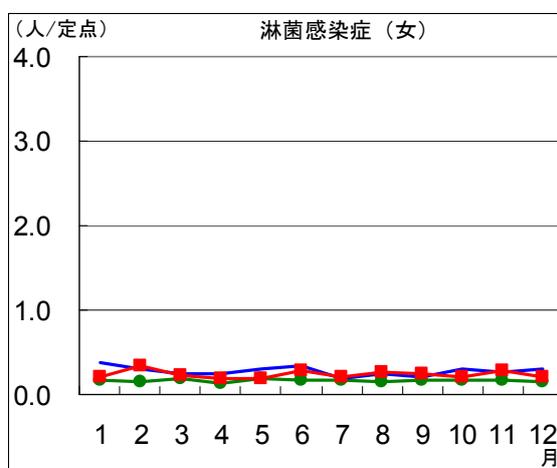
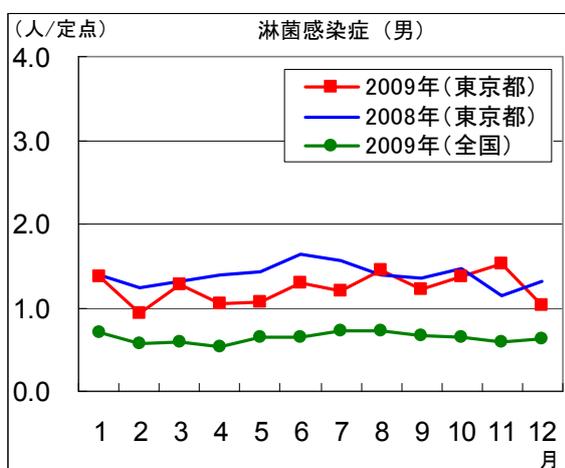
ウ 尖圭コンジローマ

定点当たり報告数は男子 9.0 (10.59)、女子 4.47 (6.29) で、ともに減少した。HPV は 100 種以上存在し、その中に 6、11 型など半年以内の短い潜伏期間で良性である本症を起こすものと、16、18 型など長い潜伏期間の後、子宮頸癌の起因となるものが含まれる。このような HPV に対して日本でも昨年からはワクチン使用が開始された。頸癌は日本で年間約 1 万人発症し、約 3000 人死亡すると言われている。頸癌に対しては細胞診による早期診断、治療法が確立されている。頸癌の細胞には、半世紀継代された Hela 細胞にもみられるように HPV のゲノムが存在する。成人女子の約 80% に HPV の感染歴があると言われるが、大多数は自然に陰性化し、発癌は 1/1000 以下である。感染の経路は性交といわれるが、男子の感染率はきわめて低く、クラミジア抗体陽性率の約 30% と比べてもあまりに多い女子の感染源は不明確である。自然感染の場合、抗体量は少なく検出困難で、抗体があるにしても再感染を防がない。HPV は人工培養不可能で、ワクチンの抗原は遺伝子工学で作られる HPV の骨格タンパクだけのウイルス様粒子 (VIP) で増殖力はない。そのためワクチンは 3 回接種、対象は 10 歳以上の女子とされる。ワクチンは日本では高価なため、接種者は少数に留まると思われる。頸癌の予防効果を評価するには困難が予想される。潜伏期が短い本症のサーベイランス報告数がワクチンの有効性の指標となるかもしれない。



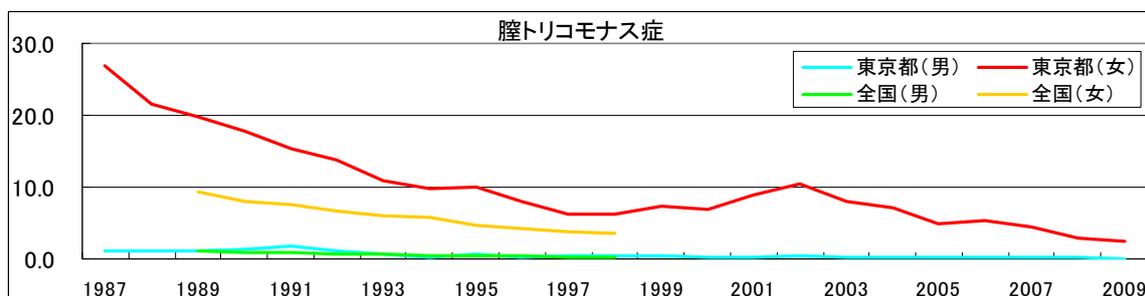
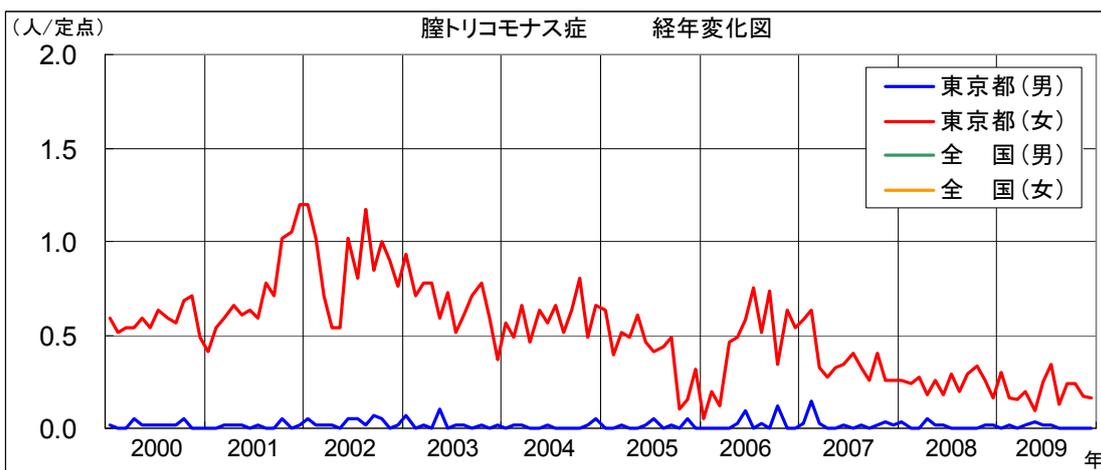
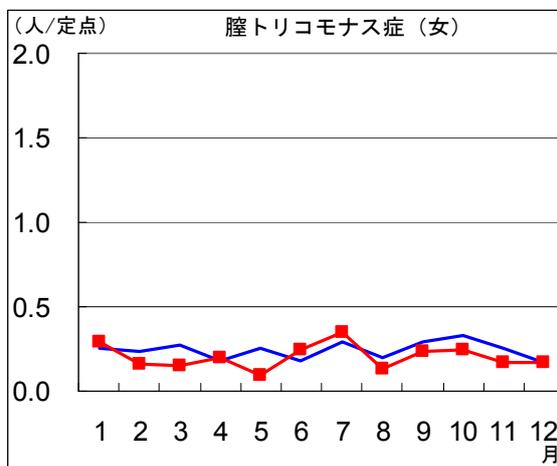
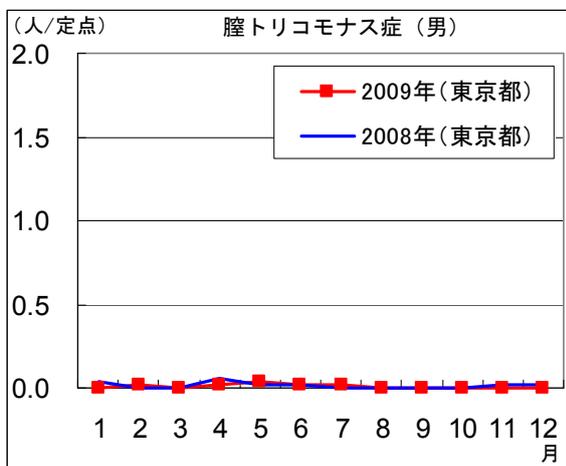
エ 淋菌感染症

定点当たり報告数は男子 14.80 (16.63)、女子 2.87 (3.36) で、経年変化図にみるように東京都、全国ともに 2003 年以後減少傾向が続いている。淋菌はとくに薬剤耐性が速く、サルファ剤、ペニシリン、キノロンとかつての第 1 選択薬に対して次々と「淋菌陰性化不可能となる耐性化」を獲得してきた。日本での耐性化が世界にさきがけて早かったのは、「薬剤に接触した淋菌の生き残りを許さない」という抗菌薬使用の鉄則に基づく「治療後の淋菌陰性化の確認」、「単回投与療法」が十分に行われなかったことによる。現在用いられるロセフェフィン (CTRX) の「単回投与後の淋菌 MIC をこえる血中濃度の持続時間」が淋菌陰性化に十分であることが、2000 年代淋菌の薬剤耐性が著しくない理由である。



オ 膾トリコモナス症

定点当たり報告数は0.11 (0.16)、女子 2.44 (2.92) とともに減少している。東京都の本症報告数はおおむね順調に減少している。



カ 梅毒様疾患

定点当たり報告数は男子 1.58 (1.06)、女子 0.17 (0.44) で前年比は男子で増加、女子で減少している。男子の増加は、「多数の MSM が受診する新宿区の 1 クリニックが STI 定点に加えられた」ためであることが第 9 表の新宿区の本症報告数からうかがわれている。南新宿検査・相談室の被検者の梅毒抗体陽性率は、女性 0.5%、非 MSM 男子 1.5% に過ぎないのに対して MSM では 7% と大差がある。STI については「HIV における MSM」のように高リスク群が存在し、サーベイランスでは定点の選定が問題となる。抗体陽性率が 30% に達する B 型肝炎についても同様であるが、高リスク群についての適切なサーベイランスによる把握をはじめとする対策が必要と思われる。

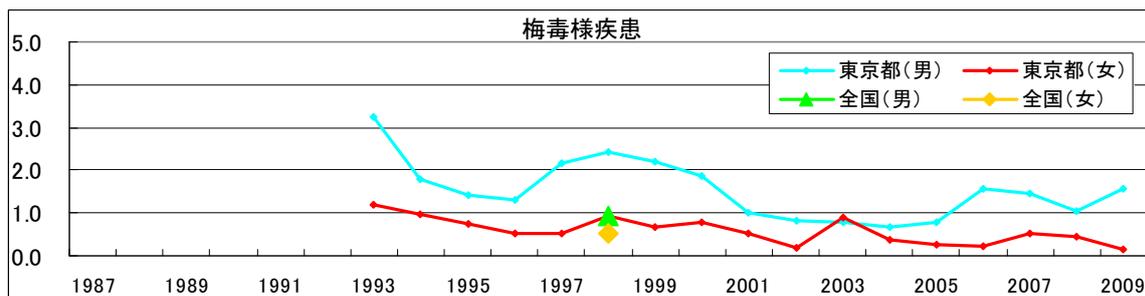
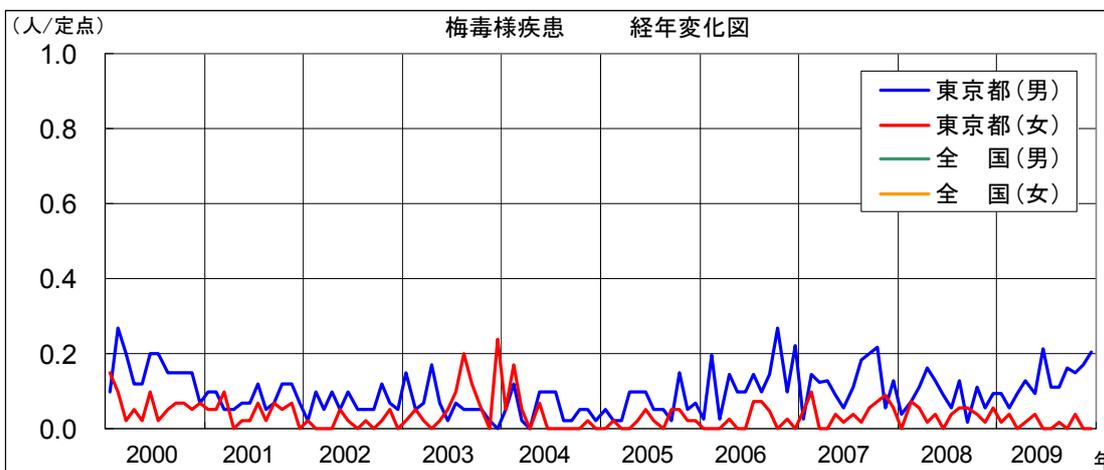
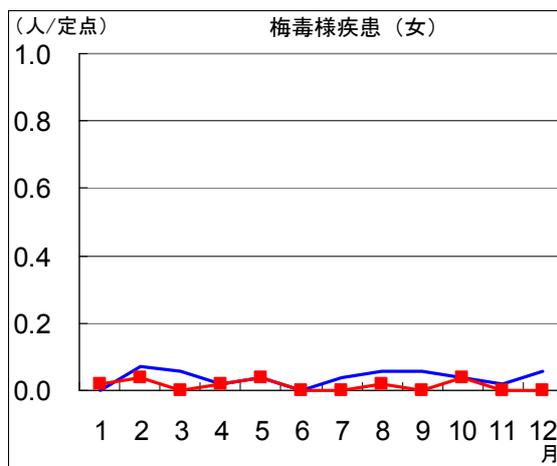
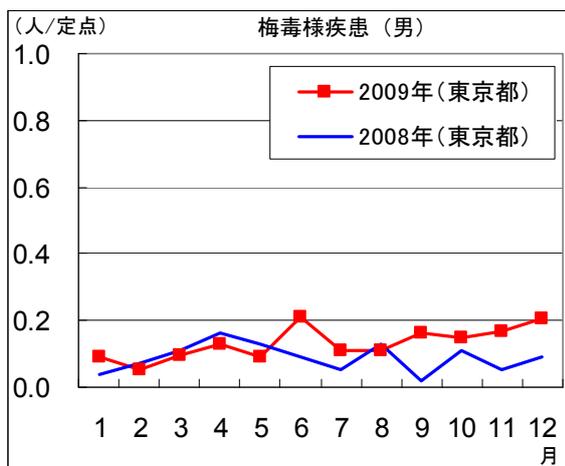


表4-1(1) 週別患者報告数(インフルエンザ・小児科)

2009年第1週~2009年第53週

週	期間	人		報告小児科 定点数	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 球菌咽頭炎 レンサ	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
		報告点 数	インフル エンザ												
1	12.29~1.4	255	546	126	6	9	56	310	87	4	3	16	3	1	17
2	1.5~1.11	286	2,861	148	22	30	253	1,206	341	10	32	70	5	2	113
3	1.12~1.18	286	4,736	147	8	19	242	980	162	4	28	77	6	4	61
4	1.19~1.25	287	9,166	148	12	21	297	1,124	175	12	37	65		6	52
5	1.26~2.1	286	8,582	148	5	18	296	1,022	132	11	29	68	7	5	61
6	2.2~2.8	284	4,921	146	7	31	347	944	192	5	31	72	4	3	47
7	2.9~2.15	287	3,013	149	6	32	291	913	176	7	30	55	2	3	62
8	2.16~2.22	287	2,183	148	9	33	274	1,040	183	6	15	80	6	2	64
9	2.23~3.1	288	2,585	149	13	30	317	1,064	185	6	16	82	4	3	79
10	3.2~3.8	287	3,328	149	8	27	372	1,102	181	8	20	64	2	1	73
11	3.9~3.15	286	4,119	147	5	32	348	1,083	208	11	26	71	5	6	89
12	3.16~3.22	287	3,946	149	7	24	319	972	176	18	39	93	2	11	77
13	3.23~3.29	287	2,499	148	8	30	247	828	174	7	34	58	4	3	114
14	3.30~4.5	287	1,429	147	5	23	218	833	161	18	39	92	5	7	111
15	4.6~4.12	289	1,095	149	7	39	225	930	160	12	44	121	8	7	80
16	4.13~4.19	287	991	147	10	31	222	1,075	157	6	32	113	7	4	93
17	4.20~4.26	286	609	147	6	41	296	976	150	9	25	104	2	9	96
18	4.27~5.3	283	474	147		32	277	1,016	133	12	36	99	5	6	106
19	5.4~5.10	289	175	149	4	24	149	672	162	10	22	58	1	3	93
20	5.11~5.17	287	127	148	8	45	281	867	174	20	45	90	1	9	143
21	5.18~5.24	288	159	148	5	45	298	830	192	22	55	111	4	13	136
22	5.25~5.31	287	84	148	7	42	257	766	154	14	49	101	9	16	116
23	6.1~6.7	288	42	149	4	51	279	743	146	29	36	100	14	11	128
24	6.8~6.14	286	23	147	10	48	294	723	211	30	43	86	7	16	111
25	6.15~6.21	285	30	148	10	55	311	676	164	33	57	120	1	27	141
26	6.22~6.28	287	24	150	7	47	209	653	162	60	66	145	1	22	140
27	6.29~7.5	288	20	148	17	44	203	590	136	99	70	105	3	51	127
28	7.6~7.12	288	48	149	4	54	219	525	119	162	64	115	4	105	149
29	7.13~7.19	289	72	149	5	60	163	508	141	167	62	103	10	182	139
30	7.20~7.26	287	82	149	7	35	119	437	79	187	31	94	9	167	144
31	7.27~8.2	286	277	148	7	39	95	459	81	293	45	92	2	257	126
32	8.3~8.9	280	466	144	19	24	86	404	74	276	41	103	8	286	139
33	8.10~8.16	258	550	130	15	14	50	218	44	176	14	78	3	183	80
34	8.17~8.23	275	737	143	21	12	73	392	65	168	33	84	1	166	102
35	8.24~8.30	284	856	147	19	16	58	362	47	179	33	107	6	178	109
36	8.31~9.6	290	1,064	150	27	9	59	422	44	176	29	88	5	169	78
37	9.7~9.13	287	1,696	148	15	8	82	469	35	171	21	97	4	143	91
38	9.14~9.20	282	2,845	146	27	6	97	385	53	123	21	93	5	115	88
39	9.21~9.27	284	1,908	147	7	6	51	232	45	75	7	62	4	61	93
40	9.28~10.4	289	2,816	149	13	4	87	327	60	65	11	104	7	39	107
41	10.5~10.11	286	5,405	148	14	6	105	312	50	106	16	83	4	46	85
42	10.12~10.18	289	6,481	149	12	5	98	315	47	119	21	78		32	81
43	10.19~10.25	288	7,301	148	12	11	114	324	72	75	16	93	2	29	117
44	10.26~11.1	288	8,073	148	14	5	132	324	74	50	12	71	6	21	80
45	11.2~11.8	288	7,330	149	16	10	107	309	78	57	13	67	2	17	83
46	11.9~11.15	289	7,119	149	15	14	138	431	93	42	8	74	5	15	115
47	11.16~11.22	288	6,905	148	35	19	105	474	107	46	13	76	3	11	79
48	11.23~11.29	288	6,065	149	20	12	105	514	143	37	14	55	1	19	96
49	11.30~12.6	289	4,731	150	19	9	156	733	186	55	18	90	4	22	100
50	12.7~12.13	290	3,987	150	47	12	187	934	174	50	17	75	6	10	97
51	12.14~12.20	290	3,555	150	75	20	168	1,435	225	35	18	69	2	11	131
52	12.21~12.27	287	2,859	150	94	16	174	1,631	191	43	13	61	2	33	86
53	12.28~1.3	275	1,145	142	70	10	52	785	118	10	8	35	2	6	50
合計			142,140		845	1,339	10,058	37,599	7,079	3,426	1,558	4,463	225	2,574	5,175

表4-1 (2) 週別患者報告数 (小児科・眼科・基幹)

2009年第1週～2009年第53週

週	期間	報告小児科 定点数	不明発しん症	人
				(MCLS 川崎病)
1	12.29～1.4	126	3	
2	1.5～1.11	148	7	3
3	1.12～1.18	147	7	1
4	1.19～1.25	148	6	3
5	1.26～2.1	148	11	2
6	2.2～2.8	146	6	1
7	2.9～2.15	149	9	3
8	2.16～2.22	148	8	1
9	2.23～3.1	149	7	1
10	3.2～3.8	149	10	1
11	3.9～3.15	147	6	
12	3.16～3.22	149	6	1
13	3.23～3.29	148	11	1
14	3.30～4.5	147	14	
15	4.6～4.12	149	7	1
16	4.13～4.19	147	19	1
17	4.20～4.26	147	11	1
18	4.27～5.3	147	7	1
19	5.4～5.10	149	7	
20	5.11～5.17	148	13	1
21	5.18～5.24	148	20	
22	5.25～5.31	148	4	
23	6.1～6.7	149	14	2
24	6.8～6.14	147	14	3
25	6.15～6.21	148	18	
26	6.22～6.28	150	23	3
27	6.29～7.5	148	17	4
28	7.6～7.12	149	20	3
29	7.13～7.19	149	30	
30	7.20～7.26	149	25	2
31	7.27～8.2	148	26	2
32	8.3～8.9	144	33	1
33	8.10～8.16	130	29	1
34	8.17～8.23	143	25	
35	8.24～8.30	147	18	2
36	8.31～9.6	150	21	1
37	9.7～9.13	148	13	
38	9.14～9.20	146	16	2
39	9.21～9.27	147	10	2
40	9.28～10.4	149	8	1
41	10.5～10.11	148	4	2
42	10.12～10.18	149	5	1
43	10.19～10.25	148	16	2
44	10.26～11.1	148	10	1
45	11.2～11.8	149	5	2
46	11.9～11.15	149	4	4
47	11.16～11.22	148	14	
48	11.23～11.29	149	7	1
49	11.30～12.6	150	11	2
50	12.7～12.13	150	8	
51	12.14～12.20	150	7	1
52	12.21～12.27	150	3	2
53	12.28～1.3	142	4	1
合計			657	71

報告眼科 定点数	急性出血性 結膜炎	流行性角 結膜炎	人
33		3	
38		11	
38		14	
38		8	
39	1	7	
39	2	14	
39	1	7	
39	3	16	
39	2	11	
39		10	
39		10	
39		11	
39	1	18	
39		12	
39		14	
39		13	
37	2	12	
37	3	16	
39	1	14	
39	2	12	
38		13	
39	2	13	
39	1	10	
39	1	15	
39	1	15	
38	4	14	
38	3	22	
39	1	16	
39	1	21	
39	1	11	
39	2	17	
36		21	
34		6	
38		17	
38	1	18	
39	1	13	
39	1	18	
39	4	15	
39	1	10	
39	2	15	
39		16	
39		12	
39	1	17	
39	1	16	
39		14	
39	2	5	
38	1	23	
39	1	6	
39	1	18	
39		10	
39	1	12	
37		19	
33		2	
合計		53	703

報告基幹 定点数	細菌性髄 膜炎	無菌性髄 膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	人	
				(クラミジ ア肺炎 オウム病は 除く)	
24			2		
24		1	7	2	
24		1	1		
24		1	4	2	
24	2		6	1	
24	1		4	3	
24			4	2	
24			5		
24			4	3	
24	1		2	3	
24			11		
24			4	1	
23			7	1	
24	1		13		
23			6		
24		1	6	1	
24	2	1	6		
24	1	9	4		
24		1	4		
24			8		
24			7	3	
24		1	9	3	
24	1		12	3	
24			9	1	
23			8	1	
24	1	1	2	1	
23	1		9	1	
24	1		8		
24		1	8	1	
24			5		
24		2	11		
24		2	9		
24		1	5	1	
24		1	7		
24		2	6		
24					
24			9	1	
22			7	2	
24			4	1	
24	2		7		
24		1	2		
22			9		
23	1		5	2	
21			5	2	
22	1		3		
23	1		7	1	
23			3		
22	1		2	2	
23	2		6		
23	2	1	6		
24	1		4		
23	1		3	1	
24					
合計		24	28	305	46

表4-2(1) 週別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2009年第1週~2009年第53週

週	期間	人/定点		人/定点											
		報告点 イン フル エン ザ	定 点 数	報告 小 児 科 定 点 数	感 染 症 R S ウ ィ ル ス	咽 頭 結 膜 熱	球 A 菌 咽 頭 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
1	12.29~1.4	255	2.14	126	0.05	0.07	0.44	2.46	0.69	0.03	0.02	0.13	0.02	0.01	0.13
2	1.5~1.11	286	10.00	148	0.15	0.20	1.71	8.15	2.30	0.07	0.22	0.47	0.03	0.01	0.76
3	1.12~1.18	286	16.56	147	0.05	0.13	1.65	6.67	1.10	0.03	0.19	0.52	0.04	0.03	0.41
4	1.19~1.25	287	31.94	148	0.08	0.14	2.01	7.59	1.18	0.08	0.25	0.44		0.04	0.35
5	1.26~2.1	286	30.01	148	0.03	0.12	2.00	6.91	0.89	0.07	0.20	0.46	0.05	0.03	0.41
6	2.2~2.8	284	17.33	146	0.05	0.21	2.38	6.47	1.32	0.03	0.21	0.49	0.03	0.02	0.32
7	2.9~2.15	287	10.50	149	0.04	0.21	1.95	6.13	1.18	0.05	0.20	0.37	0.01	0.02	0.42
8	2.16~2.22	287	7.61	148	0.06	0.22	1.85	7.03	1.24	0.04	0.10	0.54	0.04	0.01	0.43
9	2.23~3.1	288	8.98	149	0.09	0.20	2.13	7.14	1.24	0.04	0.11	0.55	0.03	0.02	0.53
10	3.2~3.8	287	11.60	149	0.05	0.18	2.50	7.40	1.21	0.05	0.13	0.43	0.01	0.01	0.49
11	3.9~3.15	286	14.40	147	0.03	0.22	2.37	7.37	1.41	0.07	0.18	0.48	0.03	0.04	0.61
12	3.16~3.22	287	13.75	149	0.05	0.16	2.14	6.52	1.18	0.12	0.26	0.62	0.01	0.07	0.52
13	3.23~3.29	287	8.71	148	0.05	0.20	1.67	5.59	1.18	0.05	0.23	0.39	0.03	0.02	0.77
14	3.30~4.5	287	4.98	147	0.03	0.16	1.48	5.67	1.10	0.12	0.27	0.63	0.03	0.05	0.76
15	4.6~4.12	289	3.79	149	0.05	0.26	1.51	6.24	1.07	0.08	0.30	0.81	0.05	0.05	0.54
16	4.13~4.19	287	3.45	147	0.07	0.21	1.51	7.31	1.07	0.04	0.22	0.77	0.05	0.03	0.63
17	4.20~4.26	286	2.13	147	0.04	0.28	2.01	6.64	1.02	0.06	0.17	0.71	0.01	0.06	0.65
18	4.27~5.3	283	1.67	147		0.22	1.88	6.91	0.90	0.08	0.24	0.67	0.03	0.04	0.72
19	5.4~5.10	289	0.61	149	0.03	0.16	1.00	4.51	1.09	0.07	0.15	0.39	0.01	0.02	0.62
20	5.11~5.17	287	0.44	148	0.05	0.30	1.90	5.86	1.18	0.14	0.30	0.61	0.01	0.06	0.97
21	5.18~5.24	288	0.55	148	0.03	0.30	2.01	5.61	1.30	0.15	0.37	0.75	0.03	0.09	0.92
22	5.25~5.31	287	0.29	148	0.05	0.28	1.74	5.18	1.04	0.09	0.33	0.68	0.06	0.11	0.78
23	6.1~6.7	288	0.15	149	0.03	0.34	1.87	4.99	0.98	0.19	0.24	0.67	0.09	0.07	0.86
24	6.8~6.14	286	0.08	147	0.07	0.33	2.00	4.92	1.44	0.20	0.29	0.59	0.05	0.11	0.76
25	6.15~6.21	285	0.11	148	0.07	0.37	2.10	4.57	1.11	0.22	0.39	0.81	0.01	0.18	0.95
26	6.22~6.28	287	0.08	150	0.05	0.31	1.39	4.35	1.08	0.40	0.44	0.97	0.01	0.15	0.93
27	6.29~7.5	288	0.07	148	0.11	0.30	1.37	3.99	0.92	0.67	0.47	0.71	0.02	0.34	0.86
28	7.6~7.12	288	0.17	149	0.03	0.36	1.47	3.52	0.80	1.09	0.43	0.77	0.03	0.70	1.00
29	7.13~7.19	289	0.25	149	0.03	0.40	1.09	3.41	0.95	1.12	0.42	0.69	0.07	1.22	0.93
30	7.20~7.26	287	0.29	149	0.05	0.23	0.80	2.93	0.53	1.26	0.21	0.63	0.06	1.12	0.97
31	7.27~8.2	286	0.97	148	0.05	0.26	0.64	3.10	0.55	1.98	0.30	0.62	0.01	1.74	0.85
32	8.3~8.9	280	1.66	144	0.13	0.17	0.60	2.81	0.51	1.92	0.28	0.72	0.06	1.99	0.97
33	8.10~8.16	258	2.13	130	0.12	0.11	0.38	1.68	0.34	1.35	0.11	0.60	0.02	1.41	0.62
34	8.17~8.23	275	2.68	143	0.15	0.08	0.51	2.74	0.45	1.17	0.23	0.59	0.01	1.16	0.71
35	8.24~8.30	284	3.01	147	0.13	0.11	0.39	2.46	0.32	1.22	0.22	0.73	0.04	1.21	0.74
36	8.31~9.6	290	3.67	150	0.18	0.06	0.39	2.81	0.29	1.17	0.19	0.59	0.03	1.13	0.52
37	9.7~9.13	287	5.91	148	0.10	0.05	0.55	3.17	0.24	1.16	0.14	0.66	0.03	0.97	0.61
38	9.14~9.20	282	10.09	146	0.18	0.04	0.66	2.64	0.36	0.84	0.14	0.64	0.03	0.79	0.60
39	9.21~9.27	284	6.72	147	0.05	0.04	0.35	1.58	0.31	0.51	0.05	0.42	0.03	0.41	0.63
40	9.28~10.4	289	9.74	149	0.09	0.03	0.58	2.19	0.40	0.44	0.07	0.70	0.05	0.26	0.72
41	10.5~10.11	286	18.90	148	0.09	0.04	0.71	2.11	0.34	0.72	0.11	0.56	0.03	0.31	0.57
42	10.12~10.18	289	22.43	149	0.08	0.03	0.66	2.11	0.32	0.80	0.14	0.52		0.21	0.54
43	10.19~10.25	288	25.35	148	0.08	0.07	0.77	2.19	0.49	0.51	0.11	0.63	0.01	0.20	0.79
44	10.26~11.1	288	28.03	148	0.09	0.03	0.89	2.19	0.50	0.34	0.08	0.48	0.04	0.14	0.54
45	11.2~11.8	288	25.45	149	0.11	0.07	0.72	2.07	0.52	0.38	0.09	0.45	0.01	0.11	0.56
46	11.9~11.15	289	24.63	149	0.10	0.09	0.93	2.89	0.62	0.28	0.05	0.50	0.03	0.10	0.77
47	11.16~11.22	288	23.98	148	0.24	0.13	0.71	3.20	0.72	0.31	0.09	0.51	0.02	0.07	0.53
48	11.23~11.29	288	21.06	149	0.13	0.08	0.70	3.45	0.96	0.25	0.09	0.37	0.01	0.13	0.64
49	11.30~12.6	289	16.37	150	0.13	0.06	1.04	4.89	1.24	0.37	0.12	0.60	0.03	0.15	0.67
50	12.7~12.13	290	13.75	150	0.31	0.08	1.25	6.23	1.16	0.33	0.11	0.50	0.04	0.07	0.65
51	12.14~12.20	290	12.26	150	0.50	0.13	1.12	9.57	1.50	0.23	0.12	0.46	0.01	0.07	0.87
52	12.21~12.27	287	9.96	150	0.63	0.11	1.16	10.87	1.27	0.29	0.09	0.41	0.01	0.22	0.57
53	12.28~1.3	275	4.16	142	0.49	0.07	0.37	5.53	0.83	0.07	0.06	0.25	0.01	0.04	0.35
平均			9.35		0.11	0.17	1.28	4.80	0.90	0.44	0.20	0.57	0.03	0.33	0.66

表4-2 (2) 週別定点当たり患者報告数 (小児科・眼科・基幹) 2009年第1週~2009年第53週

週	期間	人/定点			人/定点			人/定点				
		報告小児科 定点数	不明発しん症	(MCLS 川崎病)	報告眼科 定点数	急性出血性 結膜炎	流行性角結 膜炎	報告基幹 定点数	細菌性髄 膜炎	無菌性髄 膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	クラミジア 肺炎 (オウム病は 除く)
1	12.29~1.4	126	0.02		33		0.09	24			0.08	
2	1.5~1.11	148	0.05	0.02	38		0.29	24		0.04	0.29	0.08
3	1.12~1.18	147	0.05	0.01	38		0.37	24		0.04	0.04	
4	1.19~1.25	148	0.04	0.02	38		0.21	24		0.04	0.17	0.08
5	1.26~2.1	148	0.07	0.01	39	0.03	0.18	24	0.08		0.25	0.04
6	2.2~2.8	146	0.04	0.01	39	0.05	0.36	24	0.04		0.17	0.13
7	2.9~2.15	149	0.06	0.02	39	0.03	0.18	24			0.17	0.08
8	2.16~2.22	148	0.05	0.01	39	0.08	0.41	24			0.21	
9	2.23~3.1	149	0.05	0.01	39	0.05	0.28	24			0.17	0.13
10	3.2~3.8	149	0.07	0.01	39		0.26	24	0.04		0.08	0.13
11	3.9~3.15	147	0.04		39		0.26	24			0.46	
12	3.16~3.22	149	0.04	0.01	39		0.28	24			0.17	0.04
13	3.23~3.29	148	0.07	0.01	39	0.03	0.46	23			0.30	0.04
14	3.30~4.5	147	0.10		39		0.31	24	0.04		0.54	
15	4.6~4.12	149	0.05	0.01	39		0.36	23			0.26	
16	4.13~4.19	147	0.13	0.01	39		0.33	24		0.04	0.25	0.04
17	4.20~4.26	147	0.07	0.01	37	0.05	0.32	24	0.08	0.04	0.25	
18	4.27~5.3	147	0.05	0.01	37	0.08	0.43	24	0.04	0.38	0.17	
19	5.4~5.10	149	0.05		39	0.03	0.36	24		0.04	0.17	
20	5.11~5.17	148	0.09	0.01	39	0.05	0.31	24			0.33	
21	5.18~5.24	148	0.14		38		0.34	24			0.29	0.13
22	5.25~5.31	148	0.03		39	0.05	0.33	24		0.04	0.38	0.13
23	6.1~6.7	149	0.09	0.01	39	0.03	0.26	24	0.04		0.50	0.13
24	6.8~6.14	147	0.10	0.02	39	0.03	0.38	24			0.38	0.04
25	6.15~6.21	148	0.12		39	0.03	0.38	23			0.35	0.04
26	6.22~6.28	150	0.15	0.02	38	0.11	0.37	24	0.04	0.04	0.08	0.04
27	6.29~7.5	148	0.11	0.03	38	0.08	0.58	23	0.04		0.39	0.04
28	7.6~7.12	149	0.13	0.02	39	0.03	0.41	24	0.04		0.33	
29	7.13~7.19	149	0.20		39	0.03	0.54	24		0.04	0.33	0.04
30	7.20~7.26	149	0.17	0.01	39	0.03	0.28	24			0.21	
31	7.27~8.2	148	0.18	0.01	39	0.05	0.44	24		0.08	0.46	
32	8.3~8.9	144	0.23	0.01	36		0.58	24		0.08	0.38	
33	8.10~8.16	130	0.22	0.01	34		0.18	24		0.04	0.21	0.04
34	8.17~8.23	143	0.17		38		0.45	24		0.04	0.29	
35	8.24~8.30	147	0.12	0.01	38	0.03	0.47	24		0.08	0.25	
36	8.31~9.6	150	0.14	0.01	39	0.03	0.33	24				
37	9.7~9.13	148	0.09		39	0.03	0.46	24			0.38	0.04
38	9.14~9.20	146	0.11	0.01	39	0.10	0.38	22			0.32	0.09
39	9.21~9.27	147	0.07	0.01	39	0.03	0.26	24			0.17	0.04
40	9.28~10.4	149	0.05	0.01	39	0.05	0.38	24	0.08		0.29	
41	10.5~10.11	148	0.03	0.01	39		0.41	24		0.04	0.08	
42	10.12~10.18	149	0.03	0.01	39		0.31	22			0.41	
43	10.19~10.25	148	0.11	0.01	39	0.03	0.44	23	0.04		0.22	0.09
44	10.26~11.1	148	0.07	0.01	39	0.03	0.41	21			0.24	0.10
45	11.2~11.8	149	0.03	0.01	39		0.36	22	0.05		0.14	
46	11.9~11.15	149	0.03	0.03	39	0.05	0.13	23	0.04		0.30	0.04
47	11.16~11.22	148	0.09		38	0.03	0.61	23			0.13	
48	11.23~11.29	149	0.05	0.01	39	0.03	0.15	22	0.05		0.09	0.09
49	11.30~12.6	150	0.07	0.01	39	0.03	0.46	23	0.09		0.26	
50	12.7~12.13	150	0.05		39		0.26	23	0.09	0.04	0.26	
51	12.14~12.20	150	0.05	0.01	39	0.03	0.31	24	0.04		0.17	
52	12.21~12.27	150	0.02	0.01	37		0.51	23	0.04		0.13	0.04
53	12.28~1.3	142	0.03	0.01	33		0.06	24				
	平均		0.08	0.01		0.03	0.34		0.02	0.02	0.24	0.04

表5-1(1) 保健所別患者報告数(インフルエンザ・小児科)

2009年第1週~2009年第53週

保健所	人		人											
	設置 定点数	イン フル エン ザ	設置 小児科 定点数	RS ウイル ス感 染症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
千代田	5	682	4	23	15	7	185	19	48	1	28	1	7	21
中央区	4	1,090	3	1	19	159	373	162	51	13	100		31	37
みなと	8	2,851	6	126	199	231	1,643	186	151	34	229	9	123	131
新宿区	9	3,309	6	34	30	310	1,025	146	44	11	80	2	83	49
文京	5	2,198	3	17	12	77	344	108	44	27	43		25	28
台東	5	1,743	3	43	55	193	1,106	150	112	45	135	4	50	70
墨田区	6	2,448	3	19	8	140	613	96	117	10	107	1	20	119
江東区	9	4,327	4	17	8	409	2,133	176	208	37	193	5	100	204
品川区	10	3,569	6	17	48	337	2,038	180	148	92	195	6	87	86
目黒区	6	1,086	3	1	26	64	350	73	34	39	48		17	9
大田区	16	8,168	9	121	325	476	3,115	486	202	216	303	76	169	182
世田谷区	16	8,255	8	12	25	339	1,930	309	128	157	137		166	126
渋谷区	6	1,936	4	3	23	67	710	115	68	34	94	13	65	52
中野区	9	3,860	6	14	3	212	2,111	181	102	17	115	2	102	145
杉並	12	5,934	6	2	11	347	2,019	227	126	20	150	2	29	81
池袋	8	2,827	5	1	11	59	540	85	35	32	42	3	21	22
北区	8	3,256	4	2	13	101	789	140	102	21	134	2	22	75
荒川区	4	1,747	2	21	38	211	637	163	54	27	86	5	23	36
板橋区	12	3,338	6	2	9	76	911	150	94	35	59	6	16	77
練馬区	12	5,553	5	3	10	181	827	232	153	43	155	5	84	138
足立	12	5,121	5		26	179	1,065	156	150	29	162	3	39	117
葛飾区	9	4,989	4		3	236	726	365	192	55	192	4	120	223
江戸川	12	7,781	5	42	170	1,106	1,270	255	220	57	226	2	250	278
西多摩	9	6,014	5	5	18	137	1,006	262	107	7	91	10	22	456
南多摩	9	6,219	4	73	10	366	885	325	66	31	162	12	97	162
町田	9	8,602	4	21	7	1,279	2,333	854	182	271	311	1	369	774
多摩立川	13	4,948	6	3	20	131	801	156	41	6	27	10	27	93
多摩府中	21	10,768	10	12	19	238	1,137	245	106	60	235	6	124	201
多摩小平	14	10,763	6	155	104	778	2,413	430	131	38	329	6	149	295
島しょ	2	582	1	3	4	16	59	33	56		14		7	8
八王子市	10	8,176	4	52	70	1,596	2,505	614	154	93	281	29	130	880
合 計	290	142,140	150	845	1,339	10,058	37,599	7,079	3,426	1,558	4,463	225	2,574	5,175
定点当たり報告数		495.53		5.73	9.07	68.03	254.50	47.94	23.36	10.54	30.24	1.53	17.63	35.05
前年定点当たり報告数		80.47		11.71	19.86	93.97	395.92	58.68	30.60	7.90	33.49	1.88	44.08	24.83
当年/前年		6.16		0.49	0.46	0.72	0.64	0.82	0.76	1.34	0.90	0.81	0.40	1.41

表5-1(2) 保健所別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2009年第1週~2009年第53週

保健所	人			人			人				
	設置小児科定点数	不明発しん症	MCLS(川崎病)	設置眼科定点数	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置基幹定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(オウム病は除く)
千代田	4	3	6				2		1	27	
中央区	3	1		1		30					
みなと	6	11	9				1	3	2	10	7
新宿区	6	50	3	2	3	111	2	3	12	68	
文京	3	2	2	1		49	1	2	2	2	
台東	3	2	1								
墨田区	3	17	1	1	1	14	1				
江東区	4	31	1	1		20					
品川区	6	17		1	2	9					
目黒区	3	1		1		25					
大田区	9	42	1	2		33	1			2	
世田谷区	8	16	6	2	1	17	2	2			
渋谷区	4	3		1		12	1				
中野区	6	22	1	1		16	1				
杉並	6	1	5	1	1	18	1				
池袋	5	3		1		2	1			2	
北区	4	23		1		11					
荒川区	2	26	1	1		26					
板橋区	6	13	3	2	3	26	1				
練馬区	5	10	1	2	1	33					
足立	5	17		2	27	56					
葛飾区	4	35	4	1	8	11	1	1		131	33
江戸川	5	6	5	2	1	18					
西多摩	5	3	2	1		9	1	1	4	6	
南多摩	4	6	4	1		5					
町田	4	153	1	1		1					
多摩立川	6	4	1	2	1	12	1				
多摩府中	10	31	6	3	2	25	2	12	7	57	6
多摩小平	6	22	3	2		79					
島しょ	1		1				1				
八王子市	4	86	3	2	2	35	1				
合計	150	657	71	39	53	703	24	24	28	305	46
定点当たり報告数		4.48	0.48		1.37	18.28		1.02	1.17	12.93	1.96
前年定点当たり報告数		4.98	0.73		1.66	22.41		1.01	1.42	12.53	1.05
当年/前年		0.90	0.65		0.83	0.82		1.02	0.82	1.03	1.86

表5-2(1) 保健所別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科)

2009年第1週~2009年第53週

保健所	人/定点		設置小児科定点数	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	人/定点	
	設置インフルエンザ	インフルエンザ											ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
千代田	5	152.83	4	6.00	3.92	1.83	47.67	5.42	14.00	0.25	7.50	0.25	1.92	5.75
中央区	4	272.50	3	0.33	6.33	53.00	124.33	54.00	17.00	4.33	33.33		10.33	12.33
みなと	8	359.86	6	21.57	33.30	38.73	274.97	31.03	25.63	5.70	38.43	1.50	20.70	22.03
新宿区	9	367.96	6	5.73	5.03	51.73	170.93	24.60	7.37	1.87	13.40	0.33	13.93	8.17
文京	5	440.45	3	5.67	4.00	25.67	115.00	36.00	14.67	9.00	14.33		8.33	9.33
台東	5	348.60	3	14.33	18.33	64.33	368.67	50.00	37.33	15.00	45.00	1.33	16.67	23.33
墨田区	6	409.43	3	6.33	2.67	46.67	204.33	32.00	39.00	3.33	35.67	0.33	6.67	39.67
江東区	9	482.92	4	4.33	2.00	102.67	537.75	44.50	53.42	9.25	48.92	1.25	26.67	51.92
品川区	10	358.30	6	2.87	8.07	56.30	353.25	30.53	25.42	15.55	32.82	1.00	14.72	14.40
目黒区	6	181.00	3	0.33	8.67	21.33	116.67	24.33	11.33	13.00	16.00		5.67	3.00
大田区	16	516.55	9	13.74	36.75	53.88	354.10	54.63	23.54	24.60	34.34	8.78	19.60	20.92
世田谷区	16	532.65	8	1.50	3.13	44.09	252.32	40.17	16.37	20.86	18.07		21.27	16.67
渋谷区	6	323.17	4	0.75	5.83	16.75	177.83	28.75	17.33	8.58	23.50	3.25	16.58	13.08
中野区	9	428.89	6	2.33	0.50	35.33	351.83	30.17	17.00	2.83	19.17	0.33	17.00	24.17
杉並	12	503.84	6	0.50	1.83	58.45	344.95	38.22	22.65	3.45	25.55	0.33	5.12	13.78
池袋	8	367.64	5	0.25	2.50	13.83	117.25	19.05	8.07	7.47	9.58	0.60	4.68	5.33
北区	8	413.76	4	0.50	3.50	25.42	201.75	35.58	25.50	5.25	33.92	0.50	5.50	19.00
荒川区	4	436.75	2	10.50	19.00	105.50	318.50	81.50	27.00	13.50	43.00	2.50	11.50	18.00
板橋区	12	278.17	6	0.33	1.50	12.67	151.83	25.00	15.67	5.83	9.83	1.00	2.67	12.83
練馬区	12	463.10	5	0.60	2.00	36.20	165.40	46.40	30.60	8.60	31.00	1.00	16.80	27.60
足立	12	434.56	5		5.38	36.47	222.35	33.17	30.05	5.93	32.87	0.60	7.85	24.10
葛飾区	9	575.06	4		0.75	66.75	198.67	99.75	49.33	14.00	49.92	1.08	30.75	57.50
江戸川	12	664.73	5	8.70	35.20	227.95	258.42	52.58	45.05	11.60	46.00	0.40	51.75	56.73
西多摩	9	668.38	5	1.00	3.60	27.40	201.80	52.60	22.20	1.45	18.40	2.00	4.50	92.30
南多摩	9	696.15	4	18.42	2.50	92.00	223.00	82.33	16.50	7.75	40.58	3.00	24.25	40.50
町田	9	956.69	4	5.33	1.75	319.83	584.33	214.08	45.50	67.83	77.92	0.25	92.25	193.92
多摩立川	13	380.83	6	0.50	3.33	21.92	133.92	26.83	6.83	1.00	4.50	1.67	4.50	15.50
多摩府中	21	516.26	10	1.20	1.96	24.04	114.70	24.76	10.68	6.08	23.82	0.60	12.49	20.30
多摩小平	14	769.10	6	26.13	17.33	129.97	403.37	71.90	22.13	6.63	54.93	1.00	25.20	49.37
島しょ	2	291.00	1	3.00	4.00	16.00	59.00	33.00	56.00		14.00		7.00	8.00
八王子市	10	825.15	4	13.00	17.50	399.58	630.25	153.92	40.67	23.58	71.00	7.25	34.58	221.17

表5-2 (2) 保健所別定点当たり患者報告数 (小児科・眼科・基幹) 2009年第1週~2009年第53週

保健所	人/定点			人/定点			人/定点				
	設置小児科定点数	不明発しん症	MCLS (川崎病)	設置眼科定点数	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置基幹定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)
千代田	4	0.75	1.50				2		0.50	15.00	
中央区	3	0.33		1		30.00					
みなと	6	1.83	1.50				1	3.00	2.00	10.00	7.00
新宿区	6	8.40	0.50	2	1.50	56.50	2	1.50	6.00	34.00	
文京	3	0.67	0.67	1		49.00	1	2.00	2.00	2.00	
台東	3	0.67	0.33								
墨田区	3	5.67	0.33	1	1.00	14.00	1				
江東区	4	8.08	0.25	1		20.00					
品川区	6	2.90		1	2.00	9.00					
目黒区	3	0.33		1		25.00					
大田区	9	5.08	0.11	2		16.50	1			2.00	
世田谷区	8	2.24	0.77	2	0.50	8.50	2	1.00			
渋谷区	4	0.75		1		12.00	1				
中野区	6	3.67	0.17	1		16.00	1				
杉並	6	0.17	0.83	1	1.00	18.00	1				
池袋	5	0.60		1		2.00	1			2.00	
北区	4	5.75		1		11.00					
荒川区	2	13.00	0.50	1		26.00					
板橋区	6	2.17	0.50	2	1.50	13.00	1				
練馬区	5	2.00	0.20	2	0.50	16.50					
足立	5	3.40		2	13.50	28.00					
葛飾区	4	9.25	1.00	1	8.00	11.00	1	1.00		131.00	33.00
江戸川	5	1.20	1.00	2	0.50	9.00					
西多摩	5	0.65	0.40	1		9.00	1	1.00	4.00	6.00	
南多摩	4	1.50	1.00	1		5.00					
町田	4	38.42	0.25	1		1.00					
多摩立川	6	0.67	0.17	2	0.50	6.00	1				
多摩府中	10	3.14	0.60	3	0.67	8.50	2	6.00	3.50	28.50	3.00
多摩小平	6	3.67	0.50	2		39.50	2				
島しょ	1		1.00				1				
八王子市	4	21.83	0.75	2	1.00	18.00	1				

表6-1 年齢階級別患者報告数（インフルエンザ・小児科）

2009年第1週～2009年第53週

年齢階級	人											
	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
6か月未満	272	130	4	8	412	122	15	1	113	9	21	1
12か月未満	973	205	93	69	2,562	350	255	38	1,880	10	233	20
1歳	3,269	320	293	301	5,431	1,199	986	86	2,091	13	755	230
2歳	3,857	110	196	439	3,772	1,311	724	120	292	6	478	479
3歳	5,336	32	214	797	3,180	1,133	464	192	48	5	340	737
4歳	7,931	26	184	1,313	3,057	1,016	365	249	15	4	242	864
5歳	8,924	7	130	1,496	2,659	812	254	242	10	2	163	830
6歳	10,212	1	58	1,378	2,202	447	125	187	7	3	108	585
7歳	10,915	2	38	1,141	1,916	209	69	171	1	5	56	449
8歳	10,084	4	36	852	1,594	166	41	96	1	2	34	284
9歳	9,345		16	555	1,290	92	35	69	2	4	31	203
10～14歳	33,151	2	43	1,048	3,440	166	44	72	1	25	43	320
15～19歳	10,958		2	93	860	12	3	6	1	9	14	29
20～29歳	8,604	6	32	568	5,224	44	46	29	1	128	56	144
30～39歳	8,884											
40～49歳	6,250											
50～59歳	1,920											
60～69歳	778											
70～79歳	355											
80歳以上	122											
合計	142,140	845	1,339	10,058	37,599	7,079	3,426	1,558	4,463	225	2,574	5,175

注：小児科定点把握対象疾病の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

表6-2 年齢階級別患者報告数 (小児科・眼科・基幹)

2009年第1週~2009年第53週

年齢階級	人		人		人			
	不明発しん症	MCLS (川崎病)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)
6か月未満	35	7		3	4		1	
12か月未満	117	15		1	1		2	
1歳	195	21	1	10	6		35	
2歳	105	7	1	9	2	2	30	
3歳	60	4		7	1	4	32	
4歳	38	6	1	13		1	32	
5歳	32	6	1	11	2	4	25	
6歳	9			4		3	26	
7歳	17	1	1	2		3	20	
8歳	13		1	5		2	9	
9歳	5	1	1	7		2	17	1
10~14歳	12	2	4	20	1		53	
15~19歳	3		2	14			2	1
20~29歳	16	1	5	144		3	6	1
30~39歳			15	203	1	1	4	4
40~49歳			10	100			3	7
50~59歳			7	60	1		1	1
60~69歳			2	52	1		2	8
70~79歳			1	38	3	1	3	15
80歳以上					1	2	2	8
合計	657	71	53	703	24	28	305	46

注：小児科定点把握対象疾病の「20~29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

注：眼科疾患の「70~79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1(1) 二次医療圏別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2009年第1週~2009年第53週

二次医療圏	人		設置小児科定点数	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
	設置インフルエンザ定点数	インフルエンザ												
1 区中央部圏	27	8,564	19	210	300	667	3,651	625	406	120	535	14	236	287
2 区南部圏	26	11,737	15	138	373	813	5,153	666	350	308	498	82	256	268
3 区西南部圏	28	11,277	15	16	74	470	2,990	497	230	230	279	13	248	187
4 区西部圏	30	13,103	18	50	44	869	5,155	554	272	48	345	6	214	275
5 区西北部圏	40	14,974	20	8	43	417	3,067	607	384	131	390	16	143	312
6 区東北部圏	25	11,857	11	21	67	626	2,428	684	396	111	440	12	182	376
7 区東部圏	27	14,556	12	78	186	1,655	4,016	527	545	104	526	8	370	601
8 西多摩圏	9	6,014	5	5	18	137	1,006	262	107	7	91	10	22	456
9 南多摩圏	28	22,997	12	146	87	3,241	5,723	1,793	402	395	754	42	596	1,816
10 北多摩西部圏	13	4,948	6	3	20	131	801	156	41	6	27	10	27	93
11 北多摩南部圏	21	10,768	10	12	19	238	1,137	245	106	60	235	6	124	201
12 北多摩北部圏	14	10,763	6	155	104	778	2,413	430	131	38	329	6	149	295
13 島しょ圏	2	582	1	3	4	16	59	33	56	0	14	0	7	8
合計	290	142,140	150	845	1,339	10,058	37,599	7,079	3,426	1,558	4,463	225	2,574	5,175

表7-1(2) 二次医療圏別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2009年第1週~2009年第53週

二次医療圏	人			人			人				
	設置小児科定点数	不明発しん症	MCLS(川崎病)	設置眼科定点数	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置基幹定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(オウム病は除く)
1 区中央部圏	19	19	18	2		79	4	5	5	39	7
2 区南部圏	15	59	1	3	2	42	1			2	
3 区西南部圏	15	20	6	4	1	54	3	2			
4 区西部圏	18	73	9	4	4	145	4	3	12	68	
5 区西北部圏	20	49	4	6	4	72	2			2	
6 区東北部圏	11	78	5	4	35	93	1	1		131	33
7 区東部圏	12	54	7	4	2	52	1				
8 西多摩圏	5	3	2	1		9	1	1	4	6	
9 南多摩圏	12	245	8	4	2	41	1				
10 北多摩西部圏	6	4	1	2	1	12	1				
11 北多摩南部圏	10	31	6	3	2	25	2	12	7	57	6
12 北多摩北部圏	6	22	3	2		79	2				
13 島しょ圏	1		1				1				
合計	150	657	71	39	53	703	24	24	28	305	46

表7-2 (1) 二次医療圏別定点当たり患者報告数 (インフルエンザ・小児科)

2009年第1週~2009年第53週

二次医療圏	人/定点		設置小児科定点数	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	球菌咽頭炎	A群溶血性レンサ	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
	設置インフルエンザ定点数	インフルエンザ													
1 区中央部圏	27	325.61	19	6.40	16.87	45.12	223.48	40.06	10.47	7.09	25.43	0.42	7.06	14.14	
2 区南部圏	26	460.82	15	7.33	29.65	67.52	405.15	54.97	14.32	32.50	33.81	5.46	8.19	19.33	
3 区西南部圏	28	421.77	15	0.71	5.37	34.70	256.34	44.74	8.03	16.56	17.60	0.48	9.69	13.96	
4 区西部圏	30	446.41	18	2.00	2.28	58.28	333.52	37.12	9.02	2.30	18.52	0.37	6.64	14.68	
5 区西北部圏	40	409.40	20	0.14	2.90	22.15	199.21	48.49	10.34	6.15	17.27	0.56	3.77	12.22	
6 区東北部圏	25	485.98	11	0.87	6.47	70.37	264.58	85.22	17.55	6.39	33.24	1.36	11.20	31.97	
7 区東部圏	27	557.65	12	5.99	19.37	210.81	407.03	56.61	24.13	8.94	42.69	0.61	15.60	47.90	
8 西多摩圏	9	795.26	5	0.50	2.21	37.95	242.20	59.23	15.58	1.31	18.08	1.04	2.09	57.13	
9 南多摩圏	28	841.29	12	6.81	8.57	319.91	531.44	159.78	19.50	30.74	60.62	5.35	24.34	133.54	
10 北多摩西部圏	13	419.92	6	0.48	3.98	30.68	165.76	37.46	2.84	0.91	3.50	1.84	2.43	10.98	
11 北多摩南部圏	21	508.10	10	1.25	1.75	27.25	147.89	29.25	5.43	4.25	22.94	1.28	6.97	12.72	
12 北多摩北部圏	14	823.54	6	8.06	16.84	159.58	480.06	71.68	9.28	3.64	52.33	0.89	13.87	50.23	
13 島しょ圏	2	310.77	1	8.17	8.76	13.57	125.71	70.67	21.24		15.84		3.26	5.27	

第7表-2 (2) 二次医療圏別定点当たり患者報告数 (小児科・眼科・基幹)

2009年第1週~2009年第53週

二次医療圏	人/定点			人/定点		人/定点					
	設置小児科定点数	不明発しん症	MCLS (川崎病)	設置眼科定点数	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置基幹定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)
1 区中央部圏	19	0.97	1.00	2		39.88	4	1.25	1.25	10.08	1.92
2 区南部圏	15	3.06	0.15	3	0.11	12.25	1			2.00	
3 区西南部圏	15	1.17	0.28	4	0.21	12.48	3	0.67			
4 区西部圏	18	3.61	0.66	4	0.71	34.43	4	0.75	3.00	17.25	
5 区西北部圏	20	1.98	0.15	6	1.21	7.19	2			1.00	
6 区東北部圏	11	6.36	0.20	4	7.68	22.02	1	1.00		131.00	33.00
7 区東部圏	12	3.51	0.64	4	0.37	12.32	1				
8 西多摩圏	5	0.40	0.44	1		8.14	1	1.00	4.00	6.00	
9 南多摩圏	12	17.80	0.91	4	0.43	11.04	1				
10 北多摩西部圏	6	0.32	0.01	2	0.18	1.93	1				
11 北多摩南部圏	10	2.43	0.56	3	0.40	6.63	2	6.00	3.50	28.50	3.00
12 北多摩北部圏	6	4.06	0.28	2		36.27	2				
13 島しょ圏	1		0.70				1				

表8-1 月別患者報告数（基幹）
2009年1月～2009年12月

月	報告基幹 定点数	人		
		メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症
1月	24	133	38	5
2月	24	118	39	2
3月	24	102	47	3
4月	24	119	52	2
5月	24	121	69	1
6月	24	127	46	1
7月	23	89	57	1
8月	23	113	43	1
9月	23	104	34	1
10月	23	76	33	3
11月	24	97	41	
12月	24	91	53	2
合計		1,290	552	22

表8-2 月別定点当たり患者報告数（基幹）
2009年1月～2009年12月

月	報告基幹 定点数	人/定点		
		メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症
1月	24	5.54	1.58	0.21
2月	24	4.92	1.63	0.08
3月	24	4.25	1.96	0.13
4月	24	4.96	2.17	0.08
5月	24	5.04	2.88	0.04
6月	24	5.29	1.92	0.04
7月	23	3.87	2.48	0.04
8月	23	4.91	1.87	0.04
9月	23	4.52	1.48	0.04
10月	23	3.30	1.43	0.13
11月	24	4.04	1.71	0.00
12月	24	3.79	2.21	0.08
平均		4.54	1.94	0.08

表8-3 月別・性別患者報告数（基幹） 2009年1月～2009年12月

月	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
1月	86	47	20	18	4	1
2月	83	35	18	21	1	1
3月	78	24	25	22	1	2
4月	72	47	31	21	2	
5月	75	46	43	26		1
6月	77	50	32	14		1
7月	44	45	28	29	1	
8月	67	46	25	18	1	
9月	62	42	24	10	1	
10月	55	21	19	14	1	2
11月	64	33	23	18		
12月	58	33	29	24	2	
合計	821	469	317	235	14	8

表8-4 年齢階級別患者報告数（基幹） 2009年1月～2009年12月

年齢階級	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
0歳	47	46	53	28	1	0
1～4歳	45	17	156	115	0	0
5～9歳	14	10	9	20	1	0
10～14歳	15	8	7	1	0	0
15～19歳	1	2	2	4	1	0
20～24歳	1	1	1	2	0	0
25～29歳	0	2	1	1	0	2
30～34歳	10	7	3	3	0	0
35～39歳	11	11	4	7	0	0
40～44歳	19	4	3	7	0	0
45～49歳	9	10	3	2	0	1
50～54歳	17	17	0	3	1	1
55～59歳	45	20	7	3	1	1
60～64歳	64	20	10	5	2	0
65～69歳	94	36	11	2	2	1
70歳以上	429	258	47	32	5	2
合計	821	469	317	235	14	8
定点当たり報告数	34.21	19.54	13.21	9.79	0.58	0.33
前年定点当たり報告数	41.92	25.00	14.08	9.00	0.88	0.21
当年／前年	0.82	0.78	0.94	1.09	0.67	1.60

表9-1 月別患者報告数（STI）

2009年1月～2009年12月

月	報告STI定点数	人					
		性器クラミジア感染症	ウイロウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	臍トリコモナス症	梅毒様疾患
1月	54	185	66	61	85	16	6
2月	55	186	66	39	70	10	5
3月	53	168	77	62	80	8	5
4月	55	190	71	74	68	12	8
5月	54	193	71	56	68	7	7
6月	52	211	93	68	82	14	11
7月	55	185	69	61	77	20	6
8月	54	209	93	59	92	7	7
9月	55	209	90	70	80	13	9
10月	54	200	85	58	85	13	10
11月	53	177	86	65	96	9	9
12月	54	182	87	54	67	9	11
合計		2,295	954	727	950	138	94

表9-2 月別定点あたり患者報告数（STI）

2009年1月～2009年12月

月	報告STI定点数	人／定点					
		性器クラミジア感染症	ウイロウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	臍トリコモナス症	梅毒様疾患
1月	54	3.43	1.22	1.13	1.57	0.30	0.11
2月	55	3.38	1.20	0.71	1.27	0.18	0.09
3月	53	3.17	1.45	1.17	1.51	0.15	0.09
4月	55	3.45	1.29	1.35	1.24	0.22	0.15
5月	54	3.57	1.31	1.04	1.26	0.13	0.13
6月	52	4.06	1.79	1.31	1.58	0.27	0.21
7月	55	3.36	1.25	1.11	1.40	0.36	0.11
8月	54	3.87	1.72	1.09	1.70	0.13	0.13
9月	55	3.80	1.64	1.27	1.45	0.24	0.16
10月	54	3.70	1.57	1.07	1.57	0.24	0.19
11月	53	3.34	1.62	1.23	1.81	0.17	0.17
12月	54	3.37	1.61	1.00	1.24	0.17	0.20
平均		3.54	1.47	1.12	1.47	0.21	0.15

表9-3 月別・性別患者報告数 (STI) 2009年1月～2009年12月

人

月	報告STI 定点数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス 症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	54	100	85	35	31	43	18	74	11		16	5	1
2月	55	89	97	43	23	34	5	51	19	1	9	3	2
3月	53	81	87	47	30	40	22	68	12		8	5	
4月	55	108	82	41	30	47	27	58	10	1	11	7	1
5月	54	102	91	38	33	34	22	58	10	2	5	5	2
6月	52	106	105	31	62	42	26	67	15	1	13	11	
7月	55	95	90	39	30	35	26	66	11	1	19	6	
8月	54	121	88	55	38	47	12	78	14		7	6	1
9月	55	114	95	51	39	51	19	67	13		13	9	
10月	54	115	85	61	24	32	26	74	11		13	8	2
11月	53	99	78	52	34	47	18	81	15		9	9	
12月	54	98	84	47	40	34	20	56	11		9	11	
合計		1,228	1,067	540	414	486	241	798	152	6	132	85	9

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数 (STI) 2009年1月～2009年12月

人

月	報告STI 定点数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス 症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	54	1.85	1.57	0.65	0.57	0.80	0.33	1.37	0.20	0.00	0.30	0.09	0.02
2月	55	1.62	1.76	0.78	0.42	0.62	0.09	0.93	0.35	0.02	0.16	0.05	0.04
3月	53	1.53	1.64	0.89	0.57	0.75	0.42	1.28	0.23	0.00	0.15	0.09	0.00
4月	55	1.96	1.49	0.75	0.55	0.85	0.49	1.05	0.18	0.02	0.20	0.13	0.02
5月	54	1.89	1.69	0.70	0.61	0.63	0.41	1.07	0.19	0.04	0.09	0.09	0.04
6月	52	2.04	2.02	0.60	1.19	0.81	0.50	1.29	0.29	0.02	0.25	0.21	0.00
7月	55	1.73	1.64	0.71	0.55	0.64	0.47	1.20	0.20	0.02	0.35	0.11	0.00
8月	54	2.24	1.63	1.02	0.70	0.87	0.22	1.44	0.26	0.00	0.13	0.11	0.02
9月	55	2.07	1.73	0.93	0.71	0.93	0.35	1.22	0.24	0.00	0.24	0.16	0.00
10月	54	2.13	1.57	1.13	0.44	0.59	0.48	1.37	0.20	0.00	0.24	0.15	0.04
11月	53	1.87	1.47	0.98	0.64	0.89	0.34	1.53	0.28	0.00	0.17	0.17	0.00
12月	54	1.81	1.56	0.87	0.74	0.63	0.37	1.04	0.20	0.00	0.17	0.20	0.00

表9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数 (STI) 2009年1月~2009年12月

人

保健所	設置 定点数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス 感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		臍トリコモナス症		梅毒様疾患		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	131	12	36	2	42		108	2			5	1	322	17
中央区	3	77	43	4	7	3	9	21	5		3			105	67
みなと	2	84	96	135	69	34	20	31	8	2	6	9		295	199
新宿区	6	269	100	158	95	237	53	228	37		5	43	1	935	291
文京	1	32		8		3		43	1			3		89	1
台東	3		43	5	21		1	2	8		9			7	82
墨田区	2	29	8	11	2	9	11	15			3	1		65	24
江東区	2	135	17	59	14	32		93	6		3	9		328	40
品川区	1	13		6		4		5						28	
大田区	2	20	44		2		1	12						32	47
渋谷区	5	84	47	28	70	7	69	26	2	2	7			147	195
中野区	2	64	25	4		2	11	32	8	1	12	7	1	110	57
杉並	2	23	13	1	8	3		13	4		4			40	29
池袋	3	164	120	59	43	75	30	79	23		13	6	1	383	230
北区	1	5		3	1	12		2						22	1
荒川区	1		18		8		4		5		1				36
板橋区	2	9	69	4	8	7		23	8		10		1	43	96
足立	2	34	1	11	2	7		28	1					80	4
江戸川	2	40	105	6	9	7	5	28	13		22	2	3	83	157
町田	1		18		11		4		2		12				47
多摩立川	2	2	178		20		8		14	1	6			3	226
多摩府中	3	11		1	1		1	9						21	2
多摩小平	1		7	1	6						4			1	17
八王子市	4	2	103		15	2	14		5		12		1	4	150
合計	55	1,228	1,067	540	414	486	241	798	152	6	132	85	9	3,143	2,015
定点当たり報告数		22.74	19.77	10.00	7.69	9.00	4.47	14.80	2.82	0.11	2.44	1.58	0.17	58.23	37.36
前年定点当たり報告数		22.67	24.84	10.03	7.22	10.59	6.29	16.63	3.36	0.16	2.92	1.06	0.44	61.14	45.07
当年/前年		1.00	0.80	1.00	1.06	0.85	0.71	0.89	0.84	0.68	0.84	1.49	0.38	0.95	0.83

区中央部圏	11	324	194	188	99	82	30	205	24	2	18	17	1	818	366
区南部圏	3	33	44	6	2	4	1	17						60	47
区西南部圏	5	84	47	28	70	7	69	26	2	2	7			147	195
区西部圏	10	356	138	163	103	240	53	273	49	1	21	50	2	1,085	377
区西北部圏	6	178	189	66	52	94	30	104	31		23	6	2	448	327
区東北部圏	3	34	19	11	10	7	4	28	6		1			80	40
区東部圏	6	204	130	76	25	48	16	136	19		28	12	3	476	221
南多摩圏	5	2	121		26	2	18		7		24		1	4	197
北多摩西部圏	2	2	178		20		8		14	1	6			3	226
北多摩南部圏	3	11		1	1		1	9						21	2
北多摩北部圏	1		7	1	6						4			1	17

表9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数 (STI) 2009年1月~2009年12月

人/定点

保健所	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス 感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	65.50	6.00	18.00	1.00	21.00		54.00	1.00			2.50	0.50	161.00	8.50
中央区	3	25.67	14.33	1.33	2.33	1.00	3.00	7.00	1.67		1.00			35.00	22.33
みなと	2	42.00	48.00	67.50	34.50	17.00	10.00	15.50	4.00	1.00	3.00	4.50		147.50	99.50
新宿区	6	39.62	14.71	23.69	13.88	35.24	7.67	33.81	5.52		0.74	6.24	0.17	138.60	42.69
文京	1	32.00		8.00		3.00		43.00	1.00			3.00		89.00	1.00
台東	3		17.83	1.67	9.83		0.33	0.67	2.67		3.67			2.33	34.33
墨田区	2	14.50	4.00	5.50	1.00	4.50	5.50	7.50			1.50	0.50		32.50	12.00
江東区	2	67.50	8.50	29.50	7.00	16.00		46.50	3.00		1.50	4.50		164.00	20.00
品川区	1	13.00		6.00		4.00		5.00						28.00	
大田区	2	10.00	22.00		1.00		0.50	6.00						16.00	23.50
渋谷区	5	18.88	10.77	5.90	16.35	1.77	15.53	5.72	0.40	0.40	1.60			32.67	44.65
中野区	2	32.00	12.50	2.00		1.00	5.50	16.00	4.00	0.50	6.00	3.50	0.50	55.00	28.50
杉並	2	15.50	8.50	1.00	4.00	2.50		8.50	3.50		2.00			27.50	18.00
池袋	3	54.67	40.00	19.67	14.33	25.00	10.00	26.33	7.67		4.33	2.00	0.33	127.67	76.67
北区	1	5.00		3.00	1.00	12.00		2.00						22.00	1.00
荒川区	1		18.00		8.00		4.00		5.00		1.00				36.00
板橋区	2	4.50	34.50	2.00	4.00	3.50		11.50	4.00		5.00		0.50	21.50	48.00
足立	2	17.00	0.50	5.50	1.00	3.50		14.00	0.50					40.00	2.00
江戸川	2	20.00	52.50	3.00	4.50	3.50	2.50	14.00	6.50		11.00	1.00	1.50	41.50	78.50
町田	1		18.00		11.00		4.00		2.00		12.00				47.00
多摩立川	2	1.00	89.00		10.00		4.00		7.00	0.50	3.00			1.50	113.00
多摩府中	3	3.67		0.33	0.33		0.33	3.00						7.00	0.67
多摩小平	1		7.00	1.00	6.00						4.00			1.00	17.00
八王子市	4	0.50	25.83		3.75	0.50	3.67		1.25		3.00		0.25	1.00	37.75
合 計	55	1,228	1,067	540	414	486	241	798	152	6	132	85	9	3,143	2,015
定点当たり報告数		22.74	19.77	10.00	7.69	9.00	4.47	14.80	2.82	0.11	2.44	1.58	0.17	58.23	37.36

区中央部圏	11	29.73	20.27	12.00	9.04	7.22	4.24	18.83	2.68	0.29	2.01	1.21	0.20	74.36	33.27
区南部圏	3	14.08	14.53	2.65	0.06	0.56	0.09	5.92						20.00	15.67
区西南部圏	5	17.12	9.74	6.55	14.67	1.14	10.53	4.62	0.20	0.37	0.30			29.40	39.00
区西部圏	10	32.70	12.39	18.29	9.09	24.79	4.85	27.06	5.14	0.13	2.51	3.94	0.31	108.50	37.70
区西北部圏	6	29.96	28.93	11.02	8.97	15.00	6.44	16.04	4.85		4.40	0.64	0.69	74.67	54.50
区東北部圏	3	8.10	4.87	4.63	1.86	2.75	1.27	7.57	1.45		0.17			26.67	13.33
区東部圏	6	33.09	22.15	10.82	3.47	8.14	1.95	23.80	3.20		5.96	1.90	0.18	79.33	36.83
南多摩圏	5	0.48	26.96		5.54	0.84	3.53		0.64		2.98		0.25	0.80	39.40
北多摩西部圏	2	1.24	92.50		8.80		4.11		8.72	0.41	3.53			1.50	113.00
北多摩南部圏	3	3.40		0.27	0.34		0.09	3.17						7.00	0.67
北多摩北部	1		7.31	0.39	5.66						5.58			1.00	17.00

表9-7 年齢階級別患者報告数 (STI) 2009年1月~2009年12月

人

年齢階級	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		臈トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳														
1~4歳														
5~9歳														
10~14歳		4		1				1		1				7
15~19歳	24	118	1	13	6	11	20	26		3	1		52	171
20~24歳	168	363	34	88	35	70	128	50		25	5		370	596
25~29歳	255	270	80	97	92	74	193	35	1	22	12	1	633	499
30~34歳	216	169	97	56	99	38	130	14	1	17	9	2	552	296
35~39歳	184	82	86	56	82	29	119	10	1	19	20	3	492	199
40~44歳	155	37	79	34	72	11	105	7	1	7	15	1	427	97
45~49歳	99	13	62	18	39	2	43	3		8	5	1	248	45
50~54歳	55	6	32	19	30		26	1	1	11	7		151	37
55~59歳	41	1	27	9	8	1	24	2		4	6		106	17
60~64歳	25	1	19	9	10	2	5		1	6	1		61	18
65~69歳	4	2	15	4	11		2	2		3	3		35	11
70歳以上	2	1	8	10	2	3	3	1		6	1	1	16	22
合 計	1,228	1,067	540	414	486	241	798	152	6	132	85	9	3,143	2,015

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索情報

感染症法により位置づけられた感染症発生動向調査事業において、地方感染症情報センターは患者情報と病原体情報を収集・分析し、速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとされている。これに基づいて、東京都健康安全研究センターは、病原体定点などの医療機関から搬入された検体について病原体の検索を行い「東京都感染症週報」に病原体情報としてまとめ、関係機関に提供・公開している。以下、ウイルス検査、細菌検査、性感染症の検査結果について年報としてまとめた。

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア 臨床診断名別にみた検体搬入状況

2009年1月から12月末までの間に、東京都内の小児科、眼科及び基幹病原体定点より2,937件の検体が搬入された。その内訳は、咽頭拭い液1,570件、鼻汁376件、髄液489件、糞便315件、血液83件、尿50件、結膜拭い液43件及びその他（胸水、皮膚病巣等）11件であった。

表1. 臨床診断名別にみた検体搬入状況

診断名	総計	検体種							
		咽頭拭い液	鼻汁	髄液	糞便	血液	尿	結膜拭い液	その他
呼吸器系疾患									
上気道炎	204	196	5		3				
下気道炎	269	249	7	8	1	2	2		
インフルエンザ	742	378	334	25	4	1			
RSウイルス感染症	46	43	1	1	1				
咽頭結膜熱	40	35	1	1	1	1		1	
マイコプラズマ感染症	23	21		2					
不明熱	92	48	8	27	6	3			
感染性胃腸炎	257	25		4	226	2			
神経系疾患									
無菌性髄膜炎	294	34	3	223	9	17	8		
脳炎・脳症	129	22	4	67	16	11	8		1
けいれん	101	22	2	60	12	3	2		
脊髄炎	37	10		10	8		9		
意識障害	9	2	1	6					
発しん性疾患									
手足口病	37	36							1
突発性発疹	27	24		1	1	1			
ヘルパンギーナ	13	13							
伝染性紅斑	12	12							
口内炎	6	6							
水痘	6	6							
風しん	4	3	1						
麻疹	4	3				1			
川崎病	26	19		2	3	2			
不明発しん症	168	156	3		5	2	1		1
流行性耳下腺炎	89	87	1	1					
流行性角結膜炎	39	1						38	
リンパ節炎	21	19				2			
ギランバレー症候群	18	5		4	7		2		
敗血症	13	2		11					
デング熱	9	1				8			
出血性膀胱炎	8	1					7		
肝炎	7	3			1	3			
肝機能障害	7	6	1						
筋炎	6	2			1	3			
心筋炎	5	4			1				
紫斑病	5	4			1				
その他	164	72	4	36	8	21	11	4	8
総計	2937	1570	376	489	315	83	50	43	11

臨床診断名からみた搬入検体数は、呼吸器系疾患 1,416 件（上気道炎 204 件、下気道炎 269 件、インフルエンザ 742 件、RS ウイルス感染症 46 件、咽頭結膜熱 40 件、マイコプラズマ感染症 23 件、不明熱 92 件）、感染性胃腸炎 257 件、神経系疾患 570 件（無菌性髄膜炎 294 件、脳炎・脳症 129 件、けいれん 101 件、脊髄炎 37 件、意識障害 9 件）、発しん性疾患 303 件（手足口病 37 件、突発性発しん 27 件、ヘルパンギーナ 13 件、伝染性紅斑 12 件、口内炎 6 件、水痘 6 件、風しん 4 件、麻しん 4 件、川崎病 26 件、不明発しん症 168 件）、流行性耳下腺炎 89 件、流行性角結膜炎 39 件、リンパ節炎 21 件、ギランバレー症候群 18 件、敗血症 13 件、デング熱 9 件、出血性膀胱炎 8 件、肝炎 7 件、肝機能障害 7 件、筋炎 6 件、心筋炎 5 件、紫斑病 5 件、「その他」164 件であった。「その他」には血管炎、無呼吸発作、腎炎、子宮内感染症等が含まれる。また診断名の記載のないものが 13 件あった。

イ 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

搬入された検体 2,937 件のうち、主に血液を除く 2,853 件を対象に、細胞培養(HeLa, Hep-2, RD-18S, MDCK, Vero, B95a, LLCMK2, C6/36 細胞等)及び乳飲みマウスによるウイルス分離試験と酵素抗体法によるロタウイルス抗原の検出を行った結果、495 件のウイルスが分離検出された(表 2)。分離されたウイルスの内訳は、図 1 に示すようにインフルエンザウイルス 266 株(53.6%)、アデノウイルス 88 株(17.7%)、ムンプスウイルス 34 株(6.9%)、コクサッキーウイルス 28 株(5.6%)、エコーウイルス 24 株(4.8%)、ポリオウイルス 11 株(2.2%)、単純ヘルペスウイルス 10 株(2.0%)、エンテロウイルス 71 型 4 株(0.8%)、ヒトメタニューモウイルス、RS ウイルスはそれぞれ 1 株(0.2%)であった。A 群ロタウイルス抗原は 28 件(5.6%)が確認された。

2009 年最も高頻度に分離されたウイルスは表 2 に示したように、新型インフルエンザ A/H1N1pdm(200 株)で、インフルエンザ患者の検体から 187 株分離された。この他、下気道炎(7 株)、上気道炎(5 株)、不明熱(1 株)患者の検体からも分離された。季節性インフルエンザの原因ウイルスとしては AH1 亜型 19 株、AH3 亜型 29 株、B 型 18 株が分離された。

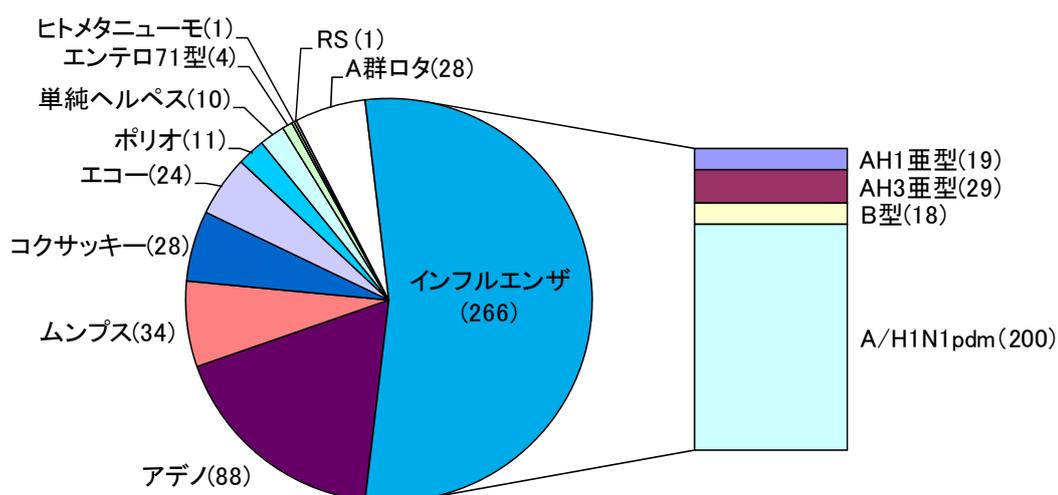


図 1. ウイルス分離検出数 (分離検出数 : 495 件)

次に多く分離されたのは、アデノウイルス 2 型 (34 株) で、上気道炎 (7 株)、胃腸炎 (6 株)、インフルエンザ患者検体 (5 株) 等から多く分離されたが、同ウイルスは他にも 3 型が咽頭結膜熱患者検体

から 8 株、37 型が流行性角結膜炎患者検体から 8 株が分離された。

ムンプスウイルスも 34 株が分離され、一昨年から分離件数は毎年上昇している。同ウイルスはムンプス感染症患者検体(24 株)の他、無菌性髄膜炎患者 (7 株) 検体からも分離された。

コクサッキーウイルスで最も多く分離されたのは B 群 1 型 (17 株) で、上気道炎 (7 株) や下気道炎 (2 株)、無菌性髄膜炎患者検体 (3 株) 等から分離された。

エコーウイルスは 30 型 (22 株) が、主に無菌性髄膜炎患者検体 (12 株) から分離された。

胃腸炎患者検体から、酵素抗体法により A 群ロタウイルス 28 件が確認された。

表 2. 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

	総計	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	不明熱	胃腸炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	けいれん	手足口病	ヘルパンギーナ	口内炎	水痘	風しん	不明発疹症	流行性耳下腺炎	流行性角結膜炎	リンパ節炎	肝機能障害	紫斑病	その他	
検査検体数	2853	204	267	741	46	39	89	255	277	118	98	37	13	6	6	4	166	89	39	19	7	5	164	
分離ウイルス																								
インフルエンザ																								
AH1亜型	19			19																				
AH3亜型	29			25			1											1		1				
B型	18	2	2	13			1																	
A/H1N1pdm	200	5	7	187																				
1型	18	3	3	1	1	2	1	4									2					1		
2型	34	7	3	5	2	1	3	6	1		1			1	1	1	2							
3型	14	3	2				8												1					
5型	10	5	1				3																	
6型	2																	2						
37型	9																			8			1	
40/4型	1							1																
ポリオ																								
1型	7	1	2		1			3																
2型	3							3																
3型	1		1																					
コクサッキー																								
B群1型	17	7	2					2	3								1					1	1	
B群2型	5			1		1	1		1			1												
B群3型	3			1	1				1															
B群4型	3		1																					
3型	1																1							
エコー																								
11型	1			1																				
30型	22	4	1					3	12														1	
エンテロ	71型	4		1								3											1	
ムンプス	34								7	2							1	24						
ヒトメタニューモ	1		1																					
単純ヘルペス	1型	10	3						1			3					1	1					1	
RS	1		1																					
A群ロタ	28							28																
総計	495	41	28	253	5	15	10	50	26	2	1	3	5	1	1	1	8	28	9	1	1	1	2	4

ウ 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

臨床診断名別にみた遺伝子検索状況を表 3 及び図 2 に示した。

搬入された総検体 2,937 件中 2,935 件を対象に遺伝子検索を実施した結果、1,553 検体(52.9%)から 1,901 件のウイルス遺伝子が検出された (複数種のウイルス遺伝子検出例を含む)。陽性例の内訳をみると、インフルエンザウイルス が 634 件 (33.4%)、と最も多く、特に新型インフルエンザ A/H1N1pdm の遺伝子は 439 件 (23.1%) 検出され、本年最も多く検出されたウイルスとなった。同ウイルスでは他に AH1 亜型 104 件 (5.5%)、AH3 亜型 48 件 (2.5%)、B 型 43 件 (2.3%) の遺伝子が検出された。インフルエンザ以外のウイルスでは、以下アデノウイルス 255 件 (13.4%)、エンテロウイルス 226 件(11.9%) ライノウイルス 185 件(9.7%)、ヒトヘルペスウイルス 165 件 (8.7%)、ムンプスウイルス 87 件 (4.6%)、EB ウイルス 86 件 (4.5%)、RS ウイルス 51 件 (2.7%)、パラインフルエンザウイルス 50 件 (2.6%)、サイトメガロウイルス 45 件 (2.4%)、ノロウイルス 39 件 (2.1%)、単純ヘルペスウイルス 33 件 (1.7%)、ヒトメタニューモウイルス 14 件(0.7%)、マイコプラズマ・ニューモニエ 10 件 (0.5%)、サポウイルス 9 件(0.5%)、パルボウイルス B19 5 件 (0.3%)、デングウイルス 2 件 (0.1%)、麻しんウイルス 1 件(0.1%)、水痘帯状疱疹ウイルス 1 件 (0.1%) であった。また、百日咳菌の遺伝子 3 件 (0.2%) が検出された。

エンテロウイルスについては、ダイレクトシークエンス法により遺伝子増幅産物の遺伝子配列を決定し、NCBI（米国生物工学情報センター）の遺伝子データベースを使用して遺伝子の相同性検索を行い、検出遺伝子のさらなる分類を試みた。エンテロウイルス遺伝子検査結果が陽性となった226検体の遺伝子を解析した結果は、コクサッキーウイルスA群8件、コクサッキーウイルスB群34件、ポリオウイルス31件、エコーウイルス26件、エンテロウイルス71型19件、型別不明108件であった。

表3. 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

	総検査数	陽性総数	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RSウイルス	咽頭結膜熱	マイコプラズマ	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	けいれん	脊髄炎	手足口病	突発性発疹	ヘルパンギーナ	伝染性紅斑	口内炎	水痘	風しん	麻疹	川崎病	不明発疹症	ムンプス	流行性角結膜炎	リンパ節炎	ギランバレー	デング熱	肝炎	肝機能障害	筋炎	心筋炎	その他		
検査検体数	2935	1553	204	269	742	46	40	23	92	257	294	129	101	37	37	27	13	12	6	6	4	4	26	168	89	39	21	18	9	7	7	6	5	164		
インフルエンザ	AH1亜型	104	2	100	1				1																											
	AH3亜型	1592	48	1	45		1		1																											
	B型		43	3	2	37				1																										
	A/H1N1pdm	1119	439	9	22	403		3				1																							1	
アデノ		2528	255	32	47	38	9	19	1	6	19	3	1	7		5	2	3	1	2	1	1		3	19	7	16	5	1		1	1		1	4	
	ポリオ		31	5	5	2	2				9	1	1	2											3											
	コクサッキーA群		8		1					1	1					3	1								1											
	コクサッキーB群		34	8	4		1	1		2	5	7		1			1							3												1
	エコー		26	4	1	1		1			4	13																								2
エンテロ	71型		19	1	5					1	2				10																					
	型別不明		108	18	10	8	1	1	1	3	3	10	6	1	15		5				1			2	9	3		4				1			6	
			185	14	44	25	9	12	3	7	7	1	2	3	2	2		2		2				3	16	18		2					1	1	9	
単純ヘルペス	1型		31	4	1	1				1	5	5				1	5		3					2	1	2										
	2型		2								2																									
ヒトヘルペス	6型		124	6	5	3		1	9	1	1	5	14		3	15			1	1		1		54	1							1		2		
	7型		41	1				1	5	1	2		7		1	6							1	16												
	サイトメガロ		554	45	1	2			1	3	4	1			1	1							1	24	2								1		2	
EB		741	86	5	1	1			2	10	5			2		1	3	1			1		1	12	22		9	3		1	2			4		
水痘帯状疱疹		54	1																					1												
麻疹		62	1																		1															
ムンプス		406	87			1			1		33	1				1									43		5								2	
ヒトメタニューモ		48	14	3	11																															
RS		271	51		31		17		1	1															1											
パラインフル	1型		167	12	6	4		1	1																											
	3型		38	16	17		5																													
ハルボ		58	5															3						2												
ノロ		263	39							36			1																							2
サボ		263	9	1						8																										
デング	1型		4	1																															1	
	2型		1																																1	
マイコプラズマ		140	10	1		1		5															1											1	1	
百日咳		13	3																																3	
総計		11508	1901	140	213	667	45	40	13	42	97	95	28	36	2	41	28	18	7	6	6	4	1	12	162	98	18	25	4	2	2	6	2	3	38	

この解析の結果、無菌性髄膜炎患者検体から検出されたエンテロウイルス遺伝子は、エコーウイルスの遺伝子が多いことが判明した。また、手足口病患者検体から検出されたエンテロウイルス遺伝子は、エンテロウイルス71型が多かった。

ライノウイルス遺伝子は一般に鼻風邪の原因ウイルスと認識されていることが多いが、上気道炎より下気道炎患者検体からの検出が多く、またインフルエンザ患者検体からも数多く検出されていた。

アデノウイルス遺伝子は多様な臨床症状の患者検体から検出されるが、上・下気道炎、インフルエンザ、感染性胃腸炎、不明発しん症患者、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎等の検体から多く検出された。

ヒトヘルペスウイルスは突発性発しんの原因ウイルスとして知られているが、不明発しん症患者検体から最も多く検出された。また、けいれん、不明熱患者の検体からも多く検出されているが、これは突発性発しん発症初期の高熱とそれにとまなう熱性けいれんによるものと考えられる。

ムンプスウイルス遺伝子は、流行性耳下腺炎患者検体から最も多く検出されたが、無菌性髄膜炎患者からも多く検出されており、2009年における同ウイルスによる無菌性髄膜炎の流行が示唆された。

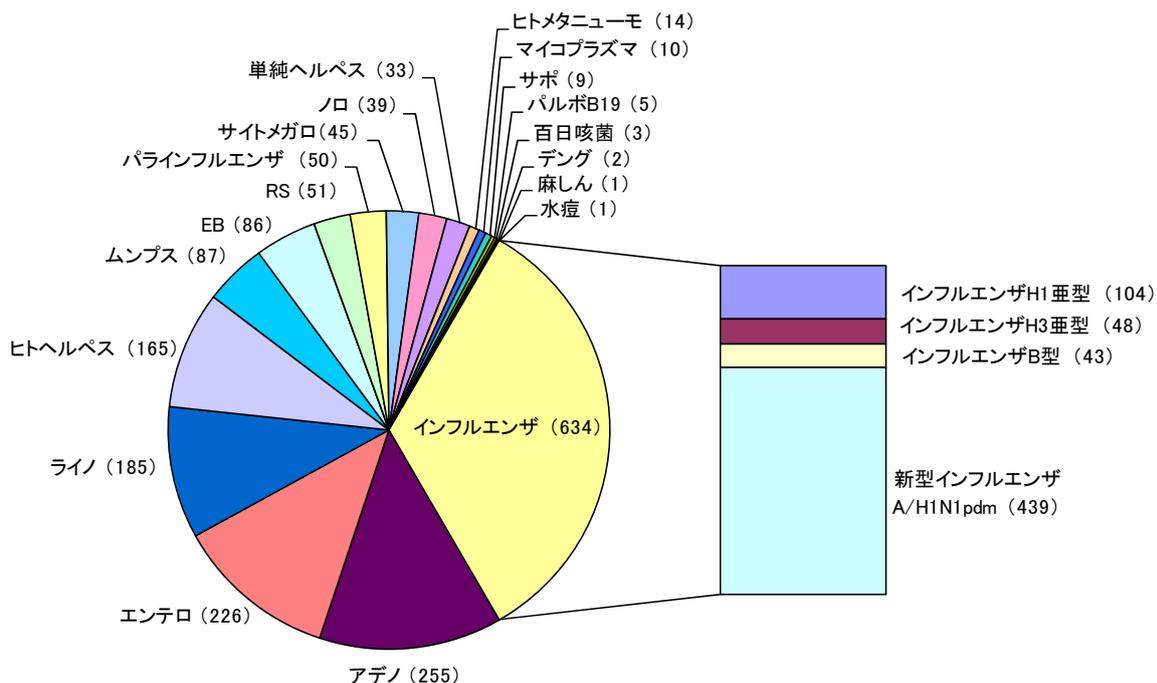


図 2. ウイルス遺伝子検出数（陽性例：1,901 件）

エ 臨床診断名別にみたウイルス検出状況

① 呼吸器系疾患患者検体からのウイルス検出状況

呼吸器感染症である上気道炎、下気道炎、インフルエンザ、咽頭結膜熱、RS ウイルス感染症患者の咽頭拭い液（鼻汁を含む）から検出されたウイルスのうち、上位 6 種のウイルス（インフルエンザウイルス、エンテロウイルス、パラインフルエンザウイルス、アデノウイルス、ライノウイルス、RS ウイルス）における月別の検出状況を図 3 に示した。

季節性のインフルエンザウイルス AH1 亜型（ソ連型）並びに AH3 亜型（香港型）検出は 2 月に、B 型は 3 月にピークを迎え、6 月にはこれら季節性インフルエンザウイルスの検出はほぼ収束した。新型インフルエンザウイルスについては 4 月末より検査を開始したが、7 月 17 日に搬入された海外渡航歴のある不明熱性疾患患者の咽頭ぬぐい液が本事業では最初の陽性検体となった。以降、新型インフルエンザ A/H1N1pdm の検出数は急激に増加し、10 月をピークとする大きな流行が見られ、12 月においても流行は継続していた。季節性インフルエンザウイルスは 7 月以降には 8 月、9 月各 1 件検出されたのみで 10 月以降検出されていない。

夏風邪の原因の一つとされるエンテロウイルスは、7 月が検出のピークであった。また、初夏に検出されることの多いパラインフルエンザウイルスは、本年は 7 月に検出のピークが見られた。

一方、毎年夏に検出のピークを形成するアデノウイルスは 7 月以降検出数が減少し、例年の様な流行は見られなかった。また、春と秋に流行のピークを形成するライノウイルス、秋から冬にかけて流行が見られる RS ウイルスの検出は共に 8 月から 12 月に向かい緩やかな検出数の上昇は続いているものの、例年の様な季節性の検出ピークは見られなかった。

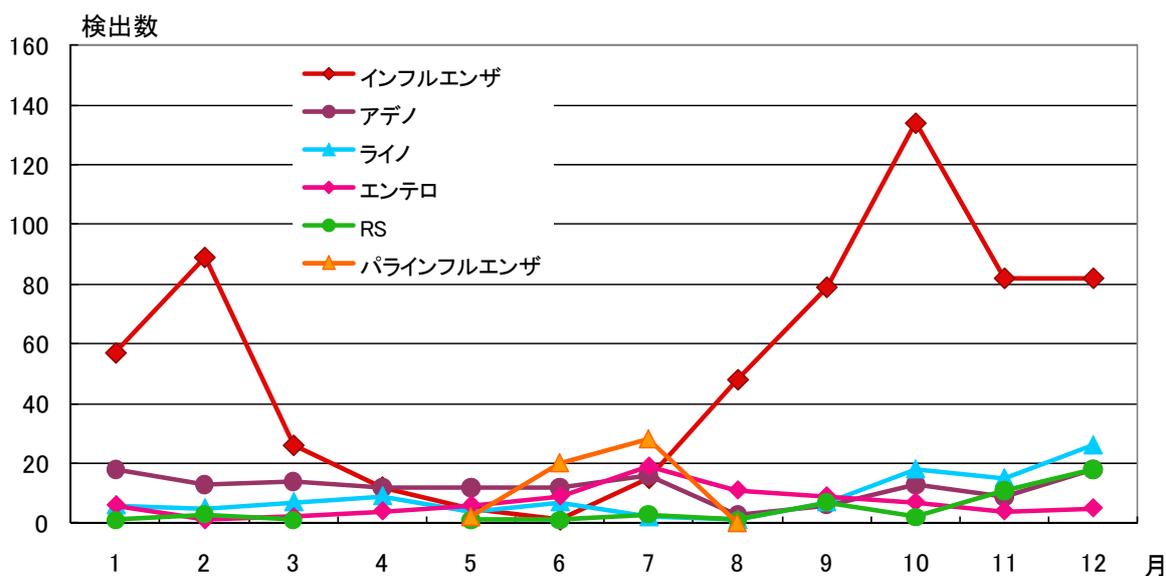


図3. 呼吸器系感染症患者検体からの月別ウイルス検出状況

② 無菌性髄膜炎患者検体からのウイルス検出状況

無菌性髄膜炎患者検体から検出されたウイルスの中で最も多かったエンテロウイルス、ムンプスウイルス及びヘルペスウイルスについて月別の検出状況を図4に示した。なお、ヒトヘルペスウイルス、単純ヘルペスウイルス、EBウイルス等のヘルペスウイルス科に属するウイルスをまとめて「ヘルペス」として計上している。

無菌性髄膜炎は、夏季を中心として流行する中枢神経系の疾患で、毎年夏季に大小の流行を起こすが、原因ウイルスの種類は毎年異なっている事が多い。本疾患は、主にエンテロウイルスによって起こることが多いが、ムンプスウイルスによっても起こることが知られている。2009年はムンプスウイルスの遺伝子検出例は33件と昨年比べて約2倍近く（昨年17件）検出され、1月から断続的に検出された。エンテロウイルスは例年見られる7月を中心とする夏季の流行とが見られたほか、エンテロウイルスのひとつであるエコーウイルス30型を原因とする流行が4月から5月にかけて見られた。ヘルペスウイルスによる流行は6月に検出のピークが見られ、その殆どはEBウイルスによるものであった。

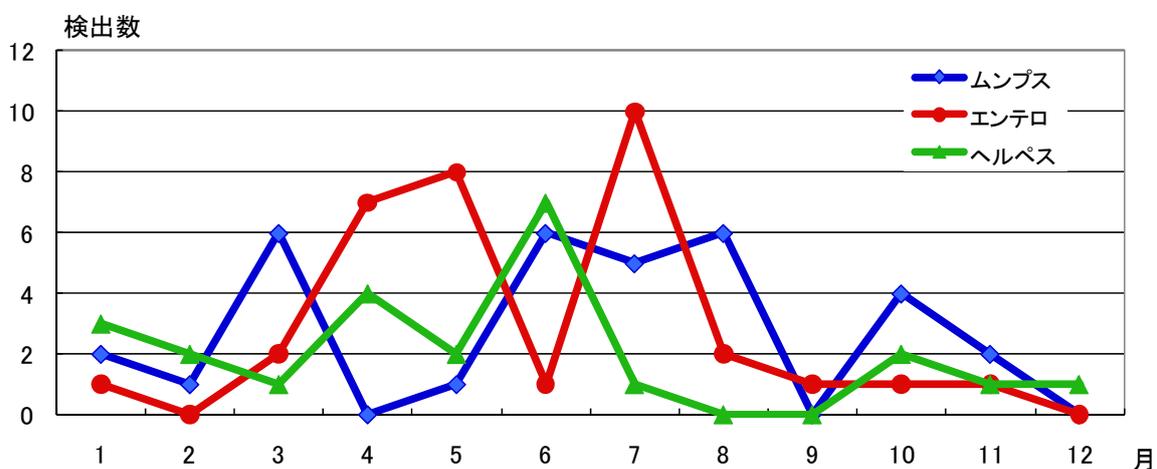


図4. 無菌性髄膜炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

③ 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況

感染性胃腸炎患者検体から、ウイルス分離、遺伝子検索、抗原検出（酵素抗体法）によって検出されたウイルスの月別検出数を図5に示した。ノロウイルスの検出は前年から続く流行のピークが1月に見られ、以降検出数を減少させながら5月まで検出が続いた。本年の後半は12月に検出数の増加が見られ、ノロウイルスを原因とする胃腸炎の流行の始まりとなった。毎年、春先から流行の見られることが多いロタウイルスは、1月から7月にかけて検出されており、検出のピークは4月であった。アデノウイルスとエンテロウイルスは、ほぼ経年的に検出されていた。

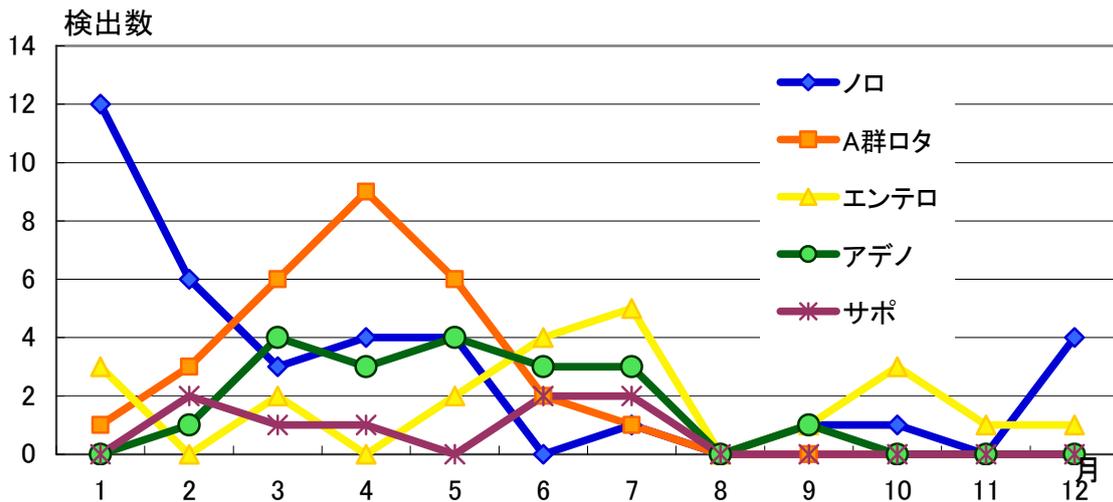


図5. 感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

④ 発しん性疾患患者検体からのウイルス検出状況

発しん性疾患（突発性発しん、手足口病、ヘルパンギーナ、川崎病、風しん、麻しん、伝染性紅斑、水痘、口内炎）の患者検体135件よりアデノウイルス4株（2型3株、5型1株）、コクサッキーウイルスB群1株、エンテロウイルス71型3株、単純ヘルペスウイルス1型3株の計11株が分離された。

遺伝子検出状況を図6に示す。アデノウイルス18件、エンテロウイルス属39件（遺伝子解析；ポリオウイルス1件、コクサッキーウイルスA群4件、同B群1件、エンテロウイルス71型10件、型別不明23件）、ライノウイルス11件、ヘルペスウイルス属49件（ヒトヘルペスウイルス6型21件、同7型8件、単純ヘルペスウイルス9件、EBウイルス7件、サイトメガロウイルス4件）、パルボB19ウイルス3件、麻しんウイルス1件、ムンプスウイルス、マイコプラズマ各1件の計123件が検出された。

手足口病の原因ウイルスは、主にコクサッキーウイルスA群とエンテロウイルス71型であるが、2009年の手足口病患者から分離されたウイルスはエンテロウイルス71型が多数を占めた。

突発性発しん患者検体からの遺伝子検出陽性例27件のうちヒトヘルペスウイルス6型遺伝子が15件（53.6%）を占めていた。また、伝染性紅斑では遺伝子陽性例7件では、パルボB19ウイルス遺伝子が3件（42.9%）であった。口内炎患者検体からは、遺伝子陽性例6件（3種類）のうち単純ヘルペスウイルス遺伝子が3件（50.0%）検出された。

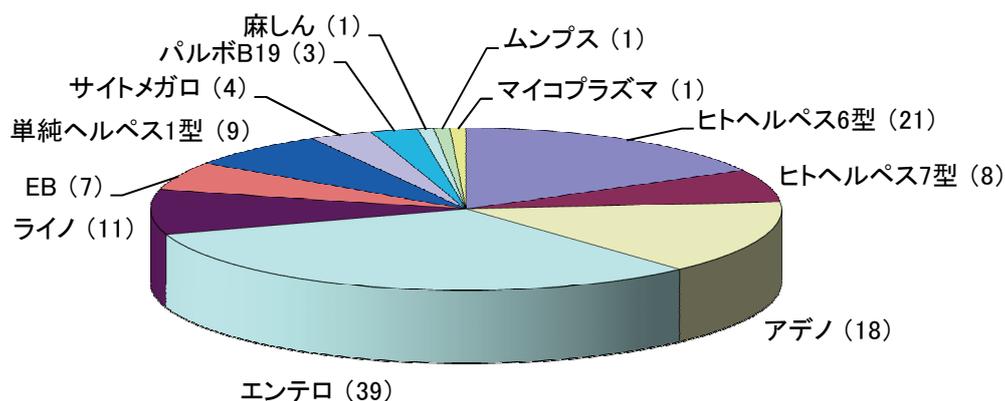


図 6. 発しん性疾患患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

⑤ 不明発しん症患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）

不明発しん症患者検体 168 件から、アデノウイルス 4 株（1 型 2 株、2 型 2 株）、コクサッキーウイルス B 群 1 型 1 株、エコーウイルス 3 型 1 株、ムンプスウイルス 1 株、単純ヘルペスウイルス 1 型 1 株が分離された。

遺伝子検出状況は図 7 に示した。陽性例 162 件の内、ヒトヘルペスウイルス属は 109 件（67.3%）（単純ヘルペスウイルス 1 型 2 件、ヒトヘルペスウイルス 6 型 54 件、同 7 型 16 件、サイトメガロウイルス 24 件、EB ウイルス 12 件、水痘帯状疱疹しんウイルス 1 件）であった。次に多く検出されたのはアデノウイルス 19 件（11.7%）で、さらにライノウイルス 16 件（9.9%）、エンテロウイルス 15 件（9.3%）、パルボウイルス B19 2 件（1.2%）、RS ウイルス 1 件（0.6%）の遺伝子が検出された。

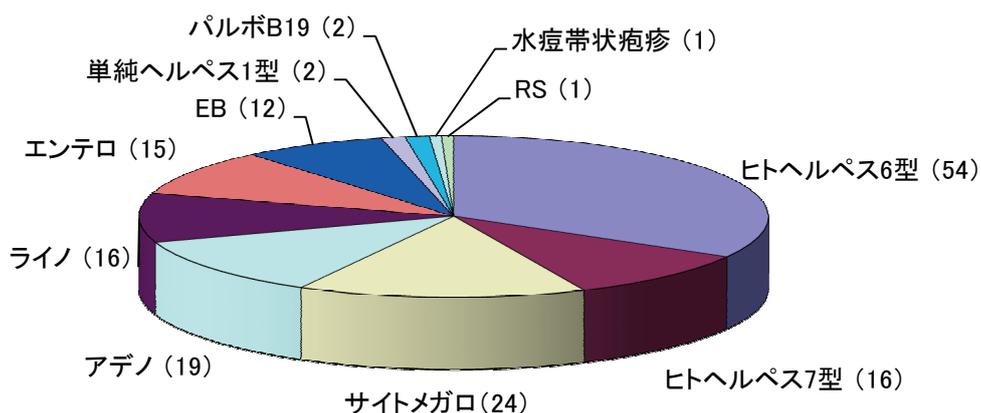


図 7. 不明発しん症患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

⑥ MCLS（川崎病）患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）

MCLS（川崎病）患者検体 26 検体からのウイルス遺伝子検索状況を図 8 に示した。12 件からウイルス遺伝子が検出され、アデノウイルスが 3 件（25.0%）、ライノウイルス 3 件（25.0%）、エンテロウイルス 2 件（16.7%）、またサイトメガロウイルス、EB ウイルス、ヒトヘルペスウイルス 7 型、マイコプラズマが各 1 件（8.3%）であった。

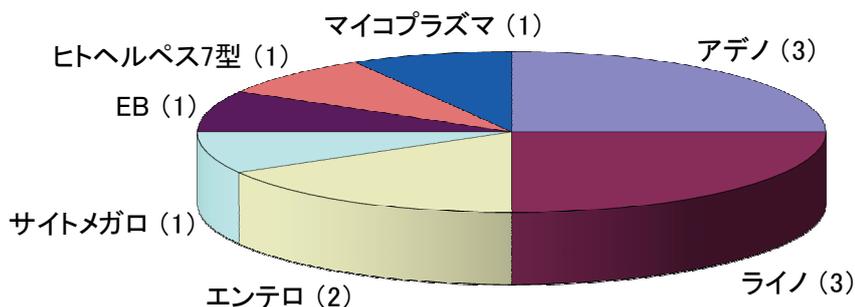


図 8. MCLS (川崎病) 患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

オ 臨床診断名別にみた血中抗体検査状況

2009 年は、都内 2 定点医療機関からデング熱疑い患者の検体が 8 件搬入された。抗体検査の結果、デング熱 IgM が 5 名から検出された。1 名の患者は IgM 土であったが、遺伝子検査によりデングウイルス 2 型の遺伝子が検出された。

都内 6 定点医療機関からリケッチア症 (紅斑熱、つつが虫病、猫ひっかき病、Q 熱) 14 件、細菌性疾患 (ライム病) 1 件およびウイルス性疾患 (E 型肝炎) 3 件の疑い患者検体が合計 18 例搬入された。リケッチア症疑いの検体では、単項目のリケッチア検査依頼は 5 件のみであったが、複数項目の検査依頼が 9 件あり、そのうち紅斑熱群リケッチア検査の依頼が 8 件と多かった。多くは臨床診断上、リケッチア症を疑っているものが多いが、事由の一つとして海外帰国者等であることが見受けられた。検体搬入は 1、7、9 月を除く全ての月であったが、つつが虫病は 10 月から 4 月、紅斑熱に関しては 11 月から 2 月に若干多かった。検査の結果、つつが虫病 IgG 陽性 : 2 名、紅斑熱 IgG 陽性 : 4 名、猫ひっかき病 IgM 陽性 : 2 名、IgG 陽性 : 3 名、ライム病 IgG 陽性 : 1 名の検出が確認された。

(2) 内科病原体定点から搬入された検体の検査結果

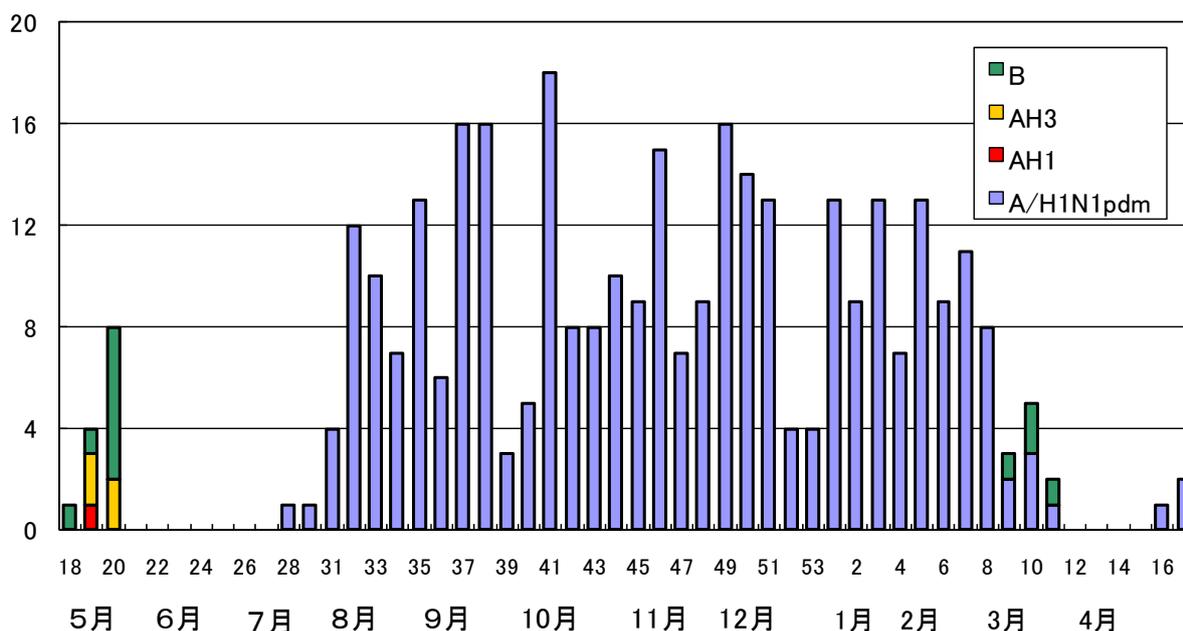
インフルエンザウイルスの流行シーズンは毎年 9 月を境に前シーズンと次シーズンに分けている。しかし、2009 年は、通常収束している季節性インフルエンザの流行が 5 月まで見られた上に、4 月末にメキシコ、アメリカでの流行をはじめ、世界的に流行が見られた豚インフルエンザウイルスによる新型インフルエンザが流行シーズンをまたいで発生し、2010 年 4 月においても収束していない。したがって、本年のインフルエンザ検査結果報告では、2009 年 5 月から 2010 年 4 月までに当センターに搬入された咽頭拭い液または鼻咽頭拭い液 421 件について記載する。

インフルエンザウイルスの遺伝子検査を行った結果、AH1 亜型 1 件、AH3 亜型 4 件、B 型 12 件、新 (A/H1N1pdm) 型 321 件の計 338 件 (80.3%) が陽性となった。また、ウイルス分離試験では B 型 7 株、新型 270 株の計 277 株 (65.8%) が分離された。

2008/2009 年シーズン (2009 年 8 月末まで) における 2009 年 5 月以降の季節性インフルエンザの流行は 5 月中旬まで AH1 亜型、AH3 亜型、B 型の流行が見られたが、新型が国内流行し始めた 7 月には季節性インフルエンザの流行は見られなくなった。都内における新型の流行は、5 月下旬に 3 例の海外帰国者感染が明らかになったのを初めとして、第 23 週 (6 月 1 日)、第 24 週 (6 月 10 日) に発生した 2 つの集団発生例以降、国内流行例が加速的に増加し、第 28 週 (7 月 10 日) からは市中流行株として大流行し、2009/2010 年シーズン (2009 年 9 月以降) の最初から高い発生率を維持してきた。2010 年第 9 週以降急

速に新型インフルエンザは減少してきたが、B型の発生が同時に見られるようになった。第12週以降に新型インフルエンザが収束したかに見られたが第16週に再び検出され、2010年4月時点においても終息に至っていないのが現状である。

2008/2009年シーズンは、7月以降の新型インフルエンザウイルスの流行によって3種類の季節性インフルエンザウイルスと新型インフルエンザウイルスによる4種類の混合流行となった。2009/2010年シーズンは、引き続き新型インフルエンザウイルスの流行と2010年第9週（3月1日）に発生したB型ウイルスによる散発発生による2種類の混合流行となったが、2008/2009年後半のシーズンと2009/2010年シーズンの主たる流行株は新型インフルエンザウイルスであった。



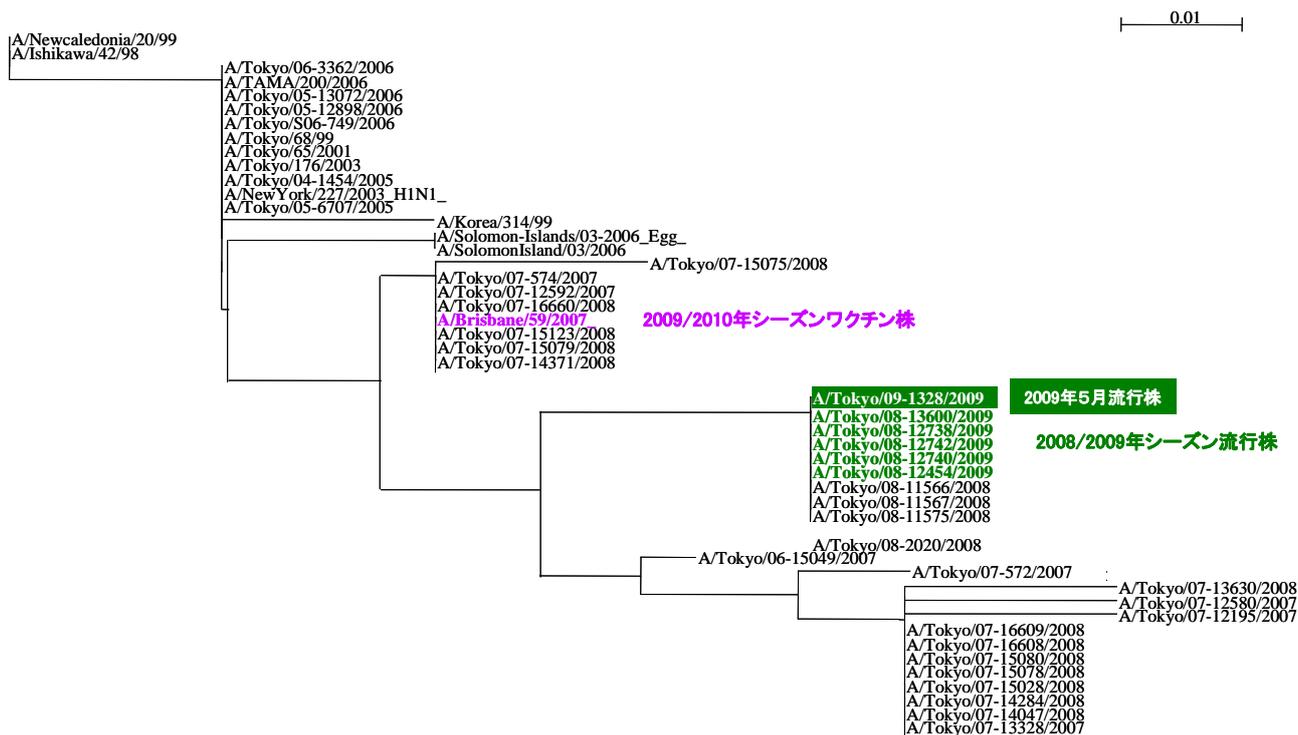


図10. 東京都におけるAH1亜型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

AH3亜型株のシーズン終盤の流行株は、2008/2009年シーズン最盛期の株と比べて系統樹上ではワクチン株(A/Uruguay/716/2007: A/Brisbane/10/2007類似株)を含む大きな群に属してはいたがワクチン株からさらに分枝したところに位置していた。アミノ酸相同性も93.2~94.2%と最盛期株より2.5%程低下したことから、これまでのワクチン株と抗原性に乖離が生じる懸念があった。しかし、2010/2011年シーズンのAH3亜型のWHOワクチン推奨株(A/Perth/16/2009株)は、今回報告する5月に検出されたシーズン終盤流行株と系統樹上で近縁な位置にある株であることから、抗原性についても同様であることが推察され、ワクチン株として有用な株であることが期待できる。

B型のシーズン流行株は、全国的にはVictoria系統株、山形系統株がそれぞれ検出されており地域によって流行株が異なっている。しかし、東京都では2008/2009年シーズンからワクチン株と同様なVictoria系統の株が続いており2009/2010年シーズン検出株も系統樹上では同様な所に位置している(図12)。ワクチン株(B/Brisbane/60/2008: Victoria系統株)とのアミノ酸相同性も解析部位では100%と合致しており、WHOの2010/2011年シーズンのワクチン推奨株として選択されていることから、次シーズンもB型の主たる流行株として見られる可能性が大きい。

一方、東京都の病原体定点で主として7月より発生が見られた新型インフルエンザウイルス流行株は、解析領域で1または2個程度のアミノ酸変異を起こす遺伝子変異が認められたが、大きく抗原性が変異するような、まとまった遺伝子変異は検出されておらず、系統樹上でもワクチン株であるA/California/7/2009株と近縁の位置に全ての株があった。

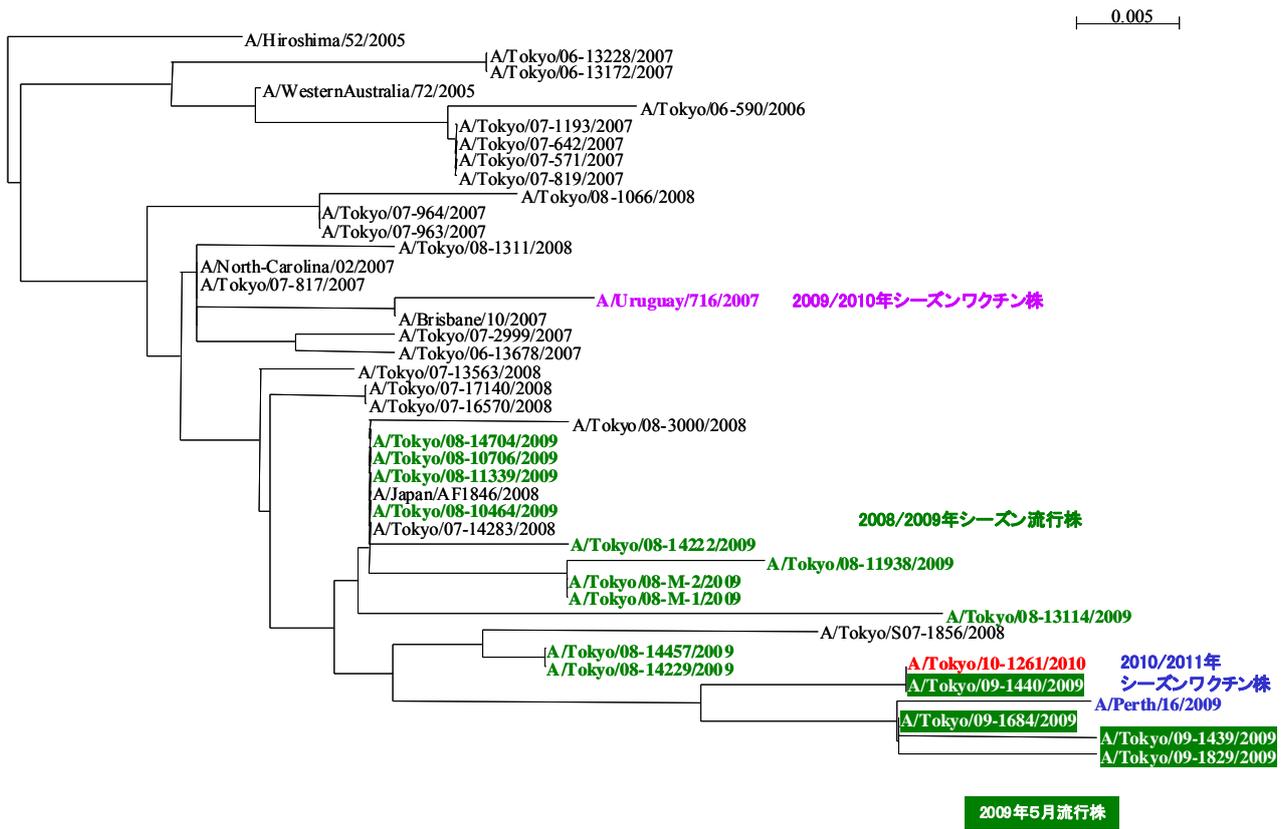


図 11. 東京都における AH3 亜型インフルエンザウイルスの HA 遺伝子系統樹

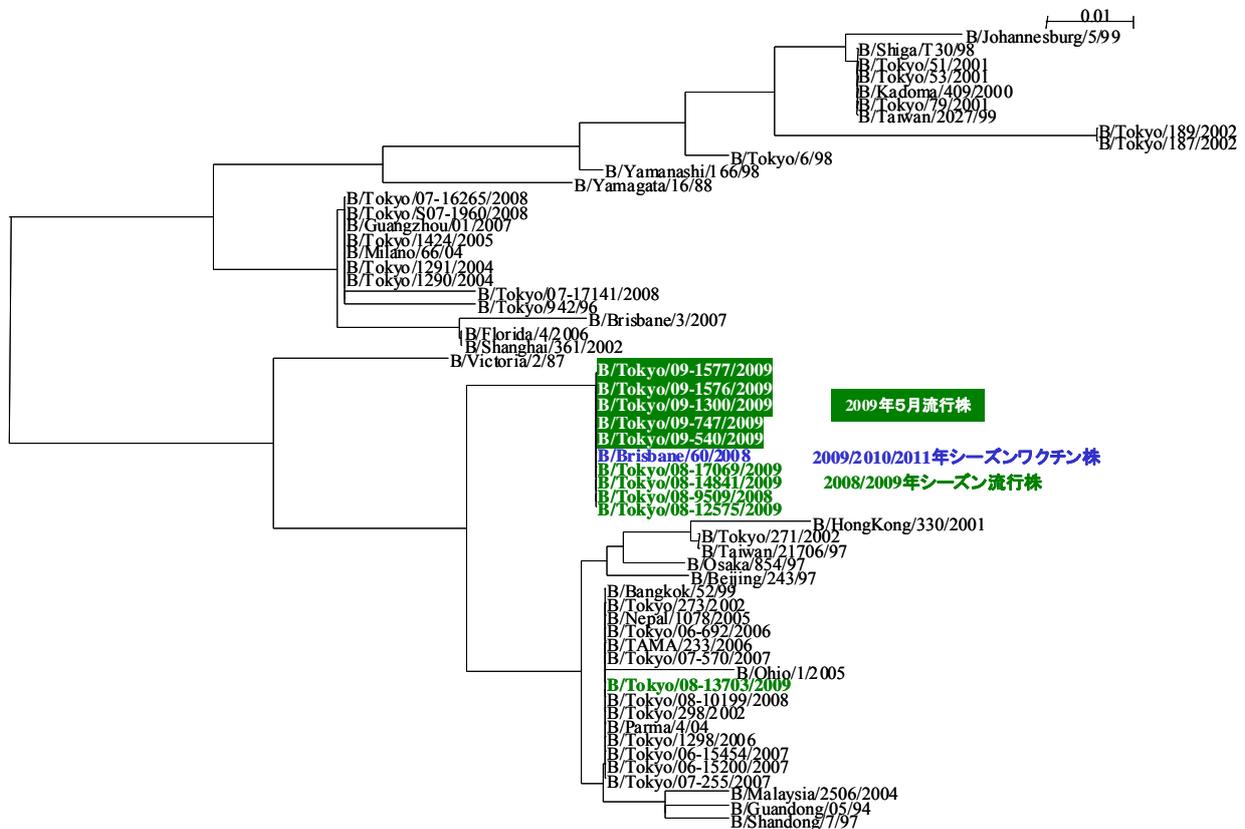


図 12. 東京都における B 型インフルエンザウイルスの HA 遺伝子系統樹

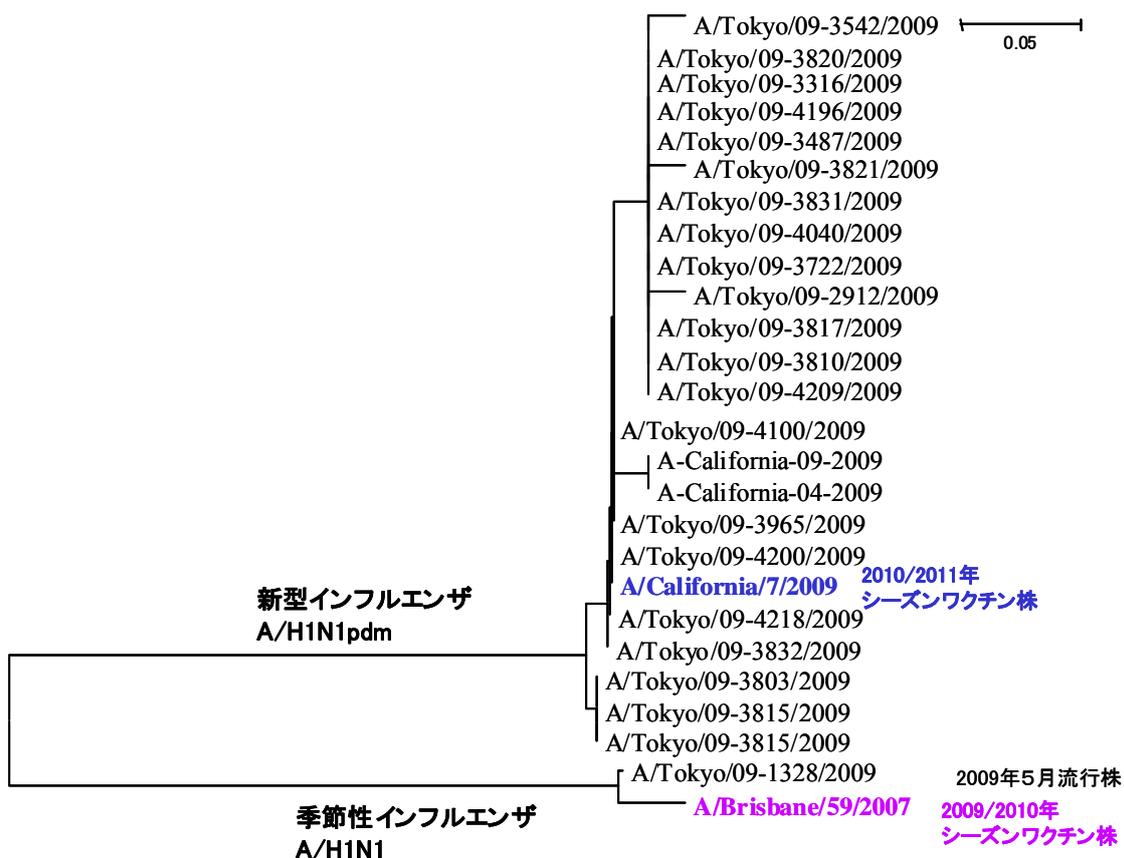


図13. 東京都における新型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

B型と新型の分離株を国立感染症研究所配布のインフルエンザサーベイランスキットならびにデンカ生研製のワクチン株抗血清を用いたHI試験(0.7%のモルモット赤血球液を使用)に供した結果、B型分離株は、Victoria系統のワクチン株であるB/Brisbane/60/2008株抗血清 (ホモHI価320倍) に対しては、80～320倍のHI価で、ワクチン株と交差反応性の高い株であることが判った。また、新型分離株は、ワクチン株であるA/California/7/2009株抗血清 (ホモHI価320倍) に対して160～640倍のHI価でワクチン株と非常に交差性が高いことが判った。さらに分離株の多くが増殖性が高く、HI試験に使用する際の分離株の力価が高かったことが特徴的であった。

遺伝子配列及びHI試験の結果から2008/2009年シーズン後半のAH1亜型及び2008/2009/2010年シーズンのB型流行株はワクチン株との類似性が高い株であったことが判った。AH3亜型流行株は、ワクチン株とは若干異なった株を含んでいるもののワクチン株との交差反応性を持った株である事が判明した。しかし、今後のシーズンにおけるAH3亜型の流行拡大を阻止するためには、流行株に抗原性が近縁と思われる新たなワクチン株の選択が必要であると思われる。また、新型流行株はワクチン株と高い交差反応性を示す株であることが判明し、次シーズンのワクチン株として推奨されていることから多くの年代での抗体獲得が期待できる。

2 細菌検査結果

(1) 三類感染症の病原体検索

ア 腸管出血性大腸菌感染症

HUS を発症した男児（5 歳）の血清について、O157 抗原凝集抗体（LPS）に対する血中抗体をウイダル反応法で測定した結果、陽性(x320) であった。

(2) 四類感染症の病原体検索

ア レジオネラ症

2009 年に当センターに搬入された患者の喀痰 3 件、胸水 1 件、尿 4 件および患者由来株 4 件の合計 12 件を対象とした。喀痰からの菌検出および尿中抗原検査を実施した結果、全て陰性であった。胸水から菌検出を試みた結果、菌の分離はできなかったが、*Legionella pneumophila* の遺伝子が検出された。また、患者由来株 4 件について血清型別試験を行った結果、4 株すべてが *Legionella pneumophila* 1 群であった。

(3) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索

ア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2009 年に搬入された患者由来株は 1 株で、G 群レンサ球菌であった。同定試験の結果、*Streptococcus dysgalactiae* ssp. *equisimilis* と判定された。

イ 髄膜炎菌性髄膜炎

2009 年に搬入された患者由来検体は、患者 2 名から分離された *Neisseria meningitidis* 2 株であった。血清型別試験の結果、1 株は Y 群であったが、他の 1 株は、菌が死滅しており型別不能となった。

ウ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

2009 年に搬入された菌株は、患者由来株 5 株と疑い患者由来株が 1 株であり、これらの菌について同定試験及び *van* 遺伝子の検出試験を実施した。その結果、4 株は *Enterococcus faecium*、2 株は *E. faecalis* と同定された。*E. faecium* 4 株はすべて *vanA* 遺伝子を保有し、*E. faecalis* 2 株は *vanB* 遺伝子を保有していた。

(4) 五類感染症（定点把握対象）の病原体検索

ア A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2009 年に都内の小児科定点および基幹定点から送付された試料を対象に、A 群溶血性レンサ球菌の検出および同定を行った。患者由来 35 株及び患者咽頭拭い液から分離した 8 株の合計 43 株について、月別の検出状況をまとめるとともに、T 血清型別を実施した。

A 群溶血性レンサ球菌の月別検出状況は 1 月～3 月：11 株、4 月～6 月：9 株、7 月～9 月：13 株、10 月～12 月：10 株であった（表 1）。

T 血清型別では、25 型が 14 株と最も多く、次いで 11 型が 6 株、1 型および 12 型が 5 株、4 型が 4 株などであった。2008 年に 24.6%と急増した 25 型は、43 株中 14 株(32.6%)と増加傾向が続いていることが判明した。

表 1. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者から分離された *S. pyogenes* の T 血清型及び月別検出状況

T型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (%)
1		2	1			1						1	5 (11.6)
4		2	2										4 (9.3)
6								1					1 (2.3)
11										6			6 (14.0)
12			1				2			1		1	5 (11.6)
13				1									1 (2.3)
22				1									1 (2.3)
25			3	3	1	1	3		2			1	14 (32.6)
28								1					1 (2.3)
UT				1				1	3				5 (11.6)
計	0	4	7	6	1	2	5	3	5	7	0	3	43 (100)

UT：型別不能

イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑い患者の糞便 47 件について細菌検査を実施した。その結果、16 件 (34.0%) から腸管系病原菌が検出された。その内訳は、カンピロバクター 12 株 (*C. jejuni* 11 株、*C. coli* 1 株)、サルモネラ 2 株 (O9 群 *S. Enteritidis* 及び O16 群 *S. Vancouver* 各 1 株)、エロモナス 3 株であった。患者年齢階級別病原体の検出状況を表 2 に示した。

表 2. 感染性胃腸炎からの年齢階級別腸管系病原菌検出状況

年齢階級	検査件数	検出病原菌		
		カンピロバクター	サルモネラ	エロモナス
1歳未満	8	0	0	1
1 - 4歳	11	1	0	1
5 - 9歳	2	1	0	0
10 - 14歳	4	3	0	1
15 - 19歳	2	0	1	0
20歳以上	19	7	1	0
不明	1	0	0	0
計	47	12	2	3
(%)		(25.5)	(4.3)	(6.4)

ウ 百日咳

2009 年に都内の小児科定点及び基幹定点医療機関から百日咳疑い患者の鼻汁及び鼻腔拭い液が 21 検体搬入され、分離同定及び遺伝子検索を実施した。その結果、百日咳菌は分離されなかったが、3 件から百日咳菌遺伝子が検出された。百日咳菌以外に、メチシリン感受性黄色ブドウ球菌 (MSSA)、インフルエンザ菌 (*Haemophilus influenzae*) が分離された。

エ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 感染症

2009 年に都内の小児科定点及び基幹定点からの送付試料を対象に MRSA 保菌状況を検索した。検出された黄色ブドウ球菌については、コアグララーゼ型別 (コ型と略す)、エンテロトキシン (SE と略す) 産生性及び Toxic shock syndrome toxin-1 (TSST-1 と略す) 産生性の試験を実施した。患者由来 MRSA 9 株の

コ型は、Ⅱが1株、Ⅲが3株、Ⅳが1株、Ⅴが3株であり、MRSA および MSSA の2種類が分離された1件は、いずれもⅧ型であった。また、MSSA 6株のコ型はⅢおよびⅣが共に3株であった。

毒素産生性は、MRSA のコ型：Ⅲの3株が SEC+TSST-1 産生性であり、MSSA のコ型：Ⅲの3株中1株が、SEC+TSST-1 産生株であった。また、Toxic Shock 疑いで搬入された MSSA は、コ型：Ⅳ、SEA+TSST-1 産生株であった。

3 性感染症 (STI) 病原体定点から搬入された検体の検査結果

(1) クラミジア・淋菌遺伝子検査・細菌分離同定

2009年1月から12月に性感染症病原体定点から搬入された284件について検査を実施した。搬入検体の内訳は、女性では子宮頸管擦過(分泌物(スワブ))16件および尿1件の計17件、男性では陰部尿路擦過物(スワブ)60件および尿206件、性別不明の尿1件の計284件である。遺伝子検査については、各検体から核酸抽出後、クラミジア・トラコマチスおよび淋菌遺伝子の検索をPCR法で行った。

また、クラミジア・トラコマチス遺伝子については、抗原となる主要外膜蛋白をコードする *omp1* の一部可変領域を含む遺伝子配列を保存領域として作成した共通プライマーで特異遺伝子増幅後、NCBI (米国生物学情報センター) の核酸データベースにおける BLAST 検索、ならびに系統樹解析により血清型を判定した。

淋菌およびその他の菌の分離培養は、5%ウマ血液寒天培地およびサイヤ・マーチン寒天培地を用い、発育した集落について菌種を同定した。同定された淋菌については薬剤感受性試験を行った。

検体の年齢構成および検査成績を表3に示した。クラミジア・トラコマチス遺伝子は女性9例(52.9%)、男性89例(33.5%)で検出された。淋菌遺伝子は女性では1例(5.9%)、男性57例(21.4%)で検出された。これらのうち男性では26例でクラミジア・トラコマチス遺伝子と淋菌遺伝子が共に検出された。

淋菌遺伝子が検出された女性1例と男性57例のうち43例(75.4% 男性全体の16.2%)で淋菌が分離された。淋菌以外で分離された主な菌は髄膜炎菌が男性2例(0.8%)、A群溶血性レンサ球菌が女性1例(5.9%)、男性7例(2.6%)、B群溶血性レンサ球菌は女性3例(17.6%)、男性45例(16.9%)、および性別不明の1例から分離された。また、カンジダ・アルビカンスは女性1例(5.9%)、男性4例(1.5%)から分離された。

診断別の検査成績を表4に示した。クラミジア感染症では女性10例のうち5例(50.0%)に、男性では215例のうち64例(29.8%)にクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、20例(9.3%)に淋菌遺伝子が検出された。クラミジア・トラコマチス遺伝子と淋菌遺伝子共に検出されたのは男性の3例であった。この他男性2例(9.3%)から髄膜炎菌、男性4例(1.9%)からA群溶血性レンサ球菌、女性2例(20.0%)、男性40例(18.6%)からB群溶血性レンサ球菌、女性1例(10%)、男性3例(1.4%)からカンジダ・アルビカンスが分離された。

淋菌感染症では女性の1例、男性では48例中37例(77.1%)で淋菌遺伝子が検出された。また男性では25例(52.1%)からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出されているが、このうちの23例からはクラミジア・トラコマチス遺伝子と淋菌遺伝子共に検出された。淋菌以外ではA群溶血性レンサ球菌が男性2例(4.2%)、B群溶血性レンサ球菌が男性4例(8.3%)から分離された。

表 3. 性感染症病原体定点から搬入された検体の年齢階級別内訳と検査成績

年齢群	検査数 男、女計 に対する 割合		遺伝子検査				細菌分離										
			クラミジア トラコマチス		淋菌		ナイセリア属		溶血性レンサ球菌		カンジダ アルビカンス						
							淋菌	髄膜炎菌	A 群	B 群							
女性	10歳代	2	11.8%	1	50.0%							1	50.0%				
	20歳代	7	41.2%	3	42.9%					1	14.3%						
	30歳代	6	35.3%	4	66.7%	1	16.7%	1	16.7%			2	33.3%				
	40歳代																
	50歳代	1	5.9%														
	60歳代	1	5.9%	1	100%					1	100.0%						
	計	17		9	52.9%	1	5.9%	1	5.9%	1	5.9%	3	17.6%	1	5.9%		
男性	10歳代	1	0.4%	1	100%												
	20歳代	65	24.4%	22	33.8%	19	29.2%	12	18.5%	1	1.5%	10	15.4%	1	1.5%		
	30歳代	89	33.5%	35	39.3%	18	20.2%	15	16.9%	2	2.2%	2	2.2%	15	16.9%	2	2.2%
	40歳代	67	25.2%	22	32.8%	15	22.4%	12	17.9%			3	4.5%	10	14.9%		
	50歳代	31	11.7%	7	22.6%	5	16.1%	4	12.9%			1	3.2%	7	22.6%		
	60歳代	8	3.0%											2	25.0%	1	12.5%
	不明	5	1.9%	2	40.0%									1	20.0%		
計	266		89	33.5%	57	21.4%	43	16.2%	2	0.8%	7	2.6%	45	16.9%	4	1.5%	
不明	1												1	100%			
合計	284		98	34.5%	58	20.4%	44	15.5%	2	0.7%	8	2.8%	49	17.3%	5	1.8%	

表 4. 診断別の検査成績

診断 (疑い例を含む)	検査数 男、女計 に対する 割合		遺伝子検査				細菌分離										
			クラミジア トラコマチス		淋菌		ナイセリア属		溶血性レンサ球菌		カンジダ アルビカンス						
							淋菌	髄膜炎菌	A 群	B 群							
女性	クラミジア感染症	10	58.8%	5	50.0%						2	20.0%	1	10.0%			
	淋菌感染症	1	5.9%	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%								
	トリコモナス感染症	3	17.6%	1	33.3%												
	その他	3	17.6%	2	66.7%					1		1					
	計	17		9	52.9%	1	5.9%	1	5.9%	1	5.9%	3	17.6%	1	5.9%		
男性	クラミジア感染症	215	80.8%	64	29.8%	20	9.3%	14	6.5%	2	0.9%	4	1.9%	40	18.6%	3	1.4%
	淋菌感染症	48	18.0%	25	52.1%	37	77.1%	29	60.4%			2	4.2%	4	8.3%		
	その他	3	1.1%									1	33.3%	1	33.3%	1	
	計	266		89	33.5%	57	21.4%	43	16.2%	2	0.8%	7	2.6%	45	16.9%	4	1.5%
不明	クラミジア感染症	1											1	100%			
合計	284		98	34.5%	58	20.4%	44	15.5%	2	0.7%	8	2.8%	49	17.3%	5	1.8%	

クラミジア・トラコマチス遺伝子陽性の 98 例のうち血清型が同定出来たのは 41 例あり、その分布を表 5 に示した。その結果、D、E が 63.4% を占めることが判明した。分類学上クラミジア・トラコマチスの血清型は、B 群 (B、Ba、D、E、L1、L2)、C 群 (A、C、H、I、J、K、L3) およびその中間群 (F、G) に分けられ、一部血清型にはその亜型も存在する。世界的には地域により分布が異

なるとされているが、2009年の調査結果は日本国内の既報告と一致するものであった。

表 5. クラミジア・トラコマチス血清型の分布

D	E	F	G	H	Ia	J	K
13	13	3	3	1	2	1	5
31.7%	31.7%	7.3%	7.3%	2.4%	4.9%	2.4%	12.2%

次に分離された淋菌 44 株の薬剤耐性試験の結果を表 6 に示す。ペニシリンでは最小発育阻止濃度が中等度 (0.125 μ g/ml) 以上の耐性株は 36 株(81.8%)あり、そのうちの 2 株は β ラクターマーゼ産生株であった。テトラサイクリンでは中等度 (0.5 μ g/ml) 以上の耐性株は 18 株(40.9%)、シプロフロキサシンでは中等度 (0.125 μ g/ml) 以上の耐性株は 31 株(70.5%)、セフロキシムでは中等度 (2 μ g/ml) 以上の耐性株は 14 株(31.8%)あった。セフトキシム、セフトリアキソン、およびスペクチノマイシンではすべての株が感受性を示した。

表 6. 分離された淋菌の薬剤感受性試験の成績

	ペニシリン PCG	テトラ サイクリン TC	シプロフロ キサシン CPFX	セフロ キシム CXM	セフトク キシム CTX	セフトリ アキソン CTR	スペクチノ マイシン SPCM
耐性	5	6	30	12	0	0	0
中等度耐性	31	12	1	2	0	0	0
感受性	8	26	13	30	44	44	44

(2) ヒトパピローマウイルス (HPV) の遺伝子検査

2009年1月から12月に、STI病原体定点医療機関から37例の検体(陰部尿道擦過物、尖圭コンジローマの皮膚病巣拭いまたは生検材料)が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする L1 領域を対象とした HPV 遺伝子の検出を行った。また、標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定し NCBI Blast を用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。さらに、得られた遺伝子型を子宮頸がん等へのリスク評価 (High 及び Low リスク) に基づいて分類した。

その結果、37 件中 27 件 (73.0%) から HPV 遺伝子を検出した。リスク評価による分類では、16、53 型などの High リスク群に分類されたものは 2 件 (5.4%)、6、11 型などの Low リスク群に分類されたものは 25 件 (67.6%) であった。

(3) 単純ヘルペスウイルス (HSV : HSV-1 型及び HSV-2 型) の遺伝子検査

2009年1月から12月に、STI病原体定点医療機関から79件の検体(陰部尿道擦過物、性器ヘルペス感染症の水疱内容物または皮膚病巣拭い)が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする glycoprotein D 領域を対象とした real-time PCR 法による HSV の遺伝子検査を実施した。

その結果、79 件中 12 件 (15.2%) から HSV-1 型、24 件 (30.4%) から HSV-2 型の遺伝子を検出した。

第 3 章

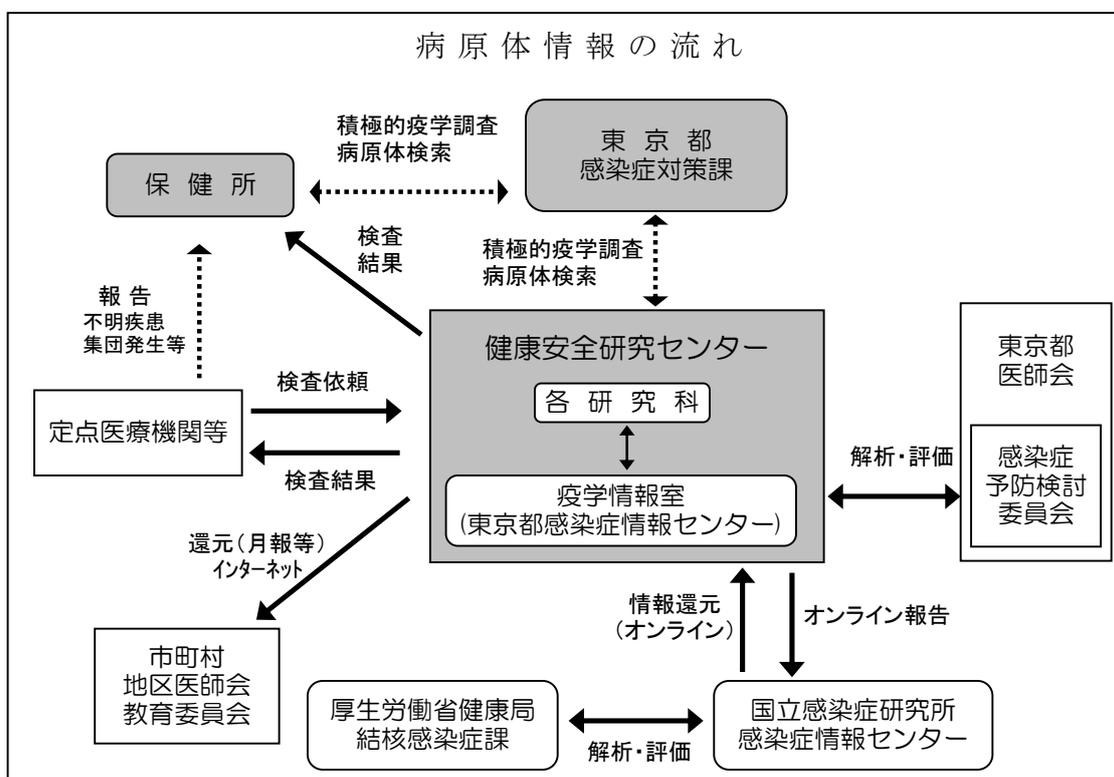
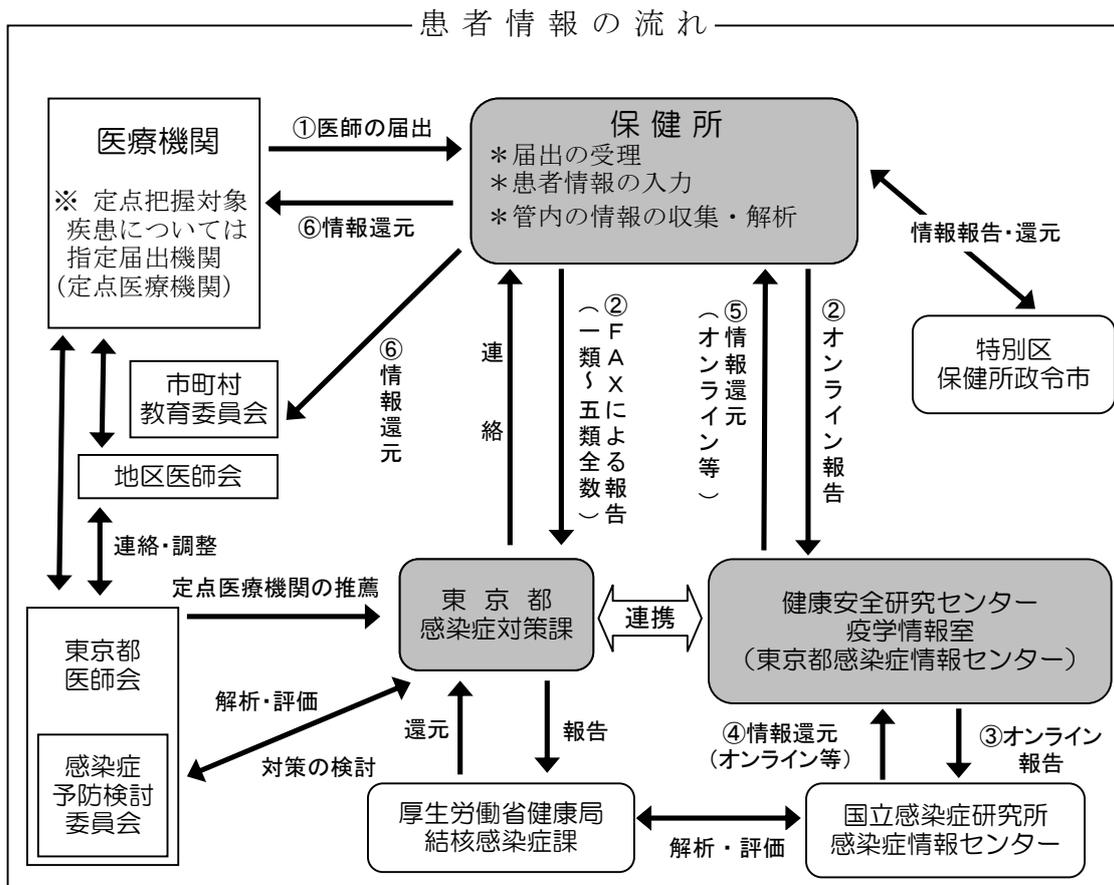
資 料

2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿

平成 21 年（2009 年）12 月 31 日現在：順不同

氏 名	役 職
◎ 長 岡 常 雄	幡多希望の家理事長、元東京都健康局技監
○ 岡 部 信 彦	国立感染症研究所感染症情報センター長
○ 沼 口 俊 介	練馬区医師会
長 山 直 弘	独立行政法人国立病院機構東京病院内科医長
尾 形 英 雄	(財) 結核予防会複十字病院副院長
吉 村 伸 子	目黒区保健所長
宮 本 眞理子	町田保健所長
味 澤 篤	東京都立駒込病院感染症科部長
山 下 千 恵	東京都福祉保健局健康安全部食品監視課副参事（食品危機管理担当）
増 田 和 貴	東京都健康安全研究センター微生物部副参事研究員
山 下 和 予	国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官
大 井 洋	東京都福祉保健局健康安全部参事
小 島 弘 敬	東京都南新宿検査・相談室長
松 田 静 治	江東区医師会
黒 澤 サト子	北多摩医師会
福 田 敏 雅	東京都眼科医会
小早川 隆 敏	東京女子医科大学名誉教授
平 山 宗 宏	(社福) 恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所名誉所長
池 田 忠 生	NPO法人 日本パスツール協会理事
◎は委員長	
○は副委員長	

3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ



4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11 衛福結第680号
平成12年3月30日
最終改正 19 福保健感第148号
平成20年6月30日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を国民や医療関係者への確に提供・公開することによって、必要な措置を講じ感染症のまん延を防止することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都及び特別区における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、東京都及び特別区の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター（以下「健康安全研究センター」という。）は、東京都全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関（定点）

東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」（平成18年3月8日付健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知、平成20年5月12日最終改正。以下「届出基準」という。）に基づき診断した場合は、国の定める届出基準の別記様式1-1から4-4-1を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

2 全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

五類感染症（全数）を届出基準に基づき診断した医師は、国の定める届出基準の別記様式5

ー1から5-14-2、及び本要綱の別記様式9を用いて、7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表1の75から87までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力

するよう努めること。

(イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表1の88に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記（ア）で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

(ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表1の89及び90に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。

(エ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表1の91から96までに掲げるものについては、産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、性病科又は泌尿器科若しくは皮膚科若しくは皮膚泌尿器科（泌尿器科・皮膚科系）を標ぼうする医療機関（主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。

(オ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表1の97から103までに掲げるものについては、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を二次医療圏毎に1か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、病原体定点を選定する。

(ア) 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

(イ) アの（ア）により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とする。

(ウ) アの（ア）及び（イ）により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点とする。

(エ) アの（ウ）により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定する。

(オ) アの（エ）により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定する。

(カ) アの（オ）により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定する。

(3) 調査単位等

調査単位の期間等は、別表2のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれの調査単位の患者発生状況を別記様式2から7に記載する。

(ウ) (イ) の届出に当たっては、法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、微生物検査

のために検体を採取する。

- (イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式 1（インフルエンザ定点については別記様式 8）の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。

ウ 保健所

- (ア) 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の 3 日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとする。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

- (イ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

- (ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

- (イ) 健康安全研究センターは、別記様式 1 の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式 1 により保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

- (エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

- (オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

4 法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 疑似症定点

疑似症定点は下記のとおりとする。

- (ア) 本要綱に定める小児科定点及び内科定点

- (イ) 疑似症単独定点

(3) 調査単位

調査単位の期間等は、別表 3 のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアの (ア) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を本要綱の別記様式10に記載する。なお、届出に当たっては、法施行規則第7条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で本要綱の別記様式2又は別記様式3による報告を行う。

(ウ) (2) のアの (イ) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を感染症健康危機管理情報ネットワークシステム(以下「K-net」という。)へ入力する。なお、届出に当たっては、法施行規則第7条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位でK-netへの入力による報告を行う。

イ 保健所

(ア) 保健所は、(2) のアの (ア) の医療機関から得られた疑似症情報を、随時又は調査対象の週の翌週の火曜日までに、K-netへ入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

5 その他

(1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。

(2) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて福祉保健局長が定めることとする。

6 特別区及び保健所政令市との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区及び保健所政令市と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年11月5日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成16年8月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年6月12日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成19年6月15日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成20年1月31日から施行し、同年1月1日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成20年7月1日から施行する。

感染症法に基づく感染症の分類

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届種別	時期
一類	1 エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2 クリミア・コンゴ出血熱					
	3 痘そう					
	4 南米出血熱					
	5 ペスト					
	6 マールブルグ病					
	7 ラッサ熱					
二類	8 急性灰白髄炎	○	—	○	全数	直ちに
	9 結核	○	○	△※		
	10 ジフテリア	○	—	○		
	11 重症急性呼吸器症候群 (病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限り)	○	○	○		
	12 鳥インフルエンザ (H5N1)	○	○	○		
三類	13 コレラ	○	—	○	全数	直ちに
	14 細菌性赤痢	○	—	○		
	15 腸管出血性大腸菌感染症	○	—	○		
	16 腸チフス	○	—	○		
	17 パラチフス	○	—	○		

※結核の無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要。

	疾患名	届出対象者			届出方法		
		患者	疑似患者	無症状病原体保有者	届出種別	時期	
四 類	18	E型肝炎	○	—	○	全数	直ちに
	19	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)	○	—	○		
	20	A型肝炎	○	—	○		
	21	エキノコックス症	○	—	○		
	22	黄熱	○	—	○		
	23	オウム病	○	—	○		
	24	オムスク出血熱	○	—	○		
	25	回帰熱	○	—	○		
	26	キャサヌル森林病	○	—	○		
	27	Q熱	○	—	○		
	28	狂犬病	○	—	○		
	29	コクシジオイデス症	○	—	○		
	30	サル痘	○	—	○		
	31	腎症候性出血熱	○	—	○		
	32	西部ウマ脳炎	○	—	○		
	33	ダニ媒介脳炎	○	—	○		
	34	炭疽	○	—	○		
	35	つつが虫病	○	—	○		
	36	デング熱	○	—	○		
	37	東部ウマ脳炎	○	—	○		
	38	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)	○	—	○		
	39	ニパウイルス感染症	○	—	○		
	40	日本紅斑熱	○	—	○		
	41	日本脳炎	○	—	○		
	42	ハンタウイルス肺症候群	○	—	○		
	43	Bウイルス病	○	—	○		
	44	鼻疽	○	—	○		
45	ブルセラ症	○	—	○			
46	ベネズエラウマ脳炎	○	—	○			
47	ヘンドラウイルス感染症	○	—	○			

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似患者	無症状病原体保有者	届種別	時期
四 類	48	発しんチフス	○	—	○	全数 直ちに
	49	ボツリヌス症	○	—	○	
	50	マラリア	○	—	○	
	51	野兎病	○	—	○	
	52	ライム病	○	—	○	
	53	リッサウイルス感染症	○	—	○	
	54	リフトバレー熱	○	—	○	
	55	類鼻疽	○	—	○	
	56	レジオネラ症	○	—	○	
	57	レプトスピラ症	○	—	○	
58	ロッキー山紅斑熱	○	—	○		

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似患者	無症状病原体保有者	届種別	時期
指定感染症	—	—	—	—	—	—

※平成20年6月30日現在、政令に基づく指定感染症なし。

2 五類感染症（全数把握）

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似患者	無症状病原体保有者	届種別	時期
59	アメーバ赤痢	○	—	—	全数	7日以内
60	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	—	—		
61	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	—	—		
62	クリプトスポリジウム症	○	—	—		
63	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—		
64	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—		
65	後天性免疫不全症候群	○	—	○		
66	ジアルジア症	○	—	—		
67	髄膜炎菌性髄膜炎	○	—	—		
68	先天性風しん症候群	○	—	—		
69	梅毒	○	—	○		
70	破傷風	○	—	—		
71	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
72	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—		
73	風しん	○	—	—		
74	麻しん	○	—	—		

3 新型インフルエンザ等感染症

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似患者	無症状病原体保有者	届種別	時期
104	新型インフルエンザ	○	○	○	全数	直ちに
105	再興型インフルエンザ	○	○	○		

4 五類感染症（定点把握）

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑 似 症 者	無 症 状 病 原 体 保 有 者	届 出 種 別 (定 点)	時 期
75	RSウイルス感染症	○	—	—	別表2参照	
76	咽頭結膜熱	○	—	—		
77	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—		
78	感染性胃腸炎	○	—	—		
79	水痘	○	—	—		
80	手足口病	○	—	—		
81	伝染性紅斑	○	—	—		
82	突発性発しん	○	—	—		
83	百日咳	○	—	—		
84	ヘルパンギーナ	○	—	—		
85	流行性耳下腺炎	○	—	—		
86	不明発しん症 (都単独)	○	—	—		
87	MCLS (川崎病) (都単独)	○	—	—		
88	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	—	—		
89	急性出血性結膜炎	○	—	—		
90	流行性角結膜炎	○	—	—		
91	性器クラミジア感染症	○	—	—		
92	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—		
93	尖圭コンジローマ	○	—	—		
94	淋菌感染症	○	—	—		
95	膺トリコモナス症 (都単独)	○	—	—		
96	梅毒様疾患 (都単独)	○	—	—		
97	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	○	—	—		
98	細菌性髄膜炎	○	—	—		
99	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—		
100	マイコプラズマ肺炎	○	—	—		
101	無菌性髄膜炎	○	—	—		
102	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
103	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	—	—		

5 疑似症

	届 出 对 象	届 出 对 象 者			調 査 単 位 (期間)	時 期
		患 者	疑 似 症 患 者	無 症 状 病 原 体 保 有 者		
106	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	—	○	—	別表3参照	
107	発熱及び発しん又は水疱	—	○	—		

五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期

定点種別	疾患名	調査単位 (期間)	時期
小児科定点 ※	RSウイルス感染症	週単位 (月曜日から日曜日。以下同じ。)	次の月曜日
	咽頭結膜熱		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		
	感染性胃腸炎		
	水痘		
	手足口病		
	伝染性紅斑		
	突発性発しん		
	百日咳		
	ヘルパンギーナ		
	流行性耳下腺炎		
	不明発しん症 (都単独)		
	MCLS (川崎病) (都単独)		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)		
内科定点※	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	週単位	次の月曜日
眼科定点	急性出血性結膜炎	週単位	次の月曜日
	流行性角結膜炎		
性感染症定点	性器クラミジア感染症	月単位	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	膺トリコモナス症 (都単独)		
	梅毒様疾患 (都単独)		
基幹定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	週単位	次の月曜日
	細菌性髄膜炎		
	マイコプラズマ肺炎		
	無菌性髄膜炎		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	月単位	翌月初日
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		

※小児科定点と内科定点を合わせてインフルエンザ定点とする。

疑似症の調査単位と報告時期

定点種別	届出対象	調査単位 (期間)	時 期
疑似症定点	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	随時 及び	直ちに 及び
	発熱及び発しん又は水疱	週単位 (月曜日から日曜日)	次の月曜日

(注)

- 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。
- 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。
- 3 当該疑似症が発生した場合は直ちに報告するとともに、発生が無い場合についても週単位で報告する。

別記様式一覧表

番号	件名等
別記様式1	感染症発生動向調査病原体定点検査票
別記様式2	五類感染症(定点把握対象)小児科患者定点報告票
別記様式3	五類感染症(定点把握対象)インフルエンザ患者定点報告票
別記様式4	五類感染症(定点把握対象)眼科患者定点報告票
別記様式5	五類感染症(定点把握対象)性感染症患者定点報告票
別記様式6	五類感染症(定点把握対象)基幹患者定点報告票(週報告分)
別記様式7	五類感染症(定点把握対象)基幹患者定点報告票(月報告分)
別記様式8	インフルエンザ検査票(内科病原体定点用)
別記様式9	麻しん発生届
別記様式10	疑似症定点報告票

(注) 発生届 1-1 から 5-14 は、

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/survey/past/200704-200803/200704-index.html>

に記載されている。

感染症発生動向調査病原体定点検査票

【医療機関記入欄】		センター検体受付日	センター収受番号	検体番号
医療機関名				
医師名				
診断名				
ID (イニシャル)			居住地	区市町村
発病日	年 月 日	検体採取日	年 月 日	性別 男・女 年齢 歳 ヵ月
検体	<ul style="list-style-type: none"> ・便 ・直腸ぬぐい液 ・尿 ・咽頭ぬぐい液、うがい液、鼻汁 ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・結膜ぬぐい液 (結膜擦過物、眼脂) ・その他 [] 			
臨床症状・兆候等	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱 (最高 ℃) ・頭痛 ・筋肉痛、関節痛 (関節炎) ・上気道炎 (咽頭炎/痛、扁桃炎) ・下気道炎 (肺炎、気管支炎) ・口内・咽頭所見 () ・発疹 (丘疹、紅斑、バラ疹、水疱) ・唾液腺腫脹、リンパ節腫脹 (部位) (上記以外の症状は、下の備考欄へ記載してください。) 			
転 帰	経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡 (原因)			
発生の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・散発 ・地域流行 ・家族内発生 ・集団発生 (保育所、幼稚園、小学校、中学校、その他 []) 			
最近の海外渡航歴	国名	期間	年 月 日 ~	年 月 日
ワクチン接種歴 (当該疾患に係るもの)	(無、有、不明)	ワクチン名	最近の接種年月日	年 月 日
備考欄 (主治医等からの連絡事項、詳細な症状、動物との接触など)				
【健康安全研究センター記入欄】				
報告年月日 年 月 日				
結果				
<p>センター記入欄につき</p> <p>ここには記入しないで下さい。</p>				
検出方法	<ul style="list-style-type: none"> ・抗体検出 (蛍光、EIA、イムノブロット、その他 []) ・分離培養 (培養細胞:細胞名 [], 人工培地、発育鶏卵、動物、その他 []) ・抗原検出等 (蛍光、EIA、イムノクロマト、凝集反応 (RPHA、LA、PA、その他) 、その他 []) ・遺伝子検出 増幅 (PCR、PCR+ハイブリ、PCR+シーケンス、LAMP、その他 []) ・鏡検 			

(1) 複写 1組6枚 (病原体定点控)

感染症発生動向調査（小児科定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日(月) ~ 月 日(日)

医療機関名:

疾患名	年齢		~5	~11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20歳	合計
	男	女	ヶ月	ヶ月										~14	~19	以上	
RSウイルス感染症	男																
	女																
咽頭結膜熱	男																
	女																
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男																
	女																
感染性胃腸炎	男																
	女																
水痘	男																
	女																
手足口病	男																
	女																
伝染性紅斑	男																
	女																
突発性発しん	男																
	女																
百日咳	男																
	女																
ヘルパンギーナ	男																
	女																
流行性耳下腺炎	男																
	女																
不明発しん症	男																
	女																
MCLS (川崎病)	男																
	女																

注) MCLS、不明発しん症は東京都独自の報告対象疾患です

疾患名	年齢		~5	~11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	
	男	女	ヶ月	ヶ月										~14	~19	~29	
インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等感染症 をのぞく)	男																
	女																
			30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~69	70 ~79	80歳 以上	合計								
	男																
	女																

定点医療機関からのコメント

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計
※			

※注

- 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
- 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

感染症発生動向調査（インフルエンザ定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名:

インフルエンザ (鳥インフルエンザ 及び新型イン フルエンザ等 感染症をのぞ く)	0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80歳 以上	合計	
	男																					
女																						

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計
	※		

※注

1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

	定点医療機関 からのコメント
--	-------------------

感染症発生動向調査（眼科定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名:

	0~5 カ月	6~11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳 以上	合計	
																					男
急性出血性 結膜炎																					
流行性角結膜炎																					

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査 (S T I 定点)

月報

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名:

	0歳		1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上	合計
	男	女																
性器クラミジア感染症																		
性器ヘルペスウイルス感染症																		
尖圭コンジローマ																		
淋菌感染症																		
陰トリコモナス症																		
梅毒様疾患																		

定点医療機関からのコメント

感染症発生動向調査（基幹定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名:

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名*	病原体名称 (検査結果)	病原体検査	
					左記の結果を得た 病原体検査方法**	検体名
1			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
2			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
3			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
4			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
5			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
6			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
7			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
8			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
9			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
10			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	

* 疾病名

1: 細菌性髄膜炎

2: 無菌性髄膜炎 (真菌、結核菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫を含む)

3: マイコプラズマ肺炎

4: クラミジア肺炎 (全数届出疾患のオウム病を除く)

** 病原体検査方法

1: 分離・同定

2: 抗原検出

3: 核酸・PCR

4: 塗抹検鏡

5: 電顕

6: 抗体検出

7: その他

<記載上の注意>

・細菌性髄膜炎: 病原体が判明している場合は、その病原体名(複数検出された場合は、主要なもの二種のみ記載)、その結果を得た病原体検査方法(複数場合は、最も相違となった方法一つを選択)及びその検体名を記載。病原体が判明していない場合は、病原体名称欄に“検出せず”と記載してください(病原体検査欄の記載は不要)。

・マイコプラズマ肺炎: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *M. pneumoniae* と記載の上、病原体検査方法(1、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択)及びその検体名を記載してください。

・クラミジア肺炎: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *C. pneumoniae*、*C. trachomatis* を記載の上、病原体検査方法(1、2、3、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択)及びその検体名を記載してください。

感染症発生動向調査（基幹定点）

月報

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名:

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾病名*	検体採取部位**
1			1 2 3	
2			1 2 3	
3			1 2 3	
4			1 2 3	
5			1 2 3	
6			1 2 3	
7			1 2 3	
8			1 2 3	
9			1 2 3	
10			1 2 3	

- * 疾病名（番号を○で囲む）
 1：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
 2：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
 3：薬剤耐性緑膿菌感染症
- ** 検体採取部位
 複数部位から検出された場合は、最も重要と考えられる1カ所のみを記載。

インフルエンザ検査票
(内科病原体定点用)

医療機関名 (または定点コード)		医師名		歳 か月	
ID	年齢	男・女	居住地	区市町村	
性別	年月日	検体採取日	年月日		
発病日	年月日	検体採取日	年月日		
臨床症状・徴候等 該当するものすべてを○で囲んでください。					
患者情報					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発熱 (最高 _____ °C) ・ 関節痛、筋肉痛 ・ 口内炎、上気道炎、下気道炎 (肺炎、気管支炎) ・ 胃腸炎 (下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛) ・ 中枢神経系症状 (脳炎、脳症、脊髄炎、その他 _____) ・ その他の症状 					
[_____]					
迅速診断キットによる診断			無・有 (A型: B型:)		
最近のインフルエンザワクチン接種歴			無・有 (年 月 日)		
最近の海外渡航歴		国名	期間	年月日	年月日
発生状況		集団発生 (学校等)、家族内発生等、わかる範囲で記入してください。			

検体受付日	収受番号	検体番号
報告日	年月日	病原体検出方法
結 果		遺伝子増幅 (PCR)
インフルエンザウイルス		AH1 型
		AH3 型
		B 型
		型
		型
※ ウイルス分離結果については、後日報告します。		

健康安全研究センター記入欄

1. 麻しんについては、診断を行った医師は7日以内に届出をしていただくこととなっておりますが、麻しんに対するより迅速な行政対応に資するため、麻しんを診断した医師は24時間以内を目処に最寄りの保健所への届出を行っていただくようお願いいたします。
 2. 臨床診断例については、届出後であっても可能な限り検査診断を実施し、その結果について最寄りの保健所に報告していただくようお願いいたします。

別記様式 5-14-3

麻 し ん 発 生 届

東京都知事 (保健所) } 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条特別区長 (保健所) } 殿 第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。
 八王子市長 (八王子市保健所) }

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 _____ 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称 _____

上記病院・診療所の所在地(※) _____

電話番号(※) () - (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型 ・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体	2 性別 男 ・ 女	3 診断時の年齢(0歳は月齢) 歳 (か月)
-------------------------------------------	---------------	----------------------------

病 型	1 1 感染原因・感染経路・感染地域
1) 麻しん(検査診断例) 2) 麻しん(臨床診断例) 3) 修飾麻しん(検査診断例)	①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 飛沫・飛沫核感染(感染源の種類・状況:) 2 接触感染(接触した人・物の種類・状況:) 3 その他()
4 症状 ・発熱 ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血 ・眼脂 ・コプリック斑 ・発疹 ・肺炎 ・中耳炎 ・腸炎 ・クループ ・脳炎 ・その他() 入院の有無: 無、有(入院日: 月 日)	②感染地域(確定・推定) 1 日本国内(都道府県 市区町村) 2 国外(国、詳細地域)
5 診断方法 ・分離同定による病原体の検出 検体: 咽頭拭い液・血液・髄液・その他() 遺伝子型: () ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体: 咽頭拭い液・血液・髄液・その他() 遺伝子型: () ・血清IgM抗体の検出 ・ペア血清での抗体の検出 結果: 抗体陽転・抗体価の有意上昇 検査方法: EIA・HI・NT・PA・その他() ・その他の検査方法() 検体() 結果() ・臨床決定()	③麻しん含有ワクチン接種歴 1回目 有(歳)・無・不明 ワクチンの種類(麻しん単抗原・MR・MMR・不明) 接種年月日(S・H 年 月 日・不明) 製造会社/Lot番号(/ ・不明) 2回目 有(歳)・無・不明 ワクチンの種類(麻しん単抗原・MR・MMR・不明) 接種年月日(S・H 年 月 日・不明) 製造会社/Lot番号(/ ・不明)
6 初診年月日 平成 年 月 日	(1, 2, 4, 5, 11 欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6から10欄は年齢、年月日を記入すること。(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*) 欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。4, 5 欄は、該当するものすべてを記載すること。)
7 診断(検案(※))年月日 平成 年 月 日	
8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日	
9 発病年月日(*) 平成 年 月 日	
10 死亡年月日(※) 平成 年 月 日	

診断した医師の方へのお願い

1. 集団感染のおそれがある場合には、感染拡大防止指導を実施いたします。このため、以下の情報提供をお願い致します。

(1) 集団感染を起こしやすい要因 ア. 集団生活: 無、有(園児・小・中・高・大・その他の学生、施設入所者、その他()) イ. 集団に接する職業: 無、有(保育士、教師、施設職員、医療従事者、その他()) ウ. 集団に接する機会: 無、有(施設での実習、ボランティア活動、その他())
(2) 患者の住所: () 区・市・町・村

2. 集団感染のおそれがある場合には、感染症法第15条により、積極的疫学調査(患者個人情報を含む)を実施致します(この場合、医師の守秘義務は解除されます)。しかし、迅速な集団感染防止対策のため、保健所の調査前であっても、患者(又は保護者)の同意が得られた場合には、裏面調査票により情報提供をお願い致します。

保健所への個人情報等の提供に関する患者(あるいは保護者)の同意 (有・無)

この届出は診断後直ちに行ってください

感染症発生动向調査（疑似症定点）

報告日 平成 年 月 日 医療機関名： _____

	届出基準	年齢	性別	備考（定点医療機関からのコメント）
1	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
2	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
3	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
4	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
5	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
6	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
7	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
8	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
9	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
10	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	

【届出基準】 1：摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）
 （上欄の数字を○で囲む） 2：発熱及び発しん又は水泡

感染症発生動向調査事業報告書
平成21年（2009年）

平成22年7月

登録番号 (3)

編集・発行 東京都健康安全研究センター
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-24-1
電話 (03) 3363-3231
印刷所 有限会社 太平印刷
〒171-0051 東京都豊島区长崎6-22-10
電話 (03) 3957-3911